# 第 4 部

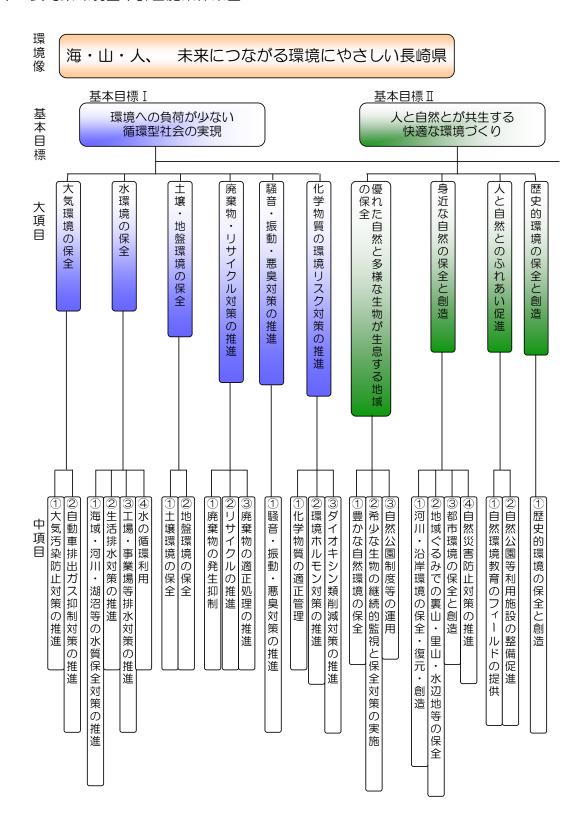
環境基本計画の進行管理

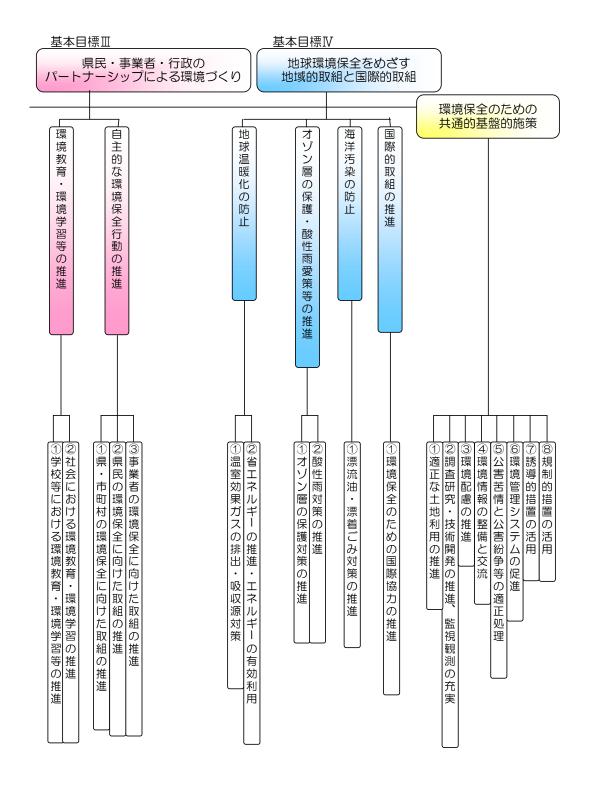
# 第4部 長崎県環境基本計画の進行管理

目次		
第1章	長崎県環境基本計画施策体系図・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章	長崎県環境基本計画の進捗管理	
第1節	節 長崎県環境基本計画の体系について・・・・・・・・・・	3
第2節	節 各施策の進捗状況について・・・・・・・・・・・・・・	3
第3節	節 数値目標の分析管理について・・・・・・・・・・・・・	5
第4節	節 重点施策について・・・・・・・・・・・・・・・1	C
第3章	評価の進捗状況(平成24年度実績)・・・・・・・・・1	4
第4章	数値目標達成状況一覧・・・・・・・・・・・・・4	7
第5章	数値目標の進捗状況個表」の達成状況・・・・・・・・・5	C
第6章	重点施策の動き・・・・・・・・・・・・・8	3

#### 第4部 長崎県環境基本計画の進行管理

#### 第1章 長崎県環境基本計画施策体系図





#### 第2章 長崎県環境基本計画の進捗管理

#### 第1節 長崎県環境基本計画の体系について

#### 1 施策の推進について

長崎県のめざすべき環境像「海・山・人 未来につながる環境にやさしい 長崎県」の実現に向け、横断的かつ総合的に環境保全施策を進めるため、4 つの基本目標を掲げ、基本目標ごとに体系化し、施策を展開することとして います。

#### ※4つの基本目標

基本目標 I 地球環境保全をめざす社会の実現

基本目標Ⅱ 環境への負荷の削減と循環型社会づくり

基本目標Ⅲ 人と自然とが共生する快適な環境づくり

基本目標Ⅳ 県民·事業者・行政のパートナーシップによる環境づくり

#### 2 数値目標について

施策の実施においては可能な限り数値目標を設定し、その達成に努めています。

#### 3 重点施策について

環境基本計画に掲げる施策の4つの基本目標を達成するため、特に重要な 事項として次の2つを重点施策と位置づけ、また、これらに含まれる6つのプロジェクトを重点プロジェクトとして県庁内で横断的な連携をはかりながら、 総合的かつ計画的に推進しています。

重点施策	重点プロジェクト
・地球環境保全の取組み	・ゴミゼロながさきプロジェクト ・ナガサキ・グリーンニューディール ・生物多様性保全プロジェクト
・豊かな水環境の保全・創造の取組み	・大村湾再生プロジェクト ・諫早湾環境対策プロジェクト ・島原半島窒素負荷低減プロジェクト

#### 第2節 各施策の進捗状況について

#### 1 概要

長崎県環境基本計画により推進している施策(209施策)のうち、平成23年度で事業が廃止となったもの(2施策)や研究事業の途中や年度ごとの結果が未公表等により評価できないものが、21施策あり、残りの188項目について、24年度の実績に基づく自己評価を行いました。

なお、評価にあたっては、施策内容にあわせて活動指標、成果指標のいずれかを用い、可能な限り数値化し、Oから100までの10刻みで評価しました。 評価の取りまとめ結果は下表のとおりです。

#### 平成24年度

評価値	0	10~30	40~60	70~90	100	合計
基本目標Ⅰ			1 2.3%	3 7.0%	39 90.7%	43 100%
基本目標Ⅱ		1 1.7%	1 1.7%	8 13.3%	50 83.3%	60 100%
基本目標Ⅱ				12 30.8%	27 69.2%	39 100%
基本目標Ⅳ				7 29.2%	17 70.8%	24 100%
共通的基盤的施策			1 4.5%	3 13.6%	18 81.8%	22 100%
合計		1 0.5%	3 1.6%	33 17.6%	151 80.3%	188 100%

#### 平成23年度

評価値	0	10~30	40~60	70~90	100	合計
基本目標Ⅰ				1	43	44
至 平 日 惊 1				2.3%	97.7%	100%
基本目標Ⅱ		1	1	8	50	60
坐 平 日 惊 1		1.7%	1.7%	13.3%	83.3%	100%
基本目標Ⅲ				8	32	40
至平日际皿				20.0%	80.0%	100%
基本目標Ⅳ				3	21	24
至 平 日 悰 IV				12.5%	87.5%	100%
共通的基盤的施策			1	2	18	21
<b>兴旭的基盤的爬</b> 束			4.8%	9.5%	85.7%	100%
合計		1	2	22	164	189
		0.5%	1.1%	11.6%	86.8%	100%

評価値については、基本目標間に大きな差異はみられず、70以上と評価されたものが184施策(97.9%)。60以下と評価されたものが4施策(2.1%)でした。

平成23年度の評価結果は、70以上と評価されたものが186施策(98.4%)、60以下と評価されたものが3施策(1.6%)でしたので、環境基本計画の各施策は順調に展開されています。

#### 2 評価値が60以下の施策の状況

平成24年度事業における評価値が60以下の施策数:4施策

#### (1) 長崎県EV・ITS普及促進事業の推進

評	価	値	50
要	因分	补析	EV及び急速充電器の導入支援による導入は、EV3台、急速充電器3基と計画(EV5台、急速充電器11基)を下回りました
			が、平成25年5月に策定した「長崎県次世代自動車充電インフ

ラ整備ビジョン」により、効果的な導入の支援を行っていきます。

(2) 飛散性アスベストが使用された民間建築物へのアスベスト除去等対策 工事の推進

評 価 値	20
要因分析	吹付けアスベスト等が使用されている建築物の所有者に対し、直接訪問して協力依頼を行いましたが、除去には多額の自己負担が必要なことから、年間の除去対策工事目標25件に対し、実績は3件にとどまっています。 平成23年度に吹付けアスベストの使用実態調査を実施しました。その反響の大きさから、アスベスト対策の必要性を再認識させることができたと考えられます。 調査結果から新たに把握したアスベストの使用(のおそれ)がある建築物へのアスベスト対策を引き続き強力に推進します。

(3) 「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」 に基づく、調整池の水質保全と自然豊かな水辺づくりの推進

評	価	値	50
要区	引分	析	諫早湾流域の生活排水処理率等の指標や施肥削減等の面源対策は計画どおり推進されてはいますが、依然、流域からの生活排水や、面源由来の汚濁負荷、調整池の底質の巻上げや内部生産など複数の要因により、化学的酸素要求量(COD)などの水質保全対策にかかる指標が目標値を達成しませんでした。関係する国、県、市が、それぞれの役割のもと、第2期行動計画の各事業について精査し、見直しを行いながら施策を進めていきます。

(4) 事業者がリサイクルに要する資金の一部を拠出する制度(デポジット制度)の普及

評 価 値	60
要因分析	平成24年度も県内の取組みについての情報収集と容器デポジットの継続実施の取組みを行いましたが、長崎大学での取組みは継続して実施することができましたが、他の組織にまで拡大することができませんでした。ながさき環境県民会議等を活用し、引続き実施団体の拡大に努めます。

#### 第3節 数値目標の分析管理について

#### 1 概要

長崎県環境基本計画により設定された64の数値項目のうち、2と同様に研究事業の途中や年度ごとの結果が未公表等により、評価できないものが、12項目あり、残りの52項目について、24年度の実績評価を行いました。

評価の取りまとめ結果は下表のとおりです。

#### 平成24年度

評価値(%)	0	10~50	50~90	90~100	100~	合計
基本目標Ⅰ	1 8.3%		1 8.3%	1 8.3%	9 75.0%	12 100%
基本目標Ⅱ		1 5.0%	2 10.0%	7 35.0%	10 50.0%	20 100%
基本目標Ⅲ			1 7.1%	1 7.1%	12 85.7%	14 100%
基本目標Ⅳ			2 50.0%		2 50.0%	4 100%
共通的基盤的施策			1 50.0%		1 50.0%	2 100%
合計	1 1.9%	1 1.9%	7 13.5%	9 17.3%	34 65.4%	52 100%

#### 平成23年度

評価値(%)	0	10~50	50~90	90~100	100~	合計
基本目標Ⅰ				1 10.0%	9 90.0%	10 100%
基本目標Ⅱ		1 4.8%	1 4.8%	5 23.8%	14 66.7%	21 100%
基本目標Ⅲ			1 7.1%	1 7.1%	12 85.7%	14 100%
基本目標Ⅳ				1 25.0%	3 75.0%	4 100%
共通的基盤的施策					2 100%	2 100%
合計		1 2.0%	2 3.9%	8 15.7%	40 78.4%	51 100%

基本項目間に大きな差異はみられず、設定した数値目標を「達成(100%以上)」と評価されたものが34項目(65.4%)、「概ね達成(90%以上)」と評価されたものが9項目施策(17.3%)、「未達成(90%未満)」と評価されたものが9項目(17.3%)でした。

昨年度の結果と比較すると、「達成(100%以上)」と評価されたものは6項目減少(-13.0%)、「概ね達成(90%以上)」と評価されたものは1項目増加(+1.6%)、「未達成(90%未満)」と評価されたものは6項目増加(+11.4%)と、昨年より未達成と評価されたものが増加しています。

また、計画策定時に設定された目標値に対し、数値が悪化した項目が4項目ありました。

#### 2 目標未達成項目

#### (1)環境実践モデル都市成果事例集

平成24年 度 実 績	平成24年 度 目 標 1事	望 成 率	0%
----------------	-------------------	-------	----

	当初、「環境実践モデル都市推進事業」において、モデル都
	市における低炭素社会の実現と産業振興の両立に向けた取組み
	を支援し、その取組成果を「成果事例集」として取りまとめ、
	県内各地域における新たな取組みの展開を図ることとしていま
	した。
要因分析	しかし、「成果事例集」作成前に、モデル都市以外の地域(小
	浜での温泉熱バイナリー発電プロジェクトや東長崎エコタウン
	構想など)で、自発的なプロジェクトが展開され、当初の目標
	が一定達成されたと判断し、「成果事例集」は作成せず、今後
	は、新たに構築した「ナガサキ・グリーンニューディール戦略
	プロジェクト」の各施策を、重点的に推進することとします。

#### (2) 民間建築物の吹付けアスベスト等の除去等件数

平成24年 度 実 績	96件	平成23年 度 目 標	53件	達	成	率	23%
要因分析	し、直接訪問 己負担が必要 は13件にと 建築物所 活用しても、 か得られない 今後、調	問して協力依要なことから だまっている 有者に、訪問 多額の自己 か。 き結果から新	<ul><li>(頼を行います。)、除去対策をます。</li><li>引し協力依頼を受する</li><li>「たに把握したである」</li></ul>	した 正事! を行こ たア	が、目 いと ス	除去 した しら スト	の所は 素に対 大 に対 が 、 が 、 が が が が が が が が が が が が が

<sup>\*</sup>達成率は、計画策定時の平成21年度実績値(基準値)40件からの伸率で計算しています。

#### (3)海域における全窒素及び全燐の環境基準達成率

平成24年 度 実 績	55%	平成24年 度 目 標	75%	達	成	率	73%
要因分析	は達成され。 有明海に「 特別措置に「 県計画」を <sup>5</sup> を行っていこ どの生活排	なかった。 関しては、「 関する法律」 P成15年3月 ます。また、 水対策を進め	有明海及び, に基づく「 引に策定し、 大村湾に関 )るとともに、	八代明明し、	海海海は場の再、・	を再生に 下事業	たまするには、 をは、 をは、 をは、 をは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で

# (4) 市町が設置する一般廃棄物処理施設のダイオキシン類排出量

44	或24	14	0.47	¥ 5	双24	牛牛	0.37	淬	成	383	79%
度	実	績	g-TEQ/年	度		標	g-TEQ/年	厓	13%	<del>T</del>	1976
											シン類の発生
											図られていま
			す。平成23	年度	まはき	崚i	市で転換が1	うわれ	つ、育	<b>前年</b> 原	度と比較して、
要	因 分	析	0.03g-TE0	マ/年	の排	出量	量の減少がす	ありる	ました	٠. ر	ノかし <b>、</b> 前年度
			より0.07g	-TE	Q/年	න	曽加をした	1炉	を始る	め前	i年度より増加
			した炉が、3	38烷	5中1	9炉	に増加(前	年度	は13	3炉)	し、目標が未
			達成となり	まし	た。						

施設耐用年数の検討や地域住民の理解などを計画的に推進する市町等を支援し、目標達成に向けた技術的支援等を行っていきます。

#### (5) 景観計画を策定した市町数

平成24年 度 実 績	8市町	平成24年 度 目 標	10市町	達	成	率	80%
要因分析	済みの自治 本県でも 市町が景観 景観計画 に3~4年を は平成22年 平成24年度 現在、数 定補助金の	体のうちというない。 (4) (4) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	割が景観計画を中心でいます。民の合意形成の傾向でに景観行政団成となり組んが定に取組んがなめ支援や	動と 成ず体たで計をし な。^。い画	策て ど現移 ま策	し 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	へいます。 移まの 、 ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で は る 標 で で は る 標 の に で で の に で の に で の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の に の の の の に の の の の に の の の の に の

#### (6)環境管理システムの新規認証登録件数(累計)

	或2 <sup>4</sup> 実		28件	平成24年 度 目 標	32件	達成	文率	88%
要	因分	计析	「ISO1400 すが、環境 ン21」の登 「エコアク! 研修目標に「 引続き、」 ら、県商工	O1」の認証登 省が策定した 録時業者は終 ション21」で においてEM は達成しませ 県内のエコフ	登録事業者は だガイドライ 緩やかですが の地域事務局 IS認証の説明 たんでしました。 アクショの商工 で見内の商工	全国及基と関連を担当を担当を担当を担当を担います。	び県グブン いっこう かいき 務局	の うち向う ち向う ち向う がって コース ます ます まま まま まま まま まま まま まま まま は は は かけ は まま は は は かけ を も は は かけ を しゅう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこ

# (7) 身近な環境活動に取組んでいる人の割合

平)度	或2∠ 実	上年 績	63%	平成24年 度 目 標	72%	達	成	率	88%
要	因 分	析	化リーダー (への参加者) から30代ま 率が平均を 思われます。 に伴い、環 設など、き	こよる活動E 数も増加して での年齢層 上回っており 平成24年度 竟教育等行動	回数や「空きだいますが、だいますが、だで「全く取組」、地域でのではに改正された。 で「前間をできます。 でいるでのででできます。 でいるではできます。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	缶ァん取たし 回ンて組環て	収キーないの境数	ャトい広育合情	は、10年 は、10年 では、10年 ではるの十分 がのではるの十分 がのではまる。 ではるのかではませる。 ではまる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではな。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 ではな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 でな。 で

#### 3 実績が悪化した項目

(1)海域における全窒素及び全燐の環境基準達成率

	成2· 実	•	55%	計画策员時実	7:3%		標値	75%
要	因分	<b>分</b> 析	成されなか 有明海に「 特別措置に「 県計画」を「 を行っており 排水対策を	った。 関しては、 関する法律 P成15年3 グ、大村湾 進めるとと	「有明海及び 」に基づく「 月に策定し、 に関しては、	八 有明 有 下 事	海等を再 海の再生 海再生 道や浄 道場等の	きが、目標は達算生するための 生に関する最近に関する と向けた取組み と構などのと を はでではできます。

(2) 身近な環境活動に取組んでいる人の割合

平成24年 度 実 績	63%	計画策定時 実績	70%		標	値	72%
要因分析	化リーダー への参加者 から30代ま 率が平均を 思われます。 に伴い、環 設など、き	こよる活動回数も増加してでの年齢層でのており、 上回っており、 で成24年度 境教育等行動	]数や「空きだいますが、だいますが、だで「全く取組)、地域でのごでのでいまに改正された。 で「計画を策定と、 で、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	缶回 アング 取組 取 た て	収ァいみ境、キーなの教総	ャトい広育合情	なや生ごか、10 を でする ではる ではる ではる ではる ではる では では では では では では では では では では

(3) 有害物質使用特定事業の排水基準遵守率(重金属等の有害物質を使用している特定事業場について、排水検査を実施した結果、排水基準に適合した事業場の割合)

	平成2 ま 実		98.2%	計画策時実		100		標	値	100%
<del>п</del> у	更因分	分析	で排水調査レンの排水の洗洗	を実施し 基準を基 善・排水	たと 準超 の改	ころ、2事 過していま Z善状況を確	業場 した 認し	で鉛 。 直 てい	・トちにます	場113事業場 リクロロエチ ひき勧告を行 。今後も、引 ていきます。

(4) 河川BOD評価による環境基準達成率 (河川水質調査水域数に対する環境 基準達成水域の割合)

平成24年 度 実 績	98%	計画策定時 実績	100%	目標	値	100%
要因分析	法等の規制 り、河川BG	対象となるI DDの環境基	場・事業場 準達成率は	に対する 平成20:	指導 年度	が水質汚濁防止 すの徹底等によ 以降、目標の 県内55測定地

点のうち1測定地点(長崎市浦上川浦上貯水池)で降雨等の影響により環境基準を超過し、目標を達成できませんでした。引き続き、市町とも連携して下水道や浄化槽などの生活排水対策を進めます。また、工場・事業場等の監視・指導を実施し、流域への汚濁負荷の削減を図っていきます。

#### 第4節 重点施策について

4つの基本目標を達成するため、特に重要な事項として、「地球環境保全の取組み(地球環境の保全につながる緊急性が高い施策)」、そして、「豊かな水環境の保全・創造の取組み(本県の地理的・自然的特性である閉鎖性水域や重要な地域環境を保全するための施策)」の2つを重点施策として、また、これらの施策に含まれる次の6つの重点プロジェクトとして、県庁内で横断的連携を図りながら、県民・事業者・行政が一体となって、総合的かつ計画的に推進しています。

#### 1 地球環境保全の取組み

#### (1) ゴミゼロながさきプロジェクト

評	価	概ね達成(80%)
概	要	<ul> <li>○平成24年度の県民一人当たりの一般廃棄物排出量及び再資源化率の実績は、環境省が実施する実態調査によりH26年3月に把握できる予定です。今年、判明した平成23年度の県民一人当たりの一般廃棄物排出量及び再資源化率はそれぞれ944g/人・日、17.0%(平成22年度は、945g/人・日、17.5%)と、基準年はよりも、好成績でしたが、前年比では再資源化率が0.5%減少していました。</li> <li>○多量排出事業者の産業廃棄物の再資源化率は、現在精査中です。産業廃棄物の適正処理を徹底し、排出抑制及びリサイクルを推進するには排出事業者の個々の取組みが重要なことから、排出事業者研修会を通じ、産業廃棄物の排出抑制及びリサイクル推進について周知を図っています。平成24年度は研修会を6回実施し475人の参加者があり目標を達成しました。</li> <li>○長崎県ごみ処理広域化計画では、ごみ処理施設の集約化を推進しています。平成24年度の施設数は23施設で目標(23施設)を達成しています。</li> <li>○産業廃棄物の不適正処理を未然防止を図るため、立入検査を実施した結果、立入検査回数に対する指導不要の業者数割合をあらわす基準適合率は95%と目標を達成しました。</li> <li>○NPO団体や市町等と連携・協力し、日韓海峡沿岸漂着ごみ一斉清掃や街頭キャンペーンでのパネル展示、環境教育等、発生抑制対策及び国際協力事業として7事業を実施し目標を達成しました。</li> <li>○生ごみ減量化リーダーの活動回数は、1,244回と目標値を上回りました。</li> </ul>

## (2) ナガサキ・グリーンニューディール

評 価	概ね達成
概要	○ 環境対策、イノベーションの促進、産業振興に対する一連の投資を適切かつ効果的に実施し、「社会の低炭素化・グリーン化の実現」が可能な社会システム構築を目指して、次の事業に取組みました。  ■新エネルギー産業等プロジェクト推進事業  ■次世代環境エネルギー技術誘致・連携発信事業  ■環境実践モデル都市推進事業  ■海洋フロンティアプロジェクト推進事業  ●長崎EV&ITSプロジェクト推進事業  各施策・事業は概ね目標を達成しましたが、新たに環境実践モデル都市を選定することはできませんでした。しかし、小浜地区には東長崎エコタウン構想など、地域主体の自発的なプロジェクトが既に創出され「環境実践モデル都市事業」の目標は、一定達成されたものと判断しています。今後、この事業は「対馬プロジェクト」「西海プロジェクト」として施策を進めていきます。

# (3) 生物多様性保全プロジェクト

評 価	_	-定の成果をあげてい	ると評価する。	
概要	・(査)・・・実)・・関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	記録といきもの賑わい 県事業 2事 の木事業を備) 助成プジョンでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	語ものつながり(20mm) では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	24年度の国の世論 (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (33年度の) (34年度の) (3
		事業名	環境基本計画目標	実績
	_1_	希少野生動植物種保存	8地域	4地域指定

	地域の指定	(平成27年度)	
2	⊋   緑といきもの賑わい事   業	22か所 (平成27年度)	17か所実施
3	自然環境を活かした先 3 進的な地域づくりに取 組む地域数	4地域 (平成27年度)	2地域
4	1 自然歩道の整備事業	465.4km (平成27年度)	125.1km

## 2 豊かな水環境の保全・創造の取組み

## (1) 大村湾再生プロジェクト

評 価	さらに継続して対策に取組む必要がある。
概要	○平成20年度に策定した「第2期大村湾環境保全・活性化行動計画」(H21~25年度)に定める基本的方向に沿って、関係機関が一体となった取組みを進めています。 ○平成24年度のCODは、全湾平均2.2mg/Lで、第2期大村湾環境保全・活性化行動計画の目標値はCOD2.2mg/Lを達成しました。しかし、大村の環境基準はCOD2.0mg/Lと設定されており、大村湾流域の汚水処理対策など、環境基準達成をめざした取組みの継続が必要です。本事業による主な取組みは次のとおりです。 ○活動団体との協働事業・大村湾環境ネットワーク活動発表会第1回 12月8日(長与町にて 130人参加)第2回 3月17日(大村市にて 260人参加)・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・いたはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)・バージを教員のための環境学習会・5月29日(18人)、8月7日(20人)・ファ遊ゴミ除去対策事業・「大村湾をきれいにする会」(事務局:大村市)が実施する湾内のゴミ除去対策事業への補助を行いました。 ○底質改善実証試験の効果検証のを質改善のため大村湾海区、漁業協同組合長会が実施している水酸化マグネシウムによる底質な善実証試験の効果検証のため、底質等の調査を2回実施しました。 ○貧酸素水塊の観測・毎年夏場に発生する貧酸素水塊の観測を8~9月の間、8回実施し、FAXやホームページ等で情報発信をしました。

## (2)諫早湾環境対策プロジェクト

評	価	さらに継続して対策に取組む必要がある。
概	角	〇平成24年度の計画見直しができず、暫定的に本プロジェクトの個別計画である「第2期諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画」を延長し、各プロジェクトを推進

しています。調整池の水質(COD75%値)は、8.3mg/Lと、 平成16年度の数値をピークに緩やかな減少傾向にあるもの の、水質保全目標値である5.0mg/Lは達成できませんでし た。しかし、周辺流域の汚水処理人口普及率は84.8%と目標 (80.9%)を達成しています。

〇引続き、流域からの生活排水対策や、面源由来の施肥等に伴 う汚濁負荷削減、また調整池の潜在的汚濁負荷による巻き上 げや内部生産等の対策に取組みます。

#### (3) 島原半島窒素負荷低減プロジェクト

評	価	125%
概	角	本プロジェクトの個別計画である「島原半島窒素負荷低減計画」に基づき、農業対策、畜産対策、生活排水等の継続的な取組みを推進しています。 平成24年度は継続監視調査17地点(島原市12、雲仙市4、南島原市1)、さらに、追跡井戸調査を72地点(島原市38、雲仙市19、南島原市15)で、実施しました。その結果、環境基準超過地点数は、継続監視地点8(超過率47.1%)、追跡調査地点37(超過率:51.3%)となり、計画の短期目標(平成21年度時点の10地点より悪化しない)は達成しました。 引き続き、年2回の幹事会において窒素負荷低減計画の進捗状況を検証しながら取組を進めていきます。

第3章 進捗狀況(平成24年度実績)

	評価値		(	(	0		
評価対象		)	10~30   40~60   70~30		O&~O.	3	io
基本目標 [	項目数			_	8	39	43
地球環境保全をめざす社会の実現	比率			2.3%	%0'.	90.7%	100%
基本目標Ⅱ	項目数		1		8	20	09
環境への負荷の削減と循環型社会づくり	比率		1.7%	1.7%	13.3%	83.3%	100%
基本目標皿	項目数				12	27	39
人と自然とが共生する快適な環境づくり	比率				30.8%	69.2%	100%
基本目標Ⅳ	項目数				2	17	24
県民・事業者・行政のパートナーシップによる環境づくり	比率				29.2%	70.8%	100%
評価の今のための十.34の首般的協等	項目数			1	E	18	22
1455年1016人のフルス はいまました (1954年)	比率			4.5%	13.6%	81.8%	100%
<b>.</b>	項目数		1	3	88	151	188
	比率		0.5%	1.6%	17.6%	80.3%	100%

〇評価一覧表(大項目ごと集計)

地球環境保
基本目標 I

8

10~30 40~60 70~90

0

項目	1 生物多様性の保全	①自然環境の監視・調査研究の推進	②野生動植物の保護・生態系の保全と再生	2 自然とのつながりの回復	①自然とのふれあいの場の保全・整備	②自然とのふれあいの機会の提供	③社会経済活動における適切な活用	3 快適な生活環境と歴史的環境の保全と創造	①快適な生活環境の創造と美しいふるさとづくりの	②歴史的環境の保全と創造	#8 \fr
丰	34	29	0	ო	O	-	-	ო	ო	-	43
100	30	27	1	2	6	1	-	ო	ო	1	39
70~90	в	1	1	1							ო
40~60	1	1									1
10~30											
0											
項目	1 地球温暖化対策の推進	①温室効果ガスの排出抑制	②温室効果ガスの吸収作用の保全と強化	③地球温暖化への適応策	2 広域的な環境汚染対策の推進	①光化学オキシダント等に関する対策の推進	②オゾン層の保護対策の推進	③酸性雨对策の推進	④漂着ごみ・漂流油対策の推進	⑤環境保全のための国際的協力の推進	# 17
	0 10~30 40~60 70~90 100 含計 項目	10~30 40~60 70~90   10 目   1	10~30   40~60   70~90   100   5   1   項目   項目   10   10   10   10   10   10   10   1	の 10~30 40~60 70~90 100 合計 加制 1 27 29 作用の保全と強化 1 1 2 2 29	10~30   10~40   100   2 計   1	項目     地球温暖化対策の推進     10~30     40~60     70~90     100     合計       地球温暖化対象の推進     1     3     34     1       ②温室効果ガスの吸収作用の保全と強化     1     1     2     29       ③地球温暖化への適応策     1     1     2     3       広境的な環境汚染対策の指揮     9     9     9	項目     地球温暖化対策の推進     1     3     30     34     11       心温室効果ガスの吸収作用の保全と強化 ②地球温暖化への適応策     1     1     27     29       の地域機構発験対策の推進     1     1     2     3       の地域機構発験対策の推進     1     1     2     3       の地域機構活験対策の推進     1     1     2     3       の形化学オキシダント等に関する対策の推進     1     1     1     1	項目     地球温暖化対策の推進     100~30     400~60     100     合計     11       地球温暖化対象の様     1     3     34     11       ②温室効果ガスの吸収作用の保全と強化     1     1     2     2       の地球温暖化への適応策     1     1     2     3       広域的な環境汚染対策の推進     1     2     3     3       ②オソン層の保護対策の推進     1     1     1     1       ②オソン層の保護対策の推進     1     1     1     1	取目     取目       地球温暖化対象の推進     1     3     30     34       ①温室効果ガスの排出抑制     1     1     2     3       ②温室効果ガスの吸収作用の原金と強化     1     1     1     2       広域的な環境汚染対策の推進     3     3     2       ②が化学オキシダント等に関する対策の推進     9     9       ②が化学オキシダント等に関する対策の推進     1     1     1       ②がソン層の保護対策の推進     3     3       ③酸性雨対策の推進     3     3	### 10~30 40~60 70~90 100 合 計	政制     (1) (1) (2) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4

S	
∖	/
いかない。一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一世の一	1
7	
世紀の世紀の記述	
が開け	8
1年日 1年1	Į į

H T	は、これは、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに、これに	c	400,00	09,007	700.00	00	#	L
1	頂目	)	00-01	00-04	06-01	3		
_	廃棄物対策の推進				в	15	18	_
	①廃棄物の発生・排出抑制				Į.	2	ო	
	②廃棄物の再資源化の推進				7	5	7	
	③廃棄物の適正処理の推進					00	00	N
2	大気環境の保全		1			6	10	
	①大気汚染防止対策の推進		1			4	Ω	
	②自動車排出ガス抑制対策の推進					S	Ŋ	
က	水環境の保全			1	4	11	16	ო
	①海域・河川・湖沼等の水質保全対策の推進			٢	Э	5	6	
	②生活排水対策の推進					2	N	
	③工場・事業場等排水対策の推進				1	-	N	
	④水の循環利用					Ю	Ю	
4	土壌・地盤環境の保全				1	4	ß	環境
	①土壌環境の保全				l l	2	ო	
	②地盤環境の保全					2	0	
2	騒音・振動・悪臭対策の推進					4	4	
	①騒音・振動・悪臭対策の推進					4	4	
9	化学物質の環境リスク対策の推進					7	7	
	①化学物質の適正管理					2	2	
	②内分泌かく乱物質(環境ホルモン)等に関する対策の推進					2	2	
	③ダイオキシン類削減対策の推進					3	n	
	## \fr		1	1	8	50	9	
۱								L

本目標IV 県民・事業者・行政のパートナーシップによる環境づくり

①快適な生活環境の創造と美しいふるさとづくりの推進

÷

l							
	1項目 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	0	10~30	10~30 40~60 70~90	70~90	100	台
-	環境教育・環境学習等の推進				-	6	10
	①学校等における環境教育・環境学習等の推進					5	5
	②社会における環境教育・環境学習等の推進				-	4	5
Ø	自主的な環境保全行動の推進				9	3	6
	①県・市町の環境保全に向けた取り組みの推進				1	2	3
	②県民の環境保全に向けた取り組みの推進				2		CA
	③事業者の環境保全に向けた取り組みの推進				Э	1	4
ო	環境情報の収集、発信の強化					5	5
	①情報提供機会の拡大					2	2
	②情報共有化の推進					3	3
	相小				7	17	24
l							

は原保全のための共通的基盤的施策

] 現日	0	10~30	40~60	0 10~30 40~60 70~90 100	100	合計
①適正な土地利用の推進						
②調査研究・技術関発の推進・監視観測の充実					5	2
③環境産業の育成					5	
仏環境配慮の推進					2	2
⑤公害苦情と公害紛争等の適正処理					2	2
⑥環境管理システムの適切な運用と普及の促進				2	1	
			1		2	Ю
					1	
4 小			1	ε	18	22

o Z	-	8	т	4	S	9	7	œ
用	未来環境推 進課 通報	聚	未来環境推進課	ナガサキ・グ リーンニュー ディール推 維室	ナガサキ・グ リーンニュー ディール推 進室	農政課	林政課	環境政策課
相当部	環境部	環境部	環境部	産業 働 動部	産業労 働部	農林部	農林部	- 提前部
再揭								
H25年度の取組内容 (予定)	な	循環型社会形成推進地域計画 に基づ<事業を棄施予定	引き続き会員拡大とクレジット 化を実施するとともに、クレジットの県内企業等への売却やセ ドカ県内企業等への売却やセ ミナーを通して、制度のPRを行 う。	実施予定なし		低コスト本質チップポイラーの 開発・実証試験を実施する。	H24年度の実証試験をもとに、 ・年間を通した安定供給体制の 整備に向けた取組を行う。	予定なし
H24年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	国や市町の補助金や固定価格買取制度により、十分に増及が進む程度にまでシステム価格が下落したため。	循環型社会形成推進地域計画に基づく事業を実施中 少く事業を実施中 地域計画 計上事業数 8 実施事業数 8	現会員による二酸化炭素削減量をモニタリングし、7824の国内クレジットが認証された。認証されたクレジットは、県内企業等へ売却予定。		メガソーラー候補地リストを公表し、 参入を希望する企業と土地所有者 のマッチングを実施する。	関係各課、農林技術開発センターとともに本質ポイラー開発企業からヒアリングを行い、H25年度に向けた施策に向けた権力を行っている。	林地残材の搬出等における工程調	バイオディーセル燃料の活用に関する研修会や品質確認分析を行い、 県内におけるバイオディーゼル燃料 の活用を促す。
H23年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて記載)	東日本大震災の発生に伴う省 国工・衛電震線の高まりや補助 集業、前電震線の高まりや補助 事業、対象となると工・投制 の種類を増やした事及び省工 な、お設備同士の組み合わせによれ、設備同士の組み合わせにより、予定件数を大したことにより、予定件数を大にたことにより、予定件数を大幅に上回った。		会員については、H23年度で約1,700名に達し、一定の規模が1,700名に達し、一定の規模が確保された。	当初予定通り ことできたため		関係機関において今後のすす め方について共通認識ができ た。	木質バイオマス利用の今後の 権進方法についてとりまとめが 行われた。	「長崎県におけるパイオディーゼル燃料の普及促進に向けた ギル燃料の等定 手引き」の策定
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	100	100
計 指 報	成果指標	活動指標	活動指標	成果指標	成果指標	活動指標	活動指標	成果指標
H23年度の取組内容 (実績)	太陽光発電設備や高効率給湯器、投層ガラス等複合的に省工、設備を設置した住宅や省工本設備を設置する市町施設の設置経費に対し補助を実施。 施。 補助目標値:1,370件補助実績値:1,717件補助実績値:1,717件	市町等が循環型社会形成の推 ・進に必要化廃棄物の理能設の 整備事業等を実施するために 策定した循環型社会形成推進 地域計画に基づく事業等を実 施させる。	県内一般家庭の太陽光発電設 備による二酸化炭素削減量を 取りまためてクレジット化する 「なかたき太陽光倶楽部」の会 員拡大を図った。 (H22年度末:1名ーH23年度 末:1,696名)			木材流通拡大協議会(木質バ イオマス部会)および関係各 課・農林技術開発センターにお いて意見交換を行った。	木材流通拡大協議会 (木質バイオマス部会)において協議を 行うとともに、公共施設におけ を服存の重油 対きがイラーの 現状を調査した。	ハイオディーゼル燃料の利用 に関する講演や品質確認分析 の結果検討及び意見交換、長 崎県版の普及促進マニュアル の策定を行うための研究会を2 月 回開催した。
施策內容	複合的省工本設備設置在宅や 大 省工本設備設置市町施設への 器 技援 長崎県ごみ処理広域化計画」 計 「長崎県ごみ処理広域化計画」 計 「上基づくサーマルリセイクル、マ 選 デリアルリサイクルの推進 難 選		国内版クレジット制度 (CDM)の 普及・拡大	17-1		バイオマスエネルギーの農林業 用施設・機械等への利用促進	_	バイオディーゼル燃料に関する情報な換の実施。 長崎県版の普及促進マニュアルの策定
中項目				効果が スの				
大項目			<b>岩</b> 掛照	通販化対策	水の推進			
基本目標			<b>岩</b> 珠膘	全をめざ	す社会の	実現		

ŏ.	o	10	Ξ	12	13	4
担当課	漁政課	産業技術課	グリーン ニューディー ル推進室	未来環境推 雄課	漁政課	農政課
H26年度予 算への反映 再 状況 掲 (予定)	現状維持	現状維持	<b>加充</b>	現状維持	現状維持	現状維持
1内容	H25と同様に実施	春みを含む特定の陶磁製品でプレーボンがアリントを表示してリーボンがフリントを表示した。 消費者の環境対応商品 購入動機付けに関する ンケートを継続実施す。	探択した案件について、事業実施主体により、事業化可能性調査を行う。	にされた計画について、 i価・検証を実施する。	25と同様に実施	これまでの取り組みによる課題の集材を行い、実証 試験を行い、電動農耕機 の実用化に向けての技術 関立を目指すとともに、そ の取組・検討権規一にいて は、広ぐ情報発信を行い、 啓発に努めていく。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	陸上養殖振興プロジェクト事業の一 スプロストを削減するための地中熱 カプコストを削減するための地中熱 等の目然エネルギーを利用した組 スト陸上養殖システムの技術開発に 取り組んでいる。	2	新エネルギー産業等プロジェクト権 進事業や次世代環境エネルギー技 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4月、実行計画を策定した。	省工水漁船漁人時の初期投資を整 II 減し、収益性の高い漁船漁業を目指 すとともに、国の資源管理・収入安 定対策に参画する「ながさき認定漁 業者「等に参し、近代化資金の融資 残への助成を実施している。	引き続き、太陽光発電のデータ収集や実証試験を行っている。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)		LCA評価技術を導入するなど計画どおり実施できたため	н ъ	実行計画の内容検討を終了 し、平成25年3月、知事に答 申を行った。	I	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	I	100	100	100	I	100
H23年度 評価	I	100	100	I	I	100
評 指標	成果指 標	活動指 標	成果指 標	活 標 種	I	活動 標 標
H24年度の取組内容 (実績)	フィージピリティ研究 (本格的な 研究に入る前の予備研究) とし て、電力・ガスに代わる自然エ ネルギーとして、温泉競等を利 用して水温を調節する陸上養 用して水温を調節する陸上養 用して水温を調節する陸上養 用して水温を調節する陸上養 料や全国地熱ボデンシャルマッ ブ等を収集して適地評価を実 施	- ライナサイクルアセスメント(L ケノンアトウェア「MLCA(みる か)を導入 - LCAソフトウェアの操作方法 の研修(LCA実践セミナー)に の研修(LCA実践セミナー)に の研修(LCA実践セミナー)に の研修(エクットプリントに関す ・カーボンフトフリントに関す るセミナーを開催(講師:産業 環境管理協会)	ジェ ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	·環境審議会地球温暖化対策 実行計画検討部会を計2回開催した。	# 省工本漁船導入時の初期投資 業を軽減し、収益性の高い減船 漁業を目指すとともに、国の資 源管理・収入安定対策に参画 する「ながさき認定漁業者」等 に対し、近代化資金の融資策 への助成を実施	練早海干拓地において、太陽 光発電を利用して電動農耕機 (3合)や園芸施設(エーボン ブ)についての実証試験を実 施。 また、取組については、県内外 からの視察者への対応など情 報発信を行った。
施策内容	自然エネルギーを利用した低コスト 養殖技術の研究開発	大学等の知見を活用した陶磁器製造における省エネ評価技術の確立	エネルギーの地産地消の実証 事業の県内候補地、候補事業 の調査	地球温暖化対策実行計画の進行管理	省エネ (環境対応) 漁船等の導入により経営改善に取組む漁業者に対する助成	農業用施設への太陽光発電利 用の曽及を推進します。
中項目		─────────────────────────────────────	効果ガスの排出抑制			
大項目		岩铁県	価暖化対策の推進			
基本目標		岩茶戲報味	全をめざす社会の実	開		

o S	15	91	11	18	19	20	21	22
担当課	グリーン   1-1 - ディー   本権進撃	グリーン  11   ディーン  7   推進室	新幹線 1総合 交通対策課	未来環境推 進課	教育環境整 備課	未来環境推進課	未来環境推 進課 進課	未来環境推進課
H26年度予 算への反映 再 状況 掲 (予定)	新規		現状維持	拡充	その他(民間事業活用を検討中)	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	V.ITSの普及啓発・会議 活開催する。		離島地域交流促進基盤強 化事業費制的をにより、環 境対応契船制を企とり、環 輸事業振興助成補助金に キリトラック協会へ低公害 車購入助成を行う予定。	・引き続き「節電アドバイ ザー」の派遣事業を実施。 ・「電力デマンド監視装置」 ‡ リのモニター結果等、各種事 例の発信を行っていく。	5年度の「屋根貸し」事業 0公募状況をふまえて26 F度の事業実施の検討を 75。また、県で整備するこ さ併せて検討を行う。	ー定規模以上駐車場設置者に対して、ポスターを配着に対して、ポスターを配布し、アイドリングストップの周知義務の徹底を図る。	平成26年1月~3月にかけ て、未来環境推進課10件、 県立保健所40件の計50件 の立入検査を実施する。	エネルギー使用量が一定 温整効果が入の排出削減 計画整効果が入の排出削減 計画書及び削減報告書の 提出を求める。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	県内の市西及び民間事業者等が急 匠 選売電器を導入し、一般開放を行 111、EVの普及に資する活動を実施 する場合、その導入に係る経費の一 に対する、場入支援を行うための に対する。 に対する。 に対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は対する。 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備促進 は、自動車が電インフラ整備に進 が、対象がなまりに「長崎県次世 代目動車が電インフラ整備に進 が、対象がはなりませ、 は、自動車が電インフラ整備に進 が、対象がなりませ、 は、自動車が電インフラ整備に進 が、対象がなりませ、 は、自動車が電インフラ整備に進 を発定した。	長崎FV &ITSプロジェクトの成果を 「ITS世界会議 真元の313に国内外 に発信する。また、充電ネットワーク システム や観光情報プラットフォームのサービスの拡光や再生可能エネルギーの導入を行う。		・引き続き「節電アドバイザー」の派 選事業を実施。 ・5事業者を「電力デマンド監視装 置」のモニターとして選定し、7月より 設置を行った。	IIII IIII - , .33	ー定規模以上駐車場設置者に対して、ポスターを配布し、アイドリング ストップの周知義務の徹底を図る。	平成26年1月~3月にかけて、未来 環境推進課10件、県立保健所40件 の計50件の立入検査を実施する。	エネルギー使用量が一定規模以上 の事業者に対し、温室効果ガスの排 出削減計画書及び削減報告書の提 出を求める。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	EV 及び急速不電器の導入 支援による導入については、 対策による導力については、 自国 (EV54、急速充電器・11 台)を下回った。しかしなが 与、EV1については、長崎県E 者 や、FHV分つか構想に基づく 導入計画を上回ったこと、急 が 連入計画を上回ったこと、急 が 連入計画を上回ったこと、急 が は不電器については、平成 目 が、24年度は実績がなかった が、24年度は3差と導入が広 がったことは評価できると考 う える。	「長崎みらいナビュ五島」の 本産運用の開始により、素 来型ドライブ観光システムの 構築について一定の成果が 得られたため。	計画通り実施できたため。	当初目標を20事業者としており、結果21事業者に節電アドバイザーを派遣できた。	計画どおり太陽光発電設備 の設置予定校であった長崎 北高校に整備したため。	計画通り、駐車場設置者へ の周知を図ることができたた め。	実績のとおり、目標以上の立 入検査を実施することができ たため。	対象事業者全業者から提出があったため。
H24年度 評価	50	100	100	100	100	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	I	100	100	100
評価指標	活動指標	活 使 者	活 動 動	活動指 標	成果 標	活動指標	活動指 標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	び民間事業者 大との書及に 施する場合の場合の を行った。 が民間事業者 び民間事業者 が民間事業者 を導入し、一 を場合し、一 を場合し、一 をもの書及に答 する場合、その での一部を助成	ワーキンググルーブを設置し、 充電ネッドワーグステムによ るサービスの拡充、ITSスポットを活用した情報提供システ ム、観光情報フラットフォーム、 高光計目したサービスの拡充、及 び再生可能エネルギー関連設 備の第入等について検討した。 また、赤電スットワーグシステ ムの導入や地域情報配信シス テムである「長崎みらいナビ」 五の導入や地域情報配信シス テムである「長崎みらいナビ」 五の海入や地域情報配信シス	運輸事業振興助成補助金によ りトラッグ協会へ低公害車購入 助成を行った。		太陽光発電設備については長崎北高校普通教室改築事業の崎北高校普通教室改築事業の中で50kwの設備を整備した。	ー定規模以上の1,477の駐車場設置者に対して、ポスターを 動がし、アイドリングストップの 配布し、アイドリングストップの 周知義務の徹底を図った。	ナイ、 立な ( ) な ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	エネルギー使用量が一定規模 以上の事業者(101事業者)に 対し、温室効果ガスの排出削 減計画書及び削減報告書の提 出を求めた。
	長崎県EV・ITS普及促進事業の推進	長崎FV&ITSプロジェクト推進事業の推進事業の推進	船舶やトラック等の輸送力確保 及び輸送コストの上昇抑制のた めの支援	「見える化」の推進	太陽光発電等の再生可能エネルギーを利用した施設整備や省エネ型空調設備等の環境に配慮したエコスクールの推進	アイドリング・ストップの周知など 自動車による温室効果ガス排出 削減対策の推進	フロン類の大気中への排出抑制、適正な回収・処理の推進制、適正な回収・処理の推進	温室効果ガスの多量排出事業者への温室効果ガスの多量排出事業者への温室効果ガス排出削減対策の促進対策の促進
中項目		—————————————————————————————————————	温室効果ガスのは					
大項目		=	<b>见球温暖化対策 6</b>	3推測				
基本目標		出货票	境保全をめざす	社会の実現				

è.	23	24	25	26	27	28	29
担当課	未来環境推進課	環境政策課	未来環境推進課	未来環境推進課	未来環境推進課	新幹線·総合 交通対策課	未来環境推進課
H26年度予 算への反映 再 状況 掲 (予定)	見状維持	現状維持	拡充	現状維持	現状維持	現状維持	打蜜
H26年度の取組内容 (予定)	密文書リサイクルの推進 による廃棄物資源化率 による廃棄物資源化率 で上などの対策を強化 、エコオフィスブランを推 する。	県内のエコアクション21地 方事務局と協議しながら、 各団体等への働きかけを 行い、最終目標達成を目 指す。	「九州版炭素マイレージ制度」を引き続き運営する。	もったいない運動推進大会 やノーマイカー運動等など を実施する。	民会議と進化がさ客環境県 民会議と連携しながらイー マイカーデー及び[県下一 斉ノーマイカー&エコドライ ブウィーク」の周知拡大に 努める。	ゴールデンウィーク中のマイ カー自粛及び公共交通機関 利用促進	₩ 1
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	長崎県庁節電実行計画(平成25年 度通体版を策定、平成23年度、 24年度の夏期・発制に実施した節電 対策を継続しつ、それい外の期間 対策を継続しつ、それい外の期間のいても、引き続き強力に節電に 取り組むこととすし、エコオフィスプランの推進を行っていても、	県内のエコアクション21地方事務局と協議しながら、県南工会連合会など県内の商工関係団体等への働きがけを行う。	・九州内の一般家庭を対象に、節電 ・右生工を製品の購入等の環境行動 を行った果民にポイントを付与し商 品やサービスと交換できる、小州院 炭素マイレージ制度」を10月より実 施している。	もったいない適動推進大会 やイーマイカー運動等などを実施する。	与月第2水曜日をノーマイカーデー - C定めるとともに、19月1~17日の - B間を、「県下一斉ノーマイガー &」 □ドライブウィーク」として実施する。	4月25日~5月6日を対策期間としてテレビ・ラジオ等を利用してマイカー自粛やパーク・アンド・ライドの活用を呼びかけた。	なし
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せ <sup>-</sup> 記載)	H23年度における県庁全体 の二酸化炭素排出量は 54,276で、H23年度目標の 54,104をほぼ達成した。(達 成率99,7%)	県内における「ISO14001」及 び「エコアクション21」の新規 認証登録事業者:28件/32件 (累計)	冬季(県主催)の参加者は6 38件であり、目標の500世 帯を上回った。また、1世帯 あたりの電力削減率は14. 8%であった。	計画通り実施することができたため。 たため。	峠、 ど てのは	計画どおり実施できたため。	計画通り実施することができたため。
H24年度 評価	100	06	100	100	100	100	00
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	100
12年	成果 標	成果指標	活動 標	活動指標	活動指標	活動指標	顽果 無 指
	「第三次県庁エコオフィスブランルに基づき県庁におけるエネルギー佐用量・廃棄物量の削減、及び廃棄物資源化率・環境物品等調達率の向上に取り組化が、	「エコアケション21」の地域事務局と連携し、商工会連合会の研修会などにおいてEMS認証の説明と働きかけを行うた。	長崎県地球温暖化防止活動権 進センターと連携に、夏季及び を季に県民を対象とした節電コ ンテストを実施した。夏季: 長 崎県地球温暖化防止センター 主催、冬季: 県主催)	もったいない運動推進大会や ノーマイカー運動等など、年間 を通じ各種イベント等を開催	. 01	4月26日~5月6日を対策期間としてテレビ・ランオ等を利用、してマイカー自粛やパーク・アンド・ファイン・ファーン・ラーファーンド・ライドの活用を呼びかけた。	エコドライブの普及のため、県 円の時、 事業者向け、 行政向 10時、 事業者向け、 行政向 (実績) 県民向け 56名 事業者向け 37名 行政向け 53名 自動車学校主催 15名 産学のみ 51名
施策内容	「環境物品等調達方針」の作成 と県庁エコオフィスプランの推進	事業者が自主的・主体的に取り 組む環境管理システムの導入 促進	家庭での二酸化炭素排出削減の推進	県及び市町、ボランティアとの協働によるイベント開催	ながさき環境県 民会議と連携した、マイカー利用の自粛、公共 交通機関の利用促進	ゴールデンウィーク中のマイカー自粛及び公共交通機関利用促進	県氏、事業者等を対象としたエコドライフ講習会等の開催
中項目				①温室効果ガス			
大項目				<b>书</b>	策の推進		
基本目標			君(	球環境保全をめば	らす社会の実現		

Š	98	31	32	33	34	35
超二二二	グリケー トレー イン 一 本 一 本 一 本 一 本	都市計画課	新幹線·総合交通対策課	未来環境推 進課	森林整備室	林政課
再揭	I	112	no is	17.75	- NX	<b>声</b> 超
H26年度予算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	対馬市については、これまで、総務者の「分散型エネル・ボーンフ」プロジェクトは、インフラリアに対する。 古間 レエネルギーベストミックスプランの策定を予定。 日本第七十二の、大三、の漁船・計算を引き続き行う。	車両基地移転工事が完了 し、長崎駅部の工事に着手 する。	マイカー自粛と公共交通機関の利用推進	ながさき環境県民会議、長 高限地球温暖化防止活動 指権・センター・アンター 温暖化対策ネットの一クを 講等や上連携した普及啓発 活動。	間伐等森林整備面積を 2.755ha 実施する計画であ る。	H26年度のシミュレーション ・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学・ 大学 大学 大学・ 大学・
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	<b>が開加については、これまで、蓄電 も制御実証事業の支援に同り、外 地の加速発車、 を関がイオマス発電導入の検 置か木質、イオマス発電導入の検 置か木質、イオマス発電導入の検 では、 が 大の設立等、イラム。今後は、総 のの策定を予定。 では、フーキングイイン のの策定を予定。 であるサイエンス カーブのメンバーであるサイエンス リナーギ機が中収がまで カーブのメンバーであるサイエンス リナーギ機が中収がまで 開発研究委託事業、長崎県産業係 開財団)の採択を受け、360Wの漁権 着戦型小型潮流発電設備の開発と 本工業証試験を行う。</b>	H25からは浦上駅の仮駅舎建設に 着手する。	4月25日~5月6日を対策期間としてテレビ・ラジオ等を利用してマイカーとする。 カー自粛やパーク・アンド・ライドの活用を呼びかけた。	が名き環境県民会議、長崎県地対が大き環境に活動した当動権となる一、長崎陽化的に活動権をひる一つ会議・上連携に下普及啓発活動。	ながなき森林環境税」を活用する数 を指し、米整備に表 込森林所有者負担を軽減するとし に、市町が公益的に重要と位置に に、市町が公益的に重要と位置に る森林や荒原してがから学水源 、森林整備の更なる推進に取り総 でい、。	/質バイオマスポイラーを推進する。 めの収支シミルーションの実施 よる導入促進や本本本機 業事はよる導入の成化 大業再生事業等による導入的成を です。また、年間を通じた安定供給 が同を整えるための実証試験を実 すする。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せ 記載)	対馬市については、カ州電 対力・対策を対しては、カ州電 との、再年可能工夫ルギー導 人抗大に同けた蓄電池制御 量素的事業のにより、環境省 計画・西海 大田 ののでは、海洋の のが、一般的を変化しては、海洋の が、一般的を変化しては、海洋の・一般のできた。 いん があることが 正確認できた。	現在、車両基地移転工事、 用地買収について鋭意進歩 を図っており、高架本体工事 着工の達成に向け、着実に 前進している。	計画どおり実施できたため。	計画通り実施することができたため。	国庫補助事業の活用を図る 12 ととに、水源かん養物の公 線ととに、水源かん養物を対象 12 とした整備、およびその施業もとした整備、およびその施業もと一枚となった年業追開設に17 がして、平成19年に創設したの「ながさき森林環境税」を活めて、京森林環境税」を活め、森林環境税」を活め、森林環境税」を活め、森林整備に関係を開展を表現を開展を開発を開送しており、森林教育は18.500~12 が上。	新たな木質バイオマスエネ イ ルギーを利用する機能が高 なまるとともに、林野市の補助 に事業が新設され、利用施設 本の整備を推進している。この 作にい 動馬権性主産施設を 付にい 製工 温浴施設で バイボイフーの導入が進 み目標を達成できた。
H24年度 評価	100	100	100	001	06	100
H23年度 評価	100	100	100	100	06	100
標 標	森 秦 本 士	活動指標	活動 標	活動	成果精	活動 標
H24年度の取組内容 (実績)	対馬市においては、島内全て の防辺がのLED化に向け、取 着えを進め、また、素林資源の 有効活用(公共施設への本質 パイマスチップボイラーの導 パイマスチップボイラーの導 パイマスチップボイラーの導 パイマスチップボイラーの導 パイマンでの調査や事業化検討 を行った。 西海市においては、潮流発 電、太陽光発電、木質パイママ スを活用した事業化などについ ての調査・検討を行った。		4月26日~5月6日を対策期間としてテレビ・ラジオ等を利用してマイカー自粛やパーク・アンド・ライドの活用を呼びかけた。	ながさき環境県民会議、長崎 県地球温暖化防止活動推進センター、長崎県地球温暖化対 をオットワーク会議等と連携し た普及各条活動。 (取和内容) ・現下一斉ノーマイカー&エコド ライブウィークの実施 ・もったいない運動推進大会の 開催 ・主かたいない運動推進大会の ・推進員フォローアップ研修の ・実施 ・生のでは、 ・生のでのでは、 ・生のでのでした。 ・生のでは、 ・生のでは、 ・生のでが、 ・生のでものでものでが、 ・生のでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもの	間伐等の森林整備実績 16.862ha	木材流通拡大協議会(木質バイケス部分)において協議を行うとともに、林地像材の搬出工程調査等を実施、チップ化計でのコスト等を把握した。
施策内容	「環境実践モデル都市」の選定と支援	交通の分散化やボトルネックの 解消等による交通の流れの円 滑化と一体型の市街地整備	マイカー自粛と公共交通機関の利用推進	市町・各種団体との協働と活動支援	温室効果ガスを吸収するなど、 森林の公益的機能を維持・発揮 させるため、間伐等の森林整備 させるため、間後等の森林整備	木質/バイオマスエネルギーの利用や林地残材等未利用間伐材の活用推進
中項目		温室効果ガスの	事品是		②温室効果ガスの吸収	作用の保全と強化
大項目			<b>岩</b> 松	温暖化対策の推進	•	
基本目標			<b>出</b> 球 票	<b>你全をめざす社会の実現</b>		

Š.	36	37	38	39	04
租票職	漁港漁場課	資源管理課	農産園芸課	砂防課	農業経営課
再揭					
H26年度予算への反映 サルの反映 状況 (予定)	脱	現状維持	その危	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	母藻供給基地として、着定 基質の設置により、3地区 3箇所2.4haの藻場礁を造 成予定。	「環境・生態系保全活動支援毒業」はHZ4年度で終了。 了。	乙粉素垂	土砂災害防止施設の整備 により599戸を保全予定で 現状維持 ある。	農業関係指導機関等へ、 発生予察情報を配信して いく。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	磯焼け対策に必要な移植母藻供給 基地として、着定基質の設置により、3地区4箇所3.2haの藻場礁を造 成中。	水産業・漁村の多面的機能の効果 的・効率的な発揮に貸する、県内44 組織に対し、国交付金事業を活用し 支援を実施する。	事業終了	(年間計画) ・土砂災害防止施設の整備により5 90戸を保全予定である。 (上半期実績) ・現在施工中	農業関係指導機関等206箇所へ、発生予察情報を配信している。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	1	1	計画どおり実施できたため。	地元との調整により工事に 遅れが出た箇所があり成果 指標を達成できなかった。	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	I	I	100	08	100
H23年度 評価	I	100	100	100	100
背	ı	I	成 標 構	成果指 標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	磯焼け対策に必要な移植母薬 供給基地として、着定基質の設 置により、3地区5箇所4.0haの 薬場礁を造成	藻場等の維持・管理等の環境・ 生態系の保全活動を行う県内 35組織に対し、国交付金事業 を活用し支援を実施。	農産物被害抑制のため、水租 生育予測システルに基づくコン 上力等の具准化集配報路 舎断熱と家畜の暑熱ストレス低 態技術の確立、農産物(葉英 類、租英額)における温室効果 が、加速がのための土壌管理・ 施肥技術の実証検討を行っ た。	土砂災害防止施設の整備によ り338戸を保全した。	農業関係指導機関等207箇所へ、発生予察情報を配信した
施策内容		藻場等の雑持・管理等の環境・生態系の保全活動を行う組織の育成・支援	地球温暖化の悪影響による農 産物検害の抑制技術の確立及 じ温室効果ガス発生低減のた めの技術の確立	土砂災害防止施設整備の推進	発生予察情報を提供した、適時適切な防除の推進
中項目	②温室効果が1	u強化 〈の吸収作用の保		温暖化への適応	
大項目			地球温暖化対策の推進	Ą	
基本目標		母货	環境保全をめざす社会	の実現	

o O N	14	42	43	4	45	46	47	48	49
担当課	環境政策課	未来環境推進課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	聚 業物 対策	危機管理課	資源管理課	漁政課
年掲		<b>声</b> 超							
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	a 小	-	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	司き締き、県内の測定局47 同、佐任保市7 123 局)を本保市7 23 局)をネットワーク化と 23 局)をネットワーク化と 22 局)をネットの当時監視 22 施力を実施の場合 には、「長崎県大気活発解 1 には、「長崎県大気活発解 1 には、「長崎県大気活発解 1 には、「大道報発令実施 2 には、「大道報表情」。「本 2 には、「大型など」。「本 2 には、「大型など)、「大型など)、「大型など)、「大型など)、「大型など 2 には、「大型など)、「大型など)、「大型など)、「大型など 2 には、「大型など)、「大型など)、「大型など)、「大型など 2 には、「大型など 2 には、「大型など)、「大型など 2 には、「大型など 2 には、「大型など)、「大型など 2 には、「大型など 2 には、 2 には	平成26年1月~3月にかけて、未来環境推進課10件 県立保健所40件の計50件の立入接資を実施する。		各県立保健所による立入 調査(ばい煙発生・粉じん 発生施設を含め目標500施設)及び排出ガス等調査 (目標10施設)	引き続き、自動車排出ガス   測定局において、排出ガス   等大気汚染の常時監視を   実施し、抑制対策の推進を   図る。	発生抑制対策等を6回実施 予定	引き続き 関係機関への情報関係機関への情報を達めている。 の派遣要請、市町間調整 への助言を行っている。	H25と同様	H25と同様に実施
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	は内の測定局47局(県設置局11 を備す6周、佐世存477局、企業局 3周)をネットワーク化して、大気消 20常時監視を実施中、緊急時の 19台に7、長崎県大気汚実験急時 19台に7、長崎県大気汚実験急時 18年末を課制17キンダント注着 6条実施要綱17キンダント注着 6条実施要綱17キンダント注着 18世間に係るが広戸針11年で12年で 18世が応できる体制が取れるよ 12年が応できる体制が取れるよ 12年が応できる体制が取れるよ 12年が成でを含体制が取れるよ 12年の次急時対応について連絡 2016年の緊急時対応について連絡 2016年7月12日市町及び関係 2016年7月12日市町及び関係 2016年7月12日市町及び関係 2016年7月12日市町及び関係	平成26年1月~3月にかけて、未来 環境推進課10件、県立保健所40件 の計50件の立入検査を実施する。	県内3地点で酸性雨モニタリング調査を実施し、目標100%達成を目指す。	各県立保健所による立入調査(は7 機体を表し、物にん発生施設を含め目構 を発表・物じん発生施設を含め目構 のの施設)及び排出ガス等調査(目様 10体設) 9月末数 の 9月末数 の 18年数 数 18施設 第 7 施設 排ガス調査 7 施設	自動車排出ガス測定局において、排 出ガス等大気汚染の常時監視を実 施し、抑制対策の推進を図ってい る。	発生抑制対策等は6回を目標値として実施中。上半期の取組は4回	H26年度上半期、関係機関への情報で記載や指示については、3回実 報伝達や指示については、3回実 自衛隊への派遣要請、対策本部の 設置等は、実績なし。	治濁事故発生時の情報収集、漁場 機等の北大防止のための関係者へ の注意喚起実施。教済事業等を実 活する漁場沿通被害教済基金に対 する負担金拠出(81千円)。	国事業等を活用し、環境保全活動を継続していけるよう、市町と連携して 業落に働きかけ等を行い、環境保全 に取り組む集落数の維持に努める。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せ 記載)	県内の測定局47局(県設置 馬 周11、長崎市16、佐世保市 7 局、企業局23局)をネット 2 アーク化して、大気汚染の常 3 時監視を実施していたこと。 特監視を実施していたこと。 大り、県下の大気頭の状況 が把握でき、PM25Iこンいて 国の示す質定性指揮を超過 国の示す質定性指揮を超過 域起を行うことができた。 検起を行うことができた。	実績のとおり、目標以上の立 入検査を実施することができ たため。	1降雨ごとのpHの年平均値  1:、454~4.68で目標値である40以上を達成した。	立入調査及び排出ガス等調 者を実施した全ての施設で 排出基準に適合していたた め。	自動車排出ガス測定局にお いて、排出ガス等大気汚染 の常時監視を実施し、抑制 対策の推進を図った。	発生抑制対策等は6回の目標値に対して7回実施	H24年度は、対象となる事業 人名格・発生し、「要編」に基づ 人関係機関への情報伝達や 指示を行った。 自衛隊への派遣要請、対策 本部の設置等は、実績なし。	I	取組集落数 目標:112集落 実績:116集落
H24年度 評価	100	100	100	001	001	001	100	I	100
H23年度 評価	100	100	100	001	100	100	100	1	100
評価 指標	活動指標	活動指標	活動指標	成 標 指	活動指標	活動指標	活動指標	I	成果指標
H24年度の取組内容 (美績)	県内の測定局47局(県設置局 11、長崎市6局、佐世保市 同、企業局23局)を中央市 か化して、大気汚染の常時監 視を実施。 田が25について国の示す暫定 指針値を超過する可能性があるして注意機起を行った。 平成25年3月18日中即及び関 係機関との緊急時対応につい て連絡会議を実施。	平成26年1月~3月にかいすて、 未来環境推進環394、県立保 健所67件の計106件の立入検 値が67年の計106件の立入検 さを、第一種コロン類回収業者 を対象に実施した。	県内3調査地点(長崎市、佐世保市、議里市)での、モニタリング調査を実施した。	各県立保健所による立入調査 (平成24年度業績 には発発 生・粉じん発生施設をあり96 施設)及び排出ガス等調査(平 成24年度実績10施設)	自動車排出ガス測定局において、排出ガス等大気汚染の常 下、排出ガス等大気汚染の常 時監視を実施し、抑制対策の 推進を図った。	・海岸漂着物の回収処理を10 市間において実施し、488㎡ を回収した。 ・海岸漂着物の発生抑制対策 や国際協力事業を7回実施し た。	「要業」に基づく関係機関への 情報伝達や指示、自衛隊への 言。 124年度は、実網に基づく情報 他24年度は、実網に基づく情報 自衛隊への派達要請、対策本 部の設置等は、実績なし。	油濁事故発生時の情報収集、 漁場被害の拡大防止の1-8かの 関係者への注意喚起実施。 対事業等を実施する漁場部割 被害救済基金に対する負担金 地出(129千円)。	離島漁業再生支援交付金を活 以用した水質維持保全、海岸清 掃、海底清掃などの保全活動 への支援を実施
施策內容	大気環境の常時監視及び緊急時対応	/類の大気中への排出抑制 Eな回収・処理の推進	酸性南モニタリング調査の実施 と国等との情報交換	ばい煙発生施設への立入検査 の実施	自動車排出ガス抑制対策の推進	「長崎県海岸瀬着物対策推進計・ 同川元基人学 面、市野、民間日 体等上導核区の以方がら海岸渓 着物 (漂着ごみ)の回収処理や・ 発生抑制対策を実施	「漂流油等による長崎県沿岸汚染対策要網」に基づく関係機関への情報に達や指示、目衛隊への情報活達要請、市町間調整への所達要請、市町間調整への助言	油濁事故発生時の被害漁業者 の教済と漁場被害の拡大防止 のための支援	離島にとって重要な漁業資源で ある漁場の生産力再生を図る取 組への支援
中項目	る対策の推進①光化学才キシダント等に関す	進 保護対策の推 ②オゾン層の	9	酸性雨対策の推進			受漂着ごみ・漂流知	対策の推進	
大項目		1	1	広域的な環境汚め	*対策の推進	1			
基本目標			丑	球環境保全をめざ	こす社会の実	<b>斯</b>			

No.	20	छ	52	53
担当課		未未 選 場 場 は 神	廃棄物対策 課	農 產 屬 共 競
年報				
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
	平成25年12月の報告書 の完成及び調査結果の公 表を目指し「微小地子状 物質(PM2.5)に関する広域 分布特性調査[0本調査 (中成24年8月~平成25年 6月)を行い、試料の分析 (中成24年8月~平成25年 4月を行う。 なお、平成26年度以降の なお、平成26年度以降の なお、平成26年度 2月を行う。 から重要を 2月を行う。 から重要を 2月を行う。 なお、中枢26年 2月を行う。 なお、中枢26年 2月を行り、 2月を行う。 2月を行う 2月を 2月を行う 2月を行う 2月を行う 2月を行う 2月を 2月を行う 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を 2月を	・ながなき環境県 民会議4R 部金の構成団体等を中心 とした農業物源量やリサイ クルの自主的な活動の展 ・コミゼロ市町支援事業に おりて、関係市町が抱える の拡大や生ごみ源量にか ・び姿の有料化導入地域 の拡大や生ごみ源量化の 推進 ・1245年度以降の九州統一 ・1425年度が日本の北東市 ・1425年度が ・1425年度が ・	排出事業者研修会、多量 排出事業者研修会の実施	地区別協議会を開催し、引き続き適正処理の啓発を 行う。 行う。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	平成の4年7月29日~31日にかけて、 大韓民国釜山広崎市で第1回実務 大韓民国・平成25年10月23日 今28日にかけて、佐賀県で第2回実 務者会議を実施する。	のなが合き環境県民会議4R部会を 計解に、3月線記に13世口ながさき 1 1 1 2 1 2 1 2 1 2 2 2 2 2 3 2 3 2 3 3 3 3	排出事業者研修会、多量排出事業 者研修会について、4回実施するこ ととしており、H26年1月及び2月に 実施することとしている。	適正処理の啓発のため、地区別協議会を11月に開催予定。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	平成24年7月4日~6日にか 分標で、福岡県で第1回集務者 会議を実施・平成24年10月 17日~19日にかけて、大韓 民国釜山広域市で第2回実 務者会議を実施したため。	コニセロながさき実践計画 [ に基づき合権の国本がは	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	100	06	100	100
H23年度 評価	100	06	100	00
評価 指標	成果 抽 標	活動 動 計	活動指標	活動 標
H24年度の取組内容 (実績)	韓8県市道が共同で、浮遊立子状物質 (PM25)による大元発調査を実施した。 5.万発調査を実施した。	がながたる環境保険条準 4.4R部会構成メンバーの1コミゼ 4.4R部会連括がシースができまりを 2.4と口県民運動支援事業 113と口県民運動支援事業 (情報発信 113と口県民運動支援事業 (情報発信) 11.0月) 11.0月) 11.0月) 11.0月) 11.0月) 11.0月) 11.0月) 12.2をかん回収キャンベーンの実 13.4億十ポスター作成 西布など) 13.4億十ポスター作成 西布など 13.4億十ポスター作成 国布など 14.6円) 15.40日市町支援事業 (情報提供、中学の展開催(年1回) 17.5度有料化協定総結(1事業 17.5度有料化協定総結(1事業 17.5度有料化協定総結(1事業 17.5度有料化協定総結(1事業 17.5度有料化協定総結(1事業 17.6額) 18.4億額) 18.4億額) 18.4億額) 18.4億額) 18.4億額) 18.5000日指導等を実施 18.5000日指導等を実施	開内(建設系、製造系、医療 系)排出事業者研修会(3回)、 その他排出事業者研修会(2 回)、多量排出事業者研修会 (1回)の実施(475人参加)	各地域協議会を対象とし、11月 に県内イ箇所で地区別協議会 を開催し、適正処理の啓発活 動を行った。 (平成24年度実績) 回収量 4,970t 回収率 101%
施策内容	カ州北部3 県、山口県及び韓国 日南岸・旧3 道の環境行政・研究 精 南岸・旧3 道の環境行政・研究 特 所の関係者等による「日韓海峡 沿岸環境技術交流協議会」会議 の開催と共同事業の実施	藤葉物ためた紅巾制・10 サイクル 保護のためりながを実践時間 会議は「おいて、「ゴミセロながを を実践計画」の進捗管理と、ゴニ セロ県 民連助支援事業、ゴミゼ ロ市町支援事業等の実施 同市町支援事業等の実施	県内で排出される産業廃棄物をり 地域資源として活用する循環型 引 環境産業の育成及び産業廃棄 も 物の排出抑制・リサイクルの仮 進	園芸用プラスチックの適正処理 推進と、回収処理体制の整備、 回収率の向上を図る
中項目	⑤環境保全のための国際的協力の推進	①廃薬物の発生・排出抑制		
大項目	広域的な環境汚染対策の推進	廃棄物対策の推進		
基本目標	地球環境保全をめざす社会の実現	環境への負荷の削減と循環型社会づ	^2	

o Š	48	55	26
担当課	米 職 場 場 計	廃棄物 対策	廃棄物対策課
年報	<b>年</b> 桑	年起	E
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	<b>斯</b>	現状維持	その他(国 交付金)
H26年度の取組内容 (予定)	・ながたき環境県 R会議4R 特金の構成の本等を中心 とした療物域量やリザイ グルの自主的な活動の展 ・ゴミゼロ市町支援事業に おいて、関係市町が抱える あ具体的な提言 ・レジ袋の有料化導入地域 の拡大や生こみ減量化の 推進 ・Hの有度以降の九州統一 ・Hの有度以降の九州統一 ・Hの有度以降の九州統一 ・ 大学の格理屋さん」登録 店舗を拡大。	排出事業者研修会、多量 排出事業者研修会の実施	循環型社会形成推進地域 計画に基づく事業を実施予 定
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	「ながなき環境県民会議 ・ながなき環境県民会議 明催に、引き続き「ゴミゼロながさき」 の実現に向け取組を実施。 の実現に向け取組を実施。 ・なさかん回収キャンペーン等引き 続き実施。 ・ながなきの活動支援による生ごみ ・ながなきの活動支援による生ごみ ・ながなきの活動支援による生ごみ ・ながなきの活動支援による生ごみ がなきの活動支援による生ごみ ・ながなきの活動を規模による生ごみ でかんできの活動を規模による生ごみ でンボルマーク・標語の募集。 にみせロル州キャンペーンの実施 (シンボルマーク・標語の募集。 でかせロル州キャンペーンの実施 でシャルスークの実施 の素をでは、記載の の事業所太子について関係団体等と はの表すがまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	排出事業者研修会、多量排出事業 者研修会について、4回実施するこ ととしており、H26年1月及び2月に 実施することとしている。	循環型社会形成推進地域計画に基 づく事業を実施中 地域計画 計上事業数 14 実施事業数 5
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	コミゼロなが谷幸実践計画 に基づ各名構成団体が自主 的に取り組みが表別については、一定の成果があった では、一定の成果があった が、機密な量リケインルー手 の検討やレン袋有割化な ど、今後、さらに推進すべき 課題もあるため。	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施されたため。 地域計画 計上事業数 10 実施事業数 10
H24年度 評価	06	100	100
H23年度 評価	06	100	100
背 指標	话 標 描	活動指標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	○ながなき環境県 圧金漬 ・4R部会構成メンバーの「コミゼ ロながなき実験計画」 ・4R部会 重点活動の進捗状況管 ・4R部会 重点活動の進捗状況管 ・1 は ・	県内(建設系、製造系、医療系)排出事業者研修会(3回)、その他排出事業者研修会(2回)、多量排出事業者研修会(1回)、多量排出事業者研修会(1回)の実施(475人参加)	市町等が循環型社会形成の推進に必要な廃棄物の理能設の 進に必要な廃棄物の理能設の 整備事業等を実施するために、 策定した循環型社会形成推進、 地域計画に基づく事業等を実 施させる。
施策内容	藤葉物の発生抑制・リサイカル 促進のためで大づき環境開発 金藤川において、「ゴキロなが後 き実践計画」の進捗管理と、ゴミ セロ県 民運助支援事業、コミゼ ロ市町支援事業等の実施	県内で排出される産業廃棄物を 地域資源として活用する循環型 環境産業の育成及び産業廃棄 物の排出抑制・リサイクルの促 進	「長崎県ごみ処理広域化計画」 に基づく、サーマルリサイクル、 マテリアルリサイクルの推進
中項目	②廃棄物の再資源化の推進		
大項目	廃棄物対策の推進		
基本目標	環境への負荷の削減と循環型社会づく	3	

Š.	57	28	29	09	19	62	63	49	65	99
超宗群	未来環境推進課	畜産課	畜産課	建設企画課	廃棄物 課 課	廃棄物対策 課	廃棄物対策 課	廃棄物対策 課	廃棄物対策 課	廃棄物対策 課
年 韓		10-					114-	1112	115	144
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	拡充	みのお	その他(国交付金)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	認定リサイクル製品の新 ・規認定並びに普及促進と ・品質管理の徹底を引き続 き行っていく。	推肥ヘルパー組織を2組 機能文予で、 推肥コンケールの内容を強 化し、耕種農家の需要に あった堆肥づくりを推進す る。	第1コフィード利用組織を2組 施設立予定 小様線を記憶連事業者の 飼料化を推進する取り組 みの強化。	長崎県建設工事共通仕様 吉において、建設副産物対 策を明示し、受注者に対し 適正な処理及び再生資源 の活用を義務付ける。		引き続き頻繁な立入検査 を実施し、不適正処理の未 然防止を図る。	引き続き計画的にパトロールを実施し、不法投棄の防止を図る。	排出事業者研修会、多量 排出事業者研修会の実施	引き続き年1回の検査を実施し、適正な維持管理が行施し、適正な維持管理が行われているか確認する。	排出事業者研修会、多量 排出事業者研修会の実施
	リサイクル設定制度の見直しに伴 、関係団体等への講習会を実施し 。。(2回) 制度見直しにより、一層の品質管 里の徹底に繋がった。(認定製品の 負用中止2件)	能肥へルバー組織を1組織設立し、 能肥の広域流通を図っている。 月に推肥コンクールを開催予定。	エコブイード利用組織を「組織設立。 8月2日に指導者養成研修を実施。 11月にマッチング会開催予定。	九州地方における建設リサイクル推 進計画2010に定める目標値の達成 を目指す。 再資源化率の目標値 ・アスツ ・コン別ート 98%以上 ・コン別ート 98%以上 ・連設発生木材 80%以上	循環型社会形成推進地域計画に基 少〈事業を実施中 地域計画 計上事業数 14 実施事業数 5	年間計画:3,400回 4月~8月までの実績:2,100回	年間計画:1, 900回 4月~8月までの実績:1, 047回	排出事業者研修会、多量排出事業 者研修会について、4回実施するこ ととしており、H26年1月及び2月に 実施する予定。	管理型最終処分場3ヶ所、安定型最 月 終処分場10ヶ所で、浸蒸水、地下 がたついて調査を実施。保有水、下 流域河川調査を安定型処分場1ヶ 所支施。	排出事業者研修会、多量排出事業 指 者研修会について、4回実施するこ ととしており、H26年1月及び2月に 実施する予定。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	計画どおり実施できた。	①家畜排セつ物法に基づく 行政指導実施件数[目標の 件】 家畜排セつ物法に基づく行 政指導はなかった。 ご姓肥の島原半島外への持 う出比量の増加[目標1400t/ 年】 1.500t/年増加する体制を構 築した。	○エコンイードの利用量 【11.368V/年】 11.368V/年利用する体制を 構築した。	計画どおり実施できた	計画どおり実施されたため。 地域計画 計上事業数 10 実施事業数 10	計画通り実施できたため。	計画通り実施できたため。	計画どおり実施できたため。	計画通り実施できたため。	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	06	100	100	100	100	100	100	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
評価 指標	活動指標	成果精標	成果指標	活動指標	活動指標	活動標	活動 標	海 動 排	活動 標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	・普及促進と品質管理の徹底   を目的に、リサイクル認定制度 の見直しを決定(リサイクル製 品等認定委員会) ・県田中等により認定リサイクル 製品をPR ・類24件を認定	推記コンケール及び推問の耕 高	エコフィード #終者のマッチン アクミ # 記憶の 周知と 番 産 無 家、食 の 関連 東省 の 交流 を 図り、2 件 が取引を開始し た。	長崎県建設工事共通仕様書において、建設副権物対策を明われて、建設副権物対策を明みにない理及で、要注者に対し適正な処理及び再生資源の活用を義務付けている。	式の推 も設の - めに だ推進 で推進 でを実	産業廃棄物処理業者への立入 検査回数:5,239回	不法投棄パトロール回数: 2, 421件	、県内(建設系、製造系、医療 系)排出事業者研修会(3回)、 その他排出事業者研修会(2 回)、多量排出事業者研修会(1回)の実施(475人参加)	管理型最終処分場3ヶ所、安 定型最終処分場10ヶ所で、浸透水、地下水について調査を 実施	県内(建設系、製造系、医療 系)排出事業者研修会(3回)、その他排出事業者研修会(2回) 回)、多量排出事業者研修会(2回)、多量排出事業者研修会(1回)の実施(475人参加)
施策内容	リサイクル製品設定制度の適用・ 「こよい、認定リサイクル製品等を によい、認定リサイクル製品等を 現が優先利用するととも「、. 県 民・事業者への普及促進を図り「日 ます。	(O !!S	食品 殊さ等飼料(エコフィード)の利活用推進	「長崎県建設リサイカル公共工事アクションプログラム」「こ基づ、3R (Reduce (減らす)・Reuseは再使用する)・Reuseは再使用する)・Reuseは再使用する)の徹底、リサイケル村・製品の積極活用	「長崎県几半処理広域化計画」 に基づく、、10名の理施設の集約 化の推進	産業廃棄物処理業者等への立 入検査の実施	定期的な巡回パトロールを実施	排出事業者に対するマニフェス ト制度の周知や産業廃棄物の 適正処理に関する研修会の開催	産業廃棄物最終処分場におけ る水質検査等の実施	排出事業者・リサイクル事業者 等の情報交換の促進
中項目		②廃棄物の再資活	派化の推進			@	廃棄物の資	適正処理の推済	ń	
大項目				廃棄物故	策の推進					
基本目標			II.	<b>爆境への負荷の削減</b>	ど循環型社会づ	^ <sub>2</sub>				

ģ	29	89	69	70	71	72	73
報票財	廃棄物対策 課	農産園芸課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	建築課
再掲		<b>声</b> 蛇	<b>再</b> 整				
H26年度予算への反映 第への反映 状況 (予定)	拡	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
		地区別協議会を開催し、引き続き適正処理の啓発を 行う。	各県立保健所による立入 調査(記代・保養生・粉じん 条生施設を含め目標500施 設)及び排出ガス等調査 (目標10施設)	引き続き、県内の選定局47 局(黒設電局11、最崎市6 間を仕実所7周、企業局 23 局。をヤットフーク化し、 大気汚染の常時監視を実 施する	引き続き、諫早市内4箇所 で年6回、アクリロニトリル 等15項目の有害大気汚染 物質を測定する	「長崎県アスペスト対策連 絡会議」を開催し、情報の 井有、実態把握に努め、施 設における除去対策の取 り組みを推進する。	年間目標25件
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	新たに発見したPCB廃棄物の適正 保管と処理の推進を行い、啓発等を実施中である。	適正処理の啓条のため、地区別協議会を11月に開催予定。	県立保健所による立入調査(ば、 3発生・粉でん発生施設を含め目構 30施裁)及び排出力ス等調査(目様 )施設) 月末現在 月末現在 高施設数 218施設 ゴカス調査 7施設	:内の測定局47 局 (県設置局11、 崎市6 局、佐世保市7 局、企業局 1高)をネットワーク化し、大気汚染 7時監視を実施する	藤早市内4箇所で年6回、アクリロニ トリル等15項目の有害大気汚染物質を測定する。 計画通り測定実地中	H25年9月4日に「長崎県アスペスト対策連絡会議」を開催し、情報の共有、実態把握に努め、施設における除去対策の取り組みを推進した。	年間目標25件に対し1件の実施
	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施できたため。	立入調客及び排出ガス等調 基を実施した全ての施設で 排出基準に適合していたた め。	県内の測定局47 局 (県設置 調 局11、基崎市局。佐 佐井保市長 7 局、企業局23 局) をネット 22 7 ーク化し、大気汚染の常時 監視を実施	計画どおり実施できたため。	H24年9月7日に「長崎県アスペスト対策連絡会議」を開催し、情報の共有、実態把框に、情報の共有、実態把框に努め、施設における除去対策の取り組みを推進したため。	年間目標25件に対し3件実 施であったため(12%)
H24年度 評価	100	100	100	100	100	100	20
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	20
背衛	成果指標	活 動 計	成果指 標	活動指標	活動指標	活動指標	成果指標
H24年度の取組内容 (実績)		各地域協議会を対象とし、11月 に異わる箇所で地区別協議会 を開催し、適正処理の啓発活 動を行った。 で東及4年度実績〉 回収量 4,970t	よる立入調査 [ばい煙発 設を含め996 ス等調査(平 施設)		11、アク)有害	H24年9月7日に「長崎県アスペスト対策連絡会議。た開催し、情報の共有、実態把握に努め、施設における除去対策の、敬い施設における格法対策の取り組みを推進した。	除去等件数:3件
施策内容		園芸用プラスチックの適正処理 推進と、回収処理体制の整備、 回収率の向上を図る	(ばい煙発生施設への立入検査の実施		有害大気汚染物質の調査の実施	「長崎県アスペスト対策連絡会議」において、情報の共有、実態に握に努め、施設における除去対策の表がない。 古対策の取り組みの推進	飛散性アスペストが使用された 民間建築物へのアスペスト除去 等対策工事の推進
中項目	_	3適正処理の推進		①大気汚染は	5 当な紙の業		
大項目	廃業物	2対策の推進		大気環	境の保全		
基本目標		ļ	環境への負荷の削減	と循環型社会づ	^2		

Š	74	75	76	77	78	79	80	18	85
料票和	未来環境推進課	未来環境推進課	新幹線·総合 交通対策課	新幹線·総合 交通対策課	都市計画課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課
再揭	再揭	再揭			再揭				
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	<b></b> 平	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	引き続き ながさき環境県 日全議と連携しながらノー マイカーデー及び[県下ー 斉ノーマイカー&エコドライ ブウィーク」の周知拡大に 努める。	J\$	マイカー自粛と公共交通機関の利用推進	運輸事業振興助成補助金によりトラック協会へ低公害車購入助成を行う予定。	車両基地移転工事が完了 し、長崎駅部の工事に着手 する。	排水基準遵守率100%を目 標として、立入調査及び工 場等への指導を実施する。	引き続き、公共用水域にお いて水質測定を行い水質 汚濁状況の常時監視す る。	窒素及びリンについて、排 水体査を実施し、排水基準 遵守を確認する。	23 地点で地下水定期モニ カンク調度を行い、環境 ・基準超過井戸については、 飲用不適を指導するととも に、汚染源が明確な場合。 事業所への指導を行う。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	5月第2水曜日をノーマイカーデー こだめるとともに、119月1~17日の 週間を、「県下一斉ノーマイカー&エ パライプウィーク」として実施する。	<b>つ</b> な	4月25日~5月6日を対策期間としてテレビ・ラジオ等を利用してマイカー自粛やパーク・アンド・ライドの活用を呼びかけた。	低公害車購入助成をおこなった。	H25からは浦上駅の仮駅舎建設に 着手する。	平成25年度上半期の排水基準遵守 率は100%であり、引き続き立入調査 及び工場等への指導を実施する。	健康項目については、171 地点、生活環境国目については、環境基準点135 地点で、公共用水域の水質測定を実施している。計画通り測定実地中計画通り測定実地中	窒素及びルンについて、排水検査を実施し、排水基準遵守を確認する。	23 地点で地下水定期モニタリング 調査を行い、環境基準超過井戸に ついては、保健所から飲用不適を所 有者へ通知した。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 配載)	12月12~18日の1週間を「県 4   下ーオノーマイカー&エコド   ライブウィーク」として実施  し、1週間で延べ37,985人が   フケタイカーギにはエコドライ   フを実践した。結果、約984の   二酸化炭素排出削減につながった。	計画通り実施することができたため。	計画どおり実施できたため。	計画通り実施できたため。	現在、車両基地移転工事、 用地買収について鋭意進捗 F を図っており、高架本体工事 F 着工の達成に向け、着実に 前進している。	一部の工場等による排水処理施設の不適正な推荐管理のため、排水基準遵守率は 高い水、排水基準遵守率は 高い水準ではあるが、100% には至らなかった。	計画どおり実施できたため。	窒素及びリンについて、排水 検査を実施し、排水基準遵守を確認した。	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	100	100	100	100	100	06	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	100	06	100	100	100
評価 指標	活動指標	成果指標	活動指標	活動指標	活動指標	成果指標	活動指標	活動指標	活動指標
H24年度の取組内容 (美術)	月第2水曜 日をノーマイカー 「二定めるとともに、12月12 18日の1週間を「県下一斉 マイカー & エコドライブ マイカー目 エコドライブの実施を呼び (17た。)	二	・4月26日~5月6日を対策期間としてテレビ・ラン子等を利用してマイカー自粛やパーク・アンド・ライドのアイカー・アンド・ライドの活用を呼びかけた。	運輸事業振興助成補助金によ リトラック協会へ低公害車購入 助成を行った。	車両基地移転工事、用地交渉 などを進めている。	工場等へ立入検査を実施し、 排水を調査したころ、排水基 様の選与率は20%がだった。 なお、排水基準に違反した工 場等に対しては指導を実施し、 指導を行った全施設で排水基 準達成を確認している。	健康項目については、171 地高、生活環境項目については、 環境基準点135 地点で、公共 開水域の水質測定を行った。	閉鎖性水域(次村湾、有明海、 伊万里海等)の流域に近地す る事業場の、窒素・リンの排水 検査を実施し、排水基準の遺 ・ 守を指導した。	22 地点で地下水定期モニタリ ング調査を行い、環境基準担 過井戸については、保健所か ら飲用不適を所有者へ通知し た。
施策内容	ながさき環境県民会議と連携した、マイカー利用の自粛、公共文画機関の利用促進交通機関の利用促進	エエドライフの普及のため、県 T T		4	交通の分散化、ボトレネックの 解消等による交通の流れの円 消化	工場等への立入検査の実施	公共用水域の水質汚濁状況の 常時監視の実施	閉鎖性が強い大村湾、佐世保 湾、長崎湾、伊万里湾、有間海 「こついては、全窒素、全線「係 る環境基準を遵守するため、エ 場・事業場に対する汚濁負荷低「 減等の富栄養化対策の実施	地下水の定期モニタリング調査 の実施と指導
中項目		②自弾車様出が不切	制対策の推進			◎海域・河川・湖沼等の水質保全対策の推進			
大項目		大気環境の	<b></b>			水環境の保全			
基本目標			環境 ( 6	の負荷の割	門滅と循環型社会	はしヘン			

ė.	83	48	82	98
點	■ <del>K</del>	·   田 	環境政策課	諫 早 鸿 干 拓
型	漁政課	冷漏 課、漁借理 場課 流港漁	遊戲	文章 中 学
予映再掲	##>			Htr.
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	海 華	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	H25と同様に実施	- 假囚则 - 一、枚戶	第2期行動計画を継続 と、関係する国、県、市が それぞわの役割のもとに 施する事業について進捗 管理を行うととともに、原間 団体等との協働事業によ リ、より効果的な対策を実 り、より効果的な対策を実 の精査・見直しを行うこと で、水質浄化効果を高め る。夏には、昨年度実施し、 た研究事業を検察 大、直接外化対策(パ質の 技・のな数)事業を構築 方。ことに、 対のでが、 対のに、 対のに、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が	・バレイショ品質への影響 ないする最多の懸念社技 のため、影響が少ない道種 を情報提供、実施面積の ショ収穫同時は積機なども ショ収穫同時は積機なども といく。 ウィネギ後のか、ケークロッ プについても推進を図って 行く。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	有害赤潮による養殖魚のへい死を 防ぐため、現場調査、主要原因プラ ンケトンの動態予測及び有効な防除 方法の検討を実施。	・磯焼け対策「必要な移植母藻供 ・総基地として、着定基質の設置によ り、3地区4箇所32haの藻場礁を造 成中。 ・水産業・漁村の多面的機能の効果 的・効率的な発揮に資する、県内44 組織に対し、国交付金事業を活用し 支援を実施する。	①生活排水対策「不述」集排整備・全性性管と関連が対策した後面を 通・分化管設置補助支援) 変施) ②面積負荷削減対策(施肥・農薬削 ③面積有削減対策(施肥・農薬削 ④面類を地及び流入河川・水路の浄 化対策(河川・整価 配環境保全・創造のための住民活 動(環境保全・創造のための住民活 動(環境イベント・清掃活動支援)	カバークロップの導入拡大に向け、 う力能を開発の大き型。 自時は指機をひび車を開発の選手を など、調査研究の成果を情報定 に実施の構造が不を図る。 新たし、タマギ後のカバークロッ 新たし、ママギ後のカバークロッ 「こついて検討するため展示画を記 して検討を行った。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 配載)	I	I	依然、流域からの生活排水 中、面源由来の施肥・農薬使 可等とする海負荷、調整池 の巻上付や内部生産に起因 が表方海負荷な上積数の要 取が存在する。 大が質保全対策にかかる指標 (64.8.81)、環境活動指標の 財保・習金が最高が、生活 排水処理率が自標達成 が成果と引き、 が関係を がでの1500、 が高級で 連続に200、1500、 の施肥削減取組に概れ良好 (354/240)の7と的評価を 5096とした。	・「ばれいしょ農家では、カ ・バークロックの作けが秋、 ・ ビオル・しょの品質への影響 (そうか病など)が懸念される ことが、はれいしょの収穫と カバークロップのは種と が競合すること等により普及 が強まなかった。 ・ 作件面積150.71ha/目標面 利190%とした。
H24年度 評価	I	I	90	80
H23年度 評価	I	1 001	90	80
	I	ı	禄禄	成果指標
H24年度の取組内容 (実績)	14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 1	機体1対策に必要な移 核供給益地として、衛定基 機能により、3地区6階所 の が の が が が が が が が が が が が が が	(4) 任王排水対策(下水道、集排 整備・浄化信設置補助支援。 ②工場、章楽場排水対策(立入 核査実施) 核金実施 統立原負制減対策(施肥、農 薬削減、機地対策) の調整地及び流入河川・水路 の調整地及び流入河川・水路 の環境保全・創造のための住 民活動、環境イベント・消掃活 動支援)	・調整池の水質改善のため、富 業権化の大き数日である流 集機化の大き数日である流 等の流入量の削減を目指して ・そのため、カバークロップ等の ・そのため、カバークロップ等の 種子購入費用の補助やパンプ レットによる啓発によりカバーク ロップ等の作付を推進した。
施策内容	養被害の防止・軽 朝被害防除技術	海場環境を浄化するともに、 海域環境を浄化するとともに、 熱が類の産卵、幼稚仔魚の成 育の場とにても重要な薄場を回 優・抗大するため、潜产基質の 設置等により が悪化した海域で角底清視 が悪化した海域で角底清視 が悪化した海域で角度清視 は乗りん等を行うことにより漁場 環境の回復を図る。 深場へくい取り組むグループ 内 の育成・織株中の相がグループ が高化しまが 環境の目ので海 環境の目ので海 環境の目ので海 環境のは 大学を行うことにより漁場 場等の株 様を表す。また国の「環境・生態 場合の株 様子の様子・電車等の環境・生態 場等の株特・管理等の環境・生態 場等の株特・管理等の環境・生態 場等の株特・管理等の環境・生態 場等の株会に動を行る組織に対 し支援を実施。	「策な期藤早海干祐調整池水辺 環境の保全と創造のための行 動計画川に基づく、調整池の水 質保全と自然豊かな水辺づくり の推進	藤早湾周辺地域において、肥料 の使用量の削減等の環境保全 型農業を推進
中項目			川・湖沼等の水質保全対策の推進	
大項目			水環境の保全	
基本目標		環報への:	負荷の削減と循環型社会づくり	

No.	87	88	68	06	91	92	93	94	95
担当課	環境政策課	環境政策課	農業経営課	森林整備室	水環境対策 課・漁港漁場 課・漁港漁場	漁港漁場課	水環境対策 課	環境政策課	環境政策課
年起								<b>申</b> 超	年超
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	海環境保全、近代化行動 計画の最終年度であり、平 成26年度中に次期行動計 両の策定を予定している。 1年 中成26年度があれている。 1年 中成26年度から5ヵ年は、 新たに策定した次期計画 に基づき、大村湾の環境改善 音等に継続して取り組む。	地下水の硝酸性窒素の汚 東智園には、窒素負荷削 減計画に基づき長期的な 視点から継続して取り組ん 現でいく。	研修会やパンプレットの配 市によって農家の意識啓 発を図るとともに、窒素負 市低減に向けた試験研究3現状維持 課題(ばれいしよ、レタス) に取組んでいく。	未整備森林整備として 1,275haの伐捨間伐を予定 している。	、浄化槽、農漁業集落排水 施設・下水道等の整備計 画がある市町に対して支援 を行う。	I	中央監視装置の設計委託 を行う。	排水基準遵守率100%を目 標として、立入調査及び工 場等への指導を実施する。	窒素及びリンについて、排 水検査を実施し、排水基準 遵守を確認する。
	大村湾流域における公共下水道や 争化槽等の整備など行動計画に基 な化施策を推進している。 貧酸素水塊の実態解明等のため、 貧酸素水塊の実態解明等のため、 資酸素水塊の実施解明等のため、 対解析した結果を、一般に情報提 ルた。(7月から10月の間に10回実 も)	第2期島原半島釜素負荷低減計配 こ基づ核機能提開面をひん追跡井 三調査を実施している。 年2回の幹事会において窒素負債 を設計画の連捗状況を検証しなが 5取組を進めていく。第1回幹事会 5取組を進めていく。第1回幹事会	研修会やパンフレットの配布によって農業の意識啓発を図るととれて、 窒素負荷低減に向けた試験研究2 35歳付けいしま、レタス)に取組んでいる。	未整備森林整備として1,275haの伐 捨間伐を予定している。	浄化槽、農漁業集落排水施設・下水道等の整備計画がある市町に対して支援を行う。	I	下水道ストックマネジメント策定を行う。	平成25年度上半期の排水基準遵守 率は100%であり、引き続き立入調査 及び工場等への指導を実施する。	窒素及びリンについて、排水検査を実施し、排水基準遵守を確認する。
$\overline{}$	H144年度末の汚水処理人口・ 普及率は200%であり、行動 計画目標の912%(H26年度 : 末)に到達していない。 ・H24年度のCODI往全第平均 で22mg/Lとなり、行動計画 が 目標の2.2mg/L(H26年度末) を達成した。	島原半島釜素負荷低源計画 に基づき、農業対策、畜産対 策、生活排水等対策の総続 的な取組により地下水の硝 酸性窒素等濃度が悪化しな い状況で推移している。	1	国の補助制度が変わり、伐 捨間伐への補助が廃止され たため。	整備計画があった市町に対し計画とおり支援することができたため。できたため。	I	計画どおり実施することができた。 きた。	一部の工場等による排水処理施設の不適正な維持管理のため、排水基準遵守率は高い水を、排水基準遵守率は高い水をではあるが、100%には至らなかった。	窒素及びリンについて、排水 検査を実施し、排水基準遵 守を確認した。
H24年度 評価	06	100	I	100	100	I	100	06	100
H23年度 評価	06	100	I	06	001	I	100	06	100
評価指標	成果 排	成果指標	ı	成果指 標	话 专 者	1	成果 標	成 準 精	活動 動指
	、大村湾流域において公共下 水道や浄化損等の整備を推進 し、大村湾流域の汚水処理人 百を高めることにより、水質改 著に努めた。 大村湾内における貧酸素水 塊の実態解明等のため、貧酸 煮水塊現測を行い、長崎大学 秘解析した結果を、一般に情 報提供した。	環境基準を超過した地点は17 地点中8地点で、計画の短期及 び中期目標を達成した。		伐捨間伐の実績1,364na	·汚水処理施設の整備を進め 十一所「対」、浄化槽288013 十一、農業海井水23.766千 円の助成を行った。 ・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一 ・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一 ・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一 ・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一・一一	漁業集落排水施設の整備促進 のため、市町が行う下水道緊 急整備基本計画の策定に対す る支援を実施	長寿命化計画策定のため、基 本計画策定、現地調査、詳細 調査を行った。	工場等へ立入検査を実施し、 排水を調査したころ、排水基 場の遵守率は1887がだった。 なお、排水基準に違反した工 場等に対しては指導を実施し、 指導を行った全施設で排水基 指導を行った全施設で排水基 準違成を確認している。	閉鎖性水域(大村湾、有明海、 伊力里海等)の流域に立地す る事業場の、窒素・リンの排水 検査を実施し、排水基準の遵 守を指導した。
		窒素負荷低減対策会議におい て窒素負荷低減計画の策定と 進捗の管理	土壌中の硝酸態窒素の残存量 の把握や有機物等を有効活用 した施肥技術等の確立	手入れが遅れ荒廃している森林 の整備	浄化槽、農漁業集落排水施設・下水道等の整備を行う市町に対する支援	漁業集落排水施設の整備促進 を図るため、市町が行う下水道 緊急整備基本計画の策定に対 し助成。	大村湾南部流域下水道の供用 開始区域の拡大にあわせて、終 3 末処理場の施設整備及び維持 管理の実施	工場等の立入検査を実施	閉鎖性が強い大村湾、佐世保 湾、長崎湾、伊丁田湾、有明新 「こついては、全窒素、全幌「伝 る環境基準を遵守するため、工 場・事業場に対して汚濁負荷庇 減等の富栄養化対策を図る。
中項目		・湖沼等の水質の	保全対策の推進	Į	②生活排水对金			◎工場・車業専等	
大項目					水環境の保全				
基本目標				環境への	負荷の削減と循環型社会づく	\2			

Š	96	97	86	66	100	101	102	103	104	105	106
料票租	水環境対策 課	水環境対策 課	森林整備室	環境政策課	農業経営課	農業経営課	環境政策課	環境政策諜	水環境対策 課	環境政策課	環境政策課
再揭						再認	年超				
H26年度予算への反映 様況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	県内市町の状況について 情報収集し、ホームページ を活用して情報提供を行う。	ホームページを活用して情報提供・啓発を行う。	公益的に重要な森林を 550ha 予定している。	・有害物質を使用している工場等の排水基準遵守率100%を目標として、立入調査を放び工場等への指導を変換する。	GAP推進協議会の開催(2 回)、指導者養成研修、生 庭団体等への導入支援研修会会の開催等によってGA Pを推進していく。	研修会やパンフレッケの配 市によった概要なの意識な 発を図るとともに、窒素負 荷低減に向けた試験中的 課題(ばれいしょ、レタス) に取船かでいる。	地下水の硝酸性窒素の汚 東で問題には、総素負布削 減計画に基づき長期的な 視点から継続して取り組ん でいく。	地盤次下の状況を確認し、 地下水採取の規制に関す 「る条例の制定状況等の関 を取りを行う。	国に対して事業促進の要 望を行う。	県内市町〜騒音に係る環 境基準の類型指定、勝音・ 振動・悪臭揚制地域の新 規指定及び具直しの意向 を調査及び施行状況の調 査。	計画に基づき、自動車騒音 の測定、周辺地域における 超過状況の評価を行う。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	県内市町の状況について情報収集 し、ホームページを活用して情報提供を行った。	ホームページを活用して情報提供・ 啓発を行う。	「市町が公益的に重要と位置付ける 森林」、「ながさき水源の森」、「保安 林」等の荒廃した550haを整備する。	平成25年度上半期の排水基準遵守 率は100%であり、引き続き立入調査 及び工場等への指導を実施する。	GAP推進協議会の開催(8月、12 月)、指導者養成研修(9月)、生産 団体等への導入支援研修会の開催 等によってGAPを推進する。	指修会やパンコレットの配布によっ 、農業の意識容券を図るともに、	年2回の幹事会において窒素負荷 8歳計画の進捗状況を検証しなが 取組を進めていく。 第1回幹事会の開催(5月10日)	1851以降の調査により、地盤沈下が、地 確認された議事市へ現在の地盤が、 市の状況を確認し、県内市町へ地下る 水採取の規制に関する条例の制定 状況等を聞き取り、地盤沈下の状況 として9月に環境省へ報告した。	国に対して事業促進の要望を行った。	県内市町へ騒音に係る環境基準の 類型指に、臨音・強動・悪臭規制地 埋め新揚注定及び見直しの意向を 調査し、法及び条例に基づく届出状 沢や環境騒音調査等の調査結果を 収集し施行状況として、7月に環境 省へ報告した。	第2次一括法による市への権限委譲に伴い、評価区間の一部が市の業務となったため、新たな計画を策定している。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施できたため。	目標以上の実績を上げたた め	一部の工場等による排水処 理施設の不適正な維持管理 のため、排水基準遵守率は 高い水準ではあるが、100% には至らなかった。	計画どおり実施できたため	ı	島原半島窒素負荷低減計画 に基力等、農業対策、商産対 策、生活排水等対策の機続 砂な取組により地下水の消 酸性窒素等濃度が悪化が い状況で推移している。	県内の地盤沈下の状況を把握できたため。	計画どおり実施できたため。	県内市町へ調査を実施し、 地域指定の意向や施行状況 を把握することができたた め。	計画どおり実施できたため。
H24年度 評価	100	100	100	06	100	I	100	100	100	100	00 1
H23年度 評価	100	100	80	001	100	ı	100	100	100	100	100
計構	活動指標	活動指標	成果指標	成果指 標	成果指 標	I	成果指 標	活動指標	活動指標	活動指標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	県内市町の状況 収集し、ホーム で情報提供を行	ホームページを活用して情報 提供・啓発を行った。	伐捨間伐の実績609ha	L壌汚染の原因となる 質を使用している工場 入検査を実施し、排水 こところ、排水基準の) 8.2%だった。	GAP推進協議会の開催(8月、 12月)、指導者養成研修(12 月)、生産団体等への導入支 援研修会の開催(24回)等に よってGAPを推進した。	研修会(5回)やパンフレットの 配析(約20,000部)によって震 家の意識啓発を図るともに、 窒素負荷に減に向けた試験研 穷2課題(ばれいしょ、レタス)に 取組がだ。	·環境基準を超過した地点は17 地点中8地点で、計画の短期及 び中期目標を達成した。		国に対して事業促進の要望を 行った。	県内市町〜騒音に係る3 様の類型指、騒音・振 臭規制地域の新揚指定 直しの意向を調査し、 例に基づく届出状況や現 簡に等の調査結果を1 結行状況として、9月に到	測定計画に基づき3区間において、自動車騒音の測定を行い、「間辺地域における超過状況を育い、評価した。
施策内容	健全な水循環系を構築するた   りめ、関連機関との調整、雨水や リ 再生水の利用促進に向けた情 す 報提供の実施	水資源の有効利用のため調査、情報収集、啓発の実施	公益的森林及び「ながさき水源 の森」のうち、手入れが遅れ荒 廃している人工林の整備の実施	土壌の汚染の状況の把握、土 壌の汚染による人の健康被害 の防止に関する措置等の土壌 汚染対策の実施	環境保全、農産物の安全性の「向上及び農業従事者等の健康」 維持・増進を図るため、「長崎県 がGAP」の推進	土壌中の硝酸態窒素の残存量 の把握や有機物等を有効活用 した施肥技術等の確立		地盤沈下の状況を的確に把握 できる親測方法及び体制の検 討、整備	代替水源(用水)確保の推進	騒音に係る環境基準の類型指 た、履音・振動・震鬼類制地域 の指定・見直しの実施、及び市 町が実施する騒音・振動、悪臭 の環境監視及び規制事務の支 援、調整	自動車騒音の環境基準達成状 況の把握
中項目		の循環和				環境の保全		②お雛騒戦のほ			悪臭対策の推進
大項目	¥I	環境の保	<b>∜</b> H			霊器は・蘇王	頌境の保全	•		騒音・振動・電	恋臭対策の推進
基本目標					睢	<b>森遠への負荷の</b> 割	門滅と循環型社会	<b>4</b> ルヘコ			

Š	107	108	109	110	11	112	113	411	115
祖当課	道路維持課	都市計画課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	廃棄物対策 課	廃棄物対策 課
再揭		再揭							
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	垂	その他(国 交付金)
H26年度の取組内容 (予定)	33,000m2を予定	車両基地移転工事が完了 し、長崎駅部の工事に着手 する。	特定化学物質取扱事業者 からの届出を審査集計し、 国へ報告すると共に、国と 連携して未報告者に対して は提出指導を実施		化学物質環境実態調査の 実施(大村湾中央部の水 質1地点、底質3地点)	ダイオキシン類環境調査 (現信11年点)及び化学物質 環境実態調査(大村海中 共部のX質1地点、底質3 地点)の実施		解体のみの場合に係る支援制度創設を国へ要望予 定	循環型社会形成推進地域 計画に基づく事業を実施予 定
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	68,000m2を予定	H25からは浦上駅の仮駅舎建設に 着手する。	特定化学物質取扱事業者からの届出(340件)を審査集計、国へ報告すると共に、国と連携して未報告者に対しては提出指導を実施に対しては提出指導を実施	ダイオキシン類の環境調査の実施 (県61地点) 9月末現在33地点実施	化学物質環境実態調査の実施(大 村湾中央部の水質1地点、底質3地 点)	ダイオキシン類環境調査 (県61地 点) 及び化学物質環境実態調査 (大 村落中央部の水質 1地点、底質3地 点)の実施 ダイオキシン9月末現在33地点実施 化学物質調査は12月以降実施予定		長崎県廃焼却炉解体事業は、平成 24年度までの時限措置のため県単独の補助金交付は終了した。	循環型社会形成推進地域計画に基 () () 事業を実施中 地域計画 計上事業数 14 実施事業数 5
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	バイパスの完成前倒しなど により予定を大幅に上回った。	現在、車両基地移転工事、 用地買収について鋭意進捗 を図っており、高架本体工事 着工の達成に向け、着実に 前進している。	特定化学物質取扱事業者からの届出(344件)を審査集計し、国へ報告すると共に、国と連携して素性音音に対して活携して未報告者に対しては提出指導を実施した。	金地点、全媒体で環境基準を達成した。	国の委託により調査を実施 した。	環境汚染状況調査を実施した。	長崎市を除く県下61地点で大気、水質、土壌等のダイオキンが気濃度の調査を行キシン類濃度の調査を行い、全ての地点で環境基準を達成したことから目標達成とした。	計画どおり実施されたため。 交付予定施設 7 交付施設数 7	計画どおり実施されたため。 地域計画 計上事業数 10 実施事業数 10
H24年度 評価	100	100	100	100	100	100	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	成果指 標	活動指標	活動指標	成果 標	活動指標	神 神 神	成果指 標	活動指標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	(予定)A=2,040m→(実施) 77,860m2	車両基地移転工事、用地交渉 などを進めている。	特定化学物質取扱事業者から の届出(344件)を審査集計し、 国へ報告すると共に、国と連携 して未報告者に対しては提出 指導を行う。	ダイオキシン類の環境調査の実施(県61地点)	化学物質環境実態調査の実施 (大村湾中央部の水質1地点、 底質3地点)	ダイオキシン類環境調査 (県61 地点) なび仕学物質環境実態 調査 (大村湾中央部の水質1 地点、底質3地点) の実施	長崎市を除く県下61地点で大気、水質、土壌等のダイオキシン類濃度の調査を行い、全ての地点で環境基準を達成した。	クラ大な経費を要することから進まない廃焼却炉の解体を促進するため、市町等が設置する。 するため、市町等が設置する 廃焼却炉の解体経費に対する。 無機地がの網体経費に対する。 果単独の補助金を交付	市町等が循環型社会形成の推進上級人の投資に 進に心要抗療物の理能限の 整備事業等を実施するために 作成した循環型社会形成推進 地域計画に基づく事業等を実 施
施策內容	低騒音舗装の整備の推進	交通の分散化、ボトルネックの 解消等による交通の流れの円 滑化	特定化学物質取扱事業者届出 の審査、集計、報告、公表	緊急に問題となる化学物質に対しては、本県独自に環境汚染実態調査、発生源調査、健康調査等の実施等の実施	全国的な調査研究事業への参 画	環境ホルモンによる環境汚染状況調査の実施	環境中のダイオキシン類濃度を常時監視の実施	財政状況が厳しい市町が設置している でいる廃焼却炉の解体経費に 対する支援	ダイオキシン類の排出抑制、ゴ ミの再生利用促進、効率的な熱 回収が可能となることから、ごみ 焼却施設の広域化の推進
中項目	⊕鹽钷	策の推進・振動・悪	○ 分学物質 €		選卡 ②内分子 次分	X策の推進 モン)等に関する必かく乱物質(環	⊚ダイヤ	キシン類削減	
大項目		(の推進振動・悪臭			<b>台</b> ≸	- 物質の環境リア	〈ク対策の推准	Į	
基本目標				野野くら	の負荷の対	削減と循環型社会	派グヘシ		

è	116	117	118	119	120	121
群宗耳	自然環境課	自然環境課	自然環境課	林政課		資源管理課 漁政課
再揭						<b>                                      </b>
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	H25終了 H26新規	現状維持現代維持
H26年度の取組内容 (予定)		・毎月の鳥獣保護員の巡視報告により保護区の状況を把握し、その適切な管理を関係をある。 理を図る。 ・巡視回数が目標の216回を超えるよう。引き続き巡視を行う。	・長崎県希少野生動植物 の保護に関する基本方針 に基づき実施予定。 ・目然へ國区域の境界確 定代業や自然環境の変化 がせている地区等の情 ・類1次局獣保護事業計 画に沿って、鳥獣保護等等 画に沿って、鳥獣保護を等 の方法を構造を行うとも	H26年度目標値49,340haを 達成するため、県内各地で 保安林の指定を促進する。	適正な対策指導が行える 人材の自成。防護軸の設 置拡大と延長、機能強のと 集落で取組や様みかけが 策や調査研究に基すく効 率的な捕獲をすすめる捕 種除を支援。	·「環境·生態系保全活動 支援事業」はH24年度で終了。 7。 - H25と同様に実施
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	1 改訂版レッドリスト場軟種について、最初のセ島、生育状況を把握するためのモニタリング調査を実施中。希少野生動植物種保存地域の指定を目指す。 イン野生動植物種保存地域の 4 平成26年1月中旬に県内45地 点で調査を実施予定。 ジッマヤマネコの生息状況モニタリング調査機続実施中、上島は、下島16の計58ルートを定ルートとし、係 お月1回の頻度で踏査を実施している。 長崎県危険な外来生物対策協議会を開催予定。		希少野生動植物種保存地域の指 門に向け、核討中。 自然公園区域の場界確定作業や 自然環境の変化が生じている地区 等の情報の収集蓄積等を実施。 第11次鳥獣保護事業計画に沿っ 、鳥獣保護医等の指定作業を行いる。	H25年度目標値49.170haを達成する ため、 県内各地で保安林の指定を 促進する。	・A級インストラクターをさらに50名 養成中 農地を守るため、1,566kmの防 護柵を設置中。 ・操み分け対策推進のため、ヤギに よる機構を整備を30箇所で計画。 ・無島部インシン新規生息地での生 息環境調査。	・水産業・漁村の多面的機能の効果 的・効率的な発揮に資する、場内44 組織に対し、国交付金事業を活用し 支援を実施する。 二国事業等を活用し、環境保全活動 を継続していけるよう、市町と連携し で集落に働きかけ等を行い、環境保 全に取り組む集落数の維持に努め る。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	1 計画通り寄了したため。 3 一 一 計画通り寄了したため。 3 一 一	・鳥獣保護員の監視により、 保護区が適切に管理されて いるため。 日、 日標 職員による巡視回数) 以上の巡視が実施されたた め。	計画通り完了したため。	目標以上の実績を上げたた め	計画とおり実施できたため	
H24年度 評価	100	100	100	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	100	1 001
計	活	法 数 動指	秦 手 士	成 標 標	顽果 排 指	l 反標 果
年度の取組内容 (実績)	改訂版レッドリスト掲載種に 17. 元 義初の生息、生育状 18. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2.	毎月、鳥獣保護員が保護区 延視を実施し、巡視報告を 1つている。 歳員が計23回、自然環境監 1員が計121回の巡視を各々 10、自然環境に関する有効 情報が得られた。	希少野生動植物種保存地域 して、1地域の指定を行った。 日本公園区域の境界確定作 与等を実施。 鳥獣保護区等の指定を行っ 。。	!内各地で保安林指定を推進、H24年度目標値49,000halこして49,372haの指定実績と:つた。	鬱被害発生地域において1, 99kmの補により、3, 277h の農地へ防護補を整備した。 がた、被害的よ3対策を集落等 適正に指導するA級インスト クターを265名に増やし、対 (の現地指導を行った。	·藻場等の維持・管理等の環 ・連場等の保全活動を行う県 か35組織に対し、国交付金事 業を活用し支援を実施。 ・離島漁業再生支援交付金を 活用した水質維持保全、海岸 清橋、海底清掃などの保全活 動への支援を実施
施策内容	生物多様性保全のための各種 施装を推進にます。 一緒少野生動植物の生息・生育 状況調査 と長崎県自然環境保全地域・希 少野生動植物種保存地域等の 指定のための調査 イガン・カモ類の調査 イガン・カモ類の調査 ニタリンケママネコの生息状況モ ニタリンケ調査 に見いが開産 に入って表現の調査 に入ってで表現の調査 に入ってで表現の調査 に入ってで表現の調査 に入ってで表現の調査 に対しが調査 に入りが表現の場合	担当職員や既存制度 自然公園・指導員・B鉄関集監視員、最財 保護員)を活用した巡視の強化 作により自然環境の監視の強化を活り自然環境の監視の実施。	希少野生動植物種保存地域、 長崎県日然環境を地域、国 と 定公園・県立自然な園、鳥獣保 護区の指定・計画変更の検討。 薄 特に貴重な自然環境を有する長・ 崎県目然環境保全地域につい では、用地基金を活用した公有 地にの検討	水源のかん養や山地災害の防 止機能等森林の公益的機能を 確保するために重要な森林につ いて保安林指定の推進	鳥獣被害防止対策指導者の育 類、適正な防護帯の設置と維持。9 管理への支援。効果的な捕獲し。 動配も捕獲隊の拡大およば、オ ギを活用した様み分け対策の推 進。	・薬場等の維持・管理等の環境・ 生態系の保全活動を行う組織 の育成・支援 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
中項目	①自然環境の監視・調査研究				の保護・生態系の保全	と再生
大項目			生物多様性の保全			
基本目標		≺-	U自然とが共生する快適な愕	ばしくり		

o O	122	123	124	125	126	127	128	129	130	
租票鑑	自然環境課	自然環境課	自然環境課	林政課	職 田村 対策	自然環境課	自然環境課	林政課	河三課	
年報								年起		
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	海止	
H26年度の取組内容 (予定)	・傷病鳥獣の救護事業を継 満実施する。 ・線といきもの賑わい事業 による生物多様性保全事 業を行う。	・生物多様性展示セットの   市町等への貸し出しを継続 実施する。	自然歩道整備を行った地 い五市町と連携に、自然歩道 の適切な維持管理を行い。 快適な利用に供してい。 来加ードニンいでは、施設 カードニンいでは、施設 の老朽化や新しい興味材 カードの地の場があるた か、関係市等関係所体の 意見を踏まえなが。国の 意見を踏まえなが。国の 自然環境整備交付金を活 用した再整備率等の実施	県内7地区で実施予定		・国立公園内5地区で清掃活動事業を行う。 ・西海国立公園内1箇所で施設整備を行う。	ガイド養成講座を実施予定。	県内7地区で実施予定	指標が目標を達成しており、施設整備の目的は達成 されていることから平成25 年度で終了する。	
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	「公益社団法人長崎県獣医師会」 「西海国立公園九十九島助植物園」 「の古者」と、一般の 「の2者へ業務委託し傷病鳥獣の教 ・ 護活動を実施している。 ・ 「線といきもの賑わい事業による生 ・ 教をは保保全事業を順事業2箇所 及び市町・民間事業2箇所への補助 により実施中。	・県内で一定の周知が図れたことか」・・ ら、県主権の巡回展から生物多様性市 展示セットを市町等か、買し出す方式 に移行し、更に生物多様性保全の 重要さについての意識が地元に広 がり定着することを目指す。	地元市町と連携、 自然歩道の適切な維持管理を行い利用に供して0.5。	昌内5地区(県央、県北、上・下五島、壱岐)で実施もしくは実施予定する。	受入体制や情報発信活動の強化を行う。	・国立公園内5地区で清掃活動事業 を実施。 ・西海国立公園内2箇所で施設整備 を実施。	ガイド養成講座を実施中。	県内5地区(県央、県北、上・下五島、 壱岐)で実施もに公は実施予定である。 ある。	地域住民等の意見を反映した水辺 の整備を実施する。	
	と 助味 専全	・計画どおり達成できたた め。	・五島市 新上五島町 小値 関加、平戸市、佐世保市地 図における九州自然を指述 設を整備を平成23年度まで 上記了してもり、地元市町と 連携し、自然歩道の適切な 維持管理を行い利用に供し たため。	県内7地区のうち5地区での り 森林のつといる開催となっ たが、このうち県央地区では 4 全県下を対象にした育樹活 動であり、実質的な目標は達 成できた。	目標が達成され交流人口も 増加した。 (4) 元 4 三 4 三 4 三 4 三 4 三 4 三 4 三 4 三 6 三 5 一 4 三 6 三 6 三 6 三 6 三 6 三 6 三 6 三 6 三 6 三	・国立公園内5地区で清掃活動事業を実施したため。 ・西海国立公園内1箇所で施設整備を実施したため。	講座・ツアーとも目標回数を 達成し、目標を超える参加申 込みがあったため。	県内7地区のうち5地区での 関 森林のつという開催となっ たが、このうち県央地区では 全県下を対象にした自樹活 動であり、実質的な目標は達 成できた。	目標を達成することができた ため。	
H24年度 評価	100	100	100	06	100	100	100	06	100	
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
評価指標	成 無 標 精	活 動 指	活動指標	活動指標	海 秦 指	活動 標	活動指 数	活動指標	成果指 標	
H24年度の取組内容 (実績)	「公益社団法人長崎県獣医師   会  西海国立公園九十九島助   補物園の2者へ業務委託し傷   病鳥獣の救護事業を実施し   た。   投護実績304個体、放鳥獣率 - 縁足いきもの賑かい事業による生物多様性保全事業を実	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	地元市町と連携、 自然歩道 び適切な維持管理を行い利用 5供した。	県内5地区 (県央、県北、上・下 五島、壱岐)で育樹活動を中心 とした、森林とのふれあいの場 を提供した。	験プログラム充実や腸 体験に個開業支援など 制整備の支援なび情報 動を実施した 調を実施した。 制緩和による農林業体 開業軒数 (累計) 713軒	国立公園 自然公園 Sthe。	・エコツアーガイド養成講座5回、ジオツアー2回を実施した。	県内5地区(県央、県北、上・下 五島、壱岐)で育樹活動を中心 とした、森林とのふれあいの場 を提供した。	施設整備の進捗により、水辺での活動に参加した人数が増えた。 スた。 (H24年度参加者数 7,906人)	
施策內容	民間団体 市町が実施する生物 多様性保全活動に対する助成、 会様性保全地域等で助成、 全事業・保護増通事業、傷病鳥 獣の救護事業の実施	自然情報ネットワークとの連携 やイベントの開催等による生物 多様性の普及啓発の実施。	*: X: ( )	県民亡森林とのふれあいの場の提供 の提供	農林漁業体験や農林漁業体験 存 民宿等、農山漁村の資源を活か とた「プリーン・ツーリズム」の推 進	自然公園施設の適正な維持管 1・ 理、国立公園清掃活動事業を実・ 施し、清潔の保持と快適な利用 美 を図り、県有公園施設の再整備 や改善を行う。	16	県民に森林とのふれあいの場の提供	地域の人々の愛護活動や親水 活動の支援	
中項目		・生態系の保全	①自然とのふれあいの場の		②自然とのふれあいの機会の提供					
大項目	生物多樣性	の保全			自然とのつながり	の回復				
基本目標			人と自然	とが共生する快	適な環境づくり					

Š	131	132	133		134		135	136		
担当課	開日村対策	職 四本 本 文 条 第	森林整備室		資源管理 課、漁港漁 場課		監理課	監理課·建設 企画課		
年起			<b>                                      </b>		再揭					
H26年度予 算への反映 状況 (予定)		現状維持	現状維持	· 現状 特	· 下	·現 持	現状維持	その危		
H26年度の取組内容 (予定)	取組を推進する。本制度は 第3期 (H2~26)であり、国 へ制度の継続を要望。	活動定着及び活動の質的向上への啓発活動。	間化等森林整備面積を 3.2.755ha 実施する計画であ 5.0.755ha 実施する計画であ 5.0.751a	・母薬供給基地として、着 生養質の設置により、3地 区3箇所2.4haの薬場礁を 造成予定。 ・H24年度で終了。 ・「環境・生態系保全活動 支援事業」はH24年度で終	°		許認可のすべてを規制に 基づいて行なう。	今後、海域影響調査のモ ドニタリング実施を予定して いる。 指針の策定と運用開始。		
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	離島地域において取組拡大を推進する。	本制度は平成24年度より第2期 (H24~28)。取組推進や活動事例 紹介による啓発・普及を行う。	ながさき森林環境税」を活用する家 そ拡大、来整備に表 る森林所有者負担を軽減するとし に、市町が公益的に重要と位置に に、市町が公益的に重要と位置が る森林や荒傷してがかきを水源 、森林整備の更なる推進に取り総 でい、。 25計画面積2,645ha	·磯焼け対策[二必要な移植母藻供 ・締造地として、着定基質の設置[二よ り、3地区4箇所32haの藻場礁を造 成中。 ・水産業・漁村の多面的機能の効果 的・効率的な発揮に資する、県内44 組織に対し、国交付金事業を活用し 支援を実施する。			幹認可のすべてが規制に基づいて 行なっている。	海砂採取による海域影響調査結果 を26年度以降の海砂採取年間限度 量の検討に活用している。 予定どおり検討会を実施した。		
	目標を概わ達成した。	目標を概わ達成した。	国庫補助事業の活用を図る ととした、水源がん態等がの ととした。水源がん態等が とした整備、およびその施業 セ とした・ならかて・東道開設に「け がして、平成18年に創設した がして、平成18年に創設した 「ながさき森林環境税」を活 用して森林所有者の負担軽 所の 「ながなさなない。 無数を 所しており、森林整備 用して森林の になったり、森林神 開しており、森林整備 用して新り、森林整備 面積目標値18.500halc対し		I		許認可のすべてが規制に基 づいて行なわれた。	予定通り調査及び会議開催 が行なわれた。 予定どおり検討会を実施し た。		
H24年度 評価	06	06	06		I		100	100		
H23年度 評価	06	06	06		I		100	100		
背 指標	成果指標	成果指 標	液 標 指		1		活動指標	活動指標		
H24年度の取組内容 (実績)	離島において推進会議を開催 し、重的1の取組面積拡大を 推進した。 面積美績9,594ha	: 農地・水・環境保全向上対策推 進大条や説明会などを実施し、 活動の啓発・普及を行った。 面積実績14,124na	引改等の森林整備実績 6.862ha	·磯焼け対策に必要な移植母 漁供務も地として、着た基質の 砂體により、3地区5箇所4,0ha 砂薬場礁を造成	・有明海において国公共事業を 活用し、海底耕うんを実施。	・藻場等の維持・管理等の環境・塩・塩素の保全活動を行う環境・生態系の保全活動を行う場けの3名組織に対し、国交付金事業を活用し支援を実施。	年間採取限度量内での海砂採取許認可を行なった。 (H24採取実績 237万㎡)	海砂採取による海域影響調査 を実施に、海砂採取に関する有 議者会議で調金結果の検証、 評価を行う力と。 県内産フライアッシュを混和し たコングリートに関する指針策 定検討会の実施		
施策内容	農業生産活動を通じ、国土の保 離 全、水源の洒養、良好な農銀形( 成等の多面的な機能を発揮して いる中山間地域等における、農 業生産活動を行う農業者等を支 援	農村地域における地域であみて の農地や土地の最低路の保全 活動や農村の景観や自然環境 等の農村環境の保全活動に対 する支援	・調室効果ガスを吸収するなど、 間 森林の公益的機能を維持・発揮 1 ウせるため、間伐等の森林整備 の実施	・着定基質の設置等による薬場の回復と造成	・閉鎖的な内落域等、漁場環境・ が悪化した海域で海底清掃、海 底耕うん等を行うことにより漁場 環境の回復を図る。			海砂採取の水産資源、海域環境への影響に関する調査・研究の影響に関する調査・研究・代代・登書・対の確保に関する必要な活策の推進。		
中項目										
大項目	自然とのつながりの回復									
基本目標			≺-	と自然とが共生する快済	は環境でく	· ⊃				

Š	137	138	139	140	141	142	143	44	145	146	147	148
田当課	漁港漁場課	點三原	森林整備室	港湾課	自然環境課	河三課	港湾課	森林整備室	港湾課	都市計画課	都市計画課	自然環境課
再揭					再認		再揭	再揭				
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	拡充	現状維持	放充	現状維持	現状維持	太 先	現状維持	廃止	現状維持	I	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	引続き大島漁港について は、生物の生態系等に配慮した防波堤を整備してい く。	鹿尾川、宮村川の策定に 向けた委員会開催、協議を 行う。	同様な取組で事業推進を行っていく。	高潮対策事業8箇所 海岸堤防等老朽化対策事 業2箇所を整備	ガイド養成講座を実施予定。	残り2ダムの事業の進捗を 図る。	高潮対策事業8箇所 海岸堤防等老朽化対策事 業2箇所を整備	同様な取組で事業推進を行っていく。	事業が本年度で終了する ため、すべて完成させる。	早期の完成をめざし、引き 続き電線類地中化工事を 進める。	1	・2箇所の縁地の維持管理 を行う。 ・市町、民間の縁化事業等 に補助を行う。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	大島漁港において、生物の生態系等に記慮した防波堤を整備中である。	鹿尾川、宮村川の策定に向けた協 議を実施。	災害格険簡所について、危険度の 高い箇所を優先して事業を推進す る。	高潮対策事業8箇所 海岸堤防等老朽化対策事業2箇所 を整備	ガイド養成講座を実施中。	本河内ダムの再開発により、周辺環境の整備を完了。	高潮対策事業8箇所 海岸堤防等老朽化対策事業2箇所 を整備	災害危険箇所について、危険度の 高い箇所を優先して事業を推進す る。	ふるさと輝くみんなの水辺づくり事業 3箇所を整備	H24に引き続き電線類地中化工事を進める。	ı	2箇所の緑地の維持管理を実施。 3市、6民間団体の緑化事業等に補 がを実施。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	-	有喜川については、大臣同意を得て策定済。 鹿を得て策定済。 鹿尾川については、地元と 合意した整備内容をもとに、 計画策定を進めた。	災害危険箇所について、危 険度の高い箇所を優先して 事業を推進を行い災害危険 箇所の着手率について目標 を達成することができた。	現地条件に合わせ、周辺環境に配慮した工事を行った。	講座・ツアーとも目標回数を 達成し、目標を超える参加申 込みがあったため。	34ダム概成(将来目標36ダ ム)	現地条件に合わせ、周辺環境に配慮した工事を行った。	災害危険箇所について、危 険度の高い箇所を優先して 事業を推進を行い災害危険 箇所の着手率について目標 を達成することができた。	完成予定であった2箇のうち 1箇所が未完成となった。	計画通り実施できたため。	ı	・2箇所の緑地の維持管理を・ 実施したため。 ・1市、民間11団体の緑化事 自業等に補助を実施したため。
H24年度 評価	I	02	100	100	100	06	100	100	75	100	I	100
H23年度 評価	100	70	100	100	100	06	100	100	100	100	ı	001
計構	I	成果指 標	成果指 標	活動指標	活動指数	成果指 標	活動指標	成果 精	活動指標	活動指標	I	成果指 標
H24年度の取組内容 (美術)	港、大島漁港に計 境との調和に配別 を整備中。	こ取り	<b>₩</b>	高潮対策事業10箇所 海岸堤防等老朽化対策事業3 箇所を整備	・エコツアーガイド養成講座5回、ジオツアー2回を実施した。	本河内ダムの再開発により、 周辺環境の保全を実施。	高潮対策事業10箇所 海岸堤防等老朽化対策事業3 箇所を整備	農林災害危険箇所の着手率 (累計)36.6%	ふるさと輝くみんなの水辺づく り事業4箇所を整備	街路工事とともに電線類地中 化工事を進めている。	都市計画区域における1人当り都市公園面積 12.48m2/人	・花のある街かどづくり事業に より緑地の維持管理を実施。 ・緑といきもの賑わい事業によ り市町等への補助事業を実 施。
	水質の保全、周辺環境への影響緩和等自然選境との調和に 配慮した漁港施設の整備 計画の策定 が、山地災害の復旧・予防の実施 流するため、環境に配慮した可川整備 減するため、環境に配慮した工工法を軽います。 法を用いた河川、海岸の整備 エコツアーやジオツアーガイドの 人材育成。				エコッアーやジオッアーガイドの人材育成。	ダム事業の実施とあわせた周 辺環境の保全の推進	洪水や高潮による浸水被害を軽減するため、環境に配慮した工法を用いた河川、海岸の整備	県民の安心安全を確保するため、山地災害の復旧・予防の実施実施	施設のバリアフリー化と海岸へ のアクセスの向上を目指した海 岸整備の実施	電線類を地中化することによる 美しい都市景観の形成	都市の景観及び環境の保全、 潤いのある生活環境、生物多様 性の保全など多面的な機能を 持つ都市の根幹的施設である 都市公園の整備	国道治線において県が整備した 緑地の維持管理を行うともに、 市町やNPO 等が行う線化事業 に対する支援。
中項目	◎社会経済活動における適切な活用						①快適な生活環境の創造と美しいふるさとづくりの推進					3推測
大項目		自然との		快適な生活環境と歴史的環境の保全と創造								
基本目標				≺ かん	目然とが	<b>未生す</b>	<b>の快適な</b>	環境づくり				

·	57	28	129						
Š	-	-	-						
群 用	都市計画課	学芸文化課	学芸文化課						
年起	<b>声</b> 蝗								
H26年度予算への反映 学への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持						
H26年度の取組内容 (予定)	計画策定補助金の交付に よる財政的支援や計画策 定に関る助言等の技術 政支援を引き続等の技術 的支援を引き続き行うこと により計画策定を促進し、 目標の達成に向け取り組 む。	・文化財所有者等が行う保存管理等に対し、必要な指導の当や補助を行う予定。・長崎県文化財保護指導委員による指定文化財等の巡視を年108回実施予定。	・県内で開催される文化財関連のイベンでを、由する、市上なる、市大・を、市中なた、一次を通じ紹介・・公開月間プレイベントを開催を定。						
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	景観計画策定には住民の合 計画策定補助金の交付による財政 選形成なども必要で、策定ま的支援や計画策定に関する即言等 でに3~4年かかるのが最近 の技術的支援を引き続き行う。 の全国的な傾向である。H22 また、景観計画策策定市町を全て訪 年度以降に新たに景観行政 問し、景観計画策定を働きかける。 成本へ移行した市町が多い 状況であり、H24年度目標は	・文化財所有者等が行う保存修理等・文化財所有者等が行う保に対し、必要な指導助言や補助を、存修理等に対し、必要な指行っている。	計画通り事業を実施し、地域・県内で開催される文化財関連のイの文化財に親しむ機会を提 ベントを小冊子やホームページを通供した。 に紹介。 ・公開月間プレイベントを、10月20日(日)に長崎市で開催し、民俗芸能、文化財関連の講演、展示を実施。						
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	景観計画策定には住民の合 高級なども必要で、策定ま でに3~4年かかるのが最近 の全国的な傾向であるの、程度 年度以降に新たに景観行政 団体へ移行した市町が多い 状況であり、H24年度目標は 未達成となった。	文化財所有者等が行う保存修理等に対し、必要な指導助言や補助を行った。	計画通り事業を実施し、地域の文化財に親しむ機会を提供した。 供した。						
H24年度 評価	06	100	100						
H23年度 評価	06	100	100						
計	成果 標 標	海 動指	活動 動 計						
H24年度の取組内容 (美績)	計画策定補助金の交付による 財政的支援や計画策定に関す る助言等の技術的支援	・所有者等が行う指定文化財 の保存修理等に要する経費に ついて47件の補助を行った。 ・長崎県文化財保護指導委員 による指定文化財等の巡視を 年108回実施した。	・文化庁の定める「文化財保護 強調調問」に合わせ、11月に 関内で開催される文化財関連 のイベントを小冊子やホーム ページを通じ紹介した。 ・公開月間プレイベントを、10 127日(日)に佐世保市で開 催、民俗芸能、文化財関連の 講演、展示を実施した。						
施策内容	市町(県民)主体の景観形成〜の取り組みに対する計画的な支援	所有者等が行う指定文化財の 保存修理等に要する支援や長 崎県文化財保護指導委員によ る指定文化財等の巡視の実施	県民が文化財を守り、継承して いく気温を腐のするため、地域 の文化財に親しむ機会を提供す る「長崎県の文化財公開月間」 等の事業の実施						
中項目	②歴史的環境の保全と創造								
大項目	快適な生活環境と歴史的環境の保全と創造								
基本目標	人と自	然とが共生する快適	な緊 葉 プ く シ						

Š	160	161	162	163	164	165	166			
担当課	義務教育課 高校教育課 特別支援教 育室	義務教育課 高校教育課 特別支援教 育室	未未	自然環境課	未	未来環境推進課	林政課			
H26年度予 算への反映 再 状況 掲 (予定)		その他	充	現状維持	拡充	拡充	現状維持			
H26年度の取組内容 (予定)	8月に環境教育に関する講 座を実施する。	「総合的な学習の時間」、 「特別活動」等で体験的な 環境教育を実施する。	国においては平成24年10 1日に、2012環境教育法 1部でおれており、今後、 1の改正に伴う環境教育 1回の見直しを行うこととし おり、新たな計画の中 おり、新たな計画の中 、地域、学校、行政等と 、計画に沿った施策の展 を行っていく。	生物多様性モデル校」事 を実施。 校からの要望により、講 統別をの要望により、講 派遣教材の提供。			緑化推進運動ポスターの 事業、緑の少中田活動に 対する即成、森林ボラン ティア活動への支援。			
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	8月6~7日に「すぐに使える!環境 教育人間・研修講座1を実施。小・ 中・高校及び特別支援学校から計2の 名参加。	「総合的な学習の時間」、「特別活動」等で体験的な環境教育を実施している。	・環境教育等行動計画(仮称)の策 定 ・代記 ・代2469、23団体) ・環境アドバイザーの派遣	昭和40年から平成23年まで「愛鳥モ」「7」校」書業を実施していたが、生業物多様性の保全が課題となっている 初現状にあわせて、野鳥のみならず、間広へ生きもの全般を対象とする「生物 多様性モデル校」事業を実施。	<b>度進捗状況</b>	引き続き環境アドバイザーを派遣	月~9月に、県内の小・中・高に、 緑化推進動ポスターの募集を実 商し、現在集計中。			
	計画通り実施できた。	計画通り実施できた。	計画どおり実施できた。	要請があったモデル校に対 して、資材や講師の派遣を 行うことができたため。	H22年度実績は計画どおり 実施できた。(H22年度実績 810千人)	計画どおり実施できた。	緑化権進運動ボスターの応 海線数の対制年度に(1423 16138年記)。少子化と子供 を取り巻く社会環境(各種ス イエン、文化団動や課題の 多様化などの変化等により 応募数が減少傾向にある。			
H24年度 評価	100	100	100	100	100	100	06			
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100	06			
計構	活動指標	活動指標	城 果 持	成果 数	成 標 措	活動指標	孫 無 指			
H24年度の取組内容 (実績)	9月15~16日に「自然に親しむ 環境教育 入門研修講座 2を実 施。小・中・高校及び特別支援 学校から計14名参加。	「総合的な学習の時間」、「特別 活動」等で体験的な環境教育 を実施した。	・県内の小中学生を対象に地 球環境保全が大分を考集。入 選作品については、悪影すると ともに、長崎市、佐世保市で展 示会を開催。また、最優系、優 高力の環境を同していてはカレンダーに 掲載し、応募者や関係の体へ 配布。(応募数・861点) ・6月の環境月間、長崎市との 発催により長崎市におりて 頭キャンペーンを実施。 (Hはより長崎市におりて街 頭キャンペーンを実施。 (Hはより五間大場・870間休 一部株線に登りまして 一部株線に登りました。 「大橋保全に関する学習会や 自然体験活動等を行う団体等 を支援する環境を行りは 活達。(派遣回数・85回、参加 書数:3,885人)	生物多様性モデル校」に保全活動に伴う資材や観察会への 講師の派遣等を行った。	同計画のH23年度の進捗状況 「ついては、学校、地域、事業 者、行政などを対象に記述者 他。(H2411) 現在、集計中であ るが、生こみ減量化リーダーや るが、生こみ減量化リーダーや の活動も増加しておしまる地域で の活動も増加した出り、目標は 達成するものと思われる。	環境保全に関する学習会や 3然体験活動等を行う団体等 5支援する環境アドバイザーを (遣(65回)	長内の小・中・高に、緑化推進 重動ポスターの募集を実施し、 41点の応募があった。			
施策内容	長崎県教育センターで環境教育関係の研修講座の実施	地域清掃活動、省エネ・省資源 活動、リサイクル活動等の体験 的な環境教育の推進		愛鳥モデル校の活動に対する支援。	環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する計画の 推進 推進	県内で環境に関する実践活動を 行っている団体等に対する支 援・環境アドバイザーの派遣	緑化推進運動ボスターの募集 や緑の少年四活動の活性化を 図のことで緑化の普及・密発を 図ります。また、植樹や青樹活 動な体験する森林ボランティア のイベントの開催や活動の支援 により、森林づくり活動の普及・ 啓発を図ります。			
中項目										
大項目			環境教育・	環境学習等の推進		1				
基本目標			県民・事業者・行政のパー	- トナー ツップ ロュ	<b>よる緊張プヘン</b>					

Š.	167	168	169	170	171	172	
祖二郎	食品安全·消費生活課	自然環境課	. 未来環境推進課	環境政策課	未来環境推進課	. 未来環境推	
h 再 相	#Hz	#11:		Htr.	#	<b>                                      </b>	
H26年度予 算への反映 状況 (予定)		現状維持現代維持		現状維持	現状維持	抗 充	
H26年度の取組内容 (予定)	新生活運動協議会へ助成 に、各生活学校や生活会 する。 する。	年間3回の探鳥会を実施予定。	もったいない運動推進大会やノーではない運動を進入会なイナー運動等などを実施する。	引き続き、県庁EMSの運 営を適正に維持し改善する ための取組を行う。	機密文書リサイクルの推進 等にる高速物質源化率 の向上などの対策を強化 し、エコオフィスプランを推 進する。	平成26年度に長崎県環 境教育等行動計画(仮称) 各策合等であり、地域、 学校、行政等とが連携・協 働し、環境保全活動や環 機教育の推進が図られる よう、きめ細かな情報の指 供など計画に沿った施策 の展開を行ってい、。	
			もったいない。運動権進大会やノーマイカー運動等などを実施する。	内部監査の充実を図るため、地方機引き続き、県庁EMSの運 関における相互内部監査方式の導「営を適正に維持し改善する 入を図る。 ための取組を行う。	長崎県庁館電業行計画(平成25年 機 庭油年版7を第に、中成23年度、等 24年度の夏期・冬期に実施した節電 対策を継続レフ・それ以外の期間し 「コンパで、男き続き強力に節電」に 取り組むこととすし、エコオフィスフラ ンの推進を行っていく。	H24年度においてH23年度進捗状況を調査中。 を調査中。	
	新生活運動協議会へ補助金を交付し、各生活学校や生活会議を支援した。 活会議を支援した。	年間目標回数3回を達成し、 アンケートによる参加者の満足度は90%以上であったため。	計画通り実施することができたため。 たため。	内部監査自分確保、地方機関の連接の対象を関係について 同は目標を達成したが、内部 監査養成研修の受講率が目標の90%だった。	H23年度における場所全体 つい酸化放業株団量は 54.27kで、H23年度目標の 54.104をほぼ達成した。(達 成率99.7%)	H22年度実績は計画とおり 実施できた。(H22年度実績 810千人)	
H24年度 評価	100	100	100	06	100	100	
H23年度 評価	100	100	100	06	100	100	
標	活動指標	活動指数	活動指標	活動指標	成果 標	成果 標 指	
H24年度の取組内容 (実績)	・新生活運動協議会へ助成し、 合生活理事体でも生活会議を支援 することにより、マイ・ジグ 拝参 運動、廃油利用の石ドンボーリ 等の積極的な取組を促進した。 注				「第三次県庁エコオフィスブランに基づき県庁におけるエネントに基づき県庁におけるエネルギー使用量・廃棄物置の削減、及び廃棄物資源化率・環境物品等調達率の向上に取り組んだ。	同計画のH34年度の進捗状況 「1つ,1へ「計・発水・地域、事業 古、行政などを対象に調査を実 施。(H24.1) 現在、集計中であ るが、生こみ減量化リーダーや 環境アドバイザーによる地域で の活動も増加しており、目標は 達成するものと思われる。	
		環境情報の提供や、自然解説 や指導者等の人材の育成、探 鳥会や自然観察会の開催。	県及び市町のボランティア団体 等との協働によるイベント開催 やキャンペーンの実施	地方機関を含めた全庁的な EMSの推進	<b>県庁エコオフィスプランの推進</b>	環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する計画の推進に関する計画の推進	
中項目	②社会における環境	"教育·環境》	十智等の推進	①県・市町の環境保全に向けた取り組みの推進 支出・一郎・			
大項目	環境教育・	環境学習等の	推測	自主的な環境保全行動の推進			
基本目標		県民・事	- 業者・行政のパ	ー Tナー ツップ	による環境づくり		

Š.	173	174	175	176						
料票和	米米 課	未 進課 境推	未	環境政策課						
再揭	<b>  年</b> 応			<b>声</b> 整						
H26年度予算への反映 様況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持						
H26年度の取組内容 (予定)	・ながなき環境県 民会議4R 制金の構成団体等を中心 とした農業物頭量やリサイ クルの自主的な活動の展 「二ませ口市町支援事業に おいて、関係市町が抱える 高業物質量等の課題に対 うな、人工の有数の有数に の拡大や生ごみ減量化の が拡大や生ごみ減量化の がままして実施している「か ・	「コミゼロながさき推進会 職」及び「長崎県地球温暖 化対策協議会」を「成立 で発足した」ながを環境 県民会議」「おいて、県 県民会議」「おいて、県 原の等の直接を図り、自主 行政等の直接を図り、自主	H23年度 H24年度に引き 続きレジ袋削減に向けた取 組を行う。	県内のエコアクション21地 方事務局と協議しながら、 各団体等への働きかけを 行い、最終目標達成を目 指す。						
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	○ながさき環境県民会議 ・ながさき環境県民会議 別権に、引き続き「11字に口ながさき の実現に向け取組を実施。 の実現に向け取組を実施。 の主要に同け取組を実施。 ではかから回収キャンペーン等引 続き実施。 ながさきの活動支援による生ごか がなさるの活動支援による生ごか がなさるの活動支援による生ごか がなきるの活動支援による生ごか がなさるががチャンペーンの実施 でかせつか州キャンペーンの実施 でンボルマーク・標語の募集。統一 ボスターの作成・配前) ・ごかせ口が財子やスペーンの実施 が大きをの開催(1回) ・ごかせ口が財子を ・ごが表す料化に取り組む地域や は の事業所立接事業 ・可等をの開催(1回) ・コミセロ市政 投事業の実施 ・133年度に引き続き、県庁内で機 を変書リサイクル実証試験に取り継 かび3年度に引き続き、県庁内で機 を変書リサイクル実証試験に取り継 かび3年度に引き続き、県庁内で機 を表書りサイクル実証試験に取り継 ・に33年度に引き続き、にかの投げ が34度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ が35年度に引き続き、ごかの投げ	「ゴミゼロながさき推進会議」及び 「海崎県地球温暖化対策協議会」を に統合して発足したながさき環境、 県民会議したがて、県民・業等、 大学、NPO、行政等の連携を図り、 自主行動計画を支援する。	・新上五島町におけるレジ袋削減 に向けた郊紀に関する協定書,追加 締結(125.4.11) ・対馬地区レジ袋削減へ向けた意見 交換条(1425.7.30) ・長崎県におけるレジ袋削減に向け ・長晩県におけるレジ袋削減に向け ・長晩組に関する協定締結式(イオン 九州㈱)(H25.10.17)	県内のエコアクション21地方事務局 上化騰しながら、県南工会連合会な と県内の商工関係団体等への働き かけを行う。						
	コミセロながなき実践計画 に基づき各構成団体が自主 的に取り組んだ活動につい ては、一定の成果があった が、機密な当りイグルー・ の検討やレン・姿有制化な ど、今後、さらに推進すべき 課題もあるため。	ながさき環境県民会議を開催し、計画とおり連携を図る ことできたため。	新上五島町においてレジ袋 神料化事業者数を6事業者 から10事業者へ増を目指し たが、1事業者増の留まった が、他地区においても有料 化に向けた協議が始まって いる。	県内における「ISO14001」及 び「エコアクション21」の新規 認証登録事業者:28件/32件 (累計)						
H24年度 評価	06	06	06	06						
H23年度 評価	06	100	100	100						
計畫	紀 標 古	活動 標	及果 指	成果指 標						
H24年度の取組内容 (実績)	がなかたき環境保険会議 4.R部会構成メンバーの1つ宝七 17が7さ受験計画」進歩状況管 4.R部会重点活動の進捗状況管 13.4ビコ県民運動支援事業 「情報発信 13.4ビコ県民運動支援事業 「情報発信 13.0月) ・九州柿・マイバッグキャンペーン ・九州柿・マイバッグキャンペーン ・九州柿・マイバッグキャンペー ・九州柿・マイバッグキャンペー ・14間末・一斉行動参加店の募 14、柿・ボクター作成配布など。 14、様・ボクター作成配布など。 14、様・ボクター作成配布など。 14、様・ボクター作成配布など。 14、ボーボの発金関催(年1回) 11、10分の接換を 14、10分の接付を 15、10分の接付を 16 かのが 16 かのが	ながさき環境県民会議において、県民・事業者、大学 NPO、行政等の連携を図り、自主行動計画を支援します。	・レン袋削減事業者説明会 (H25.22) (H25.22) (H25.22) (H25.22) (H25.22) (H24.33) (H24.3	「エコアグション21」の地域事務局と連携し、商工会連合会の研修会などにおいてEMS認証の説明と働きかけを行った。						
	麻薬物の発生抑制・1サイクル 促進の大かりながをき環境機長 金藤川でおいて、「二まセロながを き実践計画」の進捗管理と、ゴミ セロ県民連助支援事業、コミゼ ロ市町支援事業等の実施 の市町支援事業等の実施	県民、事業者等の自主行動計画である地球温暖化防止対策行動計画への支援	ゴミゼロながたき推進事業等に まり、ソジ教育権代も含めた事業のの下事業の自主的取り組みを促進 するための普及啓発活動の実 施	事業者が自主的・主体的に取り 組む環境管理システムの導入 の促進						
中項目	②県民の環境保全に向けた取り組みの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									
大項目	自主的な環境保全行動の推進									
基本目標	県民・事業者・行政のパート	ナー シップ による環告	¦ルヘン							

o N	771	178	179	180	181	182
租票	未来環境推進課	未来環境推進課	環境政策課	未来 進課 進課	環境政策課	未
再揭	再揭	車		<b>声</b> 略	再揭	<b>  車</b>
H26年度予算への反映 状況 (予定)	拡充	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	平成25年度に長崎県環 境教育等行動計画(仮称) を策定予定であり、地域、 学校、行政等とが連携・協 場へ、環境長主部 が環 境教育の推進が図られる よう、きめ細かな情報の提 供など計画に沿った施策 の展開を行っていく。	コミゼロながさき推進会   議」及び「長崎県地球温暖   化対策協議会」を「統合し   で発足した「なかさき環境   県民会議」において、県   民、事業者、大学、NPO、   行動計画を支援します。	帰のオームページや「環境 保健診合情報シスナム」の 随時更新を行い、異民にか かり易い情報提供を行いま した。	市町及び各種団体と連携 した活動等の情報を共有し ながら、取り組みを県民運 動として実施する。	県のホームページや「環境 保健総合情報システム」の 随時更新を行い、県民にわ かり易い情報提供を行いま した。	: 市町及び各種団体と連携 たご志鳴等の情報を共有し ながら、取り組みを県民運 動として実施する。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	H24年度においてH23年度進捗状況を調査中。	「主犬巾ながさき推進会議」及び 「長崎県地球温優化対策協議会」を に統合して発足した「ながさき環境 県民会議」において、県民・事業者 大学、NPO、行政等の連携を図り、 自主行動計画を支援する。	引き続き、県のホームページや「環境保健を与情報ンステム」の随時更新を行い、県民にわかり易い情報提供を行いました。	市町及び各種団体と連携し、活動等を通じ情報を共有し、取り組みを県民運動として美施する。	引き続き、県のホームページや「環境保護を信頼システム」の随時更新を行い、県民にわかり易い情報提供を行いました。	市町及び各種団体と連携し、活動等を通じ情報を共有し、取り組みを県を通じ情報を共有し、取り組みを県民運動として実施する。
	H22年度実績は計画どおり 実施できた。(H22年度実績 810千人)	ながさき環境県民会議を開催し、計画どおり連携を図ることできたため。	新着情報等、県民にわかり 今々、迅速に情報を伝える ためにホームページは随 時、更新を行った。	計画通り実施することができたため。	新着情報等、県民にわかり 今々、迅速に情報を伝える ためにホーンは一部に 時、更新を行った。	計画通り実施することができたため。
H24年度 評価	100	06	100	100	100	100
H23年度 評価	100	100	100	100	100	100
計構	成果 標	活動指標	活動指標	话 专 者	活動指標	活動 動 指
H24年度の取組内容 (美績)	同計画のH23年度の進捗状況 こりへては、学校、地域、事業 者、行政などを対象に調査を実 施。(H24.11)現在、集計中であ が、生こみ調量化リーターや 環境アドバイザーによる地域で の活動も増加しており、目標は 達成するものと思われる。	ながさき環境界と金騰におい て、原、事業者、大学、 NPO、行政等の連携を図り、自 主行動計画を支援します。 清	県ホームページのリニューアル に併せ、ホームページを削割す るともに、「環境保健祭の情 報システム」を運営し、随時、 県民にわかり易い情報の提供 を行います。	ながさき環境県民会議、長崎 県地球温暖化に上部前推在 ンター、長崎県地球温暖化が 策ネットワーク会議等と連携し た普及を発活動。 ・関和内容) ・関下一斉・マイカー&エコド ライブウィークの実施 ・もったいない運動推進大会の ・指していない運動推進大会の ・推進員フォローアップ研修の 実施 ・生のたいない運動機能大会の ・推進員フォローアップ研修の 実施	県ホームページのリニューブル に併せ、ホームページを削割す るともに、「環境保健会合権 報システム」を運営し、随時 東民にわかり易い情報の提供 を行います。	ながさき環境県民会議、長崎 県地球温暖化応江部推進セ ンター、長崎県地球温暖化が ンター、長崎県地球温暖化が 大学者及発活動。 ・現和内容) ・現れ合う。 ・現れ合う。 ・スイプーマイカー&エコド ・スイプケイークの実施 ・もったいない。運動推進大会の ・指在員フォローアップ研修の ・推進員フォローアップ研修の 実施 ・推進員フォローアップ研修の 実施 ・世級関化 ・世級の間報
施策内容		県民、事業者等の自主行動計 画である地球温暖化防止対策 行動計画への支援	環境に関する情報の提供	市町・各種団体との協働と活動支援	環境に関する情報の提供	市町・各種団体との協働と活動支援
中項目	③事業者の環境保全に向	<b>叫けた取り組みの推進</b>	⊖	情報提供機会の拡大	②情報共有化の推進	
大項目	自主的な環境保全行動の推進 環境情報の収集、発信の強化					
基本目標		<b>账</b> 0	氏・事業者・行政・	3のパートナーシップによる環境で	<b>ヘ</b> ユ	

o S	183						
租票鮨	灢						
再揭							
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持						
H26年度の取組内容 (予定)	•н27.3仁科学技術大賞表彰式開催予定						
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	・H26.3に科学技術大賞表彰式開催 予定						
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	計画どおり実施できたため						
H24年度 評価	100						
H23年度 評価	100						
評価指標	活動指標						
H24年度の取組内容 (実績)	科学技術賞選考委員会を設 (中、選考委員による書面審查 及び評議で選考(H25年2月12) 日開催)し、決定した。 (一)選考結果 (2. H253「情景画像中の文字の 抽出と記憶に関する研究」に対 (1. L254 学技術賞大賞を接与						
施策内容	科学技術に親しむ環境を創出します。 ・長崎県科学技術に関して環境を創出して日を含む一週間で1月2 (6日を含む一週間で1月2 (おいて顕著な成果を収めた研究がいて観音が収集を収めた研究をは独創的で将来性のある。 研究活動を保護を収めたいる研究に、長崎県科学技術大賞として表彰します。						
中項目	②情報共有化の推進						
大項目	環境情報の収集、発信の強化						
基本目標	プによる環境づくり県民・事業者・行政のパートナーシッ						

Š	184	185	186	187			
群無用	土地対策室	無 政	農政策	聯內課			
H26年度予 算への反映 再 状況 掲 (予定)	現状維持	上級業権	か の も	その合			
H26年度の取組内容 (予定)	は、土地取引事後届出の利用 目的等審を及び開発行為 事前協議を実施。 市町村計画の策定予定の 把握等。	実施なし、 得られた研究成果の普及 を進める。	・近年、問題となっているだ 「つの腐敗場の発生につい、 「大、薬剤散布だけに類るのではなく、効率的な予察技 情を把手管理技術、抵抗 情を把手管理技術、抵抗 性務導技術等を預察し効 果的な発生の比技術の確 これまでと同様に、大規 機器地野菜においてフェロ モン剤や発生予察技術、 最内等の高声は被害在 減技術を組み合きし、農林業技術 環境にやさし、農林業技術 の開発を進める。	・温暖化に対応した水稲 「つか盛」や「おてんとぞだ ち」の栽培技術の開発に取 り組む。 ・ 古南陽地における地球温 曜化に対応したジャガイモ 素材の探索に取り組む。 素材の探索に取り組む。 ・ 馬温でも前翼、収量が安 でするカーネーションの新 品種育成に取り組む。			
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	土地取引事後届出の利用目的等審 置(上半期31件) 及び開発行為の 変更について関係機関との調整を 実施 中加担当者会議において市町村計 可の策定について状況説明。		環境保全型施肥技術や育林コストー格で演技術、複合技術性を有する/16年度が指揮の育成について、継続して試験を実施している。	カンキンの夏から秋季の高温時に発 生する障害の移験技術の確立に「 自りた取り組みを進めている。 ・暑熱環境下の豚では、体内の酸化リ などの生産性が低下することから生 確性を改善する飼料管理技術の開 発に取り組んでいる。 は			
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	ー定規模以上の土地を取得 が各の法律に基づく届出 が各の収録代名を行う場 合の要綱に基づく事前協議 等であり、数値としては実績 の把握しかできない。	計画通りに実施できたため。	計画通りに実施できたため。	計画通りに実施できたため。			
H24年度 評価	I	100	100	100			
H23年度 評価	ı	ı	90	100			
型 標	成果 標	成 無 計	禄	療 果 古			
H24年度の取組内容 (実績)	地取引事後屈出の利用目的 表達86件、開発行為事前協 1 件を実施。 前担当者会議において市町 計画の策定について事例説 引及び要請。	、	瀬化学肥料や減化学農業裁 性差す類し環保全型農業を 推進するために「練早海干却 地における大規模環境保全型 地における大規模環境保全型 板)を作成した。 万ケリの定着を促すために、 済女力ので着を促すために、 表技術を確立した。 存在が発掘り、理性に優れ、 表技術を確立した。 でうか病に強い抵抗性を示し、 でうか病に強い抵抗性を示して 他の項目については継続して 他の項目については継続して 他の項目については継続して は数を実施した。	温州みかんの摘果方法を改 に、耳次、目標けなど夏季の は最高年と生する障害果の軽 技術を確立した。 わい性台木を利用した生産安 おい性台木を利用した生産安 なの温州みかんは、気温の上 での温州みかんは、気温の上 で発生しやすい浮皮の発生 非制できる。			
	長崎県土地利用基本計画に基づさ、土地取引署後居出制に36 つき、土地取引署後居出制に36 ける利用目的の審定及び開発 行為等に関する個別規制法間 の調整機能を果たしていきま す。 また、国土利用計画法に基づく 国土利用計画、市町村計画の策 定について、要請、支援を行っ	環境と調和Uた農林水産業の実現に資する研究開発	環境にやさい、農林業技術を確立します。(科学技術無限期) ・ にます。(科学技術無限期) ・ 無体物の養分吸収に応じた施 肥法を検討し、環境保全型施肥 技術を確立します。 ・ 新たな育林コストの低減技術 の別発並びに林地生産力維持 のの別等並びに林地生産力維持 のための効率的下層本誘導技 術の開発を行います。 ・ 電根園を活用して健全な海岸 林の造成と更新の技術を開発します。 ・ ・ 「最大の企業を ・ 「最大のの企工」とが、 ・ 「最大の企業を ・ 「最大の企業を ・ 「最大のの企工」とが、 「最大なの企業を 「最大なの企業を 「最大なの企業を 「最大な、」、 「またな、」、 「またな、 「また	温暖化への適応技術の開発・ ・気候温暖化に対応した柑橘(力量ンセッ) 栽培技術を開発します。 ・温暖化に適した藻類増養通技 術を開発します。 ・温暖化に対応した落葉果樹の 対 生育調整柱術と省工本型施設 栽培を開発します。 ・温暖化に対応した音楽場的 方 栽培を開発します。 ・温暖化に対応した単純教 ・温暖化に対応した単純教 ・温暖化に対応した単純教			
中項目	⑤適正な土地利用の推進 ◎調査研究・技術開発の推進・監視観測の充実						
基本目標 大項目		環境保全の	ための共通的基盤的施策				

O	188	189	190	191	192	193	194	195	196
担当課	漁政課	産業技術課	環境政策課	産業振興課	産業振興課	産業振興課	グ レリーソー ボギ 華	教育環境整備課	環境政策課
	再掲	Ę	#4				年報	再揭	#*
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	ı	現状維持	I	現状維持	その他(民間事業活用を検討中)	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	H25と同様に実施	H25と同様に実施	環境放射線等モニタリング 調査(環境省)及び環境放 射能水準調査(原子力規 制庁)を受託して実施予定	引き続き、商品化研究・開発支援事業等により支援を行う。	引き続き、新たな事業化へ の取り組みに対し支援を行う。	引き続き、中核人材確保事業等により支援を行う。	対漏市(こついては、これま 「大海電機制御真原海業 周力発電設備設置の適地 周力発電設備が置の適地 電調を大利の大力ス分発 電源とかは、2001年が、イン・ジアム け、総務省の「分散型エト ロスルギーコンソー・ジアム は、総務省の「分散型エケ ルギーベンラ」プロジェケ トは、総務省の「分散型エケ ルギーベンラ」プロジェケ トは、総務省の「分散型エケ ルギーベンラ」プロジェケ トは、総務省の「分散型エケ ルギーベンラ」プロジェケ トは、2001年第一 が下の30年間面車業を 活用してネルギーベストミッ カカブランの策定を予定。 カカブランの第定を予定。 カカブランの第にを予定。 カカイエングリケーチ様 かの数字表書業(最高 を受い表表表異財団)の採択を受 を受い表表表異財団)の採択を受 を受い表表表異財団)の採択を受 は、360Mの高端搭載型い 洋上実証試験を行う。	25年度の「屋根貸し」事業 の公募状況をふまえて26 年度の事業実施の検討を 行う。また、県で整備するこ とも併せて検討を行う。	長崎県環境影響評価条例、環境影響評価法及び ・ 関助法等にかかる開発行 ・ 動助法等にかいる開発行 ・ 動について、環境に対する ・ 影響を書きし、環境に対する ・ 影響を書きし、環境に対する ・ 電を指導する。
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	有害赤潮による養殖魚のへい死を 防ぐため、現場調査、主要原因プラ ンクトンの動態予測及び有効な防除 方法の検討を実施している。		環境放射線等モニタリンが調査 (環境者) 及び環境放射能水準調査 (原子省) 及び環境放射能水準調査 (原子力規制庁) を受託して実施中。		Amillo N	中核人材確保事業等において公募、審査、採択を行い支援を実施している。 ている。	対馬市については、九州電力が平成となる。 水となるなり。実施する、毎年可能・ 制御実証事業について、環境省補 助事業の採択が変にし、回路市 については、潮流発電の事業化可能 能性調査に対し補助金を交付した。 については、対流発電の事業化のが、 い空期流発電の事業化のが、 い空期流発電の事業化のが、 いがあることが確認できた。	太陽光発電設備を民間資金の活用 2 により整備する「屋根貸し」事業を実 の 施すべくの募方法等の検討や対象 校の選定を行っている。10月中に公 募を実施する予定。	長崎県環境影響評価条例、環境影子 響評価法及び個別法等にかかる開係 発行為について、環境に対する影響 を審査し、環境保全措置を指導す る。
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	I	計画どおり実施できたため。	環境放射線等モニタリング調 査(環境省)及び環境放射能 水準調査(文部科学省)を適 切に実施済みのため。	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施できたため。	計画どおり実施できたため。	001	計画どおり太陽光発電設備 の設置予定校であった長崎 北高校に整備したため。	準備書を受理し、環境保全措置を指導した。
H24年度 評価	I	100	100	100	100	100	100	100	100
H23年度 評価	ı	100	100	100	100	100	90	1	100
評価指標	I	成果指 標	活動指 標	活動指標	活動指標	活動指標	冶	成果指 標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	情有害赤湖による養殖魚のへい 死を防ぐため、現場調査、主要 原因ブランクトンの発生機構の 解別及び有効な防除方法の検 討を実施	大学等との連携により新たな 取り組み等に関するプロジェク ト創出支援を実施し、2件のブ ロジェクトを創出した。	環境放射線等モニタリング調 産(環境省)及び環境放射能水 準調査(文部科学省)を受託し 有実施。	商品化研究・開発支援事業等 において公募、審査、助成を行 い支援事業を実施した。	新たな事業化に取り組む企業 を公募し、審査、助成を行い支 援を実施した。	中核人材確保事業等において 公募、審査、助成を行い支援を 実施した。	と対馬市においては、島内全で の防幻灯のに尼に同け、取 を表を進か、また。株件意源の 有効活用(公共施設への本質 バイオマスチップオイラーの導 バイオマスチップオイラーの導 バルキマスチップオイラーの導 ル発電や風力発電の導入等) についての調査や事業化検討 たった。 西海市においては、瀬流発 電、大陽光発電、大陽光経電、 西海市においては、瀬流発 であった。 での調査・検討を行った。 での調査・検討を行った。	太陽光発電設備については長崎北高校普通教室改築事業の中で20kwの設備を整備した。	準備書1件を受理し、審査し、2件の知事意見書を提出した。
施策内容	赤潮による漁業被害の防止・軽 減のため赤潮被害防除技術の 研究開発	中小企業基盤整備機構が運営 するでがさき出島インチュベー ダリ施設に入居する企業の新事 業創出支援を行う。	放射線に関するモニタリングや 環境放射能に関する調査の実 施		研究開発・商品開発後の新たな 事業化の支援	経営の革新や創業を行う取り組 みである「中核人、材確保」「技術 等研修」「設備投資」の面から、 企業の支援の実施	「環境実践モデル都市」の選定と 支援	太陽光発電等の再生可能エネ ルギーを利用した施設整備・省・ エネ型空調設備等の環境に配 慮したエコスクールの推進	長崎県環境影響評価条例、環境影響評価法及び個別法等に力かる開発行為の環境に対する影響を審査、指導
中項目		測の充実み、技術開発の推	注進・監視観				③環境産業の育成		進 ④環境配慮の推
基本目標 大項目						環境保<	至のための共通的基盤的施策		

o S	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206
指票群	環境政策課		環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	産業振興課	未来環境推 進課	未来環境推進課
h 場			-11			年 掲	年報			
H26年度予 算への反映 状況 (予定)	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	I	現状維持	現状維持
H26年度の取組内容 (予定)	県と環境保全協定を締結し ている4事業場に立入調査 を実施し、協定事項の遵守 状況を確認する計画。		県内保健所及び振興局、 市町にて住民からの苦情 に迅速に対応する。	申請があった場合は、適正 な処理に努める。	公害健康被害が生じた場合には、迅速な被害者の おば、迅速な被害者の 救済と健康の確保を図り、 原因究明に取り組みます。	引き続き、県庁EMSの運 営を適正に維持し改善する ための取組を行う。	県内のエコアクション21地 方事務局と協議しながら、 各団体等への働きかけを 行い、最終目標達成を目 指す。	引き続き、普及啓発等に取組んでいく。	・情報収集 ・長崎大学生活協同組合 ・長崎大学生活協同組合 関でよる井物容器デボジットの継続実施 ・ながさき環境県民会議4R 部会での検討	·産業廃棄物税基金を順資 とした事業の実施 ·産業廃棄物税効果検証
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	- 半期は実績無し。平成25年度中 、、県と環境保全協定を締結してい 3事業場に立入調査を実施し、協 事項の遵守状況を確認する計	・部局とも、平成17年に策定された 長崎県環境配慮型公共工事指針1 7の指針を最大限尊重し、公共工事 実施する。	県内保健所及び振興局、市町にて 住民からの苦情に迅速に対応する。		公害健康被害が生じた場合には、 迅速な被害者の救済と健康の確保 を図り、原因究明に取り組みます。	内部監査の充実を図るため、地方構関における相互内部監査方式の導入を図る。 入を図る。	県内のエコアクション21地方事務 局と協議しながら、県商工会連合会など県内の商工関係団体等への働きかけを行う。	ISO14001等の普及啓発のための研修会全開催している。	・情報収集 ・長崎大学生活協同組合等による井 物容器デポジットの継続実施	·産業廃棄物税基金を原資とした事 業の実施 ·産業廃棄物税効果検証調査
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	目標値を達成できた	各部局とも、平成17年に策 を 定された「長崎県環境配慮 「 型公共工事指針」等の指針 を最大限尊重し、公共工事をを 実施した。	県内保健所及び振興局、市 町にて住民からの苦情に迅 速に対応することができた。	申請のあった調停事件について、適正に処理・受付を実施したため。	I	内部監査員の確保、地方機 F 関への説明会回数について は目標を達成したが、内部 監査養成研修の受講率が目 標の90%だった。	県内における「ISO14001」及び「エコアクション21」の新規認証登録事業者: 28件/32件(累計)	計画どおり実施できたため。	・情報収集 ・長崎大学生活協同組合等 による丼物容器デボジットの 総務実施ができたが、実施 団体等の拡大にまで至らな かったため	計画どおり実施できた。
H24年度 評価	100	_	100	100	I	06	06	100	09	100
H23年度 評価	100	-	100	100	1	06	100	100	09	100
型 標	活動指標	活動指標	活動指標	活動指標	1	活動指標	成果指標	活動指標	活動 標	活動指標
H24年度の取組内容 (実績)	県と環境保全協定を締結している4事業場 旧標値:4事業場 間標値:4事業場 間線値:6事業場 場)に立入調査を実施し、協定事項の遵守状況を確認した。	各部局とも、平成17年に策定された「長崎県環境配慮型公共工事指針1等の指針を最大限重し、公共工事を実施した。	県内保健所及び振興局、市町 にで住民からの苦情に対応し た。(H24苦情受付件数963 件)	- 平成23年度に受け付けた調 序事件 (1件)について処理し た。 上。 ・ 平成25年2月に申請された調 ・ 事件 (1件)について、受け付 けた。	平成24年度は、公害健康被害 の発生はなかった。	県庁EMSの運営を適正に維持し改善するため、職員研修、内部監査員の養成、内部監査人の部監査、外部監査、外部評価等を実施した。	対す 合会 MS認 Foた。	ISO14001等の普及啓発のための研修会の開催、認証取得のためのコンサルタントの斡旋を行った。	・情報収集 ・長崎大学生活協同組合等に よる丼物容器デポジットの継続 実施	·産業廃棄物税の施行 ·産業廃棄物税を原資とした事 業の実施(11件、67,353千円)
施策内容	HIT.		公害苦情の適切かつ迅速な処理	公害紛争処理については、公害 審査委員候補者による調停、 あつせん等適正処理の実施	公害健康被害が生じた場合に は、汚染者負担の原則に基づ き、迅速な被害者の救済と健康 の確保を図る	地方機関を含めた全庁的な EMSを推進	事業者が自主的・主体的に取り 組む環境管理システムの導入 の促進	長崎県産業振興財団において、 ISO14001 等の普及啓発のため の研修会の開催と認証取得の ためのコンサルタントの斡旋	事業者がリサイクルに要する資 命の一部を拠出する制度(デポ ジット制度)の普及	産廃税を活用した様々な環境保 全への取り組みへの支援
中項目	・ 受壊境配慮の推進 ・ ⑤ 公害苦情と公害紛争等の適正処理 ・ ○環境管理システムの適切な運用 ・ ⑦環境保全効果を促進させる									
基本目標 大項目	環境保全のための共通的基盤的施策									

o S	207	208	509						
祖宗離	農業経営課	環境政策課	自然環境課						
	<b>年</b> 超	<b>一                                    </b>	<b>电</b> 略						
H26年度予 算への反映 目 状況 株況 株 (予定)	445	現状維持	現状維持						
H26年度の取組内容 (予定)	GAP推進協議会の開催(2 回)、指導者表成研修、生 産団体等への導入支援研 修会の開催等によってGA Pを推進していく。	排水基準遵守率100%を目標として、立入調査及び工場等への指導を実施する。	・長崎県希少野生動植物 の保護に関する基本方針 に基づきに関する基本方針 に基分を開びて ・自然公園区域の境界確 が生じている地区等の情 朝の蓄積等を行う。 朝の蓄積等を行う。 前に、計解に襲車業計 同に治って、島幣保護区等 の指定作業を行うとも の指定作業を行うとも の指定作業を行うととも のは後討する。						
H25年度の取組内容 (年間計画及び上半期実績)	GAP権進協議会の開催(8月、12 月)、指導者義成研修(9月)、生産 団体等への導入支援研修会の開催 等によってGAPを推進する。	平成26年度上半期の排水基準遵守 率は100%であり、引き続き立入調査 及び工場等への指導を実施する。	・希少野生動植物種保存地域の指 ・長崎県希少野生動 定におけ、核剤中、 ・自然公園区域の境界確定作業や「こ基づき変施予定。 自然環境の変化が生じている地区・自然公園区域の境 等の情報の収集類等を活っ、「一年業や目然環境。 ・第11次馬數保護事業計画に沿っが上でいる地区 で、鳥獣保護区等の指定作業を行う報の蓄積等を行う。 ・第11次島數保護事業計画に沿っ ・「第11次島數保護事業計画に沿っ ・「第11次島數保護事業計画に沿っ ・「第11次島數保護事 でいる。						
H24年度評価の理由 (施策が進んでいない理由も併せて 記載)	計画どおり実施できたため	一部の工場等による排水処理施設の不適宜な維持管理 のため、排水基準整円率に 高い水準ではあるが、100% には至らなかった。	・計画通り来了レナため。 連択内の自然の風景地の保 連携状況なり自然の園面が制 変更無く、風景地の保護等 は確保されているため。(自 然公園面積14,091 haを維持) ・計画通り完了したため。						
H24年度 評価	100	06	100						
H23年度 評価	100	06	100						
評 指 編	成果指標	顽果 標 指	成果構						
H24年度の取組内容 (実績)	GAP推進協議会の開催(8月、 12月)、指導者兼成研修(12 月)、生産団体等への導入支 援研修会の開催(24回)等に よってGAPを推進した。	工場等へ立入検査を実施し 排水差額をしたころ、排水差 準の適平は188.7%だった。 なお、排水基準に違反した工 場等に対しては指導を実施し、 精調を行った全施設で排水基 準達成を確認している。	・希少野生動植物種保存地域 として、1地域の指定を行った。 - 自然心園医域の境界確定作 業等を実施。 - 鳥獣保護区等の指定を行っ た。						
施策内容	環境保全、農産物の安全性の 向上なび農業従事者等の健康 維持・増進を図るため、「長崎県 版GAP」の推進	工場等への立入検査の実施	希少野生動植物種保存地域、 自然環境保全地域、国定公園・ 開立自然公園、鳥獣保護区の 指定・計画変更の検討						
中項目	手立て促進させるための⑦環境保全効果を	tel .							
基本目標 大項目		③環境産業の育成							

第4章 数值目標達成状況一覧

No.	1	2	က	4	2	9	7	8	6	10	11	12	13	41	15	16	17	18	19	20	21
担当課	未来環境推進課	廃棄物対策課	産業技術課·漁政課	グリーンニュー ディール推進室	教育環境整備課	環境政策課・グ リーンニューディール 推進室	未来環境推進課	都市計画課	グリーンニュー ディール推進室	森林整備室	林政課	農業経営課	未来環境推進課	環境政策課	廃棄物対策課	未来環境推進課	廃棄物対策課	廃棄物対策課	廃棄物対策課	廃棄物対策課	廃棄物対策課
達成目標値	「地球温暖化対策 実行計画」における目標	6,987万kWh	2件	500台	20校	80件 (平成23~27年 度)	1,440人 (平成21年~24年 申9計)	1,305t-CO <sub>2</sub> /年	3事例集	18,500ha (平成20~24年度 累計)	5施設	100%	50件/年	4.0以上	6回以上 (毎年度)	2回/年	850g	450.1万t	25%	%29	62%
達成年次	H27年度	H27年度	H26年度	H25年度	H27年度	H27年度	H24年度	H30年度	H26年度	H24年度	H27年度	H27年度	I	I	H27年度	ı	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度
H24年度達 成率	1	-	1	%081	100%	%88	%242%	_	%0	%16	%001	%001	%212	100%	%211	100%	-	-	-	_	-
H24年度実 績値	*	*	-	630台	9校	28件	712人	-	0事例集	16,849ha	5施設	100%	106件/年	4.0以上	70	20	集計中	*	*	*	*
H24年度目 標値	*	7,071万KWh	1	号098	9校	32件	7967	-	1事例集	18,500na (平成20年度 ~24年度累	5施設	100%	李/409	4.0以上	回9	20	8/06	*	21.2%	*	54.5%
H23年度達 成率	-	101%	-	1 44%	ı	106%	146%	_	-	94%	100%	100%	132%	100%	133%	100%	103%	_	85%	_	94%
H23年度実 績値	*	7,285万kwh	ı	361台	ı	17件	814人	ı	1	13,849ha	4施設	100%	96件/年	4.0以上	8	2回/年	944g	*	17%	*	49.1%
H23年度目 標値	*	7,245万kWh	ı	250台	-	16件	554人	-	1	14,300ha	4施設	100%	50件/年	4.0以上	回9	2回/年	916g	*	19.9%	*	52%
基準年の値	1	6,657万kWh	ı	1	8校	3/4	15人	ı	I	2,956ha	2施設	100%	I	I	3回/年	ı	965g	450.1万t	15.8%	25%	42%
基準年	H2年度	H20年度	H21年度	ı	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H20年度	H21年度	H21年度	ı	1	H21年度	ı	H20年度	H20年度	H20年度	H20年度	H20年度
数值目標項目	温室効果ガス排出量	ごみ発電量	低炭素化・グリーン化に関する技術開発件数	長崎県EV・PHVタウン構想に基づく電気自動車 導入件数	県立学校の太陽光発電システム導入校数	環境管理システムの新規認証登録件数(累計)	エコドライブ講習会参加者数	交通の分散化、ボトルネックの解消等による道 路交通の二酸化炭素排出削減量	環境実践モデル都市成果事例集	間伐面積	森林バイオマスエネルギー利用施設	病害虫予察情報提供率	第一種フロン類回収業者の立入検査件数	強酸性雨の出現防止 国設局を除く3地点での1降雨のpHの平均値の 範囲	海岸漂着物の発生抑制対策、国際協力事業の 実施回数	日韓海峡沿岸環境技術交流協議会会議の年間 開催回数	1人1日あたりの一般廃棄物排出量	産業廃棄物排出量	一般廃棄物再資源化率	產業廃棄物再資源化率(5年毎調査)	産業廃棄物再資源化率のうち多量排出事業者 再資源化率 (産業廃棄物)(毎年調査)
中項目					①温室効果ガス	の排出控制				②温室効果ガス の吸収作用の保	針と強化	③地球温暖化へ の適応策	②オゾン層の保 護対策の推進	③酸性雨対策の 推進	④漂着ごみ・漂流 油対策の推進	⑤環境保全のた めの国際的協力 の推進	①廃棄物の発生・	排出抑制		②廃棄物の再資調を受験を	
大項目						1 地球過解化效	第の推進							2 広域的な環境 活染み等の推進	7米2米2米2年年	_			1 廃棄物対策の # #		
基本目標									I 地球環境保 全をめざす社会 の実現	3									1 境境への負荷の削減と循環		

No.	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
担当課	廃棄物対策課	廃棄物対策課	廃棄物対策課	環境政策課	環境政策課	建築課	環境政策課	都市計画課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	水環境対策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	環境政策課	廃棄物対策課
達成目標値	20施設	95%	260人	100%	%08	165件	100%	1,305t-CO <sub>2</sub> /年	100%	%08	75%	80.0%	100%	100%	100%	85.0%	%0.06	100%	100%	100%	0.30 g-TEQ/年以下
達成年次	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H26年度	H27年度	H30年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度
H24年度達 成率	105%	100%	183%	100%	94%	23%	100%	-	98%	%26	73%	%66	100%	100%	98%	105%	106%	100%	93%	99%	79%
H24年度実 績値	22施設	95%	475人	100%	75.0%	53件	100%	-	%86	78%	55%	75.9%	98.7%	100%	98.2%	89.0%	95.7%	100%	93.3%	%0.66	0.47 g-TEQ/年
H24年度目 標値	23施設	95%	260人	100%	%08	96件	100%	1	100%	%08	75%	%6.97	100%	100%	100%	85%	%06	100%	100%	100%	0.37 g <sup>-</sup> TEQ/年
H23年度達 成率	100%	101%	111%	100%	%89	32%	100%	1	100%	110.0%	%26	%66	%86	100%	100%	101%	104%	100%	94%	100%	131%
H23年度実 績値	22施設	95%	7887	100%	55%	50件	100%	1	100.0%	%88	73%	75.2%	97.8%	100.0%	100%	%98	94%	100%	93%	100%	0.39 g <sup>—</sup> TEQ/年
H23年度目 標値	22施設	94%	7097	100%	%08	71件	100%	-	100.0%	%08	75%	75.8%	100.0%	100.0%	100%	82%	%06	100%	100%	100%	0.51 g-TEQ/年
基準年の値	24施設	93%	130人	100%	%99	40件	100%	ı	100.0%	76%	73%	73.6%	98.0%	100.0%	100%	84.6%	89.2%	100%	87.5%	97.2%	0.36 g <sup>-</sup> TEQ/年
基準年	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度
数値目標項目	ごみ焼却施設数	産業廃棄物処理業者の基準適合率 (立入検査回数に対する指導不要の業者数の 割合)	排出事業者研修会参加者数	ばい煙発生施設に係る排出基準遵守率 (ばい煙発生施設から排出される硫黄酸化物な どのばい煙濃度の排出基準適合施設割合)	大気に係る環境基準達成率 (県内11測定局での常時監視した結果の5物質 平均の環境基準達成率)	民間建築物の吹付けアスペスト等の除去等件 数	自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の 環境基準達成率	交通の分散化、ボトルネックの解消等による道路交通の二酸化炭素排出削減量(再掲)	河川BOD評価による環境基準達成率 (河川水質調査水域数に対する環境基準達成 水域の割合)	海域COD評価による環境基準達成率 (海域水質調査地点数に対する環境基準達成地点の割合)	<u>海域における全窒素及び全燐の環境基準達成</u> 率	污水処理人口普及率		指定施設からの排水基準遵守率 (長崎県未来につながる環境を守り育 に基づく指定施設への立入検査時お からの排水の排水基準遵守率)	有害物質使用特定事業の排水基準遵守率 (重金属等の有害物質を使用している特定事業 場について、排水経査を実施した結果、排水基準に適合した事業場の割合)	騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率 (環境騒音)	騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率 (自動車騒音)	ダイオキシン類に係る環境基準達成率	施設に係るダイオキシン類の排出基準遵守率	自主測定及び報告の遵守率	市町が設置する一般廃棄物処理施設のダイオ キシン類排出量
中項目		の理の推進 の理の推進 の理の推進 ()大気汚染防止 対策の推進 ()自動車排出ガ ()相削対策の推 ()相削対策の推 ()相削対策の推						人ないがあるまでは、一人は、一人は、一人は、一人は、一人は、一人は、一人は、一人は、一人は、一人	章 章 章 章 章	の お い い は い が い が が の 体 の が が が が が が が が が が が が が が が		②生活排水対策 の推進	③工場・事業場等	排水対策の推進	①土壌環境の保 全	①騒音・振動・悪	臭対策の推進		③ダイナナシン語	削減対策の推進	
大項目		1 廃棄物対策の 推進			2 大气暗谱の保	<b>★</b>				3 水環境の保全			夕日 子野田 子っ	3. 小垛块0.1床土	4 土壌・地盤環 境の保全	5 騒音・振動・悪	臭対策の推進		6 化学物質の環	塩リスク対策の推進	
基本目標										<b>₩</b>	1 塩境への負荷の削減と循環	型 なましくり									

No.	43	44	45	46	47	48	49	20	51	52	53	54	22	56	57	28	29	09	61	62	63	64
<b>業</b> 原財	自然環境課	自然環境課	自然環境課	林政課	自然環境課	自然環境課	自然環境課	料政課	農山村対策室	湖川郎	監理課	湯如默	農山村対策室	都市計画課	未来環境推進課	未来環境推進課	未来環境推進課	未来環境推進課	未来環境推進課	環境政策課・グ リーンニューディール 推進室	環境政策課・グ リーンニューディール 推進室	農業経営課
達成目標値	216回	8岩類	22か所	49,500ha	4地域	1,370万人	465.4km	8.0	628軒	7,400人	270万m³	125集落	1,120集落	14市町	10%	75%	90.0万人	70回 3,500人	1,300回	80件 (平成23~27年 度)	80件 (平成23~27年 度)	1401
達成年次	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年	H27年度	H27年度	H27年度	H24年度	H25年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度	H27年度
H24年度達 成率	109%	100%	113%	101%	100%	101%	100%	113%	128%	106%	114%	104%	%86	%08	-	%88	-	114%	147%	%88	%88	132%
H24年度実 績値	235回	5地域	17か所	49,372ha	2地域	1,357万人	46.54km	%06	713軒	丫906′2	237万m³	116集落	1,077集落	8市町	24%	63%	集計中	65回 3,685人	1,244回	28件	28件	108件
H24年度目 標値	216回	5地域	15か所	19,000ha	2地域	1,340万人	465.4km	%08	556軒	7,400人	270万m³	112集落	1,102集落	10市町	ı	72%	73.6万人	60回 3,075人	848回	32件	32件	82件
H23年度達 成率	128%	100%	112%	100%	100%	%96	115%	104%	125%	111%	116%	104%	105%	%68	1	95%	1	103%	109%	106%	106%	118%
H23年度実 績値	276回	4地域	13か所	48,984ha	1地域	1,279万人	465.4km	83%	636軒	7,132人	257万m³	117集落	1,092集落	8市町	20%	%89	*	61回 3,058人	912回	17件	17件	90件
H23年度目 標値	216回	4地域	12か所	48,830ha	1地域	1,330万人	435.4km	%08	510軒	6,400人	300万m³	112集落	1,040集落	9市町	1	71%	73.1万人	60回 2,900人	830回	16件	16件	76件
基準年の値	I	2地域	4か所	48,134ha	1地域	1,320万人	235.4km	ı	410軒	3,000人	300万m³	112集落	1,038集落	4市町	32%	70%	71.2万人	52回 3,408人	795回	34	34	59件
基準年	ı	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年	H21年度	-	H21年度	H20年度	H22年度	H22年度	H21年度	H21年度	H21年度	H22年度	H20年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度
数値目標項目	自然公園等巡視回数(職員による巡視回数)	希少野生動植物種保存地域の指定地域数	線といきもの賑わい事業(生物多様性保全)実 ・施箇所数	保安林面積	自然環境を活かした先進的な地域づくりに取り 組む地域数	自然公園利用者数	自然歩道の延長	県民の森利用者の満足度割合	農林漁業体験民宿の開業軒数	水辺での活動に参加した人数	海砂採取の年間限度量	環境保全活動取り組み集落数	資源保全活動取り組み集落数	景観計画を策定した市町数	「こみの投げ捨て等防止重点地区」の散乱こかの割合(地区指定前と比較した散乱ごみの割合)		環境学習への参加者数	環境アドバイザーの派遣数と参加者数	生ごみ減量化リーダーの活動回数	環境管理システムの新規認証登録件数(累計) (再掲)	環境管理システムの新規認証登録件数(累計) (再掲)	農業生産工程管理(GAP)取り組み件数
中項目	①自然環境の監 視・調査研究の推 E 進	推・調査研究の推 機・調査研究の指 会と再生 会と再生 会と再生 会とのものものない。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						l I		②目然とのふれ あいの機会の提 件	②华令经济证罪	のなる語がある。これの一つでは、これでの適切なった。	民民	①快適な生活環時の創造と差し、	30号 高 こ 大 い い ら る な と い く い り と か な と い く り の 上 推 無 無 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	①学校等におけ 2 頭棒粉を 頭棒	②環境数員・環境 学習等の推進	②社会における 環境教育・環境学 I 習等の推進	②県民の環境保 全に向けた取り 組みの推進	③事業者の環境 保全に向けた取 り組みの推進	<ul><li>⑥環境管理システムの適切な運用と普及の促進</li></ul>	⑦環境保全効果 を促進させるため の手立て
大項目		物多様性の	采						2 自然とのつな がりの回復						境と歴史的環境 の保全と創造		1 環境教育・環			保全行動の推進		
基本目標							田 人と自然とが サー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	共生する状態な環境づくり											ーシップによる 境づくり		V 環境保全の	にあり、大声の楽館的施策

## 第5章 数値目標の進捗状況個表

## 基本目標 I 地球環境保全をめざす社会の実現

基本目標 I 地球	環境	竟保全	をめ	ざす社会	会の実現	ļ				
指標 1		計画策定	≧時の値	H23年度	H24	年度	\ <del>-</del>       -	H25年度	H26年度	最終目標値
	344_	(H2车	F度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H32年度)
温室効果ガス排出量	数値	931.	7万t	*	*	*	-	*	*	837.5万t (森林吸収 量を除く。)
指標の説明			目標値	▲ の設定理由と	達成後の姿			<u> </u>		I
県内の温室効果ガス総排出ガスの排出量に地球温暖化保らを合算したもの)			「長崎県	地球温暖化落	対策実行計画	〕」における目	標値			
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその					-L set- 15					
●平成24年度目標の達成状況 	2 :	□ 達成	□ 概:	ね達成 □	未達成					
※平成23年度排出量の推計に	必要	な統計デ-	−タは、፯	平成26年3月こ	ごろ把握予定	0				
【今後に向けた対策·方向性】 東日本大震災と東京電力福 た削減目標(1990年比、2020年 業を進めていく。										
【H26予算への反映状況(予定	)]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定		廃止 口 る	その他(			)		
									未来	環境推進課
指標 2	1	計画策定	₿時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
11111		(H20		実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
ごみ発電量	数値	6,6577			7,071万kWh	*	_		7,046万kWh	
指標の説明			目標値	┃ の設定理由と	:達成後の姿					
長崎県内の市町が家庭等かみを焼却処理する過程で得ら				焼却に伴って		I 헤이디바. 표	利用太炽迷:	ナスための日	押し ア歌ウ	1 = 1 +
す。 ごみ焼却施設では、ごみを燃 る余熱を利用してごみ発電を行	やしっ	て発生す	この目	が選択に行っては 標が達成され ででである。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	こることにより	、余熱利用の	推進が図ら			
ます。 分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	)要因	分析]								
●平成24年度目標の達成状況	2:	□ 達成	□ 概:	ね達成 口	未達成					
※平成24年度の実績値は、平 現在、県内市町の5施設に なお、平成23年度のごみ発 動している。	らいて	余熱利用	発電設備	#が設けられ		加傾向にある	る。焼却トラフ	ブル等によるホ	家動停止もな	く、順調に稼
【今後に向けた対策·方向性】 循環型社会の構築や低炭素	社会(	の実現に向	りけ、ごみ	みの有効利用	を図るため、	国の交付金制	制度を活用し	、発電施設 <i>の</i>	)導入を推進	していく、。
【H26予算への反映状況(予定	)]									
【H26予算への反映状況(予定 □ 拡充予定 ■ 現状維持	-	縮小予定	€ □	廃止 口 る	その他(			)		

指標	3			計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度	**	H25年度	H26年度	最終目標値
			数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H26年度)
	素化・グリ 開発件数	一ン化に関する	値	-	_	-	-	-	-	-	2件	2件
指標	の説明				目標値の	の設定理由と	:達成後の姿					
		)再生可能エネル 所の開発件数。	<b>/ギ</b> -	−利用技	県内産 を図る。	業への再生	可能エネルキ	· 一利用技術	や省エネ技術	がの開発によ	り、産業振興	と低炭素化
5	ì析·検証											
【平成	.24年度 <i>σ</i>	達成状況とその	要因	l分析】								
●平月	成24年度	目標の達成状況	:	□ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
		然)エネルギーを ティ研究(本格的							エネルギーと	して、温泉熱	を利用してオ	K温を調節す
大具 ※	学のアド/ 体的内容 LCA:ライ	を活用した陶磁 ドイスにより、LC : LCAソフトウェ カーボンフット フサイクルアセン かによる地球や生	Aのア「N プリン	計算ソフト MiLCA(み ントに関す 小(Life (	を開発・ るか)」の るセミナ- Cycle As	普及している。 導入および、 ーの開催 sessment : L	産業環境管理操作方法の配 操作方法の配 CA)とは、製	<b>習熟</b>				
【今後	に向けた	対策·方向性】										
陸二学経み者に 呑費期に	上養殖振 等の知り 等研究「化 ここを にここと にこれ になる は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	然)エネルギーを 関プロジェクト事 養殖システムの打 を活素社会対応 を活素社会対応 販廃田のよいで 販売し、アンケー 学製造に関してLC トリを表示した一	業術製製のトスを	一環とし、開発に取り造におけ、 カーボン 力ーボン 値を実施 (北九州市	て、水温記り組んでいる省エネにの開発(H フットプリンした。また 「立)大学	間節にかかる いる。⇒漁政証 評価技術の研 124~26年度 ントの認定を こ、県内陶磁 と共同研究の	ランニングコ、 果記入 住立 )」のなかで、 受けるととも! 器製造に適用 よる予定であ	ストを削減す LCAの算出 こ、このカーオ 引できるカーオ る。H26年度1	スキームの確 ドンフットプリ ドンフットプリ ま、湯呑みを	を立に取り組み ント認定製品 ント算定ソフト 含む特定の	か、H25年度 を陶器まつい も開発した。	上期には、湯 Jで、一般消 H25年度下
【H26	予算への	反映状況(予定)	1									
□拡	充予定	■ 現状維持	_							)		
		※現状維持は、	産業	技術課担	当分(陶	磁器製造)に	ついての状況	7			産業技	術課·漁政語
指標	4		I	計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標低
	-					実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H25年度)
EV(電	気自動す	i) 及びPHV (プラ ッド白動車) の道	数值			ンベルス		7C19C10E				

指標 4		計画策定	官時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
こい(命与白動主) みがロッパポニ	数			実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H25年度)
EV(電気自動車)及びPHV(プラグインハイブリッド自動車)の導入台数	値	-	-	361台	350台	630台	180%	500台	1	500台
指標の説明			目標値の	り設定理由と	達成後の姿					
県内のEV等導入台数です。			れると、児		動車が、平月			目標としてい 100倍となり、		
分析·検証										

【平成24年度の達成状況とその要因分析】

●平成24年度目標の達成状況: ■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成

●平成24年度目標の達成状況: ■達成 □ 概ね達成 □ 未達成 当該事業は、電気自動車(EV)、ブラグインハイブリッド自動車(PHV)の普及のためのモデル事業の実施地域として選定された「長崎県EV・PHVタウン」構想を推進するため、電気自動車の導入や充電インフラの整備を促進する市町や民間企業等に対する全国有数の補助制度を導入し、EV等の普及による低炭素社会の実現、EV等と地域資源を活用した地域活性化を図ることを目的とした事業である。 ①県内の市町及び民間事業者等がEVを導入し、EVの普及に資する活動を実施する場合、その導入に係る経費の一部を助成し、導入支援を行った。 (平成21年度 12台 平成22年度 12台 平成23年度 12台 平成24年度 3台) ②県内の市町及び民間事業者等が急速充電器を導入し、一般開放を行い、EVの普及に資する活動を実施する場合、その導入に係る経費の一部を助成し、導入支援を行った。 (平成21年度 2台 平成23年度 12台 平成24年度 3台) ②県内の市町及び民間事業者等が急速充電器を導入し、一般開放を行い、EVの普及に資する活動を実施する場合、その導入に係る経費の一部を助成し、導入支援を行った。 (平成22年度 2基 平成24年度 3基) ③EV・PHVの普及促進を図るためのアンケート調査を実施し、その結果等を取りまとめた普及啓発用パンフレットを作成した。 (平成22年度 パンフレット作成 15,000部) その結果、長崎市が公用車として導入し、様々なイベント時にEVを活用するなど普及啓発促進に取り組むとともに、タクシー会社による導入や、自動車整備事業所がEV普及を見越した整備技術習得のために導入するなど、民間事業者も今後のEV普及促進につながる活動を展開した。また、これまで急速充電器未整備地域であった西海市西彼支所への急速充電器の設置など、EV用充電設備の整備促進を進めているといには、対策、生の性1

【今後に向けた対策・方向性】

、「後に同じくのである。 「長崎県EV・PHVタウン」構想において設定した、平成25年度の県内のEV等導入台数500台は達成したが、県内を電欠なくEVが走行できるための充電設備は不十分であるため、今後も県内の適正な充電設備の配置を促進するための普及啓発・支援を行う。

□ 拡充予定 □ 現状維持 □ 縮小予定 ■ 廃止 □ その他(

グリーンニューディール推進室

	_									
指標 5			定時の値		H24		達成率	H25年度		最終目標値
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
県立学校の太陽光発電システム導入校数	値		14				4000			2044
		8-	校	_	9校	9校	100%	_	_	20校
指標の説明			目標値の	D設定理由と	達成後の姿					
各市町ごとに県立学校1校  (市町モデルとして設置)			この目 ります。	標が達成され	んると、温室効	果ガスの排	出を抑制する	ことができ、	地球環境保全	全の一助とな
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	1	■ 達成	□概	ね達成 □	未達成					
長崎北高校の普通教室棟改領	王哥	事において	C20kwの	太陽光発電部	は備を設置しる	<b>ました。</b>				
【今後に向けた対策·方向性】										
学校施設についても、環境への								整備推進を図	図る必要があ	りますが、依
然として導入コストが高いという そのため、民間資金の活用に								ⅎ		
でのため、民間要並の治別に	2.03			でもつにり及ぶ		、政権政臣と	XIIO CO &	9 0		
【H26予算への反映状況(予定)	1									
□ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	<b>€</b> □ .	廃止 ■ そ	の他(民間事	事業の活用を	検討)			
									教育	<b>ī環境整備課</b>
指標 6		計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
1618							達成家			
JE174	坳		年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
環境管理システムの新規認証	数値		年度)	実績値	目標値	実績値	達成率 	目標値	目標値	(H27年度) 80件
		(H21	年度) —— 件	実績値 17件	32件	実績値 28件	達成率	目標値	目標値 64件	80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証登録件数(累計)		(H21	件	17件	32件					80件
環境管理システムの新規認証		(H21	件		32件					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明	値	(H21	件	17件	32件					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証登録件数(累計)	値	(H21	件	17件	32件					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明	値	(H21	件	17件	32件					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入した場	(中国)	(H21 3 企業数	件	17件	32件					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入した。	<b>製</b> 中国	(H21 3 企業数 分析】	件 目標値(	17件	32件 達成後の姿					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入したり 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	<b>製</b> 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	(H21 3 企業数 分析】	件 目標値(	17件	32件 達成後の姿					80件 (平成23~
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入したり 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	中国 中	(H21 3 企業数 分析】	目標値(	17件 の設定理由と	32件 達成後の姿 未達成	28件	88%	48件	64件	80件 (平成23~ 27年度)
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明  環境管理システムを導入した。  分析・検証  【平成24年度の達成状況とその  ●平成24年度目標の達成状況  主な環境マネジメントシステムしたガイドラインに基づく「エコア	<u>値</u> 県内1 要 (EV:)	(H21 3 企業数 分析】 」達成 IS)のうちョン21」に	件 目標値 版 、「ISOI	17件  D設定理由と  は達成  4001」の認証  全国及び県ク	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても	28件	88% 県内において る。本県でに	48件 48件 Cも減少傾向 t「エコアクシ	64件	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入したり 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステム	<u>値</u> 県内1 要 (EV:)	(H21 3 企業数 分析】 」達成 IS)のうちョン21」に	件 目標値 版 、「ISOI	17件  D設定理由と  は達成  4001」の認証  全国及び県ク	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても	28件	88% 県内において る。本県でに	48件 48件 Cも減少傾向 t「エコアクシ	64件	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証  【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステム	<u>値</u> 県内1 要 (EV:)	(H21 3 企業数 分析】 」達成 IS)のうちョン21」に	件 目標値 版 、「ISOI-	17件  D設定理由と  は達成  4001」の認証  全国及び県ク	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても	28件	88% 県内において る。本県でに	48件 48件 Cも減少傾向 t「エコアクシ	64件	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証  【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステム	<u>値</u> 県内1 要 (EV:)	(H21 3 企業数 分析】 」達成 IS)のうちョン21」に	件 目標値 版 、「ISOI-	17件  D設定理由と  は達成  4001」の認証  全国及び県ク	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても	28件	88% 県内において る。本県でに	48件 48件 Cも減少傾向 t「エコアクシ	64件	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証  【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステム	<u>値</u> 県内1 要 (EV:)	(H21 3 企業数 分析】 」達成 IS)のうちョン21」に	件 目標値 版 、「ISOI-	17件  D設定理由と  は達成  4001」の認証  全国及び県ク	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても	28件 28件 28 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	88% 県内において る。本県でに	48件 48件 Cも減少傾向 t「エコアクシ	64件	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステムしたガイドラインに基づく「エコア携し、商工会連合会の研修会な	値 専 要 に の と に の に の に の に の に の に の に の に に の に る に 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に	(H21 3 3 企業数 分析] 違いのうちョン21」にEM よ県内のの	件 目標値 の、「ISO1・ ついては IS認証の	17件  の設定理由と  は達成  ■  4001」の認証  全国及び県  が会計  のは、  は、  4001」の  は、  4001 の  は、	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても かけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においっ る。本県でに 或しなかった	48件 48件 に も減少傾向 に に い い い い い い い い い 。 。 。 。 。 。 。 。 。	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 域事務局と連
環境管理システムの新規認証登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステムしたガイドラインに基づく「エコア携し、商工会連合会の研修会な	値 専 要 に の と に の に の に の に の に の に の に の に に の に る に 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に	(H21 3 3 企業数 分析] 違いのうちョン21」にEM よ県内のの	件 目標値 の、「ISO1・ ついては IS認証の	17件  の設定理由と  は達成  ■  4001」の認証  全国及び県  が会計  のは、  は、  4001」の  は、  4001 の  は、	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても かけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においっ る。本県でに 或しなかった	48件 48件 に も減少傾向 に に い い い い い い い い い 。 。 。 。 。 。 。 。 。	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 域事務局と連
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明  環境管理システムを導入した。  分析・検証  【平成24年度の達成状況とその  ●平成24年度目標の達成状況  主な環境マネジメントシステム したガイドラインに基づく「エコア携し、商工会連合会の研修会な  【今後に向けた対策・方向性】  今後、「エコアクション21」につ	値 専 要 に の と に の に の に の に の に の に の に の に に の に る に 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に	(H21 3 3 企業数 分析] 違いのうちョン21」にEM よ県内のの	件 目標値 の、「ISO1・ ついては IS認証の	17件  の設定理由と  は達成  ■  4001」の認証  全国及び県  が会計  のは、  は、  4001」の  は、  4001 の  は、	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても かけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においっ る。本県でに 或しなかった	48件 48件 に も減少傾向 に に い い い い い い い い い 。 。 。 。 。 。 。 。 。	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 域事務局と連
環境管理システムの新規認証登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証  【平成24年度の達成状況とその ● 平成24年度目標の達成状況  主な環境マネジメントシステム したガイドラインに基づく「エコア 携し、商工会連合会の研修会な 【今後に向けた対策・方向性】 今後、「エコアクション21」についきかけを行い、最終目標達成を		(H21 3 3 企業数 分析] 違いのうちョン21」にEM よ県内のの	件 目標値 の、「ISO1・ ついては IS認証の	17件  の設定理由と  は達成  ■  4001」の認証  全国及び県  が会計  のは、  は、  4001」の  は、  4001 の  は、	32件 達成後の姿 未達成 登録について 引においても かけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においっ る。本県でに 或しなかった	48件 48件 に も減少傾向 に に い い い い い い い い い 。 。 。 。 。 。 。 。 。	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 域事務局と連
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)  指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・ 中成24年度目標の達成状況 ・ 主な環境マネジメントシステムしたガイドラインに基づく「エコア携し、商工会連合会の研修会な 【今後に向けた対策・方向性】 ・ 今後、「エコアクション21」についきかけを行い、最終目標達成を	値 東 (P)ど い目 】	(H21) 3 企業数 分析 達 3 のうちょうと 1 3 2 2 1 3 1 に EM よす。	件 目標値 い、「ISO1 いいでは MS認証の	17件 の設定理由と は達成 ■ 4001 Jのび駅から 全国国及働きか ション21地方 事	32件 達成後の姿 未達成 登録についてもないてもないけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においっ る。本県でに 或しなかった	48件 48件 (も減少傾向シ (など県内の	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 域事務局と連
環境管理システムの新規認証登録件数(累計) 指標の説明 環境管理システムを導入した。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 主な環境マネジメントシステムしたガイドラインに基づく「エコア 携し、商工会連合会の研修会な 【今後に向けた対策・方向性】 今後、「エコアクション21」についきかけを行い、最終目標達成を	値 東 (P)ど い目 】	(H21) 3 企業数 分析 達 3 のうちょうと 1 3 2 2 1 3 1 に EM よす。	件 目標値 い、「ISO1 いいでは MS認証の	17件 の設定理由と は達成 ■ 4001 Jのび駅から 全国国及働きか ション21地方 事	32件 達成後の姿 未達成 登録についてもないてもないけを行ったか	28件 28件 増加傾向で <i>あ</i> が、目標に達	県内においる。本県では あ。本外った	<ul><li>48件</li><li>48件</li><li>10</li><li>11</li><li>12</li><li>13</li><li>14</li><li>14</li><li>15</li><li>16</li><li>17</li><li>17</li><li>18</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><li>19</li><l< td=""><td>であるが、環 コン21」の地均</td><td>80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 或事務局と連 本等への働</td></l<></ul>	であるが、環 コン21」の地均	80件 (平成23~ 27年度) 境省が策定 或事務局と連 本等への働

指標 7		計画策定	官時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H24年度)
エコドライブ講習会参加者数	数値	15	人	814人	294人	712人	242%	-	-	1,440人 (H21~24 の累計)
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
県民向け 6回 300人 事業者向け3回 135人 行政向け 3回 45人 台 480人×3年=1,440人	計4	80人			おける温室効 ーの改善と事			えとともに、た	ガソリンや軽え	由等、燃料
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況			□概相	a達成 □	未達成					
本県においては、運輸部門のえ、エコドライブによる二酸化炭 への普及啓発を実施した。平成 となり、目標を達成した。	素排	出量の削	減等環境	負荷の低減	のほか、経済	的な有用性	や交通安全	面での効果を	含めて講習:	会による県民
【今後に向けた対策·方向性】 最終年度である平成24年度を る新たな仕組の構築について検			を終了し、	平成25年度	以降において	「は、民間を流	舌用しながら。	より幅広く県B	民にエコドライ	′ブを普及す
【H26予算への反映状況(予定) ■ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	È 🗆 1	廃止 口 そ	その他(			)	<del>*</del> *	環境推進課
									<i>7</i> (7)	<b>以</b> 先正正际
指標 8		計画策定	官時の値	H23年度	H24:	年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
交通の分散化、ボトルネックの	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	连风平	目標値	目標値	(H30年度)
解消等による道路交通の二酸 化炭素排出削減量	値	-	-	-	1	-	-	-	-	1,305t− CO <sub>2</sub> /年
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
鉄道の高架化による交通の分 ネックの解消等により削減される の量です。					ると、高架化さ スが抑制され					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
現在、早期の高架化工事着工	に向	けて、車	<b>両基地移</b>	転工事、用地	9交渉など鋭減	意進めている	0			
【今後に向けた対策·方向性】 他の公共事業同様、予算確保 ル調整を密接に行い、早期の高						の他事業(九	州新幹線、土	⊏地区画整理	事業等)との	スケジュー
【H26予算への反映状況(予定)	1									
□ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	È 🗆 J	廃止 □ そ	その他(			)		都市計画課

指標 9	Ī	計画策	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	2864-	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H26年度)
環境実践モデル都市成果事例 集	数値		-	_	1事例集	0事例集	0%	2事例集 (累計)	3事例集 (累計)	3事例集 (累計)
指標の説明		l	目標値の	■ の設定理由と	:達成後の姿					
環境実践モデル都市における とめた事例集を作成する。	成果	を取りま	業振興の するかし イナリー ており、「	「環境に 関連 では、 では、県「いの内の では、では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	た取組を支持 予地域におけ 関事例集」作り クトや東長崎 デル都市推進 票としていた「	爰し、その取糸る新たな取組 る新たな取組 或前に、既に エコタウン構 進事業」におけ 成果事例集」	I成果を「成!  の展開を図 モデル都市り 想など)にお ける所定の目	果事例集」としることとしてい ないととしてい 以外の複数のいて自発的に 標が一定達所	て取りまとめた。 た。 地域(小浜で こプロジェクト 成されたと判	)、情報共有 での温泉熱バ が展開され 断される。
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	コ 達成	□ 概≉	ぬ達成 ■	未達成					
環境実践モデル都市として、平 対馬市においては、島内全で ラーの導入)や島全体の省エネ 西海市においては、潮流発電 いずれの都市においても、新 調査・検討を行うなど、一定の成	の防 化(プ 、太 、 エネ、	犯灯のLE は陽光発電 場光発電 省エネ設	D化に向電や風力を 、木質バス 、体質の導入	け、取替えを発電の導入等 発電の導入等 イオマスを活り 、を推進すると	進め、また、減 等)についての 用した事業化	森林資源の有 )調査や事業 などについて	化検討を行っている。	った。 対を行った。		
【今後に向けた対策・方向性】										
長崎県総合計画に掲げる「ナン ていくものとして、「ナガサキ・グ る「対馬プロジェクト」「西海プロ 風力、木質バイオマスを活用しい に海域の特性を活かし、地元企	リーン ジェク と発す	ンニューラ 가」はこれ 電事業の	ディール戦 れまでの環 創出によ <sup>り</sup>	略プロジェク 環境実践モデ る島内におけ	ト」を新たに ル都市の取糸 るエネルギー	構築し、平成2 且を発展させた −自立を目指	5年度から実 たもので、「対 し、「西海プロ	施する。戦略 †馬プロジェク コジェクト」につ	プロジェクト ト」について	の一つであ は、太陽光、
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 □ 現状維持						実践モデル都	市は平成24	年度をもって	廃止。平成25	5年度から新
たに戦略プロジェクトとして「対原	ラノト	「ハエクト」	・四海ノロ	コンエクト」をま	<b>に他。</b> )			グリ-	-ンニューディ	(一ル推准室
指標 10		計画策	定時の値	H23年度	H24	年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H20	年度)	実績値	目標値	実績値	连成平	目標値	目標値	(H24年度)
間伐面積	値	2,9	56ha	13,849ha	18,500ha (平成20~ 24年度累 計)	16,849ha	91%	2,645ha	2,755ha	2,875ha
指標の説明 搬出間伐と伐捨間伐の合計実	逐施面	積です。	国では 林の吸収 haの間付	の設定理由と 、京都議定書 又量により確保 は等森林整備 らいて、年平均	『で国際約束 保することを [ iを推進するこ	目標とし、平成 こととなりました	は19年度から た。本県でも	平成24年度0 、平成20年度	D6年間で、年 から平成244	F間約55万 F度までの5
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: 1	■ 達成	□ 概≉	ね達成 口	未達成					
国庫補助事業の活用を図ると 対して、平成19年に創設した「な										
【今後に向けた対策·方向性】										
「ながさき森林環境税」を活用	する	対象を拡	<b>廿Ⅰ</b>	は借本林の慗	備における者	· 林所有老角	扫を軽減する	るとともに、市	町が公益的	こ重要と位

)

森林整備室

【H26予算への反映状況(予定)】

□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(

指標 11		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	-1-1	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
森林バイオマスエネルギー利 用施設	数値	2旅	<b>五</b> 設	4施設	5施設	5施設	100%	5施設	5施設	5施設
指標の説明			目標値の	し の設定理由と	達成後の姿					
木質のチップを燃やし、温泉旅 おいて熱利用をしている施設数			この目標		ウン構想に ることにより、 がります。					
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 新たな木質バイオマスエネル め、菌床椎茸生産施設をはじめ	:	■ 達成 -を利用す	る機運か		に、林野庁の			用施設の整	備を推進して	いる。このた
【今後に向けた対策·方向性】 木質バイオマスボイラーを推進行う。 【H26予算への反映状況(予定)		ため、収	支シミュレ	<b>ノーションの</b> 身	そ施による導力	人促進や森林	木整備加速化	•林業再生事	業等による	<b>鼻入助成を</b>
■ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	定 口 1	廃止 口 そ	その他(			)		
										林政課
指標 12		計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	Net.	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
病害虫予察情報提供率	数 ——				100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
発生予察情報を配信すべき農 機関等に対して発生予察情報を 合です。				<b>終情報を、農業</b>	え、農作物の 集関係指導機					
分析·検証			•							
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: 1	■ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
24年度は県、市町、農協、農	業共	済組合の	各出先機	関や関係団	体等、予定し	た207箇所で	すべてに、メー	ール、FAXIこ	より計画どおり	り配信した。
【今後に向けた対策・方向性】 発生予察情報は病害虫防除所	<b></b>	-ムペーシ	ジでも公開	しており、より	り多くの農業	者が情報を入	、手できるよう	o、PRに努める	3.	
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定 口 /	廃止 口 そ	その他(			)		農業経営課

特別											
素物館 目標値 実務館 目標値 日標値	指標 13		計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
展		Net.			実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	
■ 大田・東京 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本				_	66件/年	50件/年	106件/年	212%	50件/年	50件/年	50件/年
■ 大田・東京 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本) 日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本 (日本	指標の説明			日標値の	┃ の設定理由と	·達成後の姿					
□ 平成24年度目標の達成状況とその要因分析]  ● 平成24年度目標の達成状況と・■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成  平成25年1~2月にかけて、未来環境推進課10件、県立保健所40件(内限については、西後保健所7件、県央保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県南保健所8件、県市保健所8件、県・東保健所2件、国・基保健所20件、コール・電景を実施した。  「今後に向け7年対策・方向性] 東外部には20年度、東線には10年の10年の10年の第20年度の東京では10年の日本の根には20年度 東線には10年の日本の開始に10年の日本の発送等の人体ででは10年度 東線に関係を関係に対しませ、東線に関係の発展の発展を収益点での10年度の提供の発展の発展を収益点での10年度の単位になど生態系への被害を防ぎます。  ・ 分析・検証 「中内24年度日産の発展が、原本の保護である40以上を達成した。  ・ 分析・検証 「中内24年度日産の達成状況・■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成 □ 飛び後は市、佐世保市、藤甲市)での1降雨ごとのPHの年平均値は、4.54~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  「今後に向けた対策・方向性] ・ 今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  「今後に向けた対策・方向性] ・ 今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  「日本の予定・同様である4.0以上を達成した。)  ・ 本語の表に対している。 ・ 本語成 □ 根は □ 表は1.454~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  「今後に向けた対策・方向性] ・ 本語の表に対している。 ・ 本語成 □ 根は □ 表は1.454~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  ・ 本語成 □ 根が表に対している。 ・ 本語成 □ 根は1.454~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  「日本の予定・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・原性・	業務用の冷凍空調機器等の外用されているフロン類は、オゾンまた、地球温暖化をもたらす要す。フロン回収破壊法に基づい	層を	破壊し、 ありま	法に規	定されている	回収基準及		己録報告等を	、フロン回収	業者に遵守る	きせることに
●平成24年度目標の達成状況: ■ 達成 □ 概わ達成 □ 未達成  平成25年1~2月にかけて、未来環境推進議10件、農立保健所40件(内限については、西値保健所7件、農央保健所6件、農産保健所6件、農産保健所3件、対局保護所3件の計40件、1の計50件の立入検査目電数を指すたが、結果として未来環境推進議30件、長立保健所6件、共産保護所3件、対局保護所3件の計40件、初計50件の立入検査目数を指すたが、結果として、表現保護所4件、五局保健所7件、県市保護所7件、県市保護所7件、県北保護所7件、東北保護所7件、県北保護所7件、東京保護所7件、東京保護所列第、東京保護所列第、	分析·検証										
平成25年1~2月にかけて、未来環境推進課10件、県立保健所5件、県市保健所5件、対馬保健所3件の計40件、の計50件の立入検査目参数を掲げたが、結果として未来環境推進議39件、東立保健所5件、対馬保健所5件、対馬保健所3件の計40件、の計50件の立入検査目参数を掲げたが、結果として未来環境推進議39件、県立保健所5件、内内訳については、西彼保健所2件、東外保健所11件、県市保健所17件、県北保健所2件、五島保健所2件、五島保健所2件、東海保健所5件、対馬保健所5件の計67件。別かけ100件の立入検査を実施した。  【令後に向けた対策・方向性】 現外事業所を登録期間15年間に1回立ち入ることができるよう末目標を設定しているが、今後も可能な限り多くの事業者に立入検査を実施するように努める。具体的には、建設リサイクル法合同パトロール(毎年5、10月)における解体工事現場等への立入時に、プロン回収破壊法の観点での指導・周知を実施する。  【426年算への反映状況(予定)】  「統元予定 ■ 現状維持 「 縮小予定	【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
北保健所4件、五島保健所4件、上五島東部外件、上五島東部外件、大統保健所5件、対馬保健所14の件。の計ら0件の立入検査目標数を制力たが、結果として未来環境性態394件、東口保健所14件、県北保健所24件、工品保健所24件、工品保健所24件、共和保健所24件、工品保健不品保健所24件、工品保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证保证	●平成24年度目標の達成状況		■ 達成	□概≉	ね達成 口	未達成					
[H26予算への反映状況(予定)] □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )    未来環境推進課   指標	北保健所4件、五島保健所4件、 して未来環境推進課39件、県立 健所2件、上五島支所2件、壱岐 【今後に向けた対策・方向性】 県内事業所を登録期間(5年間 るように努める。具体的には、強	上保保保	:島支所3 注所67件( 注所8件、対 1回立ち <i>)</i>	件、壱岐( 内訳につ 対馬保健F 、ることが	保健所5件、対 いては、西彼 所5件の計67 <sup>.</sup> できるよう本	対馬保健所30件。 保健所20件。 件。)の計106 目標を設定し	牛の計40件。 、県央保健所 3件の立入検: ているが、今	)の計50件の 11件、県南保 査を実施した 後も可能な降	)立入検査目 保健所17件、! :。 艮り多くの事	標数を掲げた 県北保健所2 集者に立入検	⊆が、結果と 件、五島保 査を実施す
□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( ) 未来環境推進課     指標	点での指導・周知を実施する。   										
□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(	【H26予算への反映状況(予定)	1									
指標 14 計画策定時の値 H23年度 H24年度 達成率 目標値 (H27年度) 要額値 目標値 実額値 目標値 (H27年度) 要額値 目標値 実額値 目標値 (H27年度)			縮小予算	定 口 ;	廃止 口 そ	その他(			)		
強酸性雨の出現防止 (国政局を除く3地点での1降雨の中の平均値の範囲)  (H21年度) 実績値 目標値 実績値 実績値 目標値 (H27年度)  4.0以上 4.0以上 100% 4.0以上 4.										未来	:環境推進課
強酸性雨の出現防止 (国政局を除く3地点での1降雨の中の平均値の範囲)  (H21年度) 実績値 目標値 実績値 実績値 目標値 (H27年度)  4.0以上 4.0以上 100% 4.0以上 4.											
強酸性雨の出現防止 (国政局を除く3地点での1降雨の中の平均値の範囲)  (H21年度) 実績値 目標値 実績値 実績値 目標値 (H27年度)  4.0以上 4.0以上 100% 4.0以上 4.	指標 14	I	計画等	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終日煙値
強酸性雨の出現防止 (国設局を除く3地点での1降雨のpHの平均値の範囲)	11100							達成率			
強酸性雨(pH4. 0未満)の出現を防止します。  強酸性雨の出現防止により、目や皮膚への刺激等の人体被害のほか、森林の枯死や湖沼の酸性化など生態系への被害を防ぎます。  分析・検証 【平成24年度の達成状況とその要因分析】 ●平成24年度目標の達成状況: ■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成 県内3調査地点(長崎市、佐世保市、諫早市)での1降雨ごとのpHの年平均値は、4.54~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  【今後に向けた対策・方向性】 今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【日26予算への反映状況(予定)】 □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(	(国設局を除く3地点での1降雨			-				100%			
す。 性化など生態系への被害を防ぎます。	指標の説明		I	目標値の	の設定理由と	達成後の姿			<u> </u>		<u> </u>
【平成24年度の達成状況とその要因分析】  ●平成24年度目標の達成状況: ■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成  県内3調査地点(長崎市、佐世保市、諫早市)での1降雨ごとのpHの年平均値は、4.54~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  【今後に向けた対策・方向性】  今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【H26予算への反映状況(予定)】  □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )		現を	防止しま					激等の人体	被害のほか、	、森林の枯死	や湖沼の酸
●平成24年度目標の達成状況: ■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成 県内3調査地点(長崎市、佐世保市、諫早市)での1降雨ごとのpHの年平均値は、4.54~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  【今後に向けた対策・方向性】 今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【H26予算への反映状況(予定)】 □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )											
県内3調査地点(長崎市、佐世保市、諫早市)での1降雨ごとのpHの年平均値は、4.54~4.68で目標値である4.0以上を達成した。  【今後に向けた対策・方向性】  今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持してい、。  【H26予算への反映状況(予定)】  □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )						-L sub- P					
【今後に向けた対策·方向性】     今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【H26予算への反映状況(予定)】     □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )	■平成24年度目標の達成状況 ■		■ 達成	□概	ね達成 口	未達成					
今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【H26予算への反映状況(予定)】  □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )	県内3調査地点(長崎市、佐世	:保市	5、諫早市	i)での1階	条雨ごとのpH	の年平均値に	t、4.54∼4.68	3で目標値で	ある4.0以上を	を達成した。	
今後も3地点で酸性雨調査を実施し、100%達成を維持していく。  【H26予算への反映状況(予定)】  □ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( )											
□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(											
□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(		実施	し、100%	達成を維	持していく。						
□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(		実施	L、100%	達成を維	持していく。						
	今後も3地点で酸性雨調査を		L、100%	達成を維	持していく。						

指標 15			計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
			(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
海岸漂着物の発生 国際協力事業の第		数 値	3回.	/年	8回	6回	7回	117%	6回	6回	6回以上 (毎年度)
七冊の計画				口描法/	の記与理由し	法式後の次					
指標の説明					の設定理由と						
海岸漂着物に関 査、普及啓発事業				投棄等防	方止等の環境	て、生活に起版 教育や普及 境保全対策で	啓発事業を実	『施し、発生批	印制対策が浸	透していくこ	とにより、直
分析·検証											
【平成24年度の達	成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目材	票の達成状況	: 1	■ 達成	□概≉	ぬ達成 □	未達成					
本県には外国由・環境月間街頭・ながさきエコ・ ・日韓市民ビー・日韓海峡沿岸	頁キャンペーン ライフ・フェスタ -チクリーンアッ	(パキ (パキ <sub>ソ</sub> プ()	トル展示等 トル展示) 対馬市)	等) ·人 ·NE	と環境にやさ	さしいふるさと フト海辺の漂流	推進大会(パ	『ネル展示)		実施し目標を	達成した。
【今後に向けた対	笙. 方向性】										
引き続きNPO団		連携	<ul><li>協力して</li></ul>	啓発事業	美を実施し、治	産岸漂着物の	発生抑制の	推進を図り、	目標達成を目	指す。	
312,982.11.01	H-1 10-3 5 C	~	<i>())), ) 3 G G</i>	. 4 70 7 7	KC )(110 K)	471 1X7E 1X42	) <u> </u>	EZCE X			
【H26予算への反		_	<u> </u>								
□拡充予定	■ 現状維持		縮小予算	定 口 !	廃止 口 そ	その他(			)		
										<b>A</b>	棄物対策課
+b+== 1.0			計画生	マロの店	山の左座	ПОЛ	左座		山丘左连	山の左中	<b>具</b> 级口播店
指標 16			計画策算	定時の値		H24:		達成率	H25年度		最終目標値
	***	数	計画策算	定時の値	H23年度 実績値	H24:	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値
指標 16 日韓海峡沿岸環 議会会議の年間[		数値	計画策算	定時の値				達成率			最終目標値
日韓海峡沿岸環境			計画策算	_	実績値	目標値 2回/年	実績値		目標値	目標値	
日韓海峡沿岸環 議会会議の年間 指標の説明 九州北部3県及	開催回数び山口県と韓	国南	岸1市3	目標値の	実績値 2回/年 の設定理由と	目標値 2回/年 達成後の姿	実績値	100%	2回/年	2回/年	2回/年
日韓海峡沿岸環 議会会議の年間 指標の説明	開催回数 び山口県と韓 ける環境問題ヤ	国南の環境	岸1市3 竟行政施	目標値の日韓海	実績値 2回/年 の設定理由と 映を挟む両は	目標値 2回/年	実績値 2回/年	100%	目標値 2回/年 同事業を実施	2回/年	2回/年
日韓海峡沿岸環 議会会議の年間! 指標の説明 九州北部3県及い 第等に関する情報	開催回数 び山口県と韓 ける環境問題ヤ	国南の環境	岸1市3 竟行政施	目標値の日韓海	実績値 2回/年 の設定理由と 映を挟む両は	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共通の	実績値 2回/年	100%	目標値 2回/年 同事業を実施	2回/年	2回/年
日韓海峡沿岸環境 議会会議の年間 指標の説明 九州北部3県及 道の両地域におけ 策等に関する情報 協議します。	開催回数 び山口県と韓 ナる環境問題ヤ 最交換と共同事	国南は	岸1市3 竟行政施 こついて	目標値の日韓海	実績値 2回/年 の設定理由と 映を挟む両は	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共通の	実績値 2回/年	100%	目標値 2回/年 同事業を実施	2回/年	2回/年
日韓海峡沿岸環境 議会会議の年間間 指標の説明 九州北部3県及 道の両地域におい 策等に関する情報 協議します。 分析・検証	開催回数 び山口県と韓 ける環境問題や 駅交換と共同事 」 成状況とその	国南環境	岸1市3 竟行政施 こついて 分析】	目標値の 日韓 術の向上	実績値 2回/年 の設定理由と は峡を挟む両はこを図るととも	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共通のいこ、日韓両地	実績値 2回/年	100%	目標値 2回/年 同事業を実施	2回/年	2回/年
日韓海峡沿岸環 議会会議の年間間 指標の説明 九州北地域におい 策等に関する情報 協議します。 分析・検証 【平成24年度の達	開催回数 び山口県と韓 ける環境問題や 服交換と共同事 成状況とその 票の達成状況	国57季 要	岸1市3 竟行政施 こついて 分析】 ■ 達成	日標値の 日韓海 術の向上	実績値 2回/年 の設定理由と 映を挟む両は上を図るととも	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共通の に、日韓両地 未達成	実績値 2回/年 2テーマで環 地域の友好と	100% 意に関する共相互理解を浮	目標値 2回/年 同事業を実施 のます。	目標値 2回/年 をすることに。	2回/年
日韓海峡沿岸環境 議会会議の年間記 指標の説明 九州北部3県及い 策等に関する情報 協議します。 分析・検証 【平成24年度の達 ●平成24年度目標	開催回数  び山口県と韓児・ 環境問題  成状況とその  成状況とその  成状況によれて、  第46日にかけて、	■   国の選集   要 : 福   及りの	岸1市3 第行のいて 分析】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	目標値の 日韓海 日韓 海 日 東 務 者 を表 で 公 表 す の 公 表 す そ の 公 表 す そ の 公 ま す と の 公 ま す と な も ま す と な も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す ま す	実績値 2回 / 年 の設定理由と でとととも は、	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共韓両地 未達成 。平成24年10 かいた。 ない24年10	実績値 2回/年 2回/年 カ域の友好と 月17~19日(	100% 意に関する共 相互理解を影	目標値 2回/年 同事業を実 のます。 韓民国釜山瓜	目標値 2回/年 をすることに。 な域市で第2[	2回/年
日韓海峡沿年間間 指標の説明 九州両関する。 近等にします。 分析・検証 「平成24年度目材 平成24年7月4~ 議を実施。 「今後に5年12月の月~平成2成25年6月	開催回数  び山口県と韓児・ 環境問題  成状況とその  成状況とその  成状況によれて、  第46日にかけて、	■   国の選集   要 : 福   及りの	岸1市3 第行のいて 分析】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	目標値の 日韓海 日韓 海 日 東 務 者 を表 で 公 表 す の 公 表 す そ の 公 表 す そ の 公 ま す と の 公 ま す と な も ま す と な も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す ま す	実績値 2回 / 年 の設定理由と でとととも は、	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共韓両地 未達成 。平成24年10 かいた。 ない24年10	実績値 2回/年 2回/年 カ域の友好と 月17~19日(	100% 意に関する共 相互理解を影	目標値 2回/年 同事業を実 のます。 韓民国釜山瓜	目標値 2回/年 をすることに。 な域市で第2[	2回/年
日韓海族 指標の説明 九州両関すす。 力析・検証 ・ 中 平成24年7月4~ ・ 東京 成24年7月4~ ・ 東京 成24年7月4~	開催回数  び山口県門の場合では、	重な で	岸1市3 第行のいて 分析】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	目標値の 日韓海 日韓 海 日 東 務 者 を表 で 公 表 す の 公 表 す そ の 公 表 す そ の 公 ま す と の 公 ま す と な も ま す と な も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す も ま す ま す	実績値 2回 / 年 の設定理由と でとととも は、	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共韓両地 未達成 。平成24年10 かいた。 ない24年10	実績値 2回/年 2回/年 カ域の友好と 月17~19日(	100% 意に関する共 相互理解を影	目標値 2回/年 同事業を実 のます。 韓民国釜山瓜	目標値 2回/年 をすることに。 な域市で第2[	2回/年
日韓海峡沿年間間 指標の説明 九州両関する。 近等にします。 分析・検証 「平成24年度目材 平成24年7月4~ 議を実施。 「今後に5年12月の月~平成2成25年6月	開催回数  び山口県と韓 ける環境と関 の表	重	岸1市3 第行のいて 分析】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	目標値の 日韓向 日韓向 田東の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月の公8月	実績値 2回 / 年 の設定 理由と を図る ととと は 議を 実施 に (	目標値 2回/年 達成後の姿 地域が共韓両地 未達成 。平成24年10 かいた。平成24年10 かいを行う。 (PM2.5)に関	実績値 2回/年 2回/年 カ域の友好と 月17~19日(	100% 意に関する共 相互理解を影	目標値 2回/年 同事業を実 のます。 韓民国釜山瓜	目標値 2回/年 をすることに。 な域市で第2[	2回/年

## 基本目標Ⅱ 環境への負荷の削減と循環型社会づくり

指標 17		計画架	定時の値	山の左帝	ПОЛ	年度		山佐佐田	山の左中	<b>里</b> 级口播店
指標 17							達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
4.1.ロナナリの 如皮充物性	数	(H20	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値 ———	目標値	(H27年度)
1人1日あたりの一般廃棄物排 出量	値		\ <del>-</del>	044	007	#=1 -	#=1 -	222	000	050
		96	35g	944g	907g	集計中	集計中	888g	869g	850g
指標の説明			月標値(	D設定理由と	·達成後の姿					
長崎県内の家庭等から排出さ				棄物の排出		I ろための日:	連り て設定	<b>=</b>   <i>t</i> -		
日当たりの一般廃棄物の量で、 集量、直接搬入量、集団回収量			この目	標が達成され	ることにより				廃棄物の最	終処分量の
人口から算出したものです。	-20		減少など	ごの効果が生	じます。					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:	. [	コ 達成	□概≉	ね達成 口	未達成					
 	₹26≄	₹3月に把	!握できる	予定。						
平成23年度の1人1日あたりの 策連絡協議会を開催し、県内市										
計画の各種取組を、ながさき環境								21176601	_, _ < 6 1/3	.n.cc天成
【今後に向けた対策・方向性】										
長崎県廃棄物対策連絡協議会 展開について検討を行い、目標				減及び再資	源化率の向_	とに向けた先	進的な取組	事例を参考に	、各市町の台	う後の施策
【H26予算への反映状況(予定)	1									
□ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	定 口 /	廃止 口 そ	その他(			)		
									廃	棄物対策課
长福 10		計画生	マ味の店	山の左座	ПЭ4	<b>左</b>		山丘左连	山の左左	<b>皇终日</b> 博
指標 18			定時の値			年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
指標 18	数		定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24 目標値	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
指標 18 産業廃棄物排出量	数値	(H20	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
		(H20					達成率			
産業廃棄物排出量		(H20	年度) 1万t	実績値 ※	目標値 ※	実績値	達成率 -	目標値	目標値	(H27年度)
		(H20	年度) 1万t 目標値(	実績値 ※ ※ の設定理由と	目標値 ※ 達成後の姿	実績値	-	目標値	目標値	(H27年度)
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動に	値	(H20 450.	年度) 1万t 目標値の 産業廃	実績値 ※	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進す	実績値 ※ ぶ るための目	- - 票として設定	目標値 ※ しました。	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動に れる産業廃棄物の量です。	値	(H20 450.	年度) 1万t 目標値の 産業廃	実績値 ※ の設定理由と 葉物の排出相標が達成され	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進す	実績値 ※ ぶ るための目	- - 票として設定	目標値 ※ しました。	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動に れる産業廃棄物の量です。 分析・検証	伴い	(H20 450.	年度) 1万t 目標値の 産業廃	実績値 ※ の設定理由と 葉物の排出相標が達成され	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進す	実績値 ※ ぶ るための目	- - 票として設定	目標値 ※ しました。	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	催の	(H20 450. 排出さ 分析]	年度)  1万t  目標値位  産業廃 この目:減少など	実績値 ※ の設定理由と 棄物の排出相標が達成され での効果が生	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進することにより じます。	実績値 ※ ぶ るための目	- - 票として設定	目標値 ※ しました。	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動に れる産業廃棄物の量です。 分析・検証	催の	(H20 450. 排出さ 分析]	年度)  1万t  目標値位  産業廃 この目:減少など	実績値 ※ の設定理由と 葉物の排出相標が達成され	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進することにより じます。	実績値 ※ ぶ るための目	- - 票として設定	目標値 ※ しました。	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその・ ●平成24年度目標の達成状況	催要に	(H20 450. 排出さ 分析】	年度) 1万t 目標値の 産業廃目 減少など	実績値 ※ の設定理由と 棄物の排出指標が達成され での効果が生	目標値 ※ 避成後の姿 抑制を推進することにより じます。	実績値 ※ るための目 、産業廃棄物	ー 一 で設定で で排出量が	目標値 ※  よました。産業	目標値	(H27年度) 450.1万t
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその) ●平成24年度目標の達成状況とその。 ※各年度の目標値については、平成24年度は、産業廃棄物排	値 伴 要 5出	(H20 450. 排出さ 分析】 「達成 に業者(建	年度) 1万t 目標値の産ニックなど で系、製	実績値 ※ の設定理由と 乗物の排出 出標が達成 の効果が生 は を で の 設定 に で の 数 果 が 生 に を 変 に で の 数 果 が と に で の 数 果 が と に で る で と の 系 、 と で 条 べ に で る そ い で る で か ま い で で あ そ い で る で か ま い で か ま い で か ま い で か ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で ま い で ま い で あ ま い で	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進すり いることにより にます。	実績値 ※ るための目1 、産業廃棄物 よ平成25年原	票として設定がの排出量が	目標値 ※ しました。産業 企となる。	目標値 ※	(H27年度) 450.1万t 終処分量の
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその。	値 伴 要 5出	(H20 450. 排出さ 分析】 「達成 に業者(建	年度) 1万t 目標値の産ニックなど で系、製	実績値 ※ の設定理由と 乗物の排出 出標が達成 の効果が生 は を で の 設定 に で の 数 果 が 生 に を 変 に で の 数 果 が と に で の 数 果 が と に で る で と の 系 、 と で 条 べ に で る そ い で る で か ま い で で あ そ い で る で か ま い で か ま い で か ま い で か ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で ま い で ま い で あ ま い で	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進すり いることにより にます。	実績値 ※ るための目1 、産業廃棄物 よ平成25年原	票として設定がの排出量が	目標値 ※ しました。産業 企となる。	目標値 ※	(H27年度) 450.1万t 終処分量の
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその) ●平成24年度目標の達成状況とその。 ※各年度の目標値については、平成24年度は、産業廃棄物排	値 伴 要 5出	(H20 450. 排出さ 分析】 「達成 に業者(建	年度) 1万t 目標値の産ニックなど で系、製	実績値 ※ の設定理由と 乗物の排出 出標が達成 の効果が生 は を で の 設定 に で の 数 果 が 生 に を 変 に で の 数 果 が と に で の 数 果 が と に で る で と の 系 、 と で 条 べ に で る そ い で る で か ま い で で あ そ い で る で か ま い で か ま い で か ま い で か ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で ま い で ま い で あ ま い で	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進すり いることにより にます。	実績値 ※ るための目1 、産業廃棄物 よ平成25年原	票として設定がの排出量が	目標値 ※ しました。産業 企となる。	目標値 ※	(H27年度) 450.1万t 終処分量の
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその) ●平成24年度目標の達成状況とその。 ※各年度の目標値については、平成24年度は、産業廃棄物排	値 伴 要 5出	(H20 450. 排出さ 分析】 「達成 に業者(建	年度) 1万t 目標値の産ニックなど で系、製	実績値 ※ の設定理由と 乗物の排出 出標が達成 の効果が生 は を で の 設定 に で の 数 果 が 生 に を 変 に で の 数 果 が と に で の 数 果 が と に で る で と の 系 、 と で 条 べ に で る そ い で る で か ま い で で あ そ い で る で か ま い で か ま い で か ま い で か ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で あ ま い で ま い で ま い で あ ま い で	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進すり いることにより にます。	実績値 ※ るための目1 、産業廃棄物 よ平成25年原	票として設定がの排出量が	目標値 ※ しました。産業 企となる。	目標値 ※	(H27年度) 450.1万t 終処分量の
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・平成24年度目標の達成状況とその ・平成24年度は、産業廃棄物排理、排出抑制及びリサイクル推定 は、産業廃棄物排理、排出抑制及びリサイクル推定	値 伴 要 5出生 5 日生 1	(H20 450. 排出さ 分析] ご業者(関連)	年度) 1万t   標 産こ少 概 る製った あ の	実績値 ※ の設定理由と 乗物の様のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進より である。 である。 を は である。 を を は で が で 、 の 、 の の の の の の の の の の の の の の の の	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	値 伴 要 5出生 者	(H20 450. 排出さ 分析] ご業者(関連)	年度) 1万t   標 産こ少 概 る製った あ の	実績値 ※ の設定理由と 乗物の様のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進より である。 である。 を は である。 を を は で が で 、 の 、 の の の の の の の の の の の の の の の の	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・平成24年度目標の達成状況とその ・平成24年度は、産業廃棄物排理、排出抑制及びリサイクル推定 は、産業廃棄物排理、排出抑制及びリサイクル推定	値 伴 要 5出生 者	(H20 450. 排出さ 分析] ご業者(関連)	年度) 1万t   標 産こ少 概 る製った あ の	実績値 ※ の設定理由と 乗物の様のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進より であることにより 未達成 いない。次び 関係)及び多	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	値 伴 要 5出生 者	(H20 450. 排出さ 分析] ご業者(関連)	年度) 1万t   標 産こ少 概 る製った あ の	実績値 ※ の設定理由と 乗物の様のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進より であることにより 未達成 いない。次び 関係)及び多	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその・ ●平成24年度目標の達成状況とその・ ・平成24年度目標の達成状況・ ※各年度の目標値については、平成24年度は、産業廃棄物排理、排出抑制及びリサイクル推対 は、非出抑制及びリサイクル推対 「今後に向けた対策・方向性」 引き続き産業廃棄物排出事業 いて周知し、目標達成を目指す。	値 伴 要 5出生 者。	(H20 450. 排出さ 分析] ご業者(関連)	年度) 1万t   標 産こ少 概 る製った あ の	実績値 ※ の設定理由と 乗物の様のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 の対象のでは、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	目標値 ※ 達成後の姿 抑制を推進より であることにより 未達成 いない。次び 関係)及び多	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処
産業廃棄物排出量 指標の説明 長崎県内において事業活動にれる産業廃棄物の量です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況とその ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	値 伴 要 5出態 者。	(H20 450. 排出さ 分析】 成 調建用 で まて で まて で ますで ます。	年度) 1万t 目標 産業のなど 概 る製った で系、図 事業 書	実績値 ※ 理由と 説を で	国標値 ※ (後の姿ではより) ままず。 はままず。 はままず。 なな(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なび(ない。) なが(ない。) なが(ない。) なが(ない。) はいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいにい	実績値 ※ るための目れ 、産業廃棄物 ま平成25年展 ま量排出事業	票として設定が の排出量が をデータの調 者を対象に研	目標値 ※ よした、産業 業 を会をを実施	目標値 ※ 廃棄物の最 産業廃棄	(H27年度) 450.1万t 終処分量の 物の適正処

指標 19		計画策定時の値	H23年度	H24	年度	法代本	H25年度	H26年度	最終目標
	gu.	(H20年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度
一般廃棄物再資源化率	数値	15.8%	17.0%	21.2%	*	_	22.5%	23.8%	25%
指標の説明			の設定理由と	達成後の姿					
一般廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります	の再	-   一般廃 - <sub>上 利 田</sub>   この目	棄物の再生標が達成されまし、循環型を	いることにより	、一般廃棄物	の再生利用	量の増加、最	<b>貴終処分量の</b>	)削減など(
分析·検証		•							
 平成24年度の達成状況とその	要因	分析】							
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成 □ 概	ね達成 □	未達成					
平成23年度の一般廃棄物再資 義会を開催し、県内市町と排出 重取組を、ながさき環境県民会 今後に向けた対策・方向性】 長崎県廃棄物対策連絡協議会	量の議・場	削減及び再資源化 【民・事業者・民間	:率を向上させ 団体等と連携	せるための方 ・協力して行	策について核 った。	食討を行うとと	:もに、ゴミゼ!	口ながさき実	践計画の
<b>展開について検討を行い、目標</b>				. •					
H26予算への反映状況(予定)	]								
			ст. L	- MH (			)		
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定	発止 口 な	その他(			,		
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定 口	発止 口 で	の他(			,	序	<b>蓬棄物対策</b>
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定 口	発止 口 仓	TOJ1世(			,	序	蓬棄物対策
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定 口	発ഥ 口 仓	TOTE(			,	序	<b>ጅ棄物対策</b>
		縮小予定 □ 計画策定時の値	発止 □ で		年度	達成家	, H25年度	序 H26年度	養物対策 最終目標
					年度 実績値	達成率			
指標 20 <b>全業廃棄物再資源化率</b> (5年毎	数値	計画策定時の値	H23年度	H24		達成率	H25年度	H26年度	最終目標
指標	数	計画策定時の値 (H20年度) 55%	H23年度 実績値 ※	H24 目標値 ※	実績値	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標 (H27年原
指標 20 全業廃棄物再資源化率(5年毎	数値	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値	H23年度 実績値 ※ の設定理由と	H24 目標値 ※ 達成後の姿	実績値	_	H25年度 目標値 ※	H26年度 目標値	最終目標 (H27年)
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 調査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物	数値	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産業廃 この目標の目	H23年度 実績値 ※	H24 目標値 ※ 達成後の姿 利用を促進すり	実績値 ※	- - 標として設定 の再生利用	H25年度 目標値 ※ しました。、 、 、 、 、	H26年度 目標値 ※	最終目標 (H27年原 62%
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 調査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります 分析・検証	数値 消 再	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産業廃 での目 効果が生	H23年度 実績値 ※ の設定理由と 乗物の再生:標が達成され	H24 目標値 ※ 達成後の姿 利用を促進すり	実績値 ※	- - 標として設定 の再生利用	H25年度 目標値 ※ しました。、 、 、 、 、	H26年度 目標値 ※	最終目標 (H27年) 62%
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎期査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります 分析・検証	数値 消 再	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産業廃 での目 効果が生	H23年度 実績値 ※ の設定理由と 乗物の再生:標が達成され	H24 目標値 ※ 達成後の姿 利用を促進すり	実績値 ※	- - 標として設定 の再生利用	H25年度 目標値 ※ しました。、 、 、 、 、	H26年度 目標値 ※	最終目標 (H27年) 62%
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 調査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります	数値 資源 再 因	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産業廃 生利用 効果が生	H23年度 実績値 ※ の設定理由と 棄物の再生:標が達成され による。 では、循環型を	H24 目標値 ※ 達成後の姿 利用を促進すり よることにより t 会への転換	実績値 ※	- - 標として設定 の再生利用	H25年度 目標値 ※ しました。、 、 、 、 、	H26年度 目標値 ※	最終目標 (H27年) 62%
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎期査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物が促進されていることになります 分析・検証 平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 ※各年度の目標値については、 平成24年度は、産業廃棄物排	数値 資の。 要 : 5出	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 企産業廃 生利用 効果が全 分析】 」達成 概2	H23年度 実績値 ※ の設定理由と 乗物のの表達環型を は、循環型を は、企業成 ロである。	H24 目標値 ※ 達成後の姿 進りり れることに転換 未達成 、次の転換	実績値 ※ るための指え、産業廃棄すが一層進む	標として設定 のの再生利用 ことになりま	H25年度 目標値 ※ しました。 量がある。	H26年度 目標値 ※ 最終処分量の	最終目標 (H27年) 62% 削減など
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 調査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります 分析・検証 平成24年度の達成状況とその ● 平成24年度目標の達成状況 ※各年度の目標値については、 平成24年度は、産業廃棄物排	数値 資の。 要 : 5出	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 企産業廃 生利用 効果が全 分析】 」達成 概2	H23年度 実績値 ※ の設定理由と 乗物のの表達環型を は、循環型を は、企業成 ロである。	H24 目標値 ※ 達成後の姿 進りり れることに転換 未達成 、次の転換	実績値 ※ るための指え、産業廃棄すが一層進む	標として設定 のの再生利用 ことになりま	H25年度 目標値 ※ しました。 量がある。	H26年度 目標値 ※ 最終処分量の	最終目標 (H27年) 62% 削減など
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります 分析・検証 平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 ※各年度の目標値については、 平成24年度は、産業廃棄物 乗乗・物排出事 乗出抑制及びリサイクル推 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	数値 資の。要 : 5出進 者	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産この果が生 分析】 一 達成 一 概が生 分析】 一 であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま	H23年度 実績値 ※ 理理由と 乗物達環型社 は達成 ロで系 によれば、 にまれば、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも	H24 目標値 ※ 後の変すり 利用を促に取り はることの転換 未達成 、次び り関係)及び	実績値 ※ るための指すを発達する。 を業務を表する。 は、一番を発表を表する。 は、一番を表する。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ま	標として設定原の再生利まで ことになりまで ででする。 でする。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	H25年度 目標値 ※ しましか。 よなの を会をを実施	H26年度 目標値 ※ 最終処分量の	最終目標 (H27年) 62% 削減など
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合でなると、廃棄物が促進されていることになります 分析・検証 (平成24年度の達成状況とその ● 平成24年度目標の達成状況 ※各年度の目標値については、 平成24年度は、産業廃棄物排出 理、排出抑制及びリサイクル推 は、 できた。 できたた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できたる。 できたた。 できた。 できたた。 、 できたた。 、 できたた。 、 できたた。 できたた。 、 できたた。 できた	数値 変の。要:5出進 者。	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産この果が生 分析】 一 達成 一 概が生 分析】 一 であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま であるがま	H23年度 実績値 ※ 理理由と 乗物達環型社 は達成 ロで系 によれば、 にまれば、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも、 にも	H24 目標値 ※ 後の変すり 利用を促に取り はることの転換 未達成 、次び り関係)及び	実績値 ※ るための指すを発達する。 を業務を表する。 は、一番を発表を表する。 は、一番を表する。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ま	標として設定原の再生利まで ことになりまで ででする。 でする。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	H25年度 目標値 ※ しましか。 よなの を会をを実施	H26年度 目標値 ※ 最終処分量の	最終目標 (H27年) 62% 削減など
指標 20 産業廃棄物再資源化率(5年毎 調査) 指標の説明 産業廃棄物排出量に対する再 行った量の割合です。 この数値が高くなると、廃棄物 が促進されていることになります 分析・検証 「平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 ※各年度の目標値については、 平成24年度は、産業廃棄物排 里、排出抑制及びリサイクル推:	数値 資の。 要 5出進 者。 】	計画策定時の値 (H20年度) 55% 目標値 産産の間 効果が生 分析】 一 達成 ロ 概が との調査設立のが との調査設系と図った。 ことの調査を変え、こび多量排出事業者	H23年度 実績値 ※理由と ※理の再とでである。 を対象でである。 は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	H24 目標値 ※ の姿 促によい は会への転換 またない。 次び を実施し 修会を実施し	実績値 ※ るための指すを発達する。 を業務を表する。 は、一番を発表を表する。 は、一番を表する。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ままる。 ま	標として設定原の再生利まで ことになりまで ででする。 でする。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	H25年度 目標値 ※ しましか。 よなの を会をを実施	H26年度 目標値 ※ 最終処分量の	最終目標 (H27年) 62% 削減など

指標 21		計画策定時	の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	l	(H21年度	隻)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
産業廃棄物再資源化率のうち 多量排出事業者再資源化率 (産業廃棄物)(毎年調査)	数値	42%		49.1%	54.5%	*	-	57%	59.5%	62%
指標の説明			標値の	の設定理由と	達成後の姿					
法の規定により産業廃棄物の 生利用等に関する計画及び実施 義務がある多量排出事業者にお 棄物排出量に対する再資源化を 割合です。	担状えなける	抑制、再 兄の提出 多 6産業廃 毎	多量排 事年度	出事業者に調査により把	おける産業廃	内の多量排出		「るための指揮 「資源化率を		
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況:		· · · · · · -	」概∤	a達成 □	未達成					
※平成24年度の実績値は、平成 平成22年度の横ばいから、平成 業者の建設系に加え製造系、医 進について周知を図った。今後:	23 <sup>4</sup> 療系	∓度は再資源 <関係及び多	を 記事 記事	が、49.1%と. 出事業者を対	象に研修会					
【今後に向けた対策·方向性】 引き続き産業廃棄物排出事業 いて周知し、目標達成を目指す。		び多量排出	事業者	音を対象に研	修会を実施し	<b>,</b> , 産業廃棄物	勿の適正処理	<b>匙、排出抑制</b> 》	及びリサイクル	ル推進につ
【H26予算への反映状況(予定) □ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定		廃止 □ そ	その他(			)	廃	<b>棄物対策</b> 課
		計画策定時	の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
指標 22		田田水龙町					读成家			
指標 _ 22	坐布	(H21年度		実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
指標 22 ごみ焼却施設数	数値		复)		目標値 23施設	実績値	達成率	22施設	21施設	(H27年度) 20施設
		(H21年度 24施設	度)	実績値	23施設					
ごみ焼却施設数	排出	(H21年度 24施設 <u>目</u> こ されるご を こ こ	度) 標値の ごみ処。 図るたこの目	実績値 22施設 22施設 22施設 22施設 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 1施設数を集	22施設 トキシン類の 約する目標と 、ダイオキシ	105% 発生の少ない として設定しま ン類の発生初	22施設 22施設 高度な処理 にした。 ID制、効率的7	21施設	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等から	排出	(H21年度 24施設 <u>目</u> こ されるご を こ こ	度) 標値の ごみ処。 図るたこの目	実績値 22施設 22施設 22施設 22施設 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 1施設数を集 いることにより	22施設 トキシン類の 約する目標と 、ダイオキシ	105% 発生の少ない として設定しま ン類の発生初	22施設 22施設 高度な処理 にした。 ID制、効率的7	21施設	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等から みを焼却処理する施設の数です	排出。	(H21年度 24施設 <u>目</u> : ごされるご を と こ	度) 標値の ごみ処。 図るたこの目	実績値 22施設 22施設 22施設 22施設 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 1施設数を集 いることにより	22施設 トキシン類の 約する目標と 、ダイオキシ	105% 発生の少ない として設定しま ン類の発生初	22施設 22施設 高度な処理 にした。 ID制、効率的7	21施設	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証	排出 要因	(H21年度 24施設 はされるご をこ どの	標値のごみるたこの効果	実績値 22施設 22施設 D設定理由と では域的に 対象に、み成され 標が達じ、資源	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 1施設数を集り ふことにより 京循環型社会	22施設 トキシン類の 約する目標と 、ダイオキシ	105% 発生の少ない として設定しま ン類の発生初	22施設 22施設 高度な処理 にした。 ID制、効率的7	21施設	20施設
ごみ焼却施設数 「指標の説明」 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証 「平成24年度の達成状況とその	植 排出 要 日	(H21年度 24施設 目: されるご をこ どの 分析】 ■ 達成 □	度) 標値の公式のの効果 概々	実績値 22施設 D設定理由と 理を広域焼劫が達成が発力である。 標が生じ、資源	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 可施設数を集 いることにより 原循環型社会 未達成	22施設 - キシン類の 約する目標と 、ダイオキシ への転換が	105% 発生の少ない して設定しま として 数の発生が 進むことにな	22施設 い高度な処理 した。 即制、効率的が ります。	21施設が可能な施言な処理(に伴う	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況	植 排出 要 日	(H21年度 24施設 目: されるご をこ どの 分析】 ■ 達成 □	度) 標値の公式のの効果 概々	実績値 22施設 D設定理由と 理を広域焼劫が達成が発力である。 標が生じ、資源	23施設 達成後の姿 こ行い、ダイス 可施設数を集 いることにより 原循環型社会 未達成	22施設 - キシン類の 約する目標と 、ダイオキシ への転換が	105% 発生の少ない して設定しま として 数の発生が 進むことにな	22施設 い高度な処理 した。 即制、効率的が ります。	21施設が可能な施言な処理(に伴う	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況	値がある。要によづき	(H21年度 24施設 目 ごごとの 分析】 ■ 達成 □	度) 標値のの対象 概様 類 が 類 に 対象 が 関 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が	実績値 22施設 22施設 理由とご 域の 22 施設 理由とご 3 が達生じ、資源 はまれば 2 で 3 で 3 で 3 で 3 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4	23施設 達成後の姿 に行い、ダイス 施設数を集り のることによ会 東循環型社会 未達成	22施設 22施設 (キシン類の (おするイオを (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの	105% 発生の少なは にて設の発生 に と が ことにな を むことにな	22施設 22施設 い高度な処理 した。 即制、効率的がります。	21施設が可能な施言な処理に伴う	20施設
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 長崎県ごみ処理広域化計画にま	値がある。要によづき	(H21年度 24施設 目 ごごとの 分析】 ■ 達成 □	度) 標値のの対象 概様 類 が 類 に 対象 が 関 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が 対象 が	実績値 22施設 22施設 理由とご 域の 22 施設 理由とご 3 が達生じ、資源 はまれば 2 で 3 で 3 で 3 で 3 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4	23施設 達成後の姿 に行い、ダイス 施設数を集り のることによ会 東循環型社会 未達成	22施設 22施設 (キシン類の (おするイオを (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの	105% 発生の少なは にて設の発生 に と が ことにな を むことにな	22施設 22施設 い高度な処理 した。 即制、効率的がります。	21施設が可能な施言な処理に伴う	20施設 20施設 役への転換
ごみ焼却施設数 指標の説明 長崎県内の市町が家庭等からみを焼却処理する施設の数です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 長崎県ごみ処理広域化計画にま	値が、要に、まづいのの	(H21年度 24施設 目 ことの 分析】 ■ 達はされるご をじこの 分析】 ■ 達成 □	度) 「標子図のの別では、「根子図のの別では、「大学」では、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	実績値 22施設 22施設 理由とご 22施設 理域的に 32をごよみ成立 32を 22を 22を 22を 22を 22を 22を 22を 22を 22を	23施設 達成後の姿イス が表こ、数をより では、数をより では、数をによれ会 では、数をはまり では、数をは、数をは、数をは、数をは、数をは、数をは、数をは、数をは、数をは、数を	22施設 22施設 (キシン類の (おするイオを (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの (するの	105% 発生の少なは にて設の発生 に と が ことにな を むことにな	22施設 22施設 い高度な処理 した。 即制、効率的がります。	21施設が可能な施言な処理に伴う	20施設

指標 23		計画第2	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
18 18 20			年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
産業廃棄物処理業者の基準適 合率(立入検査回数に対する指 導不要の業者数の割合)	数値	9	3%	95%	95%	95%	100%	95%	95%	95%
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿			<u> </u>		<u> </u>
県内の産業廃棄物処理業者に 査を実施した際、不適正処理等 なかった業者数の割合。			産業廃要に応じ	棄物処理業 指導を行なた ての業者に対	者等に対し、	棄物の不適コ	₹処理の未然	防止及び早れ	ることにより、 朝発見を図る	立入時、必 5。最終的に
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	. 1	重成	□概材	ぬ達成 口	未達成					
「立入検査マニュアル」に基づ 統一的な立入検査を実施したこ									員が連携して	、効率的で
【今後に向けた対策・方向性】 産業廃棄物の不適正処理に対 いても引き続き頻繁な立入検査								りられているこ	ことから、平成	<b>丈25年度にお</b>
【H26予算への反映状況(予定)	]									
								,		
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定 口 』	廃止 口 そ	- の他(			)		
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定口,	廃止 口 そ	<del>-</del> の他(			)	廃	蓬棄物対策課
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定 口 /	廃止 口 そ	:の他(			)	廃	蓬棄物対策課
□ 拡充予定 ■ 現状維持			定□∫			年度		) H25年度		養物対策課 最終目標値
		計画策算				年度 実績値	達成率			
	□ 数値	計画策第	定時の値	H23年度	H24		達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
指標 24	数	計画策第	定時の値 年度) 0人	H23年度 実績値	H24 目標値 260人	実績値		H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
指標 24 排出事業者研修会参加者数	数値	計画策) (H21 13	定時の値 年度) 0人 目標値の 県内の	H23年度 実績値 289人	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事業者(	実績値 475人 よる研修会	183%	H25年度 目標値 260人 発棄物の適』	H26年度 目標値 260人 E処理に係る	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を対 会を行うことで、適正処理の推済	数値	計画策) (H21 13	定時の値 年度) 0人 目標値の 県内の	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 産業廃棄物!	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事業者(	実績値 475人 よる研修会	183%	H25年度 目標値 260人 発棄物の適』	H26年度 目標値 260人 E処理に係る	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を対 会を行うことで、適正処理の推進 量化等を図る	数値 まお 要	計画策? (H21 13 にした研修 よび滅	定時の値 年度) 0人 目標値の 県内の を深め、	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 産業廃棄物の	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事業者(	実績値 475人 よる研修会	183%	H25年度 目標値 260人 発棄物の適』	H26年度 目標値 260人 E処理に係る	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を対金を行うことで、適正処理の推定量化等を図る 分析・検証	数値 まお 要	計画策? (H21 13 にした研修 よび滅	定時の値 年度) 0人 目標値の 県内の	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 産業廃棄物の	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事業者(	実績値 475人 よる研修会	183%	H25年度 目標値 260人 発棄物の適』	H26年度 目標値 260人 E処理に係る	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を対会を行うことで、適正処理の推奨 量化等を図る 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	数値 とお 要 に し設	計画策 (H21 13 13 たよび滅 分析】 達 出期 計系	定時の値 の人 目標内の ・ 推療内の、 ・ 推療する系)	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 産業廃棄物の はまます。 ために会を いたが修会を	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事抑制・ 未達成 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績値 475人 475人 よる研修会・ はままします はまま はまま はまま はまま はまま はままま はままま はま	183% により、産業 イクルの促進 3業者の役割	H25年度 目標値 260人 発棄物の適選 を図り循環型	H26年度 目標値 260人 200人 型社会を構築	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解する。
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を充 金を行うことで、適正処理の推立 量化等を図る 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 産業廃棄物の適正処理を徹底 は、産業廃棄物排出事業者(建	数値 象お 要 に設い とお とり は まる と は まる と まる と まる と まる と まる と まる と	計画策 (H21 13 13 分析】 達 出地が が は、加者 は、加者	定時の値 の人 目 県深め、 推 進療人 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 産業廃棄物の はまます。 たが修標値をを で目標値をを で	H24 目標値 260人 達成後の姿 排出事計・ 未達成 理業者のみの 記理業者のみの である。	実績値 475人 475人 ぶ量化・リサイン 475 が	183% により、産業 イクルの促進 事業者の役割 者研修会を長	H25年度 目標値 260人 変撃物の適 <sup>3</sup> 変を図り循環型 である が重要である 場崎・対馬会場	H26年度 目標値 260人 200人 型社会を構築 る。そのため3	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解する。 平成24年度修
指標 24 排出事業者研修会参加者数 指標の説明 産業廃棄物の排出事業者を交流量化等を図る 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその●平成24年度目標の達成状況 産業廃棄物の適正処理を徹底は、産業廃棄物の適正処理を徹底は、産業廃棄物の適正処理を撤しま、産業廃棄物の適正処理を撤しま、産業廃棄物の適正処理を撤しま、産業のでそれぞれ実施して、対策を表を表している。	数値   象: し設・ 実 ]	計画策 (H21 13 13 分析 達制表合 地製者はは が が が が が が が が が が が が が が が が り に り に	定時の値 の人 目標値のの、 を型は振行5人で ・計475人で	H23年度 実績値 289人 の設定理由と 業業廃棄物の は会産業 で目標でも ででも 役割を認識し	H24 目標値 260人 達成後の姿 排力排出上車 素型 素型 ま型 ました。 でもらい、産	実績値 475人 475人 ぶ量化・リサイン 475 が	183% により、産業 イクルの促進 事業者の役割 者研修会を長	H25年度 目標値 260人 変撃物の適 <sup>3</sup> 変を図り循環型 である が重要である 場崎・対馬会場	H26年度 目標値 260人 200人 型社会を構築 る。そのため3	最終目標値 (H27年度) 260人 知識や理解する。 平成24年度修

廃棄物対策課

指標	25			計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
ばい煙	発生施設□	に係る排出基	Ne.	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
排出さ	れる硫黄酸 濃度の排出	発生施設から 食化物などの 出基準適合施	数値	10	10%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標	の説明			l	目標値の	▲ の設定理由と	達成後の姿		l			
大気汚	梁防止法(	こ係るばい煙乳				発生施設から		l i酸化物、窒	素酸化物など	のばい煙濃	度について排	出基準を順
結果、 (適合 <sup>図</sup>	排出基準に 率)です。	を化物などにつ :適合していた: 			守するこ	とにより大気 準を順守する	環境を守るた	<u>-</u> めです。				
<b>-</b>	·析·検証											
		成状況とその										
●平成	₹24年度目析	票の達成状況:		■ 達成	□概≉	ぬ達成 □	未達成					
実績10	<u>0施設)</u> を実	は基準の遵守を 施しております えられます。										
		策・方向性】 所等によるば	い煙	発生施設	への立入	、調査及び排	出ガス調査を	実施し、目標	震達成の継続	を目指す。		
【H26刊	<b>予算への反</b>	映状況(予定)	]									
□拡	充予定	■ 現状維持		縮小予算	ŧ 🗆 J	廃止 口 ぞ	その他(			)		
												環境政策課
指標	26		1	計画策策	定時の値	H23年度	H24:	<u>年度</u>		H25年度	H26年度	最終日標値
指標	26				定時の値 年度)		H24: 日煙値		達成率	H25年度		最終目標値 (H27年度)
大気に	- -係る環境基	基準達成率(県	**		定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24: 目標値	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
大気に 内11浿	「係る環境基   定局での常 )5物質平均	基準達成率(県 常時監視した  の環境基準	数値	(H21					達成率			
大気に 内11測 結果の 達成率	「係る環境基   定局での常 )5物質平均	常時監視した	**	(H21	年度)	実績値 55%	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
大内結達 指 ニン局で 標 酸・ドで	上係る環境場別に 別定局質での第 別を制度での第 の説明 の説明 の説明 の説明 の説の大気に 作いおう、三 等の大監視を でのいまで、	常時監視した	が値というというというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	(H21 分 学 オキシ 内10 関 し を 変 し	年度)  3%  目標値は基準が	実績値	目標値 80% 達成後の姿 酸化いおう、	実績値 75.0% 二酸化窒素。	94%	目標値 80%	目標値 80% 質について大	(H27年度) 80%
大内結達 指 ニン局測 に限の 標 酸・1	上係る環境場別に 別定局質での第 別を制度での第 の説明 の説明 の説明 の説明 の説の大気に 作いおう、三 等の大監視を でのいまで、	常時監視した の環境基準 二酸化窒素や 染物質につい ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	が値というというというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	(H21 分 学 オキシ 内10 関 し を 変 し	年度)  3%  目標値は基準が	実績値 55% の設定理由と 本法により二 が設定されてい	目標値 80% 達成後の姿 酸化いおう、	実績値 75.0% 二酸化窒素。	94%	目標値 80%	目標値 80% 質について大	(H27年度) 80%
大内結達 指 二ン局測 平 成 標 酸ドで定 分 成	「係る環境」 「原る環での対 「別での対 「別での対 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「の説明」 「のいか大気視さい。 「での時かいない。」 「でのはいかり、これでは、 「でのはいかりない。」 「でのはいかします。」 「でのはいかします。」 「でのはいかします。」 「ではいかします。」 「ではいかします。」 「はいないない。」 「はいないない。」 「はいないないない。」 「はいないないない。」 「ないないないないない。」 「ないないないないないないない。」 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	常時監視した の環境基準 二酸化窒素や 染物質につい ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	が値 とに見を ととします との	(H21 学オキシ 内10 対 大 大 が 大 大 が 大 が 大 が 大 が が が が が が が が が が が が が	年度) 6% 目標値の 環基準が よの目記	実績値 55% の設定理由と 本法により二 が設定されてい 標が達成され	目標値 80% 達成後の姿 ご酸化いおう、 いるためです いることにより	実績値 75.0% 二酸化窒素。	94%	目標値 80%	目標値 80% 質について大	(H27年度) 80%
大内結達 指 二ン局測 平 平 県、O×IのO×Iの で 単の で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で	・係る環で呼り ・場合でである。 ・のはいたの時ののはいた人監測 証 を 気オ国の では、大監測 証 を 気オ国の では、	常時監視したの環境基準 二酸化窒素やう 染物質につい。 定実施し、環境 頁目の割合(達	#値 化県準率 因 簡局し	(H21 6) 学内を) か	年度) 「標 境 環 基 の の	実績値 55% の設定理由とり二によれている。本説定達成で重成で変化されている。 は、質のたた生活を表ができまれている。 は、質のたた生活を表ができまれている。	目標値 80% を 成後ののようですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり を ですり	実績値 75.0% 75.0% 二酸化窒素 気候になった できまった できま 気に できる できま しんして に ちゅうしん とび に ちゅう かいお に に しい	94% や光化学オキ 環境を維持 呼遊粒子状物 かった。	目標値 80% シゲント等 5 物が することができ でき	目標値 80% 質について大きます。 環境基準を追	(H27年度) 80% 気に係る環 達成したもの
大内結達 指 二少局測 平 県ののか 【 大因に損の率 標酸半で定 分 成 が 管光は勘 後陸特	「保護」 「	常時監視した。 の環境基準 二酸化化窒にでは、 空にでは、 で発施し、 で発施し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	代で基成 要 1全成式 越冷	(H21)       6(H21)       す10減       オ10減       が       ボス       に要す       が       に要す       が       に要す       が       に要す       に要す </td <td>年度) 環基の 概 気達で大 次 流</td> <td>実績値 55%  の設定理由と 本法定さ成され  本法定さ成で  本法定さ成で  本語を を ないで  ないで  ない  ない  ない  ない  ない  ない  ない  な</td> <td>目標値 80% 達成後の姿 ではいめたいめにより ま変していることにより ま変していることにより ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 は、いる。 と、、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と</td> <td>実績値 75.0% 二酸化な文 素素 会 によっている。 は、</td> <td>94% や光化学オキ 環境を維持・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>目標値 80% シダント等 5 物引 することができ 可質 (SPM) は 高濃度となる</td> <td>目標値 80% 質について大きます。 環境基準を過 ことや、地理に</td> <td>(H27年度) 80% 気に係る環 を成したもの 的な条件等</td>	年度) 環基の 概 気達で大 次 流	実績値 55%  の設定理由と 本法定さ成され  本法定さ成で  本法定さ成で  本語を を ないで  ないで  ない  ない  ない  ない  ない  ない  ない  な	目標値 80% 達成後の姿 ではいめたいめにより ま変していることにより ま変していることにより ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 は、いる。 と、、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と	実績値 75.0% 二酸化な文 素素 会 によっている。 は、	94% や光化学オキ 環境を維持・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	目標値 80% シダント等 5 物引 することができ 可質 (SPM) は 高濃度となる	目標値 80% 質について大きます。 環境基準を過 ことや、地理に	(H27年度) 80% 気に係る環 を成したもの 的な条件等
大内結達 指 二ン局測 平 平 県、CNら 今 大のM と 大の名 標 酸ドで定 分 成 が 管光は勘 後 陸 特 2 と で 2 と で 2 と で 2 と で 2 と で 3 と で 3 と で 3 と で 3 と で 4 と で	- 係では - 係では - 係では - 係では - 係では - 係では - です - でも - でも	常時環境 は大学 にないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	####################################	(H21)       6(H21)       す10減       オ10減       が       ボス       に要す       が       に要す       が       に要す       が       に要す       に要す </td <td>年度) 環基の 概 気達で大 次 流</td> <td>実績値 55%  の設定理由と 本法定さ成され  本法定さ成で  本法定さ成で  本語を を ないで  ないで  ない  ない  ない  ない  ない  ない  ない  な</td> <td>目標値 80% 達成後の姿 ではいめたいめにより ま変していることにより ま変していることにより ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 は、いる。 と、、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と</td> <td>実績値 75.0% 二酸化な文 素素 会 によっている。 は、</td> <td>94% や光化学オキ ・環境を維持・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>目標値 80% シダント等 5 物引 することができ 可質 (SPM) は 高濃度となる</td> <td>目標値 80% 質について大きます。 環境基準を過 ことや、地理に</td> <td>(H27年度) 80% 気に係る環 を成したもの 的な条件等</td>	年度) 環基の 概 気達で大 次 流	実績値 55%  の設定理由と 本法定さ成され  本法定さ成で  本法定さ成で  本語を を ないで  ないで  ない  ない  ない  ない  ない  ない  ない  な	目標値 80% 達成後の姿 ではいめたいめにより ま変していることにより ま変していることにより ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 ま変している。 は、いる。 と、、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と	実績値 75.0% 二酸化な文 素素 会 によっている。 は、	94% や光化学オキ ・環境を維持・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	目標値 80% シダント等 5 物引 することができ 可質 (SPM) は 高濃度となる	目標値 80% 質について大きます。 環境基準を過 ことや、地理に	(H27年度) 80% 気に係る環 を成したもの 的な条件等
大内結達 指 ダ定た 平 県、ON 今 大のPM (H26) 11果成 標酸ドで定 分 成 が 管光は勘 後 陸 特 2.	「保存」 「	常時環境 は大学 にない。 にないでは、 には、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	####################################	(H21 66 ) 学内を) 分	年度) 環境こ 環基の 概 気速で大 独 す す が 深 根 汚 成に 大 な 果 が ま す す す か ま す す か ま す か ま か ま す か ま か ま	実績値 55%  の設定理由とりこにされている。 本が設定によれている。 本が設定では、ままでである。 ないできません。 ないで	目標値 80% 達成後の姿 うですり まないることにより まないることにより まないがしている。 まないがしている。 まないがしている。 は、いるにより は、いるにもいるにより は、いるにもいるにより は、いるにもい。 と、いるにもいるにもいるにもいるにもいるにもいるにもいるにもいるにもいるにもいるにも	実績値 75.0% 二酸化な文 素素 会 によっている。 は、	94% や光化学オキ ・環境を維持・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	目標値 80% シダント等 5 物引 することができ 可質 (SPM) は 高濃度となる	目標値 80% 質について大きます。 環境基準を過 ことや、地理に	(H27年度) 80% 気に係る環 を成したもの かな条件等

指標 27		=1 == #==	<i>I</i> +				ı		T	- 45 - 1 <del>-</del> 1-
			定時の値		H24		達成率	H25年度		最終目標値
	数	(H21	年度) ———	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H26年度)
民間建築物の吹付けアスベスト 等の除去等件数 	値	40	)件	50件	96件	53件	23%	121件	165件	165件
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
民間建築物の吹付けアスベス 件数(累計)	ト等の	の除去等	民間建	築物に使用る	されている吹	付けアスベス	トをすべて除	きますることを	・目標とする。	
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:	: [	] 達成	□ 概≉	a達成 ■	未達成					
吹付けアスベスト等が使用されいただけなかったため、未達成る			物の所有者	皆に対し、直抗	妾訪問して協	力依頼を行っ	ったが、多額の	の自己負担を	要することか	ら、協力を
【今後に向けた対策・方向性】 目標の達成状況は未達成となのを把握していない」、「吹き付け関係者以外立入りは出来ない筆	†材1	こアスベス	くトが含有	していること	が判明してい	る建築物の	アスベスト使力	用箇所は、立	入り禁止にし	
【H26予算への反映状況(予定)	,									
	-	综小工	<b>⇒</b> ⊓ 1	<b>応止 □ </b> <i>z</i>	<b>- の</b> 畑 (			)		
□ 拡充予定 ■ 現状維持 ■	П	14日/1・1~7		発止 口で	(U) (E)			,		建築課
										建采沫
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
指揮 28		計画策	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終日煙値
指標 28			定時の値		H24 日 <del>博</del> 佐		達成率	H25年度		
指標 28 自動車排出ガス測定局におけ	数:		定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24 目標値	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
	数値	(H21					達成率 100%			
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成		(H21	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率	値	(H21	年度)	実績値	目標値 100% 達成後の姿	実績値	100%	目標値	100%	(H27年度) 100%
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率 指標の説明 自動車排出ガス測定局におけ	値	(H21	年度) 00% 目標値の 大気汚	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿	実績値	100%	目標値	100%	(H27年度) 100%
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率 指標の説明 自動車排出ガス測定局におけ 素の環境基準達成率	る二	(H21 10 酸化窒	年度) 00% 目標値の 大気汚	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿	実績値	100%	目標値	100%	(H27年度) 100%
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率 指標の説明 自動車排出ガス測定局におけ 素の環境基準達成率	値る二要因	(H21 10 酸化窒 分析】	年度) 00% 目標値C 大気汚る。	実績値 100% の設定理由と 染防止対策。	目標値 100% 達成後の姿	実績値	100%	目標値	100%	(H27年度) 100%
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率 指標の説明 自動車排出ガス測定局におけ素の環境基準達成率 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	値 要 :	(H21 10 酸化窒 分析】 ■ 達成	年度) 00% 目標値の 大気汚る。	実績値 100% D設定理由と 染防止対策 な	目標値 100% 達成後の姿として、二酸(	実績値 100.0% と窒素の排出	100%	目標値 100% るために設定	100%	(H27年度) 100%
自動車排出ガス測定局における二酸化窒素の環境基準達成率 指標の説明 自動車排出ガス測定局におけ素の環境基準達成率 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況	値	(H21 10 酸化窒 分析】 ■ 達成 が4か所 料の質が	年度) 00% 目標値の 大る。	実績値 100% の設定理由と 染防止対策の は に に に に に に に に に に に に に に に に に に	目標値 100% 達成後の姿 として、二酸イ 未達成 かあり、そので 事と自動車排	実績値 100.0% 100.0% 上窒素の排出	100% 出量を抑制する	目標値 100% るために設定 た。 向上が主な要	目標値 100% こ。現在、達成 と考えられ	(H27年度) 100%

)

環境政策課

【H26予算への反映状況(予定)】

□ 拡充予定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他(

指標 29			計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		ster	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H30年度)
交通の分散化、オ解消等による道路 化炭素排出削減:	各交通の二酸	数値	-	_	-	-			-	-	1,305t- CO <sub>2</sub> /年
指標の説明				目標値の	】 の設定理由と	達成後の姿					
鉄道の高架化に ネックの解消等に の量です。					「高架化される いらの排出ガ						
分析·検証											
【平成24年度の遺											
●平成24年度目標	標の達成状況:	: [	] 達成	□概	ね達成 口	未達成					
現在、早期の高	· 一次 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个 一个	に向	けて. <b>車</b> i	<b>面基</b> 地移	転工事. 用地	交渉など鋭す	意進めている				
			., ., .,	.,,	12-11/11/2		J.,				
【今後に向けた対		<b>Д</b>		.« ⊥ «± / ι	マ+Bよ1。 7	EMEN	<b>○小志☆</b> /土	111 かに ま入 4点		事業体)」の	7 L XX
他の公共事業同 ル調整を密接に行							の他事業(九	州新轩称、二	[地区画登理	事業寺)との	スケンュー
【H26予算への反	映状況(予定)	]									
□ 拡充予定	□ 現状維持		縮小予定	定 口 1	廃止 口 そ	その他(			)		
											都市計画課
15 1 a a			=1 == h/r =	5n+ o/+		1104	<i>t</i> -				
指標 30				定時の値		H24		達成率	H25年度		最終目標値
河川BOD評価に。		数		定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24 目標値	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
	[調査水域数	数値	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
河川BOD評価に。 達成率(河川水質	[調査水域数		(H21					達成率			
河川BOD評価に。 達成率(河川水質 に対する環境基準 割合)	[調査水域数		(H21	年度)	実績値 100%	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準 割合) 指標の説明	i調査水域数 集達成水域の	値	(H21	年度)	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿	実績値 98.0%	98%	目標値	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質 に対する環境基準 割合)	電調査水域数 集達成水域の 上河川域のうち	、環境	(H21) 10 竟基準を	年度) 00% 目標値の 環境基	実績値 100%	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質に	実績値 98.0% ついては、BG	98% 98% ODによる環 <sup>‡</sup>	目標値 100% 意基準が定め	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の	電調査水域数 集達成水域の 上河川域のうち	、環境、環境	(H21) 10 竟基準を	年度) 00% 目標値の 環境基	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質に	実績値 98.0% ついては、BG	98% 98% ODによる環 <sup>‡</sup>	目標値 100% 意基準が定め	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の	意調査水域数 準達成水域の 一河川域のうち か割合(達成率)	値 、環 <sup>‡</sup>	(H21 10 竟基準を とです。	年度) 00% 目標値の 環境基	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質に	実績値 98.0% ついては、BG	98% 98% ODによる環 <sup>‡</sup>	目標値 100% 意基準が定め	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 【平成24年度の遺	i調査水域数 達達成水域の ニ河川域のうち つ割合(達成率)	でである。 環境の 要因	(H21 10 竟基準を とです。	年度) 0% 目標値で 環境基	実績値 100% の設定理由と 本法により戸 的が達成され	目標値 100% 達成後の姿 び川の水質に いることにより	実績値 98.0% ついては、BG	98% 98% ODによる環 <sup>‡</sup>	目標値 100% 意基準が定め	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の	i調査水域数 達達成水域の ニ河川域のうち つ割合(達成率)	でである。 環境の 要因	(H21 10 竟基準を とです。	年度) 0% 目標値で 環境基	実績値 100% の設定理由と	目標値 100% 達成後の姿 び川の水質に いることにより	実績値 98.0% ついては、BG	98% 98% ODによる環 <sup>‡</sup>	目標値 100% 意基準が定め	目標値	(H27年度) 100%
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 【平成24年度の遺	i調査水域数 連達成水域の 三河川域のうち D割合(達成率) 重成状況とその 標の達成状況	値、環に要と	(H21 10 竟基準を とです。 分析】	年度) 10% 目標値の 環境基 この月	実績値 100% の設定理由と 本法により河的が達成され	目標値 100% 達成後の姿 ゴ川の水質に より 未達成	実績値 98.0% ついては、BG、河川の環境	98% ODIこよる環境 6保全が図れ	目標値 100% 意基準が定めます。	目標値 100%	(H27年度) 100% - めです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した達成した水域数の 分析・検証 【平成24年度の達	i調査水域数 ii調査水域の 三河川域のうち ご河川域のうち ご河川域のうち ご河川域のうち では成状況とその 標の達成状況 生活排水等の	値 環こ 要 . 処理	(H21) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度) 00% 目標値の 環境基 このの目  ■ 概  - 及び水質	実績値 100% の設定理由と 本法により河的が達成され 口 湾汚濁防止法	目標値 100% 達成後の姿 び川の水質により 未達成 等の規制対	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 象となる工場	98% ODによる環 賃保全が図れ	目標値 100% 意基準が定め ます。	目標値 100% られているた 放底等により	(H27年度) 100% かです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 「平成24年度の道 ●平成24年度目記	i調査水域数 ii連遠成水域の ニ河川域のうち ご割合(達成率) 上域状況とその に成状況とその には状況とその には状況とその には状況とその にはないでは、 では平成20年	値 環こ 要 処理以	(H21 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度)   100%   目標値で 環点の   目標 を	実績値 100% の設定理由と 本法により かが達成され は達成 口 遺汚濁防止法だ	目標値 100% 達成後の姿 ブ川の水質により 未達成 条達成 等の規制対	実績値 98.0% 98.0% ついては、BI 、河川の環境 象となる工場を なる結果に	98% ODによる環 賃保全が図れ	目標値 100% 意基準が定め ます。	目標値 100% られているた 放底等により	(H27年度) 100% かです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基型割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 「平成24年度の選 ●平成24年度目記 「河川に流入するの環境基準達成」	i調査水域数 ii連遠成水域の ニ河川域のうち ご割合(達成率) 上域状況とその に成状況とその には状況とその には状況とその には状況とその にはないでは、 では平成20年	値 環こ 要 処理以	(H21 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度)   100%   目標値で 環点の   目標 を	実績値 100% の設定理由と 本法により かが達成され は達成 口 遺汚濁防止法だ	目標値 100% 達成後の姿 ブ川の水質により 未達成 条達成 等の規制対	実績値 98.0% 98.0% ついては、BI 、河川の環境 象となる工場に なる工場に	98% ODによる環 賃保全が図れ	目標値 100% 意基準が定め ます。	目標値 100% られているた 放底等により	(H27年度) 100% かです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基型割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 「平成24年度の選 ●平成24年度目記 「河川に流入するの環境基準達成」	i調査水域数 ii連遠成水域の ニ河川域のうち ご割合(達成率) 上域状況とその に成状況とその には状況とその には状況とその には状況とその にはないでは、 では平成20年	値 環こ 要 処理以	(H21 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度)   100%   目標値で 環点の   目標 を	実績値 100% の設定理由と 本法により かが達成され は達成 口 遺汚濁防止法だ	目標値 100% 達成後の姿 ブ川の水質により 未達成 条達成 等の規制対	実績値 98.0% 98.0% ついては、BI 、河川の環境 象となる工場に なる工場に	98% ODによる環 賃保全が図れ	目標値 100% 意基準が定め ます。	目標値 100% られているた 放底等により	(H27年度) 100% かです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基型割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 「平成24年度の選 ●平成24年度目記 「河川に流入するの環境基準達成」	i調査水域数 ii調査水域の 三河川域のうち 三河川域のうち率) 直成状況とその 標の達成状況とその 標の達成状況とその 標の達成状況とその になればない。 を生活排水等の 等に下域20年 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	値 環こ 要 処理以	(H21 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度)   100%   目標値で 環点の   目標 を	実績値 100% の設定理由と 本法により かが達成され は達成 口 遺汚濁防止法だ	目標値 100% 達成後の姿 ブ川の水質により 未達成 条達成 等の規制対	実績値 98.0% 98.0% ついては、BI 、河川の環境 象となる工場に なる工場に	98% ODによる環 賃保全が図れ	目標値 100% 意基準が定め ます。	目標値 100% られているた 放底等により	(H27年度) 100% かです。
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に割った) 指標の説明 BODを調査数の 分析・検証 「平成24年度の道 ● 平成24年度目 河環境上が、入達を の調道上野水池)で 「今後に向けた対 引き続き、市町。	記書を 記書を では では では では では では では では では では	値 環こ 要 処度に 水道	(H21) 10 意基準を 分析 達 の 同標基	年度)    10%   目標値で	実績値 100% の設定理由と 本法により河が達成され は達成 口質達成していた達成していた達し、目標を達	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質により まき成 まき成 等の規制対にができなかっ	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 また。 なる に を を を を を を た た た た た た た た た た た た た	98% ODによる環 時保全が図れ ・事業場に対 は、県内55測	目標値 100% 100% 意基準が定めます。	目標値 100% 5れているために第一によい。	(H27年度) 100% 100% かです。 、河川BOD 長崎市浦上
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に対する環境基準割合) 指標の説明 BODを調査した 達成した水域数の 分析・検証 「平成24年度の通 ●平成24年度目 河川に流入達成の環境基準池)で	記書を 記書を では では では では では では では では では では	値 環こ 要 処度に 水道	(H21) 10 意基準を 分析 達 の 同標基	年度)    10%   目標値で	実績値 100% の設定理由と 本法により河が達成され は達成 口質達成していた達成していた達し、目標を達	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質により まき成 まき成 等の規制対にができなかっ	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 また。 なる に を を を を を を た た た た た た た た た た た た た	98% ODによる環 時保全が図れ ・事業場に対 は、県内55測	目標値 100% 100% 意基準が定めます。	目標値 100% 5れているために第一によい。	(H27年度) 100% 100% かです。 、河川BOD 長崎市浦上
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に割った) 指標の説明 BODを調査数の 分析・検証 「平成24年度の道 ● 平成24年度目 河環境上が、入達を の調道上野水池)で 「今後に向けた対 引き続き、市町。	記書を 記書を では では では では では では では では では では	値 環こ 要 処度に 水道	(H21) 10 意基準を 分析 達 の 同標基	年度)    10%   目標値で	実績値 100% の設定理由と 本法により河が達成され は達成 口質達成していた達成していた達し、目標を達	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質により まき成 まき成 等の規制対にができなかっ	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 また。 なる に を を を を を を た た た た た た た た た た た た た	98% ODによる環 時保全が図れ ・事業場に対 は、県内55測	目標値 100% 100% 意基準が定めます。	目標値 100% 5れているために第一によい。	(H27年度) 100% 100% かです。 、河川BOD 長崎市浦上
河川BOD評価に。 達成率(河川水質に割った) 指標の説明 BODを調査数の 分析・検証 「平成24年度の道 ● 平成24年度目 河環境上が、入達を の調道上野水池)で 「今後に向けた対 引き続き、市町。	記調査水域数 連達成水域の 三河川域のの成の成の成の成成では、 連続では、 一般では、 一を 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。 一。	値 環こ	(H21) 10 意基準を 分析 達 の 同標基	年度)    10%   目標値で	実績値 100% の設定理由と 本法により河が達成され は達成 口質達成していた達成していた達し、目標を達	目標値 100% 達成後の姿 J川の水質により まき成 まき成 等の規制対にができなかっ	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 また。 なる に を を を を を を た た た た た た た た た た た た た	98% ODによる環 時保全が図れ ・事業場に対 は、県内55測	目標値 100% 100% 意基準が定めます。	目標値 100% 5れているために第一によい。	(H27年度) 100% 100% かです。 、河川BOD 長崎市浦上
河川BOD評価に。 達成対する環境基準 指標の説明 BODを水・検証 FR で成したが、検証 「平成24年度度目がです。 「平成24年度度目がです。 「平成24年度度目がです。」 「中では1に流準がです。」 「一つでは1にできる。」 「一つでは1にできる。」 「一つでは2をでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。」 「一つでする。 「一つです。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つでする。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「一つで。 「 「一つで。 「 「一つで。 「 「一つ 「 「 一 「 一 「 一 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「 一 で 「	記載を 記載を では では では では では では では では では では	値 環こ 要 処度に 水す ]	(H21) 10 意基準を 分析 達 の 同標基	年度) 10% 日標値 環元の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	実績値 100% の設定理由とりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりにより	目標値 100% 達成後の姿 JIIIの水質により 未達成 来達成 できなかっ を進めるととも	実績値 98.0% ついては、B 、河川の環境 また。 なる に を を を を を を た た た た た た た た た た た た た	98% ODによる環 時保全が図れ ・事業場に対 は、県内55測	目標値 100% 100% 意基準が定めます。	目標値 100% 5れているために第一によい。	(H27年度) 100% 100% かです。 、河川BOD 長崎市浦上

指標 31		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
海域COD評価による環境基準 達成率(海域水質調査地点数	数値			24/34/12		741XIII				( ) = ( ) ( ) ( )
に対する環境基準達成地点の 割合)	凹	76	6%	88%	80%	78%	97%	80%	80%	80%
司口/										
指標の説明		•	目標値(	の設定理由と	達成後の姿			-		-
CODを調査した海域のうち、現成した水域数の割合(達成率)の				本法により治 的が達成され					られているた	こめです。
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析]								
●平成24年度目標の達成状況	:	□ 達成	■ 概	ね達成 口	未達成					
下水道や浄化槽などの汚水処 換が少ない閉鎖性水域(大村湾									きたが、外海	まとの海水交
【今後に向けた対策・方向性】 引き続き、公共用水域、特に 流域への汚濁負荷の削減を図り また、環境基準を達成していた	り、目	標達成を	目指す。							
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定	ŧ o.	廃止 口 ぞ	その他(			)		
										環境政策課
指標 32		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値	是水干	目標値	目標値	(H27年度)
海域における全窒素及び全燐 の環境基準達成率	値	7:	3%	73%	75%	55%	73%	75%	75%	75%
指標の説明			目標値の	<u> </u>	:達成後の姿					
┣━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━	や湖	沼の富		及び全燐の		環境基準を網	維持すること	により海域の	富栄養化を限	坊止し良好な
栄養化が進行し、植物プランクト	ンか	増殖し、	水質環項	竟を維持する:	ためです。					
海域では赤潮発生の原因となり	<b>エ</b> 9	0	海域の	富栄養化に	よる赤潮等の	発生を防止し	,良好な環境	保全が図れる	ます。	
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	:	□ 達成	□概	ね達成 ■	未達成					
有明海全体における富栄養化 達成したが、目標は達成されな!			対湾の問	閉鎖性海域に	よる海水交換	換のされにくし	\状態により	、県内11水域	うち、6水域で	で環境基準を
【今後に向けた対策·方向性】 有明海に関しては、「有明海及										
年3月に策定し、有明海再生に 業場等の監視・指導を実施し、 [H26予算への反映状況(予定)	向け 流域・	た取組みる	を行っては	おり、大村湾に	こ関しては、	下水道や浄化	が「有明海の に槽などの生	)再生に関する 活排水対策を	る長崎県計画を進めるととも	可を平成15 に、工場・事

環境政策課

指標 33		計画策算	上吋の旭	H23年度	H24:	年度	\ <del>-</del>	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
汚水処理人口普及率	値	73.	6%	75.2%	76.9%	75.9%	98.7%	78.0%	79.1%	80%
指標の説明			目標値の	り設定理由と	達成後の姿					
下水道、農・漁業集落排水、消水処理施設で生活排水を処理する人口を県の人口で除した値(i	ナるこ	とができ		標が達成され Rされます。	しると、生活排	水による汚れ	蜀量が削減さ	れ、又、水洗	化による快道	<b>適環境がより</b>
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	コ 達成	■ 概材	a達成 □	未達成					
厳しい財政状況であるため、業 しくはリフォーム件数が減少し、 新規事業着手を働きかけており なった。	浄化	槽設置整	備の大幅	な増は見込む	めないことから	ら、本県にお	いては、汚水	処理人口普	及率が低いる	5町に対し、
【今後に向けた対策·方向性】 平成23年度に策定した長崎県 とから交付金のあり方を再検討								を行っている	が、新規着号	手は厳しいこ
【H26予算への反映状況(予定)	]									
■ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予定		廃止 □ そ	:の他(			)		
									水	<b>環境対策</b> 課
指標 34	l	計画策定	官時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
 特定施設からの排水基準遵守	No.	(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
率(水質汚濁防止法に基づく特 定施設への立入検査時におけ る、施設からの排水の排水基 準遵守率)	数値	98	3%	97.8%	100%	98.7%	100%	100%	100%	100%
指標の説明			目標値の	り設定理由と	達成後の姿					
水質汚濁防止法に基づく特定	± **	坦のうナ				•				
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です	こつし	ハて排水	水質を保	全するためて				こより、河川や		
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証	こつし	かて排水た事業場	水質を保	全するためて	です。					
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	会した	かて排水た事業場分析】	水質を保排水基	全するためで 準を順守させ	です。 さることにより					
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証	会した	かて排水た事業場分析】	水質を保排水基	全するためで 準を順守させ	です。 さることにより					
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	まつしき 要因 まままる	いて排水 た事業場 分析】 ■ 達成	水質を保排水基	全するためで 準を順守させ a達成 ロ	です。 さることにより ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、公共用水均	の良好な水	質を維持する	らことができま	इ <b>च</b> .
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 排水基準監視・指導により事事	こつした 会 要 : 業13。 き立,	ハて排水 水た事業場 分析】 ・ 達 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	水質を存基	全するためで 準を順守させ a達成 ロ が高くなった。	です。 さることにより 未達成 ことによる。な も導が必要で	、公共用水均	なの良好な水 事業者におい	質を維持する	らことができま	इ <b>च</b> े.
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 排水基準監視・指導により事業 る排水基準超過の事例がみられ 【今後に向けた対策・方向性】 目標達成のためには、引き続	こつし: 要 :	ハて排水 水た事業場 分析】 ・ 達 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	水質を存基	全するためで 準を順守させ a達成 ロ が高くなった。	です。 さることにより 未達成 ことによる。な も導が必要で	、公共用水均	なの良好な水 事業者におい	質を維持する	らことができま	इ <b>च</b> .
排水基準の適用がある事業場 検査を実施した結果、基準に適 の割合(適合率)です 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 排水基準監視・指導により事 る排水基準超過の事例がみられ 【今後に向けた対策・方向性】 目標達成のためには、引き続 排水基準に違反した事業者に	こつし: 要 :	ハて排水場 た事業 分析】 遠令令 適な重のの点 入ては	水質を存基	全するためで 準を順守させ a達成 ロ が高くなった。 事業者への打 指導を行いて	まです。 です。 です。 たることにより 未達成 ことによる。な による。な で排水基準に で排水基準に	、公共用水均	なの良好な水 事業者におい	質を維持する	らことができま	इ <b>च</b> .

指標	35			計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		排水基準遵守 こつながる環境		(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
を守り 施設へ	育てる条例 への立入検	こうながる環境 例に基づく指定 査時おける、 の排水基準遵	数値	10	00%	100%	100%	100.0%	100%	100%	100%	100%
	の説明			<u> </u>	日煙値(	┃ の設定理由と	達成後の姿					
長崎 ち排水 検査を	i県公害防. ベ基準の適	止条例に基づく 用がある施設に 結果、基準に適 す。	こつし	ハて排水	大村湾 る大村湾	流域の工場 の水質を保	・事業場からで 全するためで さることにより	す。				性水域であ
分	h析·検証											
【平成	24年度の記	達成状況とその	要因	分析】								
●平原	戊24年度目	標の達成状況	: I	■ 達成	□概≉	ぬ達成 □	未達成					
長崎 達成し		つながる環境を	守り	育てる条例	列に基づ・	〈指定施設26	6施設で排水	調査を実施し	、調査した全	た施設で排水	基準適合を研	<b>在認し目標を</b>
		対策·方向性】 き立入調査の	実施』	及び事業	者への指	導を行ってい	<b>.</b> <.					
【H26 <sup>-</sup>	予算への反	映状況(予定)	]									
□拡	充予定	■ 現状維持		縮小予定	t 🗆 J	廃止 口 そ	その他(			)		
												環境政策課
				ī-								
指標	36			計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度	法式來	H25年度	H26年度	最終目標値
有害物	」 勿質使用特	:定事業の排水 余属等の有害			定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24: 目標値	年度	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
有害物場を持ちます。	」 物質使用特 遵守率(重 を使用してし いて、排2	定事業の排水 金属等の有害 いる特定事業 K検査を実施し 集に適合した事	数 値	(H21:					達成率			
有基物場にまる	」 物質使用特 遵守率(重金 使用してし いて、排ス 是、排水基準	金属等の有害 いる特定事業 k検査を実施し	数 値	(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
有基物場た業 指 重場 金に まり 標 金に	関係 では できます かいま かい	金属等の有害 いる特定事業 k検査を実施し	数値 たた た	(H21: 10 る特定事 !果、排水	年度) 10% 目標値の 工場・通 健康の例	実績値 100% の設定理由と事業場からの民護及び公共	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ	実績値 98.2% 1る有害物質 で保全する	98% について、掛 ためです。	目標値 100%	目標値 100%	(H27年度) 100% こより、人の
有基物場た業 指 重場準 実基の 標 金はに	関係 では できます かいま かい	金属等の有害いる特定事業 いる特定事業 k検査を実施し 準に適合した事 書物質を使用し 水検査を実施し	数値 たた た	(H21: 10 る特定事 !果、排水	年度) 10% 目標値の 工場・通 健康の例	実績値 100% の設定理由と事業場からの民護及び公共	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ 用水域の水が	実績値 98.2% 1る有害物質 で保全する	98% について、掛 ためです。	目標値 100%	目標値 100%	(H27年度) 100% こより、人の
有基物場た業 指 重場準 会に結場の標 金はは	物質使用特重を使用性を を使用し、排子の を使用し、排子の を使用し、排子の の説明の の説明の に属いてした。 をは、 が析・検証	金属等の有害いる特定事業 いる特定事業 k検査を実施し 準に適合した事 書物質を使用し 水検査を実施し	数値 たた合	(H21: 10 る特定事 ま果、排水 率)です。	年度) 10% 目標値の 工場・通 健康の例	実績値 100% の設定理由と事業場からの民護及び公共	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ 用水域の水が	実績値 98.2% 1る有害物質 で保全する	98% について、掛 ためです。	目標値 100%	目標値 100%	(H27年度) 100% こより、人の
有基物場た業 指 重場準 平等準質に結場 標 金はに 分 成	」 動質 動質 動質 では のを では のを では、 のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは	金属等の有害いる特定事業 いる特定事業 は検査を実した事 集に適合した事 書物質をを実施し 事業場の割合()	数値でたた。要因	(H21: 10 る特定事果、排水率)です。	年度)  0%  目標値位  工場・環境の低 排水基	実績値 100% の設定理由と事業場からの民護及び公共	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ 用水域の水が よることにより	実績値 98.2% 1る有害物質 で保全する	98% について、掛 ためです。	目標値 100%	目標値 100%	(H27年度) 100% こより、人の
有基物場た業 指 重場準 平 平 重 電場に結場 標 金場に 分成 原 金	- 物質・ ・ 物質・ ・ で が で が で で で で で で で で で で で で で で で	金属等の有害いる特定事業に はな者を実にた事業に を体でである。 を使用した。 を使用した。 を使用した。 を実施しまま業場の割合の。 を表する。 をまたる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をな。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をなる。 をな。 をなる。 をなる。	数値でおきます。では一次では、大きのでは、たらのでは、大きのでは、たらのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらい	(H21: 10 10 る特定事水 です 分析 達定 定事 分析 ] 成 事 に 事 を お も な も な も も も も も も も も も も も も も も も	年度) 00% 目標値 3で (健康の係事が) ■ 概  *** *** *** *** *** *** *** *** ***	実績値 100% の設定理由と 事業場からの 実護及び公共 準を順守させ	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ 用水域の水が さることにより  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実績値 98.2% 98.2% 1る有害物質の でを保全する である。 である。 である。 では、 である。 では、 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	98% (について、対ためです。) よる公共用 (なる公共用)	目標値 100% ・水基準を順 ・水域の汚染を ・水基準を鉛	目標値 100% 守させることに 防止できます	(H27年度) 100% こより、人の す。
有基物場た業 指 重集基 平 重 建超等準質に結婚 標 金ぱぱ 分 成 凡 金ぱ	- 物質・ - 物質・ 使率・ ・ では、 ・	金	数値でおきます。では一次では、大きのでは、たらのでは、大きのでは、たらのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらい	(H21: 10 10 る特定事水 です 分析 達定 定事 分析 ] 成 事 に 事 を お も な も な も も も も も も も も も も も も も も も	年度) 00% 目標値 3で (健康の係事が) ■ 概  *** *** *** *** *** *** *** *** ***	実績値 100% の設定理由と 事業場からの 共譲及び公共準を順守させ 私ね達成 □	目標値 100% 達成後の姿 排水に含まれ 用水域の水が さることにより  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実績値 98.2% 98.2% 1る有害物質の でを保全する である。 である。 である。 では、 である。 では、 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	98% (について、対ためです。) よる公共用 (なる公共用)	目標値 100% ・水基準を順 ・水域の汚染を ・水基準を鉛	目標値 100% 守させることに 防止できます	(H27年度) 100% こより、人の す。
有基物場た業 指 重集基 平 重建 子 今後	- 物質守体 動質守体 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大 ・ 大	金属等の有事等の有事等に 属特定等に 高特定等に を存って を存って を使いまで を使いまで を使いまででである。 を使いまでである。 を使いまである。 をでいるでは、できないでは、できないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、ではないでは、ではないでは、では、では、ではないでは、ではないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	数値においたのでは、では、ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	(H21: 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度) 00% 目標値では、10% は 工場の化排	実績値 100% の設定理由と事業場がらの共産を順守させ 100% 事業場がらの共産を順守させ 100% の公共できます。 100% の対象を関する 100% の対象を関する 100% の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	目標値 100% 達成後の姿 排水に含水がたることにより 1 未達成 水調査を設めていた。	実績値 98.2% 98.2% 1る有害物質の でを保全する である。 である。 である。 では、 である。 では、 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	98% (について、対ためです。) よる公共用 (なる公共用)	目標値 100% ・水基準を順 ・水域の汚染を ・水基準を鉛	目標値 100% 守させることに 防止できます	(H27年度) 100% こより、人の す。
有基物場た業 指 重場準 一平 重超 一	- 物質守体 ( ) の ( )	金の (本)	数値 い結合 要 にて保 実施	(H21: 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	年度) 00% 目標値では、10% は 工場の化排	実績値 100% の設定理由と事業場がらの共産を順守させ 100% 事業場がらの共産を順守させ 100% の公共できます。 100% の対象を関する 100% の対象を関する 100% の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	目標値 100% 達成後の姿 排水に含水がたることにより 1 未達成 水調査を設めていた。	実績値 98.2% 98.2% 1る有害物質の でを保全する である。 である。 である。 では、 である。 では、 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	98% (について、対ためです。) よる公共用 (なる公共用)	目標値 100% ・水基準を順 ・水域の汚染を ・水基準を鉛	目標値 100% 守させることに 防止できます	(H27年度) 100% こより、人の す。

		計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度	.+ n-+	H25年度	H26年度	最終目標値
		(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
騒音に係る類型指定地域内の 環境基準達成率(環境騒音)	数値	84	.6%	86%	85%	89.0%	105%	85%	85%	85%
指標の説明			日煙値の	┃ の設定理由と	·達成後の姿					
騒音に係る類型指定地域内のついて、環境基準を達成した地 成率)です。			工場及 を保全し	び事業場の 、健康の保護	事業活動や建 態に資するたと いることにより	かです。			うこと等により	り、生活環境
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:	ı	■ 達成	□ 概排	ぬ達成 □	未達成					
騒音に係る類型指定地域にお <del>181</del> 171地点中 <del>155</del> 152地点が環					6時から午後	10時)、夜間	引(午後10時	から翌日の午	F前6時)の2	時間帯で
【今後に向けた対策・方向性】 引き続き、騒音に係る類型指導	定地均	域内の環	境騒音を	把握し、報告	書等による公	表を行う。				
【H26予算への反映状況(予定)	1									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定	t 🗆 1	廃止 口 そ	その他(			)		
										環境政策課
					<u> </u>					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		計画策划	定時の値	H23年度	H24:		達成率	H25年度		最終目標値
指標 38						実績値				
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	大根胆		目標値	目標値	(H27年度)
照音に係る類型指定地域内の 環境基準達成率(自動車騒音)	数値		年度)  .2%	実績値 94%	90%	95.7%	106%	90%	90%	(H27年度) 90%
騒音に係る類型指定地域内の			.2%		90%		106%			
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。	値自動	89	.2% 目標値の 自動車 めです。	94% の設定理由と 騒音に係る記	90%	95.7% めること等に	より、生活環	90%	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の 環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の 行による交通騒音について、環	値自動	89	.2% 目標値の 自動車 めです。	94% の設定理由と 騒音に係る記	90% 達成後の姿 許容限度を定	95.7% めること等に	より、生活環	90%	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。	自動境基	89 h車の走 準を達成	.2% 目標値の 自動車 めです。	94% の設定理由と 騒音に係る記	90% 達成後の姿 許容限度を定	95.7% めること等に	より、生活環	90%	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。	自動 要因	89 加車の走 準を達成 分析】	.2% 目標値の 自動車 めです。 この目	94% の設定理由と 騒音に係る  のが達成され	90% 達成後の姿 杵容限度を定 いることにより	95.7% めること等に	より、生活環	90%	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	値 自基 要 【	89 加車の走 準を達成 分析】	2% 目標値(a 自動車 めです。 この目(	94% の設定理由と 騒音に係る記 的が達成され ぬ達成 ロ	90% 達成後の姿 許容限度を定 はることにより 未達成	95.7% めること等に 静穏な生活	より、生活環境が得られ	90% 境を保全し、 れます。	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況と	値 自基 要 自	89 加車の走成 分析】 ■ 達成 加車の走行	2% 目標値の 自動車 のです。 この目に	94% の設定理由と 騒音に係る  のが達成され  は達成 ロ  の通騒音につ	90% 達成後の姿 件容限度を定 しることにより 未達成 いて、測定箇	95.7% めること等に 静穏な生活 所の3地点で	より、生活環境が得られ 環境が得られ で環境基準を	90% 境を保全し、 れます。 達成した戸数	90%	90%
騒音に係る類型指定地域内の環境基準達成率(自動車騒音) 指標の説明 騒音に係る類型指定地域内の行による交通騒音について、環した地点の割合(達成率)です。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況と	値 自基 医 重 地址	89 加車の走成 分析】 ■ 達成 加車の走行	2% 目標値の 自動車 のです。 この目に	94% の設定理由と 騒音に係る  のが達成され  は達成 ロ  の通騒音につ	90% 達成後の姿 件容限度を定 しることにより 未達成 いて、測定箇	95.7% めること等に 静穏な生活 所の3地点で	より、生活環境が得られ 環境が得られ で環境基準を	90% 境を保全し、 れます。 達成した戸数	90%	90%

指標 39		計画策定時の値		H23年度	度 H24年度		<b>&gt;+</b> -5	H25年度	H26年度	最終目標値
	Jier.	(H21年度)		実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
ダイオキシン類に係る環境基準 達成率	数值	100%		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標の説明	<u> </u>		目標値の	┃ の設定理由と	達成後の姿		<u>I</u>			<u>I</u>
大気、水質、底質、土壌についてダイオキシン類の環境調査を実施し、環境基準を達成した地点数の割合(達成率)です。			ダイオキシン類は大気、水質、虚質、土壌の4種類について環境基準が定められており、常時監 対象実施する必要があるためです。							
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況		分析】 ■ 達成	□概≉	b達成 □	未達成					
ダイオキシン類特別対策措置法第26条の規定により、都道府県知事は大気、水質、土壌等のダイオキシン類による汚染状況の常時監視、公表及び国への報告が義務付けられていますが、県が平成24年度に測定した長崎市を除く県下61地点で環境基準を達成しています。 ダイオキシン類対策特別措置法が平成12年1月に施行され、廃棄物焼却施設等のダイオキシン類排出事業者に厳しい排出基準が適用されている事から目標を達成したと思われます。										
【今後に向けた対策・方向性】 今後もダイオキシン類特別対 類により汚染されていない良好						<b>等のダイオキ</b> :	シン類汚染状	況の常時監	視を継続し、	ダイオキシン
【H26予算への反映状況(予定) □ 拡充予定 ■ 現状維持	_	縮小予算	È D	廃止 口 名	その他(			)		環境政策課
指標 40	T	計画策定	官時の値	H23年度	H24	 年度	<u> </u>	H25年度	H26年度	最終目標値
指標 40		計画策定	と時の値 年度)			年度 実績値	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
指標 40 施設に係るダイオキシン類の排出基準遵守率	数値	(H21:		H23年度 実績値 93%	H24 目標値 100%	年度 実績値 93.3%	達成率	H25年度 目標値 100%	H26年度 目標値 100%	最終目標値 (H27年度) 100%
施設に係るダイオキシン類の排		(H21:	年度)	実績値	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
施設に係るダイオキシン類の排出基準遵守率	没で担	(H21: 87. 非出濃度	年度) -5% 目標値の 廃棄物 排出基準	実績値 93% の設定理由と 1 焼却炉などの 1 焼却炉などの 1 焼 割 炉 な どの 1 焼 割 炉 寸 状 沢	目標値 100% 達成後の姿 Dダイオキシ: を把握するが	実績値 93.3% 93.6 シ類を発生す こめです。	93%	目標値	目標値 100% 基準が定めら	(H27年度) 100%
施設に係るダイオキシン類の排出基準遵守率 指標の説明 ダイオキシン類を発生する施を測定し、排出基準に適合した	で設   要 : 所実   イオー	(H21: 87. 非出の割を 分析】 は、現在は ももいる。 また。 おいる。 おいる。 おいる。 おいる。 は、現在は もった。 もった。 もった。 もった。 もった。 もった。 もった。 もった。	年度) 5% 目標値 物料基基 概	実績値 93% の設定理由と60 焼却炉守状況を順の守むを順守守させる達成 □ で排出合すする	目標値 100% 達成後の姿 Dダイオキるが さることにより 未達成 D超過があり 施設となって	実績値 93.3% 93.3% ン類を発生す こめです。 、ダイオキシ 、目標を達成 います。	93% 93% ごかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	目標値 100% いては、排出。 境汚染を防止	目標値 100% 基準が定めら 上できます。	(H27年度) 100% かれており、
施設に係るダイオキシン類の排出基準遵守率  指標の説明 ダイオキシン類を発生する施 を測定し、排出基準に適合した (順守率です。  分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 平成24年度に調査した事業ド成24年度に調査した事業を成24年度に調査した事業を成24年度末までに施設改善を	We	(H21: 87. 非出濃度合 分析】 成 達 設 中は も シンまり ま	年度) 5% 目標 廃出出出版。 の排 地	実績値 93% の設定理由とび 原本	目標値 100% 達成後の姿 のダイオキるかりを把こととにより 未達成 の超過かなって	実績値 93.3% 93.3% ン類を発生す こめです。 、ダイオキシ 、目標を達成 います。	93% 93% ごかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	目標値 100% いては、排出。 境汚染を防止	目標値 100% 基準が定めら 上できます。	(H27年度) 100% かれており、

指標 41		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
自主測定及び報告の遵守率	数 値	97	.2%	100%	100%	99.0%	99%	100%	100%	100%
指標の説明	1	<u> </u>	目標値の	D設定理由と	<u>┃</u> :達成後の姿			l		
ダイオキシン類を発生する施 られている自主測定を実施し報 割合です。			ダイオー る義務か 自主測	キシン類を発 「あるためです 」定を徹底させ 里の参考となり	生する施設を す。 せることにより					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成	■概	ね達成 □	未達成					
自主測定の対象となる97施記が未実施であった1施設につい										度内の測定
		て未報告施設名等も公表する事で事業者に自主測定報告を促しておりますが、今後は事業者に対し年度内( 行い目標を達成したと考えます。								年度内の測
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	È 🗆 .	廃止 口 そ	その他(			)		
										環境政策課
指標 42	_	北丽姓	こはのは	1100左座	1104	左曲		山の左左曲	1100年中	目 44 口 !
指標 42			と時の値			年度	達成率	H25年度		最終目標値
市町が設置する一般廃棄物処 理施設のダイオキシン類排出 量	数値	0.36g-TE	年度)  :Q/年	実績値 0.39g-TEQ/年	目標値 0.37g-TEQ/年	実績値 0.47g-TEQ/年	79%	目標値 0.35g-TEQ/年	目標値 0.32g-TEQ/年	(H27年度) 0.30g-TEQ/ 年以下
指標の説明	<u> </u>	l	目標値の	<u> </u>	  達成後の姿			l		
一般廃棄物が処理されている 事務組合の焼却施設から大気 るダイオキシン類の量です。ダー の放出は、一般廃棄物焼却施 が最も多くなっています。	中に打 イオキ	非出されーシン類	施設の オキシン	統合化を進め 類排出量の 達成されれば	め、H2O年度 目標値を設定	こしています。				
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	コ 達成	□概	ね達成 ■	未達成					
平成23年度においては壱岐 しかし、前年度より0.07g-TEQ	里広域化計画に基づき、ダイオキシン類の発生の少ない高度処理が可能な施設への転換が順次図られている。 においては壱岐市において転換が行われ、平成24年度は前年度と比較し、0.03g-TEQ/年の排出量の減少があった。 より0.07g-TEQ/年の増加をした1炉を始め、前年度より増加した炉が、38炉中19炉あり(前年度は13炉)、全体的に したことにより未達成となった。									
【今後に向けた対策・方向性】 施設耐用年数の検討や地域(	]けた対策·方向性】 月年数の検討や地域住民の理解などを計画的に推進する市町等を支援し、目標達成に向けた技術的支援等を行う。									
【H26予算への反映状況(予定)	1									
		縮小予算	È 🗆 .	廃止 口 そ	その他(			)	廃	棄物対策課

# 基本目標Ⅲ 人と自然とが共生する快適な環境づくり

指標	43			計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値	
		ļ	*-			実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)	
自然公 る巡視		視回数(職員によ	数値		-	276回	216回	235回	108.80%	216回	216回	216回	
指標	の説明				目標値0	の設定理由と	達成後の姿						
	て、県会	1 1月につき3回の: 全体(計6機関)で			赴き確認 巡視に	の区域指定ではなるよう目標 より、公園の れた情報を集	標値を設定しる 適切な管理・	ました。 利用が図られ	れ、優れた自	然環境を保護	ますることがて	きます。ま	
分	析·検証												
【平成2	24年度 <i>0</i>	 )達成状況とその	要因	分析】									
●平成	24年度	目標の達成状況:		■ 達成	□概∤	は達成 □	未達成						
自然	公園法に	画的な巡視が行: に係る違反行為に することができた	つい						見された案件	も含まれ、公	園内での開発	発行為に対	
		対策・方向性】 別数を維持して積	極的!	に情報収	集を行い、	、得られた情	報は記録とし	,て残すととも	に、定期的な	≒監視によって	で違反行為の	発生を防	
【H26予	ダダクの	反映状況(予定)	]										
				縮小予算	定 口 .	廃止 □ そ	その他(			)		自然環境課	
•					定 ■ 現状維持 □ 縮小予定 □ 廃止 □ その他( ) 自然環境課								
												- M M SORIA	
+ <b>▷</b> +=	44			計画等	マ時の値	□22年 庄	Шэл	<b>年</b> <del></del>		山25年度	山26年中		
指標	44				定時の値			年度	達成率	H25年度		最終目標値	
	多生動植 <sup>2</sup>	物種保存地域の	数値	(H21	定時の値 年度) 也域	H23年度 実績値 4地域	H24 目標値 5地域	年度 実績値 5地域	達成率	H25年度 目標値 6地域	H26年度 目標値 7地域		
希少野 指定地	多生動植 <sup>2</sup>	物種保存地域の	数値	(H21	年度)	実績値	目標値 5地域	実績値		目標値	目標値	最終目標値 (H27年度)	
希少野指定地	を生動植 <sup>:</sup> は数 の説明	物種保存地域の	値	(H21) 2地	年度) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績値	目標値 5地域 の後条 で環境毎年動植 が野生車植	実績値 5地域 5行(H2O.4. 1地域以上の物の保護と	100% 1)後、2年間 新規指定を E息・生育地(	目標値 6地域 6で2地域のネット 1で2地域のネット 10で2地域のネット 10で2に関するのでは、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10	目標値 7地域 6少野生動植成と設定した。	最終目標値 (H27年度) 8地域 物種保存地 もの。計画年	
希少野 指定地 指標 人とI	を生動植 <sup>:</sup> は数 の説明	生に資する地域	値	(H21) 2地	年度) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績値 4地域 の設定理由と 例である未来 し、その後き	目標値 5地域 の後条 で環境毎年動植 が野生車植	実績値 5地域 5行(H2O.4. 1地域以上の物の保護と	100% 1)後、2年間 新規指定を E息・生育地(	目標値 6地域 6で2地域のネット 1で2地域のネット 10で2地域のネット 10で2に関するのでは、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10	目標値 7地域 6少野生動植成と設定した。	最終目標値 (H27年度) 8地域 物種保存地 もの。計画年	
希少野指定地 指標 人と!	5生動植: 域数 の説明 自然の共 析・検証	生に資する地域	を表	(H21 2地 すもの。	年度) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績値 4地域 の設定理由と 例である未来 し、その後き	目標値 5地域 の後条 で環境毎年動植 が野生車植	実績値 5地域 5行(H2O.4. 1地域以上の物の保護と	100% 1)後、2年間 新規指定を E息・生育地(	目標値 6地域 6で2地域のネット 1で2地域のネット 10で2地域のネット 10で2に関するのでは、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10	目標値 7地域 6少野生動植成と設定した。	最終目標値 (H27年度) 8地域 物種保存地 もの。計画年	
希少野指定地 指標 人とI	P生動植 <sup>2</sup> の説明 自然の共 析·検証 24年度の	生に資する地域	を表 要因	(H21) 2地 すもの。	年度)  ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実績値 4地域 の設定理由と 例である未引 その後 よいても、 条	目標値 5地域 達成後の姿 程環境条年 開続き毎年動植 が野生保全に	実績値 5地域 5行(H2O.4. 1地域以上の物の保護と	100% 1)後、2年間 新規指定を E息・生育地(	目標値 6地域 6で2地域のネット 1で2地域のネット 10で2地域のネット 10で2に関するのでは、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10では、10	目標値 7地域 6少野生動植成と設定した。	最終目標値 (H27年度) 8地域 物種保存地 もの。計画年	
希指 と 分 成 成 成種 中の 成 で 成 で で で の で は で で かん かん かん かん かん かん かん で が で が で が で が で が で が で が かん	多生動植 切域数 の説明 自然の共 証24年度度 こ22年度渡 22の保護	生に資する地域	を 要 : 長保全	(H21) 2世 すもの。 分析】 達 版レッ必 を図る。	年度   域   様 域度地   リ要が   は	実績値  4地域  の設定をある後、 ののでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 ので	目標 5地域 多級 後条 年間 後条 年間 後条 年間 6 5 4 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	実績値 5地域 51地域 51地域以近の11地域以近の11地域以近の11地域以近の12地域のでは大きれる。	100% 1)後、2年を 計規指定を を を の実現を目 値物として、1. でる条例第51	目標値 6地域 の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の地域の	目標値 7地域 7地域 6少野生動程・ 3を設定した基・ 3を対けに基・ 5・ 5・ 5・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・ 7・	最終目標値 (H27年度) 8地域 4種保計の もの。必要な におり、これ	
希指 指 人 平 平ののの 後成	を生動数 明 の 自 析 4年 年 年 年 保に	生に資する地域  立達成状況とその 目標の達成状況  にとりまとめた長と生息・生育地の付要と認められる1ま	値 ・ 要 : ・ 長保地	(H21 2地 すもの。 分析 達 レるの 最をを、、	年度)  ・ は	実績値  4地域  2 設定 あの後、物  例し、そのも、物  のと、対  のと、対  のと、対  のに、大  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、表  のは、、ま  のは、い  のは、	目標値 5地域 多様環境等集集 15少様性保全 大きりでは、 大きりでは、 大きりでは、 大きりでは、 は、 大きりでは、 は、 大きりでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	実績値 5地域 5地域 行(H20.4. 1地域以上の物の 物の慮した社会 物の慮した社会 ある野守明値を通	100% 1)後、2年間 新規指定を地 を記・実現を目 直物として、1 でる条例第51 ででである。	目標値 6地域 の4域の4数 1世長、に 1日指し、に 1日保全 1日保全 1日保全 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に	目標値 7地域 7地域 5少野生 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	最終目標値 (H27年度) 8地域 8地域 存存画 8地域 4 特別 5 5 6 7 8 8 8 8 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	
希指	を生動数 明 の 自 析・検 度 度 まとっという に かっと は な と 年 保に こ の に の に 年 成 を に こ 24 達 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	生に資する地域  立達成状況とその 目標の達成状況  にとりまとめた長と生息・生育地の付要と認められる1ま	値 表 要 、 長保地 実	(H21 2地 すもの。 分析 達 レるの 最をを、、	年度)  ・ は	実績値  4地域  2 設定 あの後、物  例し、そのも、物  のと、対  のと、対  のと、対  のに、大  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、、表  のは、、表  のは、、ま  のは、い  のは、	目標値 5地域 多様環境等集集 15少様性保全 大きりでは、 大きりでは、 大きりでは、 大きりでは、 は、 大きりでは、 は、 大きりでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	実績値 5地域 5地域 行(H20.4. 1地域以上の物の 物の慮した社会 物の慮した社会 ある野守明値を通	100% 1)後、2年間 新規指定を地 を記・実現を目 直物として、1 でる条例第51 ででである。	目標値 6地域 の4域の4数 1世長、に 1日指し、に 1日保全 1日保全 1日保全 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に 1日に	目標値 7地域 7地域 5少野生 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	最終目標値 (H27年度) 8地域 8地域 存存画 8地域 4 特別 5 5 6 7 8 8 8 8 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	

指標 45		計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
		(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
緑といきもの賑わい事業(生物 多様性保全)実施箇所数	数値	4カ	`所	13か所	15か所	17か所	113%	18か所	20か所	22か所
指標の説明			日堙値(	の設定理由と	達成後の姿					
1日1示 (プロル・タブ						ため 気生度	EO 2笛形ざ	つ実体策能な	:	・大車業の
希少野生動植物種やその生息 事業の実施箇所数 	地等	の保全		生物多様性( り、生物多様 す。						
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況		■ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
平成22年に名古屋市で開催さ 心が国内外で高まっている。本! おり、平成24年度は県事業として	県にる	おいてもず	F成21年	度から緑とい	きもの賑わい	事業において	て生物多様性	保全事業を	メニューの一	
FA.W										
【今後に向けた対策·方向性】 平成25年度も引き続き、希少科	番/모 4	シンドナト		たどの足関す	主業への結別	た行うレレ±	に周車業にも	シハナも没有	は物群落の仏	2 仝 - 公 - 全 小
種保全にかかる施設整備などを									1世1の4十2台の7月	木主 で布ツ
【H26予算への反映状況(予定)										
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定	Ē 🗆 1	廃止 口 そ	- の他(			)		
										自然環境課
指標   46	_	計画生	定時の値	1100年度	H24:	午庄		山丘左帝	H26年度	最終目標値
140				H23年度			達成率	H25年度		
	数	(H21	年度)	実績値 ———	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
保安林面積	値	48,1	34ha	48,984ha	49,000ha	49,372	100.8%	49,170ha	49,340ha	49,500ha
指標の説明				の設定理由と						
保安林面積が多いということは 養機能や県土保全機能が持続 る森林が多くなるということです。	的に		公益性の定しました。	持つ水源かん )高い重要なた。 た。 達成されるこ	森林を、平成	27年度までに	に保安林に指	定することを	目標として数	値目標を設
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況		■ 達成	□ 概相	a達成 □	未達成					
************************************	: ■ 達成 □ 概ね達成 □ 未達成 『させるため、県下森林面積に占める保安林の割合を引き上げることとし、平成24年度末保安林指定目標面積を									
達成した。		るため、り	県下森林	面積に占める	保安林の割	合を引き上け	゛ることとし、ݻ	平成24年度	末保安林指定	≧目標面積を
達成した。		るため、り	<b>県下森林</b>	面積に占める	保安林の割	合を引き上け	*ることとし、፤	平成24年度	末保安林指定	2目標面積を
	させ 及び 災害	水源林に	かかる森生活環境	林に重点をお もの保全形成	うきながら、治 等を目的とす	山事業の推る保安林を持	進と併せて保 旨定する場合	R安林指定目 には森林所:	標面積を設え 有者等権利者	を とし 指定推
達成した。 【今後に向けた対策・方向性】 引き続き、山地災害危険地区、進を図る。なお、水源のかん養、	及び活	水源林に	かかる森生活環境	林に重点をお もの保全形成	うきながら、治 等を目的とす	山事業の推る保安林を持	進と併せて保 旨定する場合	R安林指定目 には森林所:	標面積を設え 有者等権利者	を とし 指定推
達成した。 【今後に向けた対策・方向性】 引き続き、山地災害危険地区が 進を図る。なお、水源のかん養得ることとしており、承諾書の取	及び 災害 得に 】	水源林に の防備、 あたってし	かかる森 生活環境 よ、地域化	林に重点をよ をの保全形成 主民の生活に	3きながら、治等を目的とす 直接関与する	山事業の推る保安林を持	進と併せて保 旨定する場合	R安林指定目 には森林所:	標面積を設え 有者等権利者	を とし 指定推

指標 47		計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	Net.	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
自然環境を活かした先進的な 地域づくりに取り組む地域数	数値	1封	 也域	1地域	2地域	2地域	100%	2地域	3地域	4地域
指標の説明			目標値の	<u>■</u> の設定理由と	 :達成後の姿		<u></u>	<u>!</u>	<u></u>	!
自然環境を活かして他地域を 進的な地域づくりに取り組む地域 としました。			県と市な地域に	町が一体とな づくりに取り組 業の推進に。	り、自然環境む地域数とし	て、計画期間	引内で3地域の	の増加を目指	し、4地域と	設定しまし
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:	: 1	■ 達成	□概≉	ね達成 口	未達成					
西海市で、自然環境に関する: ハマボウサミットを開催するなど							成を図ったこ	とにより、これ	ら自然環境	情報を基に、
【今後に向けた対策・方向性】 「ガイド養成講座」は、全県下に域において実施したい。 「ジオパークツアー」は、評価も			_						勿多様性に関	心のある地
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	È 0.	廃止 口 そ	その他(			)		
										自然環境課
指標 │ 48		計画第9	定時の値	H23年度	H24	<b>在</b> 度		H25年度	H26年度	最終目標値
	数点		年度)	実績値	目標値	実績値	達成率 ————	目標値	目標値	(H27年度)
自然公園利用者数	値	1,320	)万人	1,279万人	1,340万人	1,357万人	101%	1,350万人	1,360万人	1,370万人
指標の説明 県内の自然公園(国立公園、 立自然公園)を利用される方々(			過去5 <sup>2</sup> 定してい	の設定理由と 年間で最も利 ます。 利用が維持る	用者数が多7					
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況:			□概	ね達成 □	未達成					
平成24年度においては、西海い、施設の質の向上を図るととたこと、また東日本大震災による全体の自然公園利用者数は前行では25年度は西海である場の島原市口之津港から佐世保市到施設の老朽化や新たな興味ポム園施設についてもバリアフリー	に、気年の果のドイント	雲仙天草 北自粛ム- 実績を上 有自然公 木峠に至 の出現等	国立公園 ードり、目 回 施雲仙み があるた	園においては ・転し、各地で 票を達成する。 再整備を行し 、草国立公園 め、関係市・	、バリアフリー ・観光客の増 ことができた。 い、利用者の3 と野母半島県 関係団体等0	一の観点で園加が見られる かが見られる 安全性及び付 な公園など のニーズを踏	地内のトイレ かなど全国的 適性の向上 5つの自然公 まえた再整備	の改修を行いな観光業の後を図り利用の 園を通る九ヶ村で検討すると	い、利便性の 夏調もあったこ の増進を目指 別自然歩道に	向上を図っ とから、県 す。また、南 ついては、
【H26予算への反映状況(予定) □ 拡充予定 ■ 現状維持	施設についてもバリアフリー化、改修予算への反映状況(予定)】				その他(			)		自然環境課

指標 49	数		定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24 目標値	年度 実績値	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
自然歩道の延長	値		5.4km	465.4km	465.4km	465.4km	100%	465.4km	465.4km	465.4km
指標の説明			目標値(	】 の設定理由と	:達成後の姿		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>
九州自然歩道と自然公園施設 合計	没内 <i>σ</i>	)歩道の	関係する 得ながら うにする	教会等を結	ぶ道路等を新 県民を始め	fたに九州自 とした多くの旨	然歩道に設っ ちさんに自然	定しました。今 歩道の散策等	後、関係市民を楽しんで	いただけるよ
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 九州自然歩道は、九州7県の れ、ハイキングや自然探勝等の 北地域の区間については、平) 産教会群巡礼ルートとして整備	記: )自然: ) ) ) ) ) ) ) () () () () () () () () (	■ 達成 公園を経り して広く 年度から2	由しながら 川用されて 23年度ま	いる。従来か で自然環境整	自然歩道であ いらのルートに	加え、平成2	21年度に新加	こにルートに	選定された五	島列島と県
【今後に向けた対策・方向性】 平成25年度以降は自然歩道 木峠の従来ルートについては、 討を始め、国の自然環境整備	施設	の老朽化	や新しい	興味ポイント	の出現等があ	あるため、関係				
【H26予算への反映状況(予定 □ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	定 口 !	廃止 ■ そ	その他(九州目	自然歩道リニ	ューアル整備	<b>請事業を予定</b>	)	自然環境課
指標 50		計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
	数			実績値	目標値	実績値	~~~	目標値	目標値	(H27年度)
県民の森利用者の満足度割合	à   値   		-	83%	80%	90%	112.5%	80%	80%	80%
指標の説明	-		目標値の	の設定理由と	:達成後の姿					
長崎県民の森(382ha)は、 森林公園であり、キャンプ場、 館等の施設が設置されていま 用者満足度。	天文台	1、森林	の理解を	森は、県民に E深めるため! 足していただ	に設置されて	おり、余暇活	動や学習活			
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	)要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	2:	■ 達成	□ 概	ね達成 □	未達成					
成果指標である入場者数は、「満足」「概ね満足」が83%を占となったものの、指定管理者が満足度調査を実施し、不満な見努めるなどした。雨天時の集客る。	が目 独自 点の解	標を達成し に取り組ん 消に努め	した。また んでいる則 )たり、子(	、管理運営に 反売活動等で 共たちの森林	こかかる収支の収入があっ の収入があっ 体験学習を	の面では、キ った。利用者 乎びかけるパ	・ャンプ場利用 サービス向上 シフレットをイ	月料等の減少 のための取り 作成し、関係	などで予算を り組みとして「 幾関に訪問・	を下回る結果 ま、利用者の 配布しPRに
【今後に向けた対策・方向性】 〇指定管理者の取り組み:入りする。また、施設の概要を説明 〇県の取り組み:利用者の満別り、大型案内板の設置や遊歩	したD 足度を	VDを作り 達成する	或し、医療 ために、7	・福祉関係区アンケート結り	]体、学校関係	系団体、企業	関係団体に	配布し周知を	図る。	
【H26予算への反映状況(予定	)]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定口」	廃止 口 そ	その他(			)		林政課

指標 51		計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度	连战物	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
農林漁業体験民宿の開業軒数	値	410	0軒	636軒	556軒	713軒	128%	733軒	743軒	753軒
指標の説明	<u> </u>		目標値の	▲ の設定理由と	:達成後の姿					
「長崎県農林漁業体験民宿開づく規制緩和を受けた開業許可			H21年度 て設定す		軒数を基準に	∴、H25年度は	20軒増加、2	6、27年度は	各々10軒増加	叩を目標とし
分析·検証			l							
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:		」達成	□概≉	ね達成 □	未達成					
● 1 %€1〒及口际の生火水ル。	•	- 建热	19A.1	~E/% U	-17.02.170					
体験型修学旅行の受入拡大を て、農林漁業体験民宿の開業車										
【今後に向けた対策・方向性】 すでに最終目標を達成している 軒数の増加や開業民宿のレベノ					)推進にあた	っては、安心	-確実な受入	体制が必要	であり、今後 <sup>:</sup>	も体験民宿
	1									
		縮小予算	定 口 』	 	その他(			)		
□ 加ルァル ■ 現仏維持		州小丁万	с II )	## LJ 7	. ひ心(			,	<u>#</u>	山村対策室
									压	四门对宋至
指標 52	1	計画等5	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
1日1本 02			年度)	実績値	日標値	生反 実績値	達成率	目標値	目標値	取於日標順 (H24年度)
水辺での活動に参加した人数	数値	(1720	十尺/	大視胆	口标胆	大視胆		口标胆	口惊胆	(1124十段)
小皮 (の)  19  19  10  10  10  10  10  10  10  10	l " <u>-</u>	3,00	00人	7,132人	7,400人	7,906人	106%	-	-	7,400人
指標の説明			日煙値/	D設定理由と	・達成後の次					
1日1示ツルルリ			口标吧	/ 政に任田C	.正以仮い安					
河川・海岸・港湾・砂防施設等 ことで、愛護活動・親水活動及び ニティ活動を活発化・活性化させ	地垣				境に配慮した とさせ、水辺で					
分析·検証			•							
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
<ul><li>●平成24年度目標の達成状況:</li></ul>		■ 達成	□概≉	ぬ達成 □	未達成					
				_						
県民の親水施設や自然環境に る101箇所の整備を完了した結ら										
【今後に向けた対策・方向性】										
当初計画では平成22年度からが完了できていない箇所があっ 指標である「水辺での活動に参	たた	め、終期を	を平成25	年度までに	正長し整備を行	うった。				
【H26予算への反映状況(予定)〕	]									
□ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予定	定■り	廃止 口 そ	その他(			)		
										河川課

指標 53	l	計画策定	定時の値	H23年度	H24:	 年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H22	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H25年度)
海砂採取の年間限度量	値	3007	万m³	257万m³	270万m³	237万㎡	100%	270万m³	-	270万m³
指標の説明	<u> </u>		目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
海砂採取にかかる許認可を行 の年間採取の総量規制枠です。		の県内	この目	建設骨材とし標を達成する 限り少なくし:	ことで、水産			との調和を図	図り、海域環境	竟への影響
分析·検証			<u> </u>							
【平成24年度の達成状況とその		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	inn i	\ \ <del>+</del> + =	<u> </u>					
■平成24年度目標の達成状況	:	■ 達灰	□概≉	ぬ達成 凵	未達成					
年間採取限度量300万㎡に対	して扌	採取実績(	は237万n	<sup>ぱで目標を達り</sup>	成した。					
【今後に向けた対策・方向性】 年間採取限度量は、平成24年	度及	び平成25	5年度は2	70万㎡と決定	<b>Eしていて、こ</b>	れ以上の採り	取許認可は行	テなわない。		
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定 口 ;	廃止 口 ぞ	- の他(			)		
										監理課
15.1m   c.4	1		크막 O Ic	1100左座	1104	<b>左</b>		1105 <i>F</i> . F	1100左连	目纵口插体
指標 54			定時の値 年度)		H24: 日煙値		達成率	H25年度		最終目標値 (H27年度)
指標 54 環境保全活動取り組み集落数	数値	(H22	定時の値 年度) 集落	H23年度 実績値 117集落	H24: 目標値 112集落	年度 実績値 116集落	達成率	H25年度 目標値 125集落	H26年度 目標値 125集落	最終目標値 (H27年度) 125集落
環境保全活動取り組み集落数		(H22	年度)	実績値 117集落	目標値	実績値		目標値	目標値	(H27年度)
	信用し	(H22 112:	年度) 集落 目標値の	実績値	目標値 112集落 達成後の姿	実績値 116集落	103.6%	目標値 125集落	目標値	(H27年度)
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活 維持保全、海岸清掃、海底清掃	信用し	(H22 112:	年度) 集落 目標値の	実績値 117集落 の設定理由と	目標値 112集落 達成後の姿	実績値 116集落	103.6%	目標値 125集落	目標値	(H27年度)
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活 維持保全、海岸清掃、海底清掃 活動の取組集落数	信用しなど	(H22 112 .た水質 の保全	年度) 集落 目標値の	実績値 117集落 の設定理由と	目標値 112集落 達成後の姿	実績値 116集落	103.6%	目標値 125集落	目標値	(H27年度)
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活 維持保全、海岸清掃、海底清掃 活動の取組集落数	値	(H22 112: た水質 の保全	年度) 集落 目標値の 離島に	実績値 117集落 の設定理由と とって重要な	目標値 112集落 達成後の姿 漁業資源であ	実績値 116集落	103.6%	目標値 125集落	目標値	(H27年度)
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活 維持保全、海岸清掃、海底清掃 活動の取組集落数 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	要 : 5元:、藻場	(H22 112: た水質 分析】 は質に た水保全	年 集 目 離 に 保に全 様 保に全	実績値 117集落  D設定理由と とって重要な は達岸意識はは 清に該はは 高高 るるるるるるるる	目標値 112集落 達成後の姿 漁業資源であ 未達成 原に着掃落であ	実績値 116集落 500条 500条 500条 500条 500条 500条 500条 500	103.6% 産力の再生 こついては、 また、 長崎県	目標値 125集落 125集落 を図る	目標値 125集落 2を系保 2を系 2を系 2を系 2を系 2を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3を3	(H27年度) 125集落 電源である漁 である漁 である会に
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活 維持保全、海岸清掃、海底清掃 活動の取組集落数 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 離島漁業再生支援交付金を活 場の生産力の再生を図るうえで 場の生産力の再生を図るうえで 所属する活動組織についても、	・	(H22 112: た水保 分析 達 質を た水全湯 様や干、目標やき果、	年度 集 目 離 は持動保を達 様似 全身に成し	実績値 117集落  D設定理由と とって重要な  海岸満線はは高く あるるた。	目標値 112集落 達成後の姿 漁業資源であ 漁業資源であ に高集などの に変更を は、 に変更を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	実績値 116集落 116集落 ある漁場の生 の保全活動に でいる。 ではまでは、生	103.6% 産力の再生 こついては、 また、 長崎 態系保全活	目標値 125集落 125集落 を図る を図る	目標値 125集落 125集落 による支援の	(H27年度) 125集落 2張協議会に Dもと、活発
環境保全活動取り組み集落数 指標の説明 離島漁業再生支援交付金を活維持保全、海岸清掃、海底清掃活動の取組集落数 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 離島漁業再生支援交付金を活場の生産力の再生を図るうえで所属する活動組織についても、に、漢場や干潟の保全に取り組ん 【今後に向けた対策・方向性】 今後も国事業等を活用し、環境		(H22 112: た水保 分析 達 質を おより が、 で 質さ は 質を は 質を は 質を は 質を は 質を は 質を は 質を は 質を	年 集 目 離 □ 保に全達 様 して になず 様 になず 様 になず 様 になず 様 になず になず になず になず になず になず にないで	実績値 117集落 D設定理由と とって重要な 温達岸意識はは 清高 高 に いけるよう、市	目標値 112集落 達成後の姿 漁業資源である。 漁業資源である。 漁業資源である。 漁業資源である。 漁業資源である。 漁業資源である。 高乗業付金。 一番で金事である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	実績値 116集落 116集落 ある漁場の生 の保全活動に でいる。 ではまでは、生	103.6% 産力の再生 こついては、 また、 長崎 態系保全活	目標値 125集落 125集落 を図る を図る	目標値 125集落 125集落 による支援の	(H27年度) 125集落 125集落 近援協議会に Dもと、活発

16 lm	_	=1 == #* =	5 n+ 45 / <del>+</del>			<i>r</i> . #:				
指標 55			定時の値	H23年度		年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	2.77	目標値	目標値	(H27年度)
資源保全活動取り組み集落数	値	1,038	3集落	1,092集落	1,102集落	1,077集落	97.70%	1,107集落	1,109集落	1,120集落
指標の説明			日標値の	■ の設定理由と	·達成後の姿					
農山村資源の維持・保全を行	う集落	客数	資源保 ずれかに この目	全取組集落 に取り組む集 標を達成する 農村環境を保	数とは、中山 落数である。 ることで、農山					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成	■概	ね達成 口	未達成					
平成23年度において、中山間地離島での取組集落数が大きく増た。										
【今後に向けた対策・方向性】 引き続き中山間地域等直接支	払制	<b>川度、農地</b>	・水保全的	管理支払交付	†金の活用推	進を図り、最	終目標の達	或を目指す。		
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	定 口!	廃止 口 そ	その他(			)		
									農	山村対策室
指標 56		計画策算	定時の値	H23年度	H24	年度	法武士	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
景観計画を策定した市町数	値	4큐	可	8市町	10市町	8市町	80%	12市町	13市町	14市町
指標の説明	<u> </u>	l	目標値の	┃ の設定理由と	:達成後の姿					
景観法に基づいて景観行政を 体である「景観行政団体」が策策 な景観の形成に関する計画であ 限等の規制も含んだものです。	Eする	5、良好	に景観記 の景観? を目標と これに	度までに景観 十画策定予定 〒政団体への :しました。 より、県内の: しく長崎らしし	であったこと 移行を図って 大半の自治体	から、当該年 におり、H27年 本が景観行政	度の目標設定 度までに新規 団体として主	定を行いまし 見移行団体も	た。また同時 景観計画を領	に計14市町 食定すること
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成	□概	ね達成 ■	未達成					
全国的には毎年約50の自治体本県でも、世界遺産関係市町を市町の内、8市町が景観計画をしかし、景観計画策定には住民はH22年度以降に新たに景観行	中心 策定 の合	とする景 している。 意形成な	観に対す ども必要	る意識が高い で、策定まで	い市町は、早ま に3~4年かれ	朝に景観行政 いるのが最近	対団体へ移行 の全国的な	しており、H2 頃向である。3	1年度までに	
【今後に向けた対策・方向性】 景観計画策定には、調査や住 つかの団体が計画策定に向けて 技術的支援を引き続き行うことに	て取り	り組んでし	いるところ	である。県で	は、計画策定	補助金の交付	付による財政			
【H26予算への反映状況(予定) □ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予算	Ē □ !	廃止 口 そ	その他(			)		都市計画課

指標	57			計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度	法产本	H25年度	H26年度	最終目標値
「ごみ	- の投げ捨	て等防止重点地	絥	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
$\boxtimes J\sigma$	)散乱ごみ	・の割合(地区指 -散乱ごみの割	値		2%	20%	-	24%		-	-	10%
指標	の説明				目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
		含て等防止重点地 指定後の散乱ごみ			る地域や あり、巡[	良好な自然	環境を形成し	ている地域等	等において、特に	現点から推進 寺にごみの散 未来につなか	乱等を防止	
3	}析·検証											
【平成	24年度0	 )達成状況とその	要因	分析]								
●平	成24年度	目標の達成状況:	-	□ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
平瓦	<b>č24年度</b> 6	寺点では、最終目	標値	[には及ば	゚ないが、	確実に散乱こ	<b>゙</b> みは減少し <sup>、</sup>	ている。				
		.対策·方向性】 保健所並びに未ま	来環	境推進課	で巡回指	導を実施し、	指定地区のヨ	環境保全を図	っていく。			
【H26	予算への	反映状況(予定)	1									
□拡	充予定	■ 現状維持		縮小予算	ŧ 🗆 !	廃止 □ ぞ	- の他(			)		
1											<b>+</b> 4	2.晋倍维准理

# 基本目標Ⅳ 県民·事業者・行政のパートナーシップによる環境づくり

-										
指標 58		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度	\ <del>+</del> -5 <del>-</del>	H25年度	H26年度	最終目標値
				実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
身近な環境活動に取り組んで いる人の割合	数値	70%		68%	72%	63%	88%	73%	74%	75%
指標の説明			目標値の	┃ の設定理由と	·達成後の姿					
「県民意識アンケート調査(政策 おける環境や地球温暖化防止流んでいる人の割合です。			県民そ	れぞれが、地	地球温暖化防動に取り組む					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析]								
●平成24年度目標の達成状況	[	□ 達成	□概	ね達成 ■	未達成					
平成24年度においては、環境 「空き缶回収キャンペーン」など・ 体平均を上回っており、地域社:	<b>への</b>	参加者数	も増加し	ているが、10位	代から30代ま	での年齢層に	こおいて「全く	く取り組んでし		
【今後に向けた対策·方向性】 平成24年度に改正された環境 により身近な環境活動へ取り組					教育等行動記	一画を策定し、	総合情報サ	イトの創設な	ど、きめ細か	な情報発信
【H26予算への反映状況(予定)	1									
■ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	ŧ o.	廃止 口 そ	その他(			)		
									未来	環境推進課
指標 59		計画策別	定時の値	H23年度	H24	年度	達成率	H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H20	年度)	実績値	目標値	実績値	廷灰平	目標値	目標値	(H27年度)
環境学習への参加者数	敛值	71.2	万人	*	73.6万人	集計中		90.0万人	90.0万人	90.0万人
指標の説明			目標値の	の設定理由と	:達成後の姿					
学校やNPO、事業者、行政等 「環境保全の意欲の増進及び環 進に関する長崎県基本計画」調 環境学習等の参加者数(延べ人	境教 査に	対育の推 おける、	め、環境		地球温暖化防加を通じて自 別されます。					
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	[	□ 達成	□概	ね達成 口	未達成					
※平成24年度実績値は、平成2 平成24年度は、平成23年度に ザーによる地域での活動も増加 み。	引き	続き節電	への取り							
【今後に向けた対策·方向性】 平成24年度に改正された環境教育等促進法の施行に伴い、環境教育等行動計画を策定し、総合情報サイトの創設など、きめ細かな情報発により身近な環境活動へ取り組む人が増加する施策を実施する。							な情報発信			
【H26予算への反映状況(予定)	1									
■ 拡充予定 □ 現状維持		縮小予算	ŧ o.	廃止 口 そ	その他(			)	未来	環境推進課

指標 60		計画策定	時の値	H23年度	H24	年度	法产品	H25年度	H26年度	最終目標値
	stet.	(H21年	度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
環境アドバイザーの派遣数と参加者数	数値	数 52回 3,408人		61回 3,058人	60回 3,075人	65回 3,685人	108% 120%	70回 3,500人	70回 3,500人	70回 3,500人
指標の説明		E	∃標値 <i>0</i>	の設定理由と	達成後の姿					
環境保全について理解を深め 推進することを目的に、行政やF 域団体等を対象として自然環境 生活環境、環境教育などの専門 る「環境アドバイザー」を派遣す	TA、 や環 知識	学校、地 境保全、型 を有す 未	业社会σ	)形成、生物	よる講演会や多様性保全に	ついて関心	を高め、自主			
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:		■ 達成	□概≉	a達成 🗆	未達成					
これまで、環境アドバイザーの し、また、環境アドバイザー(生ご										
【今後に向けた対策・方向性】 国においては、平成24年10月 としていることから、新たな計画 策を行う。環境アドバイザー派遣	のな	かで、地域、	学校、	行政等との選	連携・協働を昂	Řり込むなど.	計画に沿っ	て、環境活動	へ取り組む人	
【H26予算への反映状況(予定)	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定		廃止 □ そ	その他(			)	未来	環境推進課
									1481	
指標 61	[標 61 計画策定時の値 H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 最終目標(								最終目標値	
		(H21年	度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
ĺ	数									

指標 61		計画策定	定時の値	H23年度	H24	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
	数	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
生ごみ減量化リーダーの活動回数	値	79	5回	912回	848回	1,244回	147%	1,300回	1,300回	1,300回
指標の説明		•	目標値の	の設定理由と	:達成後の姿					
一般廃棄物の排出量抑制やリ目的に、生ごみ堆肥化などの活る生ごみ減量化リーダーの活動	動を	行ってい			る一般廃棄物 あり減と循語				タ」があり、排	出量の減少
分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況:		■ 達成	□概≉	a達成 □	未達成					
近年、食育活動として、生ごみに対し、さらに地域等での活動が増加した。また、平成24年度に、成した。	が活き	発になるよ	うに、環	境アドバイザ	一派遣制度の	の活用を促し	、その結果、	平成24年度に	は学校等での	活動回数が
【今後に向けた対策・方向性】 平成24年度より、一般廃棄物の 援事業を実施している。なお、こ なっている。このため、環境アド	の中	で生ごみ	の減量化	を課題として	いる市町は約	約7割を占め、	生ごみは市	町のごみ減量	<b>遣化の主な</b> 課	題の一つと
【H26予算への反映状況(予定)】	]									
□ 拡充予定 ■ 現状維持		縮小予定	ŧ 🗆 I	廃止 □ 名	その他(			)		

未来環境推進課

指標	62			計画策定	定時の値	H23年度	H24:	年度		H25年度	H26年度	最終目標値
			***	(H21	年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
	理システ 数(累計:	ムの新規認証 )(再掲)	数値	34	件	17件	32件	28	88%	48件	64件	80件 (平成23~ 27年度)
指標0	の説明				目標値の	の設定理由と	達成後の姿					
環境管	管理シス・	テムを導入したり	県内:	企業数								
分	析·検証											
【平成2	4年度の	 達成状況とその	要因	分析】								
●平成	24年度目	標の達成状況	: [	□ 達成	□概≉	a達成 ■	未達成					
したガイ	イドライン	ジメントシステム に基づく「エコア 合会の研修会な	クシ:	ョン21」に	ついては	全国及び県内	nにおいても <sup>±</sup>	曽加傾向であ	る。本県では	t「エコアクシ:		
今後、	「エコア	対策·方向性】 クション21」につい 最終目標達成を			エコアクシ	/ヨン21地方耳	■務局と協議	しながら、県F	商工会連合会	☆など県内の	商工関係団体	本等への働
【H26予	算への反	反映状況(予定)	]									
□ 拡き	充予定	□ 現状維持		縮小予算	ŧ 🗆 J	廃止 □ そ	- の他(			)		
									证 <del>的</del> 票	が筆理・グロー	-`、- ¬ <del>_ デ</del> ,	(一儿推准室

# 環境保全のための共通的基盤的施策

指標 63	Г	計画第9	定時の値	H23年度	H24:	<b>在</b> 度		H25年度	H26年度	最終目標値
1613			年度)	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値	(H27年度)
環境管理システムの新規認証 登録件数(累計)	数値		<u> </u>	17件	32件	28件	88%	48件	64件	80件 (平成23~ 27年度)
指標の説明			目標値の	の設定理由と	達成後の姿					ı
環境管理システムを導入したり	県内:	企業数								
分析·検証										
【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】								
●平成24年度目標の達成状況	: [	□ 達成	□概	ね達成 ■	未達成					
主な環境マネジメントシステム(EMS)のうち、「ISO14001」の認証登録については全国及び県内においても減少傾向であるが、環境省が策定したガイドラインに基づく「エコアクション21」については全国及び県内においても増加傾向である。本県では「エコアクション21」の地域事務局と連携し、商工会連合会の研修会などにおいてEMS認証の説明と働きかけを行ったが、目標に達成しなかった。										
【今後に向けた対策・方向性】 今後、「エコアクション21」については県内のエコアクション21地方事務局と協議しながら、県商工会連合会など県内の商工関係団体等への働 きかけを行い、最終目標達成を目指す。										
【H26予算への反映状況(予定)	<del></del>									
□ 拡充予定 □ 現状維持	_	縮小予算	定 口 !	廃止 口 ぞ	- の他(			)		
							環境區	女策課・グリー	-ンニューデ	ィール推進室
+ L - L - L - L - L - L - L - L - L - L	_	北丽姓。	= 中の店	1100左曲	1104	<b>左</b>		1105 F E	山の左右	目 44 口 播 法
指標 64			定時の値 年度)	H23年度 実績値	H24: 目標値	実績値	達成率	H25年度 目標値	H26年度 目標値	最終目標値 (H27年度)
農業生産工程管理(GAP)取り 組み件数	数値		)件	90件	82件	108件	132%	118件	129件	140件
指標の説明			日標値の	の設定理由と	達成後の姿					
指標の説明  GAPに取り組む産地の数。 平成27年度までに140産地に増やす計画です。 GAPは、農業を行っていくうえで農薬・肥料・機械等を適切に利用するだまです。GAPの取組件数を増やし環境保全、環境保全、労働安全に効法です。GAPの取組件数を増やし環境保全型農業に取組む産地を増や										
平成27年度までに140産地に す。	曽や	す計画で	点検·評	価し改善する	ことによって	、食品安全、	環境保全、労	働安全に効	率的に取り約	むための手
	曽や <sup>.</sup>	す計画で	点検·評	価し改善する	ことによって	、食品安全、	環境保全、労	働安全に効	率的に取り約	むための手
す。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	要因	分析】	点検・評 法です。	価し改善する GAPの取組	ことによって 件数を増やし	、食品安全、	環境保全、労	働安全に効	率的に取り約	むための手
す。 分析·検証	要因	分析】	点検・評 法です。	価し改善する GAPの取組	ことによって 件数を増やし	、食品安全、	環境保全、労	働安全に効	率的に取り約	むための手
す。 分析・検証 【平成24年度の達成状況とその	要因 : <b>i</b> : 対す (GAP	分析】 ■ 達成 よる意識にいる意識にいる。	点検・評法です。  □ 概ね は高く、生について名	価し改善する GAPの取組 は達成 ロ 産者側の意識 各種資料の面	ことによって 件数を増やし 未達成 まさら研修会	、食品安全、環境保全型	環境保全、労 農業に取組む では、農産物 ではるとともに	かり かから から から から から から から から から から から から から	率的に取り& していきます 	またがの手。 ・ の未然防止
す。	要因 : 対 GAP の助	分析】 ■ 達成  ***	点検・評。 は高ついて、E	価し改善するGAPの取組には は達成 口 産者側の意識を を発養される引 また、対応でき	ことによってし 件数を 様をさら研数の は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	、食品安全、環境保全型 うるため、県で によって説明 育加につなげ	環境保全、党機業に取組を受けるとともにた。	労働安全に効や 対象 生産集団によ 生産工程管理 生産工程管理	率的に取り していきます けして、危害 けり育成した。 里(GAP)の高	attための手。 の未然防止 AP指導員に 高度化やその
す。     分析・検証 【平成24年度の達成状況とその ●平成24年度目標の達成状況 消費者等の農産物の安全性にの観点から農業生産工程管理(よる具体的な実践手法について 【今後に向けた対策・方向性】 実需等からの農産物の安全性	要因: d d d d d d d d d d d d d d d d d d d	分析】 ■ 達成  ***	点検・評。 は高ついて、E	価し改善するGAPの取組には は達成 口 産者側の意識を を発養される引 また、対応でき	ことによってし 件数を 様をさら研数の は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	、食品安全、環境保全型 うるため、県で によって説明 育加につなげ	環境保全、党機業に取組を受けるとともにた。	労働安全に効や 対象 生産集団によ 生産工程管理 生産工程管理	率的に取り していきます けして、危害 けり育成した。 里(GAP)の高	attための手。 の未然防止 AP指導員に 高度化やその

# 第6章 重点施策の動き

<目標>

# 第1節 地球環境保全の取組み

# 1 ゴミゼロながさきプロジェクト

# 県民・事業者・行政等それぞれが役 割分担しながら、連携・協力のうえ廃 棄物減量化や再資源化に取組み、ゴ

ミのない資源循環型の長崎県「ゴミゼ

<指標>

[平成 24 年度]

- ①1 人 1 日あたり一般廃棄物排出量 (907g/人・日)
- ②一般廃棄物再資源化率(21.2%)
- ③産業廃棄物再資源化率のうち多量 排出事業者再資源化率(54.5%)
- ④ごみ焼却施設数(23 施設)
- ⑤産業廃棄物処理業者の基準適合 率[立入検査回数に対する指導不要 の業者数の割合](94%)
- ⑥排出事業者研修会参加者数(260人)
- ⑦海岸漂着物の発生抑制対策、国際協力事業の実施回数(6 回以上) ⑧生ごみ減量化リーダーの活動回数
- (1,244 回(H24 年度))

# ②H24 年度の取組状況

口ながさき」を目指す。

- 代表的な施策の実績と効果
- 〇長崎県廃棄物対策連絡協議会における長崎県廃棄物処理計画の進捗管理
- ・県内市町と排出量の削減及び再生利用率の向上のための方策について検討を行った。
- ※平成 24 年度の一般廃棄物排出量、再資源化率の実績値は、平成 26 年 3 月に把握できる予定
- 〇長崎県ごみ処理広域化計画
- ・計画に基づくごみ処理施設等の集約化を図るため、市町等が循環型社会形成推進交付金活用のために策定した循環型社会形成推進地域計画に基づく事業を実施し、計画どおり実施した。
- 〇廃焼却炉解体支援事業
- ・財政状況が厳しい市町が設置している廃焼却炉の解体経費に対する県単独補助を行い、早期解体を 図った。(計画 8 施設→実施 7 施設)
- OPCB廃棄物処理推進事業
- PCB廃棄物の全保管事業者(222 事業者)に対し延べ 224 回の立入検査を実施し、長崎県PCB廃棄物処理計画に基づく適正保管及び処理を推進した。
- 〇産業廃棄物処理施設監視指導
- ・産業廃棄物処理業者等に対し、効率的で統一的な立入検査を実施し産業廃棄物の不適正処理の未然防止を図り、産業廃棄物処理業者の基準適合率目標 94%に対し、95%と目標を達成した。
- 〇産業廃棄物審査指導
- ・産業廃棄物の適正処理を徹底し排出抑制を推進するためには、処理業者のみならず排出事業者の役割が重要なため、産業廃棄物排出事業者研修会を5回、多量排出事業者研修会を1回実施し、475人の参加者があり目標とする260人を達成した。
- 〇廃棄物不適正処理対策事業
- ・不法投棄・違法焼却の未然防止及び早期発見・改善を図るため、定期的な巡回パトロールを 2,421 回実施し、目標とする 1,900 回を達成した。
- 〇海岸漂着物地域対策推進事業
- ・「長崎県海岸漂着物対策推進計画」に基づき、国、市町、民間団体等と連携を図りながら海岸漂着物の 回収処理や発生抑制対策を全市町で実施した。
- 〇ながさき環境県民会議
  - •「ゴミゼロながさき実践計画」進捗状況管理や重点活動の進捗状況管理を実施。
- 〇ゴミゼロ県民運動支援事業

- ・街頭キャンペーンや県 HP など、県民へのゴミゼロ意識の確立に向けて情報発信を行い、環境保全活動取組みの促進など一定の成果があった。
- ・生ごみ減量化、リサイクル活動に取組む活動団体を支援。県内各市町における一般廃棄物の課題の一つに「生ごみ」があり、課題解決に向けて行政との情報交換

など生ごみ減量化の取組みを推進。

- 〇ゴミゼロ市町支援事業
- ・各市町等を対象に情報提供など研修会開催を開催。(年1回)
- ・ゴミゼロ市町支援事業 PT を設置し、排出削減や再生利用率が低迷している市町に対して必要な検討や提言を行った。(2回、参加市町:10市町)
- 〇事業所支援事業
  - ・レジ袋有料化協定締結(新上五島町 1事業者1店舗)計7事業者15店舗) 有料化前21%のマイバッグ持参率が有料化後約85%となっている。
  - ・機密文書リサイクル手法の検討
- 〇快適環境保全推進事業
- ・ごみの投げ捨て等防止重点地区等26地区の巡回指導等を実施。重点地区の散乱ごみの減量化に繋がっている。

(重点地区散乱ごみの割合 H27年度目標値:32% H24年度実績:24%)

- 〇リサイクル製品認定制度
  - •H24 年度新規認定件数目標值:10 件、実績 2 件
- ・長崎県リサイクル認定制度の見直し(出荷先情報等の義務付け、品質検査不適合品の一時利用中止措置)

### ③H24 年度目標(指標)の達成状況

- ①②平成 24 年度の実績値は、環境省が実施する実態調査により、平成 26 年 3 月に把握できる予定 ③平成 24 年度の実績値は、現在、公表に向けて、提出された計画の内容精査中であり、平成 25 年 10 月に把握できる予定
- ④ごみ焼却施設数 目標 22 施設、実績 22 施設
- ⑤産業廃棄物処理業者の基準適合率[立入検査回数に対する指導不要の業者数の割合] 目標 94%、実績 95%
- ⑥排出事業者研修会参加者数 目標:3回以上260人 実績:6回475人
- ⑦海岸漂着物の発生抑制対策、国際協力事業の実施回数 目標 6 回以上、実績 7 回
- ⑧生ごみ減量化リーダーの活動回数(H24 年度目標 848 回、実績 1,244 回)

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

# 【評価】

概ね達成(80%

# 【理由】

- ①② ※平成 24 年度の実績値は、環境省が実施する実態調査により H26 年 3 月に把握予定。
- ・H23 年度データでは、排出量は 944g/人・日と基準年の H20 年度 965g/人・日より減少傾向にある。
- ・H23 年度データでは、再資源化率は 17.0%と基準年の H20 年度 15.8%を上回ったが、前年比では 0.5 ポイント減。
- ③ ※平成 24 年度の実績値は、現在、公表に向けて、提出された計画の内容精査中であり、平成 25 年 10 月に把握予定
- ・H23 年度データでは、49.1%と H22 より上昇したが目標には達していない。事業者の個々の取組みが重要であることから、産業廃棄物排出事業者研修会等を通じ、産業廃棄物の排出抑制及びリサイクル推進について周知を図っているところである。なお、研修会参加者数については目標値を上回っている。
- ※産業廃棄物再資源化率(長崎県廃棄物処理計画)の各年度目標値は、5年毎の調査であり設定していない。次回は平成25年度データの調査となる。
- ④長崎県ごみ処理広域化計画においてごみ処理施設の集約化を推進しており、年度ごとの集約目標である 23 施設については達成した。
- ⑤産業廃棄物の不適正処理を未然防止を図るため、立入検査を実施した結果、立入検査回数に対する 指導不要の業者数割合をあらわす基準適合率は95%と目標を達成した。
- ⑥産業廃棄物の適正処理を徹底し、排出抑制及びリサイクルを推進するには排出事業者の役割が重要なことから、排出事業者研修会を 6 回実施し 475 人の参加者があり目標を達成した。
- ⑦NPO 団体や市町等と連携・協力し、日韓海峡沿岸漂着ごみ一斉清掃や街頭キャンペーンでのパネル

展示、環境教育等、発生抑制対策及び国際協力事業として7事業を実施し目標を達成した。

⑧生ごみ減量化リーダーの活動回数については、1,244回と目標値を上回った。に基づき各主取組みを 実践した。

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

率の向上に向けた先進的な取組み事例を参考にし、各市町における今後の施策展開について検討を行う。

- ・市町において、循環型社会形成推進交付金を活用したごみ処理施設の整備を図る。(H25 年度 年間計画 14 事業 上半期実施(着手) 5 事業)
- ・PCB廃棄物の全保管事業者に対する立入検査を実施し処理するまでの間の適正保管を徹底させるとともに、県有施設に保管しているPCB廃棄物を、日本環境安全事業㈱等において適正に処理する。 (対象県有施設 延べ 14 施設)
- ・PCB廃棄物の未届事業者及び事業者自身も把握していない微量PCB廃棄物の掘り起こしを行い早急な処理対策を図る。
- ・産業廃棄物処理業者に対し、頻繁な立入検査を実施し、不適正処理の未然防止を図る。

(目標 3,400 回、4 月~8 月実績 2,100 回)

- ・産業廃棄物排出事業者及び多量排出事業者を対象とした研修会及び産業廃棄物処理事業者を対象とした優良産廃処理事業者認定制度説明会を実施し、産業廃棄物の適正処理、排出抑制及びリサイクル推進について周知を図る。(年間計画 260 人)
- ・定期的な巡回パトロールを実施し、不法投棄・違法焼却の未然防止及び早期発見・改善を図る。 (年間計画 1,900 回、4 月~8 月実績 1,047 回)
- ・「長崎県海岸漂着物対策推進計画」に基づき、国、市町、民間団体等と連携を図りながら、海岸漂着物の回収処理や発生抑制対策及び国際協力事業を実施する。

(発生抑制対策及び国際協力事業 年間計画 6回 上半期実績 4回)

- ・H24 年度を始期とする「ゴミゼロながさき実践計画」を策定したことから、ながさき環境県民会議において、県民、事業者、消費者、地域活動団体などの各主体と連携・協力し、ゴミゼロながさき実践計画に基づく、各種取組みを実践する。
- ゴミゼロ市町支援事業では、報告書をとりまとめ、個別市町の支援を行う。
- ・イオン九州㈱とレジ袋有料化協定を締結した。県レジ袋有料化地域の拡大に向けてさらなる取組みを行う。
- ・ごみの投げ捨て等防止重点地区等 26 地区の巡回指導を引き続き実施する。
- ・リサイクル認定製品の品質管理の徹底と普及促進を行う。

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

- ・長崎県廃棄物対策連絡協議会を開催し、排出量削減及び再生利用率の向上に向けた先進的な取組み事例を参考にし、各市町における今後の施策展開について検討を行う。
- ・市町において、循環型社会形成推進交付金を活用したごみ処理施設の整備を図る。
- ・廃焼却炉解体支援にかかる県単独補助は H24 年度で事業終了のため、未解体施設については、今後、国の交付金制度等を活用した早期解体の推進を図る。
- ・PCB廃棄物の全保管事業者に対する立入検査を実施し処理するまでの間の適正保管を徹底させるとともに、県有施設に保管しているPCB廃棄物を適正処理する。また、PCB廃棄物の未届事業者及び事業者自身も把握していない微量PCB廃棄物の掘り起しにより新たに判明した保管事業者に対し、早急な処理対策の実施について指導を図る。
- ・産業廃棄物処理業者に対し頻繁な立入検査を実施し、不適正処理の未然防止を図る。
- ・産業廃棄物排出事業者及び多量排出事業者を対象とした研修会及び産業廃棄物処理事業者を対象とした優良産廃処理事業者認定制度説明会を実施し、産業廃棄物の適正処理、排出抑制及びリサイクル推進について周知を図る。
- ・巡回パトロールを実施し、不法投棄・違法焼却の未然防止及び早期発見・改善を図る。
- ・「長崎県海岸漂着物対策推進計画」に基づき、国、市町、民間団体等と連携を図りながら、海岸漂着物の回収処理や発生抑制対策及び国際協力事業を実施する。
- 「ゴミゼロながさき実践計画」に基づいて、ながさき環境県民会議における各種取組みを実践する。
- ・ゴミゼロ市町支援事業において、各市町を対象として研修会の開催や個別市町に対する支援を行う。
- ・レジ袋有料化地域の拡大に取組む。
- ・リサイクル認定制度の品質管理の徹底と普及促進を行う。

# 2 ナガサキ・グリーンニューディール

# <目標>

環境対策、イノベーションの促進、 産業振興に対する一連の投資を適切 かつ効果的に実施することにより、 「社会の低炭素化・グリーン化の実 現」が可能な社会システム構築を目 指す。

# <指標>

- ■新エネルギー産業等プロジェクト推 進事業
- ○国の競争的資金獲得·事業化 3 件
- 〇環境・新エネルギー分野で取引を 拡大する企業 10 社
- ■次世代環境エネルギー技術誘致・ 連携発信事業
- 〇実証参画の県内企業 3 社
- ■環境実践モデル都市推進事業
- 〇環境実践モデル都市選定 1箇所
- 〇実行計画策定 1件

- ■海洋フロンティアプロジェクト推進事業
- 〇日本版 EMEC の誘致構想策定 1 構想
- ■長崎 EV &ITS プロジェク ト推進事業
- OEV レンタカー利用者数 (万人) 4万人

# ②H24 年度の取組状況

- ■新エネルギー産業等プロジェクト推進事業
- 〇テーマ別連携体支援

新たな事業化を検討する2社以上の企業の連携体へ支援した。運営費に対し定額補助した。プロジェクトの創出とコーディネーターの育成。

〇プロジェクト可能性調査

産学官連携によるプロジェクト構築のための事業化可能性調査。

〇プロジェクト可能性調査研究開発補助

事業化可能性調査に必要な試作・研究に対する支援。

〇販路開拓支援

県内企業の製品・技術を都市部で開催された大型産業展示会に出展。(3 箇所)

- 〇プロジェクトマネージャーの配置 プロジェクトマネージャーの配置
  - プロジェクトの推進と進捗管理。
- 〇長崎環境・エネルギー産業ネットワーク活動運営 ネットワーク総会やセミナーの開催。
- ■次世代環境エネルギー技術誘致・連携発信事業
- ○環境エネルギー分野における県外有力企業等と県内企業とのマッチングにつながるセミナーやシンポジウムの開催、誘致、支援。
- 〇次世代環境エネルギー技術誘致・連携推進事業補助金

# ■環境実践モデル都市推進事業

〇環境実践モデル都市における地域資源を活用した環境産業振興等の取組支援、ポテンシャルの高い 再生可能エネルギー事業化調査等を実施。

(対馬市:木質バイオマス発電事業化調査 西海市:潮流発電事業化調査)

■海洋フロンティアプロジェクト推進事業

平成 25 年度に提案の締め切りが予定されている「海洋再生可能エネルギー実証フィールド」誘致のため、平成 24 年度は下記の事業を実施した。

- ○事業者へ委託し、構想のたたき台となる構想案を策定した。
- ○構想案を次年度に向けて精査するための有識者会議を設置した。
- 〇欧州海洋エネルギーセンター(EMEC)から、代表者を招聘し、国内有識者とともにシンポジウムを開催した。
- ■長崎 EV &ITS プロジェクト推進事業

「長崎 EV &ITS コンソーシアム(長崎エビッツ)」において、プロジェクトの推進に当たっての具体的な検討を行い、その結果を反映して地元協議会が EV の導入及びインフラや ITS 関連施設の整備を行った。

# ③H24 年度目標(指標)の達成状況

- ■新エネルギー産業等プロジェクト推進事業
- ○国の競争的資金獲得・事業化(3件)

- 〇環境・新エネルギー分野において新規参入・取引拡大した企業(22社)
- ■次世代環境エネルギー技術誘致・連携発信事業
- 〇実証参画の県内企業(6社)
- ■環境実践モデル都市推進事業
- 〇環境実践モデル都市選定(0箇所)
- 〇実行計画策定(0件)
- ■海洋フロンティアプロジェクト推進事業
- 〇日本版 EMEC の誘致構想策定(1 構想)
- ■長崎 EV &ITS プロジェクト推進事業
- OEV レンタカー利用者数(2.4 万人)

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

### 【評価】

おおむね達成

### 【理由】

新たな環境実践モデル都市の選定はできなかったが、小浜地区における温泉熱を活用したバイナリー発電実証事業や東長崎地区における東長崎エコタウン構想等、地域主体の自発的な取組みが既に創出されており、また、その他の指標は全て目標を上回っていることから、「おおむね達成」と評価した。

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

- ①対馬プロジェクト
- ○7月5日に、産学官による対馬環境エネルギーコンソーシアムを新たに設置し、エネルギーベストミックスプランの検討を今年度行うこととした。併せて、九州電力が実施している蓄電池制御実証事業のための島内における太陽光・風力発電設備の導入や厳原港ターミナルビル等、公共施設等へのバイオマスチップボイラーの導入についても検討。
- ②西海プロジェクト
- 〇昨年度実施した潮流発電海域調査の結果等を踏まえた、小型潮流発電設備の開発と海流・潮流の調査サービスの事業展開。
- ③五島プロジェクト
- 〇自治体(五島市、新上五島町)の目的に応じた地域選定及び推進体制について検討。
- 4)海洋フロンティアプロジェクト
- 〇実証フィールドの候補地や機能要件について、有識者会議を活用し、平成26年2月における国への提案を目指し内容を検討中。これまでに、3回の有識者会議の開催と現地調査を実施した。7月12日に開催した第3回有識者会議では、実証フィールド候補地の応募のあった4市1町(長崎市、平戸市、五島市、西海市及び新上五島町)からプレゼンを受け、内容を審査し、優先順位付けを行った。会議の審議結果を踏まえ、五島市、西海市及び新上五島町から提案のあった海域を候補地として選定した。
- OEMEC視察団派遣(漁業者等も参加)。
- 〇地元での国際シンポジウム開催。
- 〇平成 26 年 2 月、国への提案。
- ⑤海外展開支援プロジェクト
- 〇相談対応(サポートデスク等)によるニーズ・シーズの発掘やFSの実施と現地における実証事業の実施、アモイ商談会の開催。
- ⑥長崎未来型エネルギー自給自足団地プロジェクト
- 〇県内外のスマートハウス関連企業や長崎総合科学大学等、スマートコミュニティ関係者と意見交換し、 プロジェクトの先のビジネスモデルについて検討。

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

- ①対馬プロジェクト
- 〇エネルギーベストミックスプラン、マスタープランの策定。
- 〇太陽光、風力発電設備の導入。
- 〇木質バイオマス発電設備、チップボイラー設備の導入検討。
- ○地域エネルギー会社設立の検討。
- ○国際(韓国)系統の実現可能性の検討。
- ②西海プロジェクト
- ○国プロジェクト等を獲得し、小型潮流発電設備の試作品開発と洋上実証を実施。
- ③五島プロジェクト

- 〇次世代自動車実証地域の形成。
- ④海洋フロンティアプロジェクト
- 〇日本版 EMEC の環境整備
- ⑤海外展開支援プロジェクト
- 〇ビジネスサポートデスク(中国・東南アジア)の活用。
- ○東アジアビジネス展開支援事業(市場調査、実証事業)の実施。
- OODA案件化調査等、国の支援事業の活用。
- 〇中国、東南アジアにおける環境分野の展示会出展。
- ⑥長崎未来型エネルギー自給自足団地プロジェクト
- 〇省エネ団地設置へ向けてスマートハウス関連機器メーカーや地場工務店から構成される協議会の設立。

# 3 生物多様性保全プロジェクト

<目標>	<指標>	
①種の絶滅を回避する		
②多様な生態系の保全、再生を図る		
③持続可能な利用を進める		
④生物多様性の恵みに触れる	指標の設定無し	
⑤生物多様性の保全と持続可能な利		
用による地域活性化を図る		
0		

# ②H24 年度の取組状況

- ・代表的な施策の実績と効果
- 〇生物多様性保全戦略推進事業
  - ・本土5会場で「いきものつながり巡回展」を開催した。
  - (「生物多様性の認知度」55.7%(平成24年度の国の世論調査)、
    - 47%(ながさきWEB県政アンケート調査))
- 〇希少野生動植物保全事業費
  - •希少野生動植物種保存地域指定(佐世保市)
  - ・希少野生動植物の生息・生育状況のモニタリング調査(33回実施)
- ○緑といきもの賑わい事業(うち生物多様性保全事業)
  - ・県事業 2事業を実施(希少種保護の解説板等整備、湿原保護の木道整備)
  - ・助成事業 2事業を実施(トンボ保全のための水田耕作、ビオトープ整備)

# ③H24 年度目標(指標)の達成状況

### 指標無し

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

### 【評価】

添付の進捗状況より、関係機関において、継続的な取組みがなされており、また、代表的な事業において、目標を達成していることから、一定の成果をあげていると評価する。

# 【理由】

環境基本計画において数値目標を持ち、本プロジェクトを構成する主な事業の達成状況は以下のとおり。

指標	環境基本計區 (目標年度・)		平成24年度実績
希少野生動植物種保存地域の 指定地域数	H27年度	8地域	4地域
緑といきもの賑わい事業(生物多 様性保全)実施箇所数	H27年度	22か所	17箇所
自然環境を活かした先進的な地 域づくりに取り組む地域数	H27年度	4地域	2地域
自然歩道の延長	H27年度	465.4km	465. 4km

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

別紙「長崎県生物多様性保全戦略(H21年3月策定)の進捗状況」のとおり

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

- 1. 自然環境の監視と種の保護・生態系の保全の強化
- 2. 人とふるさとの自然とのつながりの回復
- 3. 多様な地域資源としての活用
- 4. 多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進
- 5. 普及啓発の推進
- 以上の5つの方針に基づき取組む予定。

# 長崎県生物多様性保全戦略(H21年3月策定)の進捗状況

		所管	所管			H23実績		H24実績	単位:千円
	項目	部局	課	事務•事業名	主な関係機関	概要	事業費	概要	事業費
		環境	自然 環境 課	自然環境保全基礎調査	国(環境省)、県(自然 環境課)、NPO等	・本県での調査実施予定なし	l	・環境省による植生調査が長崎、 西彼杵、男女群島、県北地域で実 施された。(1/25,000植生図GIS データ)	l
		環境	自然環境課	「ながさきの希少な野生動植物」(長崎県レッドデータブック)の改訂	県(自然環境課),大学、 NPO等	・県下7地区(壱岐、対馬、五島、 県北、島原、県央、長崎)で委員 の講演をまじえたレッドリスト説明 会を開催 ・普及版レッドデータブックの編 集・印刷	3,983	_	-
		環境	自然 環境 課	希少野生動植物のモニ タリング調査	県(自然環境課)、動植 物各分野の専門家	・希少野生動植物の生息・生育状 況のモニタリング調査	(3,983)	・希少野生動植物の生息・生育状況のモニタリング調査	(2,335)
		環境	自然 環境 課	生態系ネットワークの構築	県(自然環境課、関係 部局)、市町	・西海市による希少種を活かした まちづくりの検討を継続実施	ı	・西海市において「ハマボウサミット」を開催するなど、希少種を活かしたまちづくりが始まった。	-
		環境	自然 環境 課	保全地域等指定の調査 (希少野生動植物種保 全事業)	県(自然環境課)、大 学、NPO等	・対馬市等において調査を実施 ・H24年度以降の保全地域等指定 の方針について検討中	(3,983)	・対馬市において、調査を実施。	(2,335)
1.自然環境	(1)調査研	環境	自然 環境 課	ガンカモ科鳥類生息調 査	県(自然環境課)、NPO 等	・野鳥愛好家団体に委託して、県 内各地45地点で調査を実施	450	・野鳥愛好家団体に委託して、県 内各地47地点で調査を実施	450
境の監視とほ	究の推進	環境• 農林	農村 整課·自 然環課	田んぼのいきもの調 査、海辺のいきもの調 査(農林水産業関係者 との連携)	県(自然環境課、農村 整備課)、市町、農協、 漁協、NPO等	雲仙市において、田んぼや水路 等に生息する生物の調査を地域 の小学生を交えて実施	-	_	_
種の保護・生		環境	自然 環境 課	ツシマヤマネコ生息状 況調査	国、県(自然環境課)、 対馬市、大学、NPO等	・環境省からの委託を受けて、ツシマヤマネコ生息状況モニタリング調査を実施	18,500	・環境省からの委託を受けて、ツ シマヤマネコ生息状況モニタリン グ調査を実施	(14,000)
土態系の保全		環境	環境 政策 課	環境監視測定 (大気、水質、地下水 質)	県(環境政策課)、長崎 市、佐世保市ほか	・大気46箇所、水質(健康項目)1 72地点、水質(生活環境項目)19 2地点、水で水93地点で測定を 行った	103,272	・大気46箇所、水質(健康項目)1 72地点、水質(生活環境項目)19 2地点、地下水93地点で測定を 行った。	94,549
の強化		環境	自然 環境 課	大村湾のスナメリ調査	(独)水産総合研究セン ター、西海パールシー水族 館、九州大学等	・各研究機関・研究者による各種 調査研究が継続して実施されて いる ・各研究者同士の情報交換・情報 共有が活発に行われている	_	・各研究機関・研究者による各種 調査研究が継続して実施されて いる ・各研究者同士の情報交換・情報 共有が活発に行われている	-
		水産	資源 管理 課	有明特産魚介類生息環 境調査	九州農政局, 県(資源 管理課、総合水産試験 場)、漁協・調査会社等	高濃度酸素水供給による貧酸素 調査対策業務や漁場改善効果調 査等を実施	138,335	高濃度酸素水供給による貧酸素 調査対策業務や漁場改善効果調 査等を実施	144,956
		環境	自然環境課	希少野生動植物種の指 定	県(自然環境課)、市 町、大学、NPO等	・大村湾沿岸に生息・生育する29 種について、長崎市、諫早市、長 与町、時津町にかかる保存地域	(3,983)	・佐田休田に生息・生育9 65種 について、希少野生動植物種に 指定するとともに、本種に係る保 存地域の指定を行った(H25.3.22	(2,335)
	(2)種の保 護、生態系 の保全・再	環境	自然 環境 課	希少野生動植物種保存 地域の指定	県(自然環境課)、市 町、大学、NPO等	の指定を拡大(H24.1.27指定告 示)		長崎県告示第327号)。また、希少種1種について、佐世保市の保存 地域を解除した(H25.3.22長崎県 生示第328号)	
	生	環境	自然 環境 課	ツシマヤマネコ保護増 殖事業	国(環境省)、県(自然 環境課)、対馬市、NPO 等	・環境省の委託を受け、関係機関 と協力して実施	(18,500)	・環境省の委託を受け、関係機関 と協力して実施	(14,000)

	項目	所管	所管	事務·事業名	主な関係機関	H23実績		H24実績	
	<del>Д</del> Б	部局	課	事份 事未有	土な関係機関	概要	事業費	概要	事業費
		環境	自然 環境 課	ツシマヤマネコの野生 復帰	国(環境省)、県(自然 環境課)、対馬市、NPO 等	・環境省が野生復帰のための野 生順化施設の整備に向けて準備 中(H23・24:設計)	-	・野生復帰のための野生順化施設の拠点として、対馬自然保護官事務所厳原事務室が整備された。	I
		環境	自然 環境 課	鳥獣保護事業計画の策 定	県(自然環境課、農山 村対策室)	・第11次計画を策定	-	_	ı
		環境	自然 環境 課	鳥獣保護区の指定・更 新等	国(環境省)、県(自然 環境課)	・鳥獣保護事業計画に基づき指定・更新作業を行った	(5,026)	・鳥獣保護事業計画に基づき指定・更新作業を行った	(6,551)
		環境	自然環境課	傷病鳥獣の保護	県(自然環境課)、市 町、獣医師会、NPO等	・佐世保市(西海国立公園九十九 島動植物園)及び(社)長崎県獣医 師会に負傷鳥獣の保護収容、治 療、野生復帰訓練を委託	6,000	・佐世保市(西海国立公園九十九島動植物園)及び(社)長崎県獣医師会に負傷鳥獣の保護収容、治療、野生復帰訓練を委託	6,000
		環境	自然 環境 課	保全地域の指定	県(自然環境課)、市 町、大学、NPO等	・対馬市での指定について検討	(3,983)	・対馬市での指定について検討	(2,335)
1		環境	自然 環境 課	自然公園の指定、点検 等	国(環境省)、県(自然 環境課)	•情報収集を実施	253	•情報収集を実施	347
自然環境		環境	自然 環境 課	公有地化事業 (用地基金)	県(自然環境課)	-	-	_	_
の監視と種の保護・	(2)種の保 護、生態系 の保全・再 生	環境	自然環課	ナショナルトラスト運動	NPO法人ツシマヤマネコを守る会、(財)日本生態系協会	・用地取得のための資金確保を 継続	-	・用地取得のための資金確保を 継続 -87,732㎡の保護区面積。	-
生態系の保全の		環境	自然環境課	緑といきもの賑わい事業	県(自然環境課)、市 町、NPO等	・県事業 1事業を実施(自然環境 保全地域標識) ・助成事業 3事業を実施 (トンポ保全のための水田耕作、 外来植物除去、ビオトープ整備)	5,087	・県事業 2事業を実施(希少種保 護の解説板等整備、湿原保護の 木道整備) ・助成事業 2事業を実施 (トンポ保全のための水田耕作、 ピオトープ整備)	5,639
強化		環境	自然環境課	ハマビシ・ヒメノボタンの 栽培保存 (実行主体:亜熱帯植物 園)	長崎県亜熱帯植物園	・植物園により栽培継続中	_	・植物園により栽培継続中	-
		農林	林政課	ながさき森林環境保全事業	県(林政課)、NPO等	・ながさき水源の森緊急整備、侵入竹林緊急整備、風倒被害林緊急整備、風倒被害林緊急整備事業等により森林の整備を実施・県民参加の森林づくり事業により森林づくりに取組むNPO等の団体を支援	858,950	・公益的に重要と位置づける森林 の整備を実施。 ・県民参加の森林づくり事業により り森林づくりに取組むNPO等の団 体を支援	587,776
		水産	資源 管理 課	漁場環境保全対策 (ナルトビエイ駆除)	県(資源管理課)	小長井町、瑞穂、国見、有明の4 漁協に委託し、タイラギ、アサリ等 の二枚貝を捕食するナルトビエイ の駆除を実施	(934)	小長井町、瑞穂、国見、有明の4 漁協に委託し、タイラギ、アサリ等 の二枚貝を捕食するナルトビエイ の駆除を実施	(2,051)
		水産		漁場環境保全創造事業 (H23から「水産環境整 備事業」に事業名変更)	県(資源管理課、漁港 漁場課)、市町	有明海において、効用の低下して いる漁場の生産力の回復や水産 資源の生息場の環境改善等を目 的に海底耕耘を実施	69,930	有明海において、効用の低下して いる漁場の生産力の回復や水産 資源の生息場の環境改善等を目 的に海底耕耘を実施	69,510
		環境	自然環境課	NPO等による希少野生 動植物種生息・生育地 の保全活動(カミガモソ ウ等)	NPO等	・NPOが保全活動を継続実施	_	・NPOが保全活動を継続実施	-

	項目		所管	所管	車效, 市 世 夕	主な関係機関			H24実績		
	垻 Þ	=	部局	課	事務·事業名	土な関係機関	概要	事業費	概要	事業費	
の保護・生態系の保全の 強化 強化	(2)種 護、生 の保全 生	態系	環境	自然 環境 課	RDB掲載種の生息・生 育域外保全、飼育・栽 培下繁殖	動物園、水族館、植物園、大学等	・県亜熱帯植物園、九十九島水族館、西海国立公園九十九島動植物園等により継続中	l	・県亜熱帯植物園、九十九島水族 館、西海国立公園九十九島動植 物園等により継続中	l	
			環境	自然 環境 課	自然公園の指定、点検 等(再)	国(環境省)、県(自然 環境課)	<ul><li>情報収集を実施</li></ul>	253	<ul><li>情報収集を実施</li></ul>	347	
			環境	自然 環境 課	自然ふれあい施設の整 備等	国(環境省)、県(自然 環境課)、市町	・県事業として、甑岩公園、大崎自然公園、標識の整備を実施	18,642	・県事業として、新魚目番岳園 地、標識の整備を実施	18,422	
			環境	自然 環境 課	西海国立公園九十九島 海のダイヤモンド事業	国(環境省)、県(自然 環境課)、市	_	ı	-	-	
			環境	自然 環境 課	九州自然歩道・世界文 化遺産教会巡礼ルート 整備事業	国(環境省)、県(自然環境課)	・五島市、新上五島町、小値賀 町、平戸市、佐世保市での整備 (歩道、標識類、便所等)	109,330	·国事業(西海国立公園内九州自然步道)	(52,859)	
			環境	自然環	島原半島ジオパーク支 援事業	国、島原半島3市、県 (自然環境課)	・県有施設に係るジオパーク展示等を整備(県) ・ジオパーク観察会を実施(県) ・ジオパークガイドを養成(協議 会)	6,372	・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議への支援	8,236	
2 .人と	2	い場保整)物様とふあの進②のの全備 自	環境	自然環境課	自然公園の美化清掃活 動	国(環境省)、県(自然 環境課)、市町、団体	・西海国立公園(鹿子前、弓張岳、平戸、福江)及び雲仙天草国立公園雲仙地域において、国からの請負と県・市からの補助を受けて、5地域の地元団体がごみ収集・処分を実施	12,299	・西海国立公園(鹿子前、弓張岳、平戸、福江)及び雲仙天草国 立公園雲仙地域において、国から の請負と県・市からの補助を受け て、5地域の地元団体がごみ収 集・処分を実施	12,242	
ふるさとの自然とのつながり	(1)物様とふあの進		環境	未環推課	未来環境条例に基づく ごみの投げ捨て等防止 重点地区等の指定	県(未来環境推進課)、 関係市町	・指定地区の巡回指導(管内保健 所等)	1,422	・指定地区の巡回指導(管内保健 所等)	436	
りの回復	②自然と		②自	環境	未環推課	一斉清掃	県(未来環境推進課)、 市町、学校、地域住民 団体、企業、NPO	・環境月間である6月の第一日曜日を統一日として、市町等の協力により「空きかん回収キャンペーン」を実施(74,926人参加)・長崎県及び県保健環境連合会においては、環境美化大領策の一環として、昭和61年度から8月を「クリーンながさき推進月間」と位置付け、清掃活動を中心に環境美化にかかる実践活動を実施(165,753人参加)	6,057	・環境月間である6月の第一日曜日を統一日として、市町等の協力により「空きかん回収キャンペーン」を実施(86.390人参加)・長崎県及び県保健環境連合会においては、環境美化分第の一環として、昭和61年度から8月を「クリーンながさき推進月間」と位置付け、清掃活動を中心に環境美化にかかる実践活動を実施(127,775人参加)	5,115
				環境	自然環境課	自然に親しむ運動(探 鳥会、自然観察会、い きもの調査等)	県(自然環境課)	・自然公園ガイド養成講座(西海 国立公園五島列島) ・自然観察会(西海市) ・島原半島ジオパークへの旅 ・探鳥会(対馬、雲仙)	5,568	・自然公園ガイド養成講座(西海 市・島原半島ジオパークへの旅 ・探鳥会(対馬、雲仙、諫早湾・大 村湾)	(7,121)
		ぶのれい機会	環境	自然 環境 課	自然に親しむ活動(自 然観察会等)	長崎県自然公園協議会	・自然観察会の開催(大村市)	90	・自然観察会の開催(南島原市、 大村市)	192	
		機の供	環境	自然環境課	自然に親しむ活動(自 然観察会等)	雲仙お山の情報館 平成新山ネイチャーセンター 雲仙諏訪の池ビジター センター 九十九島ビジターセン ター ほか県内各施設	・自然観察会や写真展等を開催 ・来訪者への自然解説	_	・自然観察会や写真展等を開催 ・来訪者への自然解説	_	

:	項目	1	所管	所管	事務·事業名	主な関係機関	H23実績		H24実績		
	(1)物様とふあ	②然のれい機の供	部 文観物局	親光興	植物園における四季の花イベント開催	長崎県亜熱帯植物園	概要 ・春色・植物園、夏秋桜、七色コスモス、百花繚乱冬原色ラン展などを開催	事業費	概要 ・春色・植物園(ももいろたんぽぽ植栽 4/29~5/20) ・夏秋桜(赤、黄コスモス植栽 7/21~8/31) ・七色コスモス(黄花コスモスなど 7種類植栽 10/14~11/25) ・百花繚乱、原種ラン展(スミレ、パンジー植栽など 1/1~3/31)	事業費	
			農林	農業経営課	人と環境にやさしい農 業対策事業	県(農業経営課、振興 局、農改)、市町、農協	・GAPの推進のための研修会を開催し、新たに20集団がGAPに取組み(延べ90集団)始めた・有機・特別栽培レベルの栽培への取組みを推進し、有機・特別栽培の取組みが1、180haから80ha拡大し、1、260halこなった	10,787	・GAPの推進のための研修会を開催し、新たに18集団がGAPに取組み(延べ108集団)始めた・有機・特別栽培レベルの栽培への取組みを推進し、有機・特別栽培の取組みが1、260haから6ha拡大し、1、266halになった	17,954	
		①農業に	農林	農業経課	環境保全型農業直接支 援対策	県(農業経営課、振興 局)、市町	化学肥料・化学合成農薬の使用 量を通常の5割以上低減する取 組に対して交付する先進的営農 活動支援交付金とあわせて推進 し、取組面積は1,221haとなっ た	21,216	・化学肥料・化学合成農業の使用 量を通常の5割以上低減する取 組に加え、地球温暖化防止や生 物多様性保全に資する取組を組 み合わせて行う取組に対し支援を 行い、取組面積は876haとなった	17,745	
2 . 人		ける取組	農林	畜産課	畜産環境対策事業	県(畜産課)、 市町、農協等	・堆肥化処理施設・汚水処理施設整備 4ヶ所 ・堆肥調整・保管施設・機械整備 3カ所 ・家畜排せつ物法の遵守のため の調査・指導等を行い、畜産経営 に起因する環境汚染を防止(県全 域)	73,316	・堆肥化処理施設・汚水処理施設整備 2カ所 ・堆肥調整・保管施設・機械整備 省箇所 ・家畜排せつ物法の遵守のため の調査・指導等を行い、畜産経営 に起因する環境汚染を防止(県全 域)	81,421	
とふるさい				農林	森林 整備 室	造林事業	県(林政課)、市町、林 業関係団体	・民有林において、健全な森林の 保全を図るため、間伐等の森林 整備を実施	929,252	・民有林において、健全な森林の 保全を図るため、間伐等の森林 整備を実施	1,596,862
さとの自然とのつ	(2) 社会		農林	森林 整備 室	治山(保安林整備)事業	県(林政課)	・保安林において間伐等の森林 整備を実施	432,347	・保安林において間伐等の森林 整備を実施	578,059	
ながりの回	経活にけ取る済動おる組		水産	漁政課	新世紀水産業育成事業	県(漁政課)	平成22年度で終了				
接	4210		水産	漁政課	新生水産県ながさき総 合支援事業	県(漁政課)	沿岸環境保全や資源早期回復対 策を図ることを目的として、底質改善実証試験、漁場台帳整備や増殖場整備等に係る支援を行った	(175,000)	沿岸環境保全や資源早期回復対策を図ることを目的として、底質改善実証試験、漁場台帳整備やイイダコ及びコウイカの産卵床設置 に係る支援を行った	(170,000)	
	j. 1 1	②産にけ取	水産	資源 管理 課	新生海の森づくり推進 対策事業 ①技術開発改良事業 ②環境・生態系保全 活動支援事業 ③環境・生態 活動支援事業 ④水産基盤整備事業	県(資源管理課、漁港漁場課) ※事業①~③:資源管理課、事業④:漁港漁場課	平成22年度で終了				
			水産	資源 管理 課		資源管理課、総合水産 試験場等	藻場・干潟等の維持・回復・拡大を図るために、海域の特性や藻場の種類、地域の取組体制等を踏まえ、水産試験場で開発された手法を用いた磯焼け対策モデル地区における藻場回復の実証、並びに漁業者等が自主的に実施する藻場・干潟等の保全活動等に対する国交付金事業を活用した支援等に取り組んだ	2 0	藻場・干潟等の維持・回復・拡大を図るために、海域の特性や藻場の種類、地域の取組体制等を踏まえ、水産試験場で開発された手法を用いた磯焼け対策モデル地区における藻場回復の実証、並びに漁業者等が自主的に実施する高藻場・干潟等の保全活動等に対する国交付金事業を活用した支援等に取り組んだ	50,880	
			水産	漁政課	離島漁業再生支援交付 金事業	県(漁政課)	離島地域の漁業集落において、 藻場・干潟の造成や保全の活動、 ブルーツーリズムの振興などの活動 動が実施された	675,329	離島地域の漁業集落において、 藻場・干潟の造成や保全の活動、 ブルーツーリズムの振興などの活動が実施された	641,284	
			水産	資源 管理 課	環境生態系保全活動支 援事業	県(資源管理課、総合 水産試験場等)、市町、 活動組織	H23から漁場の環境・生態系保全 活動総合対策事業に統合				

	項目	3	所管 部局	所管 課	事務·事業名	主な関係機関	H23実績 概要	事業費	H24実績 概要	事業費
2.人とふ		②産にけ取		資源	藻場対策事業	県(資源管理課、総合 水産試験場等)、市町、 漁協等	M女 H23から漁場の環境・生態系保全 活動総合対策事業に統合	<b>宇</b> 木具	195,355	<b>宇</b> 木县
ふるさとの自然	(2) 社会済動な	<b>月</b> 又 祁丑	水産	資源 管理 課	漁場環境保全対策(再) (ナルトビエイ駆除)	県(資源管理課)	小長井町、瑞穂、国見、有明の4 漁協に委託し、タイラギ、アサリ等 の二枚貝を捕食するナルトビエイ の駆除を実施	(934)	小長井町、瑞穂、国見、有明の4 漁協に委託し、タイラギ、アサリ等 の二枚貝を捕食するナルトビエイ の駆除を実施	(2,051)
とのつながりの回復にけ取		③光業おる組	環境	自然境課	エコツーリズム、グリー ンツーリズム、ブルー ツーリズム	県、市町、(財)佐世保観 光コンベンション協会、 おぢかアイランドツーリ ズム協会等	・各市町にエコツーリズム情報を 提供 ・エコツアー・コーディネーター育 成事業として職員の雇用と育成を 委託(ふるさと雇用再生特別基金 事業)委託先(社)高原半島観 光連盟、(社)平戸観光協会、(株) 小値賀観光まちづくり公社 ・県内各地域で取組みが進められ ている	15,219	・各市町にエコツーリズム情報を 提供	ı
			農林	林政課	ツバキ林の整備・活用 (再:ながさき森林環境 保全事業)	森林ボランティア、NPO 等				
	3. 多様な地域資源としての活用		農林	林政課	ツバキ林の整備・活用 (ツバキ振興対策事業)	県(農林技術開発セン ター)	・ツバキ植栽地調査:植栽後の生育不良の原因を10箇所調査、夏季の高温乾燥が一因と推定、除草方法を検討。このほか、気象条件、土壌条件(物理性)、下草の繁茂状態等も生育に影響している可能性があり、検討・植栽が刺の生育状況を見るため試験区6区を設定・自生ツバ材和が樹形誘導試験・断幹後の樹形成と開花結実の状況を継続調査・ツバキ杯の林分構造特性調査・20箇所実施・ヤブツバキ育成に関する講習会を開催、関係者約200人に技術指導	2,781	・ツバキ林所有者等の組織化・・ 講習会6回開催、参加者273名・ ・ツバキ茶の製造技術指導・ツツバキ葉混合発酵茶の製造技術指導・ツツバキ葉混合発酵茶の製造技法を行った・ツバキ華組裁試験・ツバキ苗の初期生長を比較するための6 試験区を設置・ツバキ本地側査・・ツバキの 植栽地の原因とした、夏場の除草による高温・乾燥が一因となっていることから、除草方法について、 諸宮をを通しておりまたので、 は、中国では、大田の場合を通していて、 は、中国では、大田の調査を行い、 は、中国では、大田の調査を行い、 は、中国では、アロッドをは、アロッドをは、アロッドをは、アロッドを対して、 は、アロッドをは、アロッとは、アロッとは、アロッドをは、アロッドをは、	2,176
			環境	自然環境課	佐護ツシマヤマネコ米 づくり	佐護ヤマネコ稲作研究 会	ツシマヤマネコをはじめとする希 少動植物に配慮した農法を行うこ とによるブランド化を目的に、5 0%以上の減農薬に取り組み付 加価値のある「佐護ツシマヤマネ コ米」を栽培・販売(210,611㎡)	-	ツシマヤマネコをはじめとする希 少動植物に配慮した農法を行うことによるプランド化を目的に、5 0%以上の減農薬に取り組み付 加価値のある「佐護ツシマヤマネ コ米」を栽培・販売(25ha)	-
			環境	自然境課	エコツーリズム、グリー ンツーリズム、ブルー ツーリズム(再)	県、市町、(財)佐世保観 光コンペンション協会、 おぢかアイランドツーリ ズム協会等	・各市町にエコツーリズム情報を 提供 ・エコツアー・コーディネーター育 成事業として職員の雇用と育成を 委託(ふるさと雇用再生特別基金 事業) 委託先:(社)島原半島観 光連盟、(社)平戸観光協会、(株) 小値賀観光まちづくり公社 ・県内各地域で取り組みが進めら れている	(15,219)	・各市町にエコツーリズム情報を 提供	_
4.多様な主体とのつながりに	(1)地等 PO業都 他果連 携・	市町、 道府  との	環境	環境策課	大村湾環境保全·活性 化事業	県(環境政策課)、 市町、団体、住民	・大村湾環境ネットワーク活動発 表会の開催(3回) ・指導者(教員等)を対象とした大 村湾環境学習会の開催(47名) ・地域情報紙(スナメリかわら版) の作成(180,000部) ・大村湾貧酸素水塊観測情報シ ステムの構築(協議会開催、観測 実施、情報発信)	8,622	・大村湾環境ネットワーク活動発表会の開催(2回) ・指導者(教員等)を対象とした環境学習会の開催(38名) ・大村湾底質改善実証試験事業の効果分析等 ・大村湾貧酸素水塊観測情報発信	7,521

	項目	所管		事務·事業名	主な関係機関	H23実績	alle 11h	H24実績	alle tilb
		環境	課 自然境 課	傷病鳥獣の保護(再)	県(自然保護課)、市 町、獣医師会、NPO等	概要 ・佐世保市(西海国立公園九十九島動植物園)及び(社)長崎県獣医師会に負傷鳥獣の保護収容、治療、野生復帰訓練を委託	事業費 6,000	概要 ・佐世保市(西海国立公園九十九島動植物園)及び(社)長崎県獣医師会に負傷鳥獣の保護収容、治療、野生復帰訓練を委託	事業費 6,000
		環境	自然 環境 課	NPO等による希少野生 動植物種生息・生育地 の保全活動(カミガモソ ウ等)(再)	NPO、県(自然環境課) 等	・NPOが保全活動を継続実施	_	・NPOが保全活動を継続実施	
		環境	自然 環境 課	ガンカモ科鳥類生息調査(再)	NPO、県(自然環境課) 等	・野鳥愛好家団体に委託して、県 内各地45地点で調査を実施	(450)	・野鳥愛好家団体に委託して、県 内各地47地点で調査を実施	450
		県民 生活	県民 協働 課	NPO・ボランティア活動 に関する情報の提供	県(男女参画·県民協働 課、関係部局)	•随時実施	_	·随時実施	_
		環境	未環境 推選 課	(エコ大使サミット) エコフェスタの開催	県(未来環境推進課)、 NPO等	平成23年10月15日に、「もったいない運動推進大会」を、松浦市文化会」を、松浦市文化会館で、「美しいふるさと推進大会」と合同開催	-	平成24年11月17日に、「もったいない運動推進大会」をハマユリックスホール(雲仙市)で、「人と環境にやさしいふるさと推進大会」と合同開催	l
4.多様な主体	(1)地域、N PO等市民、 企業、市町、	環境	未環推課	美しいふるさと推進大 会の開催	長崎県保健環境連合 会、ごみゼロながさき推 進会議、関係市町、県 (未来環境推進課)等	・H23年10月15日松浦市で開催 ・講演 消費生活アドバイザー 林 真実氏「家庭で地域で広げるエコ ~「適量の暮らし」を楽しむ~」 ・「美しいふるさと推進大会」と 「もったいない運動推進大会県、 県地球温暖化対策協議会主催) 見を合同開催し、「人と環境にやさ しいふるさと推進大会」として実施 (参加者数685名)	(6,057)	・H24年11月17日聖仙市で開催 ・講演 長崎県教育センター 寺 井 邦久氏「島原半島ジオパーク の魅力」 ・「美しいふるさと推進大会」と 「もったいない運動推進大会」果 県地球温暖化対策協議会主催) 」を合同開催し、「人と環境にやさ しいふるさと推進大会」として実施 (参加者数745名)	(5,115)
とのつながりによる連携・協	他都道府県、国との連携・協働	環境	未環推課	一斉清掃(再)	県(未来環境推進課)、 市町、学校、地域住民 団体、企業、NPO	・環境月間である6月の第一日曜日を統一日として、市町等の協力により「空きかん回収キャンペーン」を実施(74926人参加)・長崎県及び県保健環境連合会においては、環境美化対策の一環として、昭和61年度から8月を「クリーンながさき推進月間」と位置付け、清掃活動を中心に環境美化にかかる実践活動を実施(165,753人参加)	(6,057)	・環境月間である6月の第一日曜日を統一日として、市町等の協力により空きかん回収キャンペーン」を実施(86,390人参加)・長崎県及び県保健環境連合会においては、環境美化対策の一環として、昭和61年度から8月を「クリーンながさき推進月間」と位置付け、清掃活動を中心に環境美化にかかる実践活動を実施(127,775人参加)	(5,115)
働の推進		水産	資管課:漁 源理:漁 課	新生海の森づくり推進 対策事業(再) ①技術開発改良事業 ②環境・生態系保全 活動支援事業 ③環境・生態系保全 活動支援事業 ④水産基盤整備事業	県(資源管理課、漁港漁場課) 漁場課) ※事業①~③:資源管理課、事業④:漁港漁場課	平成22年度で終了			
		農林	農 利 用 進 室	耕作放棄地解消総合対策事業(事業名変更)	県(農地利活用推進 室、振興局)、市町、農 協	・農業者等が行う耕作放棄地の再 生作業や、耕作放棄地の基盤整 備に対し助成し、農地を有効利用 するほか景観保全を図っている H23は県全体で563haを解消した	48,884	・農業者等が行う耕作放棄地の再生作業や、耕作放棄地の基盤整備に対し助成し、農地を有効利用するほか景観保全を図っているH24は県全体で674haを解消した	37,724
		農林	畜産 課	畜産環境対策事業(再)	県(畜産課)、 市町、農協等	・	(73316)	・堆肥化処埋施設・汚水処埋施設整備2カ所・堆肥調整・保管施設・機械整備4箇所・家畜排せつ物法の遵守のための調査・指導等を行い、畜産経営(に起因する環境汚染を防止(県全域)	(81421)
	(2)動物園、 水族館及び 植物園等と の連携・協 働	環境	自然 環境 課	RDB掲載種の生息・生 育域外保全、飼育・栽 培下繁殖(再)	動物園、水族館、植物 園、大学等	・県亜熱帯植物園、九十九島水族館、西海国立公園九十九島動植物園等により継続中	_	・県亜熱帯植物園、九十九島水族館、西海国立公園九十九島動植物園等により継続中	_
	(3)農地、道路、河川、海洋・海岸等における事業部局ほかとの連携・協働	環境	環境 政策 課	環境影響評価の審査	県(環境政策課)	・アセス条例の施行規則の改正 (風力発電事業の規模要件)について検討するための環境審議会 風力発電部会の設置・開催	2,029	・アセス条例改正(配慮書導入ほか)について検討するための条例 改正部会の設置・開催	1,893

	項目	所管	所管	事務·事業名	主な関係機関	H23実績	古米曲	H24実績	古州曲
		部局	課漁港	自然調和型漁港づくり		概要	事業費	概要 有喜漁港外、県営漁港2漁港、市	事業費
		水産	漁場課	推進事業及び水産物供 給基盤整備事業		有喜漁港他県営漁港1漁港、市町 営漁港5漁港、合計7漁港で実施	(1,570,540)		(3,170,083)
		農林	農村 整備 課	広域営農団地農道整備 事業	県(農村整備課)	_	_		
		農林	農村整備課	農業農村整備事業 県営畑地帯総合整備事 業·経営体育成基盤整 備事業 等	県(農村整備課)、市町	区画整理などの土地改良事業1 4地区において、有識者や地域住 民代表等と連携し、生物多様性に 配慮した工法の検討を実施	-	・区画整理などの土地改良事業9 地区において、有識者や地域住 民代表等と連携し、生物多様性に 配慮した工法の検討を実施	-
				農地集積加速化基盤整 備事業	県(農村整備課)	_	_		
		土木	監理 課	岩石採取計画の認可	県(監理課)、市町	岩石採取計画の認可件数 5件 新規認可なし	-	岩石採取計画の認可件数 3件 新規認可なし	-
	(3)農地、道 路、河川、海 洋・海岸等 における事	土木	監理課	砂利採取計画の認可及 び採取許可	県(監理課・地方機 関)、市町	県内における海砂の採取限度量 300万㎡以内 海砂の採取量実績 257万㎡	-	県内における海砂の採取限度量 270万㎡以内 海砂の採取量実績 236万㎡	-
4	業部局ほか との連携・協 働	土木	河川課	総合流域防災事業	県(河川課)	県内の23河川において、多自然 川づくりによる整備を進めた	1,255,527	県内の29河川において、多自然 川づくりによる整備を進めた	3,494,600
多様な主体との		土木	河川課	みんなのふるさとふれ あい事業	県(河川課)	県内の河川、海岸、港などにおいて、環境や景観、親水性などを考慮した水辺整備を実施 名称も「ふるさと輝くみんなの水辺 整備事業」に変更した	500,000	県内の河川、海岸、港などにおいて、環境や景観、親水性などを考慮した水辺整備を実施 名称も「ふるさと輝くみんなの水辺 整備事業」に変更した	500,000
つながりに		土木	砂防 課	砂防事業	県(砂防課)	透過型(スリット式)砂防堰堤の採用 6箇所 (河通川、鳴見川(二)、平松川、水頭川、宮川、石合川)	278,570	透過型(スリット式)砂防堰堤の採用7箇所 (河通川、鳴見川(二)、平松川、水頭川、宮川、石合川、種子田川)	373,980
よる連携・協働の推		土木	砂防課	急傾斜地崩壞対策事業	県(砂防課)	樹木を伐採せず斜面保全が可能なノンフレーム工法の採用 3箇所(小佐世保地区、東平地区、江川(3)地区)	61,500	樹木を伐採せず斜面保全が可能なノンフレーム工法の採用 5箇所(寺の前地区、東平地区、南串地区、田中赤松(1)地区、城山台1丁目地区)	357,400
進		環境	未来環境推課	長崎県ストップ温暖化レインボープランの実践	長崎県地球温暖化対策 協議会、長崎県地球温 暖化防止活動推進セン ター、県(未来環境推進 課、関係各課)、市町	・ノーマイカーデー運動の取組み (12月にノーマイカー&エコドラ イプウィーク実施) ・長崎県地球温暖化対策ネット ワーク会議の開催 ・もったいない運動推進大会(美し いふるさと推進大会と合同)の開 催	_	・ノーマイカーデー運動の取組み (12月にノーマイカー&エコドライ ブウィーク実施・ 長崎県地球温暖化対策ネット ワーク会議の開催 ・もったいない運動推進大会(人と 環境にやさしい美しいふるさと推 進大会と合同)の開催	-
	(4)漂流・漂 着ゴミ、地球 温暖化など 国境を越え	環境	未来 環境 推進 課	長崎県地球温暖化対策 実行計画の策定、実施	県(未来環境推進課、 関係各課)、市町、関係 団体	未策定	-	環境審議会地球温暖化対策実行 計画検討部会による協議を実施 平成25年3月、環境審議会から の答申を受けて策定作業終了	_
	る環境問題 への対応の ための連 携・協働	環境	廃棄対策	長崎県漂流・漂着ごみ対策事業	県(廃棄物対策課)、市 町	・県が管理する海岸において、海 岸漂着物等の回収・処理事業を 実施 ・海岸漂着物の回収・処理事業等 を実施した10市3町に対し補助 金を交付 ・海岸漂着物の発生抑制対策とし て、ト市町や民間団体と連携し、イ ベントの実施やパネルの展示等 を行った	430,612	・県が管理する海岸において、海 岸漂着物等の回収・処理事業を 実施(地域GND基金事業) ・海岸漂着物の回収・処理事業等 を実施した7市1町に対し補助金 を交付(県単独事業) ・海岸漂着物の発生抑制対策として、市町や民間団体と連携し、イ ベンの実施やパネルの展示等 を行った	73,146

	項目	所管	所管	事務·事業名	主な関係機関	H23実績		H24実績	
	块 日	部局	課	争伤"争未有	土は渕ポ筬渕	概要	事業費	概要	事業費
	(4)漂流・漂流・漂流・地球に 国境境対の るのめの 動物・協働	環境	未来 環推 課	環境技術交流事業	日韓海峡沿岸情報ネットワーク	・8月に地球環境問題に対する取組の発表・意見交換を行う「2011日韓8県市道環境シンポジウム」を開催・10月に福岡県で日韓海峡沿岸環境技術交流協議会第2回実務者会議を開催し、微小粒子状物質(PM2.5)に関する広域分布特性調査実施計画をまとめた	3,733	日韓共同事業として「微小粒子状物質(PM2.5)に関する広域分布特性調査」を行うこととし、調査を開始した。	2,705
		環境	自然環課	県RDBの改訂調査(再)	大学、NPO等の研究 者、専門家	・県下7地区(壱岐、対馬、五島、 県北、島原、県央、長崎)で委員 の講演をまじえたレッドリスト説明 会を開催 ・普及版レッドデータブックの編 集・印刷	(3,983)	_	-
4.多様な	(5)大学等 の研究機 関・研究者 や専門家と の連携・協 働	環境	自然環境課	ツシマヤマネコ保護増 殖事業(再)	大学等の研究者、専門 家	・環境省の委託を受け、関係機関と協力して実施	(18,500)	・環境省の委託を受け、関係機関と協力して実施	14,000
な主体とのつなが		環境	自然環	大村湾のスナメリ調査 (再)	大学等の研究者、専門 家	・各研究機関・研究者による各種 調査研究が継続して実施 ・各研究者同士の情報交換・情報 共有が活発に行われている	-	・各研究機関・研究者による各種 調査研究が継続して実施されて いる ・各研究者同士の情報交換・情報 共有が活発に行われている	-
りによる連携・協	(5)大学等 の研究発 関・研究名 や専携・協 働	環境	自然環境課	ガンカモ科鳥類生息調査(再)	NPO等の専門家	・県内各地45地点で調査を実施	(450)	・野鳥愛好家団体に委託して、県 内各地47地点で調査を実施	450
働の推進		環境	自然環境課	NPO等との意見交換会 の開催	自然環境課、男女参 画·県民協働課、NPO 等	_	_	_	_
	(6)連携・協	環境	自然 環境 課	NPO等への自然環境 情報提供	県、NPO等	•随時実施	l	•随時実施	l
	働の推進体制の整備	環境	未来 環進 課	(エコ大使サミット) エコフェスタの開催(再)	県(未来環境推進課)、 NPO等	平成23年10月15日に、「もったいない運動推進大会」を、松浦市文化会館で、「美しいふるさと推進大会」と合同開催した	_	平成24年11月17日に、「もったいない運動推進大会」をハマユリックスホール(雲仙市)で、「人と環境にやさしいふるさと推進大会」と合同開催	-
		環境	自然 環境 課	県庁内の合意形成	21県環境づくり推進本部(県)	・県戦略の進捗状況について幹 事会及び本部会議で協議	_	・県戦略の進捗状況について幹事会で報告	_

		所管	所管	市改 市業力	<b>→ ナ&gt;目は</b> 機目	H23実績		H24実績	
	項目	部局	課	事務·事業名	主な関係機関	概要	事業費	概要	事業費
5.普及啓発の推進	(1)広報活動	環境	自然 環境 課	県HP、広報誌、報道機関等による情報発信。 リーフレット類の作成・ 配布	県(自然環境課、広報 広聴課)、各種報道機 関	・新しい情報を随時HPに掲載 ・長崎新聞エコらんば等での情報 発信を実施	-	・新しい情報を随時HPに掲載	-
		環境	自然境課	生物多様性保全戦略推 進事業 (H22新規事業)	県(自然環境課)、NPO 等	・H22アート展に出展した作品のうち、動物ぬいぐるみと和紙ブリント 写真により構成した移動展示用 作品セットを買い取り、離島4会場 で「いきものつながり巡回展」を開 催 ・南島原市主催のいきもの学習会 において、作品セットを貸し出し展 示	1,047	・H22アート展に出展した作品のうち、動物ぬいぐるみと和紙ブリント 写真により構成した移動展示用 作品セットを買い取り、本土5会場 で「いきものつながり巡回展」を開 催	343
5.普及啓発の推進	(1)広報活動	環境	未環境推課	「+エコ運動」推進事業	県(未来環境推進課)、 NPO等	(H21までで廃止)	-	(H21までで廃止)	-
		環境	未来 環境 推進 課	環境副読本の作成、配る	県(未来環境推進課、 環境部関係各課)、中 学校	-	_	_	_
	(2)県政出 前講座等の 開催	環境	自然 環境 課	学校、団体等への普及 啓発	県(自然環境課、広報 広聴課)	・レッドリスト改定に併せ、県市町 の事業担当者向けの説明会を開催(7回) ・各種イベントや会議において県 生物多様性保全戦略の説明・啓 発を実施	-	・各種イベントや会議において県 生物多様性保全戦略の説明・啓 発を実施	-
	(3)環境教育・学習の 推進	環境	環境策	大村湾環境保全·活性 化事業(再)	県(環境政策課)、市 町、団体、住民	・大村湾環境ネットワーク活動発表会の開催(3回) ・指導者(教員等)を対象とした大村湾環境学習会の開催(47名) ・地域情報紙(スナメリかわら版) の作成(180,000部) ・大村湾貧酸素水塊観測情報システムの構築(協議会開催、観測 実施、情報発信)	(8,622)	・大村湾環境ネットワーク活動発 表会の開催(2回) ・指導者(教員等)を対象とした環 境学習会の開催(38名) ・大村湾底質改善実証試験事業 の効果分析等 ・大村湾貧酸素水塊観測情報発 信	7,521
		環境	未環境 推課	環境アドバイザー派遣 制度	県(未来環境推進課)、 市町	環境アドバイザーを61回派遣 (内自然環境に関するものは、33回) 自然環境に関する環境アドバイ ザー16名登録	1,204	・環境アドバイザーを65回派遣 (内自然環境に関するものは、25回) 自然環境に関する環境アドバイ ザー16名登録	1,069
	(4)自然と ふれあいの 機会の提供	環境	自然環課	自然に親しむ運動(再)	県(自然環境課)	・自然公園ガイド養成講座(西海 国立公園五島列島) ・自然観察会(西海市) ・島原半島ジオバークへの旅	(542)	・自然公園ガイド養成講座(西海市 市・島原半島ジオパークへの旅・ ・探鳥会(対馬、雲仙、諫早湾・大 村湾)	(7,121)
	(5)鳥獣保 護員等によ る活動の推 進と人材の 育成	環境	自然境課	鳥獣保護員、自然環境 監視員、自然公園指導 員	県(自然環境課)	・鳥獣保護員研修会を実施 ・鳥獣保護員、自然環境監視員、 自然公園指導員からの情報を関 係機関に提供	4,099	・鳥獣保護員研修会を実施 ・鳥獣保護員、自然環境監視員、 自然公園指導員からの情報を関 係機関に提供	4,099

# 1 大村湾再生プロジェクト

# <目標> ・第2期大村湾環境保全・活性化行動計画に基づき、平成 25 年度末を目標として大村湾の水質改善を図る。 ①大村湾における水質改善 (COD2.2mg/L、窒素 0.2mg/L、リン 0.02mg/L) ②大村湾流域の汚水処理人口普及率 91.2%以上の達成

# ②H24 年度の取組状況

平成 20 年度に策定した「第 2 期大村湾環境保全・活性化行動計画」(H21~25 年度)に定める基本的方向に沿って、関係機関が一体となった取組みを進めた。そのうち、本事業による取組みは次のとおり。

- (1) 活動団体との協働事業
- ・大村湾環境ネットワーク活動発表会 第1回 12月8日(長与町にて 130名参加) 第2回 3月17日(大村市にて 260名参加)
  - ・いさはやエコフェスタ(10月21日 来場者1,100人)
- (2) 小中学校教員のための環境学習会
  - •5月29日(18名)、8月7日(20名)
- (3) 浮遊ゴミ除去対策事業

「大村湾をきれいにする会」(事務局:大村市)が実施する湾内のゴミ除去対策事業への補助を行った。

(4) 底質改善実証試験の効果検証

大村湾最奥部の津水湾の底質改善のため、大村湾海区漁業協同組合長会が、県水産部の補助事業を活用して実施している水酸化マグネシウムによる底質改善実証試験の効果検証のために底質等の調査を2回実施した。

(5) 貧酸素水塊の観測

毎年夏場に発生する貧酸素水塊の観測を8~9月の間、8回実施し、FAX やホームページ等で一般に向けて情報発信した。

# ③H24 年度目標(指標)の達成状況

- ①平成 24 年度の、大村湾の COD は全湾平均で 2.2mg/L となった。
- ②同じく平成 24 年度末時点で、大村湾流域の汚水処理人口普及率は 90.6%となった。

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

# 【評価】

さらに継続して対策に取組む必要がある

# 【理由】

- ①第2期大村湾環境保全・活性化行動計画の目標値は COD2.2mg/L であるが、一方で大村湾の環境基準は COD2.0mg/L と設定されているので、環境基準達成を目指した取組みが必要である。
- ②汚水処理人口普及率は未だ第2期行動計画の目標を達成していない。
- ③湾の底質の対策や、貧酸素水塊、赤潮をもたらす富栄養化といった課題に取組む必要がある。

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

- (1) 活動団体との協働事業
  - ・大村湾環境ネットワーク活動発表会 年間2回開催予定
  - ・いさはやエコフェスタ(10月 20日)出展
- (2) 小中学校教員のための環境学習会
  - -7月22日、8月7日実施
- (3) 浮遊ゴミ除去対策事業

「大村湾をきれいにする会」(事務局:大村市)が実施する湾内のゴミ除去対策事業への補助金交付決定を 行った。

(4) 底質改善実証試験の効果検証

大村湾南部の底質改善のため、大村湾海区漁業協同組合長会が、県水産部の補助事業を活用して実施している水酸化マグネシウムによる底質改善実証試験の効果検証のために底質等の調査を実施している。年間4回実施予定のうち、上半期に2回実施した。

# (5) 貧酸素水塊の観測

貧酸素水塊の観測を 7~10 月の間、10 回実施し、FAX やホームページ等で一般に向けて情報発信した。

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

平成 25 年度が第 2 期大村湾環境保全・活性化行動計画の最終年度であり、平成 25 年度中に次期行動計画の 策定を予定している。平成 26 年度から 5 ヵ年は、新たに策定した次期計画に基づき、大村湾の環境改善等に継続 して取組む。

# 2 諫早湾環境対策プロジェクト

<目標>	<指標>	
【H19 年度の目標】(諫早湾干拓調		
整池水辺環境の保全と創造のため		
の行動計画)		
①水質(COD75%値):5.0mg/L		
②生活排水処理率:68.6%		
【平成 24 年度の目標】(第 2 期諫早		
湾干拓調整池水辺環境の保全と創		
造のための行動計画)		
①水質(COD75%値):5.0mg/L		
②生活排水処理率:82.5%		

### ②H24 年度の取組状況

### 代表的な施策の実績と効果

- (1) 平成24年度の調整池の水質はCOD8.3 mg/L となり、平成16年度の9.3mg/Lをピークに緩やかな減少傾向を示している。生活排水対策、農業対策など行動計画にかかる取組みが反映されたものと思われる。しかしながら、水質保全目標値(5 mg/L)は未だ到達しておらず、より一層の積極的な取組みが必要である。
- (2) 諫早湾干拓地の水辺空間づくりについては、関係市、民間団体(NPO 法人や地区婦人会等)等との活動協議の場であるISEネット会議を開催し、調整池で管理しているイケチョウガイの飼育調査を協働で実施した。また、諫早市で開催した「いさはやエコフェスタ」については、ISEネット会議で活動している事業の紹介や水質浄化についてのパネルを設置し、参加者に解説・説明することにより、環境保全や生活排水対策に関する啓発を行った。また、「諫早湾干拓調整池・本明川クリーン作戦」については、ISEネット会議の幹事であるNPO法人拓生会主催のもと、調整池の自然干陸地を中心に、市民に参加を呼びかけ清掃活動を実施したところ、1,500 名の参加があり、地域住民に対し、調整池の水辺空間づくりへの認識を深めることができた。
- (3) 水質浄化試験にかかる事業については、遊水池実験施設において、2 つの通水方式により、リン除去効率を検証した結果、上流方式で良好な結果が得られ、2 ヶ月間で全リン濃度を 4~5 割削減することができた。

# ③H24 年度目標(指標)の達成状況

- ①水質(COD75%値):8.3mg/L ⇒ 未達成(目標 5.0mg/L)
- ②汚水処理人口普及率:84.8% ⇒ 達成(目標 80.9%)

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

### 【評価】

さらに継続して対策に取組む必要がある。

### 【理由】

汚水処理人口普及率の目標は達成したが、諫早湾干拓調整池の水質は、水質保全目標値を達成できなかった。 原因としては、波浪による底泥の巻上げに起因する調整池の潜在的な汚濁と内部生産、流域からの汚濁流入負 荷が考えられる。

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

(1) 諫早湾干拓調整池水質調査の実施

調査箇所 24 箇所(内訳:調整池 10、河川 8、小水路 6)

(2)「諫早湾干拓調整池水辺環境の保全・創造推進会議」の開催

「諫早湾干拓調整池水辺環境の保全・創造推進幹事会」を年間2回開催予定。第1回幹事会:5月27日開催。

(3) 環境学習等

ISE ネット幹事会を開催(7月30日)。 いさはやエコフェスタ(10月20日)や諫早湾干拓調整池・本明川クリーン作戦へ参画予定。

※ISE(アイ・シー)ネット:諫早湾干拓調整池及びその流域を、きれいで自然豊かな水辺空間として育むことを目的に、市民、関係団体、関係行政機関で構成されるネットワーク組織。

ISE は(ISAHAYA)・海(Sea)・エコロジー(Ecology)の頭文字をとったもの。

(4) もみ殻炭によるリン除去能力検証

リン吸着剤として機能を持つ、もみ殻炭について、通水方式の違いによるリン除去能力の検証を行い、除去率の把握と効率の良い方法を検討している。

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

第2期行動計画を継続し、関係する国、県、市がそれぞれの役割のもとに実施する事業について進捗管理を行うととともに、民間団体等との協働事業により、より効果的な対策を実施していく。また既存事業の精査・見直しを行うこ

とで、水質浄化効果を高める。更には、昨年度実施した研究事業の結果を踏まえ、直接浄化対策(水質の抜本的な対策)事業を構築することで、調整池や流入河川・水路にかかる浄化対策を実施していく。

# 3 島原半島窒素負荷低減プロジェクト

# <目標>

・島原半島地域における地下水の硝 酸性窒素等による汚染問題に対応す | 平成 21 年度時点の 10 地点より増加 るため、同地域の地下水の現状を把 握し、窒素負荷の低減を図る。

# <指標>

・環境基準超過地点数が17地点中、 しない。(超過率10/17=58.8% を増加しない)

# ②H24 年度の取組状況

- 代表的な施策の実績と効果
- (1) 第2期島原半島窒素負荷低減計画に基づく継続監視調査及び追跡井戸調査を89地点において実施。
  - ①継続監視調査

島原市(12)、雲仙市(4)、南島原市(1) 計 17 調査地点 環境基準超過地点数 8 地点 超過率:47.0%

②追跡井戸調査 計 72 地点

島原市(38) 雲仙市(19) 南島原市(15)

環境基準超過地点数 37 地点 超過率:51.3%

(2) 関係行政機関、学識経験者、農業団体等からなる島原半島窒素負荷低減対策会議・幹事会(5月・2月)にお いて、平成23年度に策定した「第2期島原半島窒素負荷低減計画」の進行管理を行った。

# ③H24 年度目標(指標)の達成状況

継続監視調査結果において、環境基準を超過した地点は 17 地点中 8 地点で、計画の短期目標(平成 21 年度時点 の 10 地点より悪化しない)を達成した。

# ④ ③の総合的な評価及びその理由

### 【評価】

・125%(指標の超過率 10/17=58.8%に対して、実績の超過率8/17=47.1%)

### 【理由】

島原半島窒素負荷低減計画に基づき、農業対策、畜産対策、生活排水等対策の継続的な取組みにより地下水の 硝酸性窒素等濃度が悪化しない状況で推移している。

# ⑤H25 年度の取組内容(年間計画及び上半期実績)

- ・第2期島原半島窒素負荷低減計画に基づく継続監視調査及び追跡井戸調査を実施している。
- ・年2回の幹事会において窒素負荷低減計画の進捗状況を検証しながら取組みを進めていく。第1回幹事会の開催 (5月10日)

# ⑥H26 年度の取組内容(予定)

地下水の硝酸性窒素等の汚染問題には、窒素負荷低減計画に基づき長期的な視点から継続して取組んでいく。